

上泉武田遺跡

— 縄文時代以降編 —

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

2012.11

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

東京日本橋と新潟市を結ぶ一般国道17号のバイパスとして埼玉県熊谷市で深谷バイパスから分岐し、前橋市田口町で現道に接続する計画の上武道路は、昭和45年からその建設が着手され、平成4年には国道50号に至るまでの間の供用がなされ、平成20年には前橋市上泉までの4.9km区間が暫定的に延伸されるに至りました。現在は、現供用区間から終点に至る8.2kmの間(8工区)の早期着工が望まれる中、この間に存在する31箇所(遺跡、約40万㎡)におよぶ調査対象地の発掘調査に力を注いでおります。

今回報告いたします上泉武田遺跡も、この8工区内に所在し、平成19年6月から平成20年3月までの間、発掘調査が実施されました。遺跡は、赤城山南麓の赤城火山噴出物が小河川によって開析された南北にのびる緩やかな尾根の上であり、東側を薬師川が南流しています。

調査の結果、古墳～奈良・平安時代の住居や中世の方形区画溝も検出され、赤城南麓における古代史解明に向けて、貴重な資料を提供することができました。本報告書が広く活用されれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から整理作業、報告書の刊行に至るまで、国土交通省、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、地元関係者の皆様に多大なご指導・ご協力を賜りました。関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、序といたします。

平成24年11月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 須 田 榮 一

例 言

- 1 本書は一般国道17号(上武道路)建設事業に伴い発掘調査された上泉武田(かみいずみたけだ)遺跡の調査報告書である。掲載した遺構・遺物は縄文時代以降であり、旧石器時代については別途報告書(第535集)を刊行した。
- 2 上泉武田遺跡は、群馬県前橋市上泉町2017-1・2, 2146, 2145-2, 2131, 2123-1・2, 2124, 2125-1・2, 2126-1・2, 1243-1・4番地に所在する。

I区	土地番号56	3,244.58㎡
II区	土地番号57	1,187.02㎡
III区	土地番号58～60	403.23㎡
IV区	土地番号61～68	2,567.58㎡
- 3 事業主体 国土交通省 関東地方建設局 高崎河川国道事務所
- 4 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(平成24年4月より公益財団法人に組織改定)
- 5 調査期間 平成19年6月1日～平成19年12月31日
- 6 発掘調査体制は次の通りである。

平成19年度

発掘調査担当 友廣哲也(主席専門員)、木津博明(主任専門員(総括))、桜岡正信(主任専門員(総括))、
洞口正史(主任専門員(総括))、新倉明彦(専門員(総括))、弥城 淳(調査研究員)

遺跡掘削請負工事 須賀工業株式会社

委託 地上測量 (株)シン技術コンサル
航空測量・空中写真撮影 技研測量設計株式会社
自然科学分析 株式会社火山灰考古学研究所(テフラ分析・同定)
株式会社パレオ・ラボ(炭化材・炭化種実分析・同定)
- 7 整理事業体制は次の通りである。

平成22年度(平成23年1月1日～平成23年3月13日)・平成23年度(平成23年4月1日～平成23年5月31日)

整理担当者 関 晴彦(上席専門員)、保存処理 関 邦一(補佐)、遺物写真撮影 佐藤元彦(補佐)

平成24年度(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

整理担当者 新倉明彦(上席専門員)、保存処理 関 邦一(補佐(総括))、遺物写真撮影 佐藤元彦(補佐(総括))
- 8 本書作成の担当者は次の通りである。

編集 関 晴彦、新倉明彦

執筆 橋本 淳(主任調査研究員,第4章6節縄文土器,縄文土器観察表)、岩崎泰一(主席専門員,石器・石製品観察表)、神谷佳明(上席専門員,古墳～奈良平安時代遺物観察表)、笹澤泰史(主任調査研究員,製鉄関連遺物及び金属製品観察表)、関 晴彦(上記以外)
- 9 出土石器・石製品の石材同定については飯島静男氏(群馬県地質研究会会員)にお願いした。
- 10 発掘調査及び報告書作成には、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会の方々をはじめ、関係機関ならびに多くの方々のご協力、ご指導をいただきました。記して感謝いたします。
- 11 発掘調査資料及び出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡 例

- 1 挿図に示す方位記号は世界測地系の国家座標第IX系上の北位を基準としている。調査区の中心座標はX座標＝46,150m、Y座標＝－64,000mである。
- 2 遺構及び遺物実測図中の縮尺は、遺構1/80・遺物1/3を基本とし、それ以外は図中に表示している。
- 3 本書で作成した地図・地形図は、次の地図を利用した。

国土地理院発行20万分の1地勢図「長野」

国土地理院発行2万5千分の1地形図「渋川」・「鼻毛石」・「前橋」・「大胡」

前橋市役所発行2千5百分の1地形図

- 4 本書で使用したテフラの名称及び略称記号は次の通りである。

テフラ	略称記号	およその年代
浅間A軽石	As-A	1783(天明三)年
浅間B軽石	As-B	1108(天仁元)年
浅間C軽石	As-C	3世紀後半～4世紀
榛名二ツ岳軽石	Hr-FP	6世紀後半
榛名二ツ岳火山灰	Hr-FA	6世紀初め
浅間板鼻黄色軽石	As-YP	11,000～14,300年前

- 5 遺構図中の黒丸(●)は出土遺物を表す。

遺構図中で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。

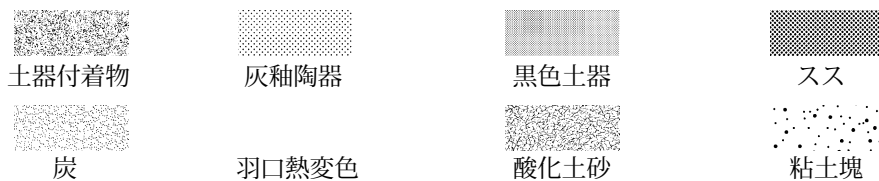


縄文土器のうち断面の黒丸(●)は胎土に繊維混入を表す。

石器図面の線と拓本の表現は、次のことを指している。

石斧刃部側の磨耗痕は縦位定規線で図示した。磨石に用いた縦位定規線は磨耗範囲を示す。砥石の使用部は必要に応じて拓本を使用した。

挿図中で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。



- 6 遺物観察表は、縄文土器、石器・石製品、須恵器・土師器、金属器に分けて掲載している。遺物番号は挿図、写真とも一致する。

鉄滓の磁着度、メタル度は次のとおりである。

『磁着度』鉄関連遺物分類用の特定「標準磁石」を用いて、資料との反応を数値化したもの。数値が大きいほど、磁石との反応が強い。

『メタル度』特殊金属探知機により金属の量を分類したもの。錆化(△)H(○)M(◎)L(●)特L(☆)の順で金属部分が多いことを示す。概ね、H(○)は4～5mm大前後、L(●)は10～12mm大前後、特L(☆)20mm大以上の金属鉄の残留を示す。金属探知機を用いて判定している。

序
 例言
 凡例
 目次
 挿図目次
 表目次
 写真図版目次

第1章 調査に至る経過
 第1節 上武道路について …… 1
 第2節 上武道路と埋蔵文化財 …… 3
 第3節 調査に至る経過 …… 4

第2章 位置と環境
 第1節 位置 …… 5
 第2節 周辺の遺跡 …… 6

第3章 調査の方法と経過
 第1節 調査の方法 …… 9
 第2節 調査の経過 …… 11
 第3節 整理作業の経過 …… 12

第4章 遺構と遺物
 第1節 遺跡の概要 …… 21
 第2節 I区の遺構と遺物 …… 22
 第3節 II区の遺構と遺物 …… 26
 第4節 III区の遺構と遺物 …… 30
 第5節 IV区の遺構と遺物 …… 31
 第6節 遺構外出土の遺物 …… 84

第5章 分析
 第1節 分析の目的 …… 93
 第2節 上泉武田遺跡住居出土炭化材の
 樹種同定 …… 94
 第3節 上泉武田遺跡の住居から出土した
 炭化種実 …… 96

第6章 成果とまとめ
 第1節 科学分析の成果 …… 100
 第2節 遺物の特徴 …… 100
 第3節 遺構の特徴 …… 100
 1 住居 …… 100
 2 溝 …… 101
 遺構図 …… 35
 遺物図 …… 79
 遺物観察表 …… 86
 遺構一覧表 …… 92

写真図版
 抄録
 奥付
 付図 上泉武田遺跡全体図 1：500

挿 図 目 次

第1図	上武道路と遺跡の位置	1	第37図	Ⅱ区9号住居遺構図	58
第2図	上武道路8工区の遺跡	2	第38図	Ⅱ区10号住居遺構図	59
第3図	遺跡の位置	5	第39図	Ⅱ区11号住居遺構図	60
第4図	上泉武田遺跡周辺の地質	6	第40図	Ⅱ区12号住居遺構図	61
第5図	陸軍迅速図	7	第41図	Ⅱ区13号住居遺構図	62
第6図	米軍空撮写真	8	第42図	Ⅱ区14号・17号住居遺構図	63
第7図	周辺遺跡	10	第43図	Ⅱ区土坑・ピット分布図1	64
第8図	8-1工区 地区割りと上泉武田遺跡の位置	12	第44図	Ⅱ区土坑・ピット分布図2、2号掘立柱建物遺構図	65
第9図	上泉武田遺跡付近の地区割り図	13	第45図	Ⅱ区ピット断面図	66
第10図	試掘トレンチの位置と結果	16	第46図	Ⅲ区遺構配置図・15号住居遺構図	67
第11図	前橋市都市計画図	17	第47図	Ⅲ区16号住居遺構図	68
第12図	調査区域の標高と大正用水との位置関係	17	第48図	Ⅲ区3号溝・1号道路遺構図	69
第13図	地区細分図	18	第49図	Ⅳ区遺構配置図	70
第14図	大中グリッド設定図	19	第50図	Ⅳ区18号住居、19号・20号住居遺構図	71
第15図	上泉武田遺跡基本土層	20	第51図	Ⅳ区21号住居遺構図	72
第16図	I区遺構配置図	35	第52図	Ⅳ区22号住居遺構図	73
第17図	I区1号住居遺構図	36	第53図	Ⅳ区4号～7号溝遺構図	74
第18図	I区1号住居カマド遺構図	37	第54図	Ⅳ区土坑・ピット分布図1	75
第19図	I区2号住居遺構図	38	第55図	Ⅳ区土坑・ピット分布図2	76
第20図	I区3号住居遺構図	39	第56図	Ⅳ区土坑・ピット分布図3	77
第21図	I区4号住居遺構図	40	第57図	Ⅳ区ピット断面図	78
第22図	I区5号住居遺構図	41	第58図	I区1号～3号住居出土遺物図 1～13	79
第23図	I区5号住居カマド遺構図	42	第59図	I区3号～5号住居出土遺物図 14～30	80
第24図	I区6号住居遺構図	43	第60図	I区6号～8号住居、 Ⅱ区9号住居出土遺物図 31～51	81
第25図	I区7号住居遺構図	44	第61図	Ⅱ区11号～13号住居出土遺物図 52～70	82
第26図	I区1号掘立柱建物遺構図	45	第62図	Ⅱ区13号住居、Ⅲ区15号・16号住居、 Ⅳ区18号・20号・21号住居出土遺物図 71～89	83
第27図	I区2号溝遺構図	46	第63図	Ⅳ区21号・22号住居、 I区2号溝・41号土坑出土遺物図 90～107	84
第28図	I区土坑・ピット分布図1	47	第64図	遺構外出土遺物図、縄文石器・土器 108～133	85
第29図	I区土坑・ピット分布図2	48	第65図	分析試料採取地点	93
第30図	I区土坑・ピット分布図3	50	第66図	木材組織の走査型電子顕微鏡写真	95
第31図	I区土坑・ピット分布図4	51	第67図	上泉武田遺跡から出土した炭化種実	99
第32図	I区土坑・ピット分布図5 (1)	53	第68図	Ⅳ区溝全体図	101
第33図	I区土坑・ピット分布図5 (2)	54	第69図	遺跡周辺の中世城館跡	102
第34図	I区ピット断面図	55			
第35図	Ⅱ区遺構配置図	56			
第36図	Ⅱ区8号住居遺構図	57			

表 目 次

第1表	上武道路8工区調査遺跡一覧表	2	第7表	上泉武田遺跡縄文土器観察表	91
第2表	主な周辺遺跡	10・11	第8表	上泉武田遺跡住居一覧表	92
第3表	上泉武田遺跡遺構数量一覧表	21	第9表	上泉武田遺跡溝一覧表	92
第4表	上泉武田遺跡出土遺物観察表	86	第10表	同定資料一覧	93
第5表	上泉武田遺跡金属製品観察表	90	第11表	炭化種実およびその他の同定結果一覧	96
第6表	上泉武田遺跡石器・石製品観察表	90	第12表	16号住居出土イネ炭化種子の大きさ	97

写真図版目次

P L . 1	I 区全景 南上空から		I 区 1 号掘立柱建物202号ピット
P L . 2	I 区住居群	P L . 12	I 区 2 号溝検出状態 北から
P L . 3	I 区 1 号住居全景・カマド遺物 東から		I 区 2 号溝全景 北から
	I 区 1 号住居遺物全景 南東から		I 区 2 号溝 A - A' 土層 北から
	I 区 1 号住居カマド前遺物状況 東から		I 区 2 号溝全景 北から
	I 区 1 号住居カマド遺物全景 東から		I 区 2 号溝全景 南から
	I 区 1 号住居掘り方全景 南東から	P L . 13	I 区北東部ピット群 南から
P L . 4	I 区 2 号住居床面全景 西から		I 区 8 号土坑付近ピット群 東から
	I 区 2 号住居遺物全景 西から	P L . 14	I 区 15 号ピット付近 北から
	I 区 2 号住居貯蔵穴遺物 南から		I 区 4 号土坑 南から
	I 区 2 号住居カマド全景 西から		I 区 5 号土坑 南から
	I 区 2 号住居カマド掘り方 西から		I 区 6 号土坑 南から
P L . 5	I 区 3 号住居床面全景 西から		I 区 7 号土坑 南から
	I 区 3 号住居遺物全景 西から	P L . 15	I 区 8 号土坑 南から
	I 区 3 号住居貯蔵穴遺物		I 区 9 号土坑 南から
	I 区 3 号住居カマド右壁上 北から		I 区 10 号土坑
	I 区 3 号住居カマド全景 西から		I 区 11 号土坑 南から
P L . 6	I 区 4 号・ 5 号住居床面全景 西から		I 区 12 号土坑 東から
	I 区 4 号・ 5 号住居遺物全景 西から		I 区 13 号土坑 南から
	I 区 4 号住居掘り方全景 西から		I 区 14 号土坑・ピット群 西から
	I 区 4 号住居カマド前遺物 西から		I 区 15 号土坑・ 112 号・ 113 号ピット 東から
	I 区 4 号住居カマド掘り方全景 西から	P L . 16	I 区 16 号土坑・ 114 号～ 117 号ピット 南から
P L . 7	I 区 5 号住居床面全景 西から		I 区 17 号土坑 南から
	I 区 5 号住居遺物全景 西から		I 区 18 号土坑 南から
	I 区 5 号住居南東隅遺物 北西から		I 区 19 号土坑 南から
	I 区 5 号住居カマド全景 西から		I 区 20 号土坑
	I 区 5 号住居掘り方全景 西から		I 区 21 号土坑
P L . 8	I 区 6 号住居床面全景 西から		I 区 22 号土坑
	I 区 6 号住居遺物全景 西から		I 区 23 号土坑
	I 区 6 号住居中央部遺物 南から	P L . 17	I 区 24 号土坑
	I 区 6 号住居東西土層断面 南から		I 区 25 号土坑
	I 区 6 号住居カマド全景 西から		I 区 26 号土坑
P L . 9	I 区 7 号住居床面全景 西から		I 区 27 号土坑
	I 区 7 号住居遺物全景 西から		I 区 28 号土坑
	I 区 7 号住居北西部遺物 南から		I 区 29 号土坑
	I 区 7 号住居カマド遺物		I 区 30 号土坑
	I 区 7 号住居掘り方全景 西から		I 区 31 号土坑
P L . 10	I 区 1 号掘立柱建物全景 北から	P L . 18	I 区 32 号土坑
	I 区 1 号掘立柱建物 174 号ピット		I 区 33 号土坑
	I 区 1 号掘立柱建物 177 号ピット		I 区 34 号土坑
	I 区 1 号掘立柱建物 178 号ピット		I 区 35 号土坑
	I 区 1 号掘立柱建物 179 号ピット		I 区 36 号土坑 東から
P L . 11	I 区 1 号掘立柱建物 180 号ピット		I 区 37 号土坑
	I 区 1 号掘立柱建物 182 号ピット		I 区 38 号土坑
	I 区 1 号掘立柱建物 184 号ピット		I 区 39 号土坑
	I 区 1 号掘立柱建物 185 号ピット	P L . 19	I 区 40 号土坑
	I 区 1 号掘立柱建物 189 号ピット		I 区 41 号土坑 南から

	I 区42号土坑		I 区70号ピット
	I 区43号土坑	P L .24	I 区71号ピット
	I 区44号土坑・215号ピット		I 区72号ピット
	I 区45号土坑		I 区73号ピット
	I 区46号土坑		I 区74号ピット
	I 区47号土坑		I 区75号ピット
P L .20	I 区48号土坑		I 区76号ピット
	I 区49号土坑		I 区77号ピット
	I 区50号土坑		I 区78号ピット
	I 区51号土坑		I 区79号ピット
	I 区52号土坑		I 区80号・81号ピット
	I 区53号土坑		I 区82号ピット
	I 区54号土坑		I 区83号ピット
	I 区55号土坑		I 区84号ピット
P L .21	I 区56号土坑		I 区85号ピット
	I 区57号土坑		I 区86号・87号ピット
	I 区58号土坑	P L .25	I 区88号ピット
	I 区59号土坑		I 区89号ピット
	I 区60号土坑		I 区90号ピット
	I 区61号土坑		I 区91号ピット
P L .22	I 区1号ピット		I 区92号ピット
	I 区2号ピット		I 区93号ピット
	I 区17号ピット		I 区94号・95号ピット
	I 区18号ピット		I 区96号ピット
	I 区19号ピット		I 区97号ピット
	I 区20号ピット		I 区98号ピット
	I 区21号ピット		I 区101号ピット
	I 区22号ピット		I 区102号ピット
	I 区23号ピット		I 区103号ピット
	I 区38号ピット		I 区104号ピット
	I 区43号ピット		I 区105号～107号ピット
	I 区44号ピット	P L .26	I 区108号・109号ピット
	I 区45号ピット		I 区110号ピット
	I 区46号ピット		I 区111号ピット
	I 区49号ピット		I 区114号・115号ピット
P L .23	I 区50号ピット		I 区116号ピット
	I 区51号・52号ピット		I 区117号・118号ピット
	I 区53号ピット		I 区119号ピット
	I 区54号・55号ピット		I 区120号ピット
	I 区57号ピット		I 区121号ピット
	I 区58号ピット		I 区122号ピット
	I 区59号ピット		I 区123号ピット
	I 区60号ピット		I 区124号ピット 北西から
	I 区61号ピット		I 区125号ピット
	I 区62号ピット		I 区126号・127号ピット
	I 区66号ピット		I 区128号ピット
	I 区67号ピット	P L .27	I 区129号ピット
	I 区68号ピット		I 区130号ピット
	I 区69号ピット		I 区131号ピット

	I 区132号ピット		I 区195号ピット
	I 区133号ピット		I 区196号ピット
	I 区134号ピット		I 区197号ピット
	I 区135号ピット		I 区199号ピット
	I 区136号ピット		I 区200号ピット
	I 区137号ピット		I 区201号ピット
	I 区138号ピット		I 区203号ピット
	I 区139号ピット		I 区207号ピット
	I 区140号ピット	P L .31	I 区208号ピット
	I 区141号ピット		I 区209号ピット
	I 区142号ピット		I 区210号ピット
	I 区143号ピット		I 区213号ピット
P L .28	I 区144号ピット		I 区214号ピット
	I 区145号ピット		I 区215号ピット
	I 区146号ピット		I 区216号ピット
	I 区147号ピット		I 区218号ピット
	I 区148号ピット		I 区219号ピット
	I 区149号ピット		I 区220号ピット
	I 区150号ピット		I 区221号ピット
	I 区151号ピット		I 区222号～224号ピット
	I 区152号ピット		I 区223号ピット
	I 区153号ピット		I 区225号ピット
	I 区154号・155号ピット		I 区226号・227号ピット
	I 区157号ピット	P L .32	I 区228号ピット
	I 区158号ピット		I 区229号ピット
	I 区159号・160号ピット		I 区232号ピット
	I 区161号ピット		I 区234号ピット
P L .29	I 区162号ピット		I 区235号ピット
	I 区163号ピット		I 区236号ピット
	I 区164号ピット		I 区237号ピット
	I 区165号・166号ピット		I 区238号ピット
	I 区167号ピット		I 区239号ピット
	I 区168号ピット		I 区240号ピット
	I 区169号ピット		I 区241号ピット
	I 区170号ピット		I 区242号ピット
	I 区171号ピット		I 区244号ピット
	I 区172号ピット		I 区245号ピット
	I 区173号ピット		I 区246号ピット
	I 区175号ピット	P L .33	I 区247号ピット
	I 区176号ピット		I 区248号ピット
	I 区181号ピット		I 区249号ピット
	I 区183号ピット 南東から		I 区250号ピット
P L .30	I 区186号ピット		I 区251号ピット
	I 区187号ピット		I 区252号ピット
	I 区188号ピット 南から		I 区253号ピット
	I 区190号ピット		I 区254号ピット
	I 区191号・192号ピット		I 区256号ピット
	I 区193号ピット		I 区258号ピット
	I 区194号・204号ピット		I 区259号ピット

	I 区259号ピット		II 区71号土坑
	I 区260号ピット		II 区72号土坑
	I 区261号ピット	P L .46	II 区73号土坑
	I 区262号ピット		II 区74号土坑
P L .34	I 区264号ピット		II 区75号土坑
	I 区267号ピット		II 区76号土坑
	I 区268号ピット		II 区77号土坑
	I 区269号ピット		II 区78号土坑
	I 区280号ピット		II 区327号ピット
	I 区351号・352号ピット		II 区336号ピット
P L .35	II 区全景 南東上空から		II 区350号ピット
P L .36	II 区全景 南上空から	P L .47	III 区全景
P L .37	II 区8号住居遺物全景 西から	P L .48	III 区15号住居遺物全景 西から
	II 区8号住居カマド土層断面 南西から		III 区15号住居遺物1
	II 区8号住居掘り方全景 西から		III 区15号住居遺物2
	II 区8号住居掘り方南半部 西から		III 区15号住居A-A'土層 南西から
	II 区8号住居カマド掘り方 西から		III 区15号住居掘り方全景 西から
P L .38	II 区9号住居遺物全景 西から	P L .49	III 区16号住居遺物全景 西から
	II 区9号住居南辺遺物 北から		III 区16号住居カマド全景 西から
	II 区9号住居カマド袖石 西から		III 区16号住居掘り方全景 西から
	II 区9号住居カマド焚き口天井石 西から		III 区16号住居カマド掘り方全景 西から
	II 区9号住居掘り方全景 西から	P L .50	IV 区全景 北西上空から
P L .39	II 区10号住居遺物全景 西から	P L .51	IV 区全景 南上空から
	II 区10号住居カマド遺物	P L .52	IV 区18号住居全景 西から
	II 区10号住居カマド石 西から		IV 区19号・20号住居遺物全景 東から
	II 区10号住居掘り方全景 西から	P L .53	IV 区19号住居遺物全景 東から
	II 区10号住居カマド全景 西から		IV 区20号住居遺物全景 東から
P L .40	II 区11号住居遺物全景 西から	P L .54	IV 区21号住居カマド遺物 西から
	II 区11号住居カマド遺物 西から		IV 区21号住居遺物全景 西から
	II 区11号住居掘り方全景 西から	P L .55	IV 区21号住居カマド全景 西から
P L .41	II 区12号住居床面全景 西から		IV 区21号住居掘り方全景 西から
	II 区12号住居遺物全景 西から		IV 区22号住居遺物全景 西から
	II 区12号住居北西隅遺物		IV 区22号住居遺物 西から
	II 区12号住居カマド遺物全景 西から		IV 区22号住居掘り方全景 西から
	II 区12号住居掘り方全景 西から	P L .56	IV 区4号・5号・6号溝 北東から
P L .42	II 区13号住居床面全景 西から		IV 区7号溝・4号～6号溝 西から
	II 区13号住居遺物全景 西から	P L .57	IV 区7号溝全景 南東から
	II 区13号住居カマド 西から		IV 区7号溝 西から
	II 区13号住居掘り方全景 西から	P L .58	I 区1号～3号住居出土遺物
	II 区13号住居カマド掘り方全景 西から	P L .59	I 区4号・5号・7号住居、II 区8号・12号住居出土遺物
P L .43	II 区17号住居全景 南西から	P L .60	II 区13号住居、III 区15号・16号住居、 IV 区18号・20号・21号住居、遺構外出土遺物(1)
	II 区17号住居掘り方全景 南西から		
P L .44	II 区14号住居全景 南から	P L .61	遺構外出土遺物(2)
P L .45	II 区64号土坑遺物		
	II 区65号土坑		
	II 区66号土坑		
	II 区67号土坑		
	II 区68号土坑		
	II 区70号土坑		

第1章 調査に至る経過

第1節 上武道路について

上武道路は一般国道17号の交通混雑に対応するために計画された大規模バイパスで、埼玉県熊谷市で深谷バイパスから分岐、群馬県前橋市田口町で現道に接続する延長40.5kmの道路である。現道の西には、前橋渋川バイパス、その先には鯉沢バイパス、また計画では上信自動車道が続いて、県北西部の新たな交通幹線網整備事業として期待されている。平成10年には、前橋渋川バイパスを含めて地域高規格道路「熊谷渋川連絡道路」として計画路線の指定を受け、群馬県では『幹線交通乗り入れ30分構想』の中で主要幹線のひとつに位置づけられている。

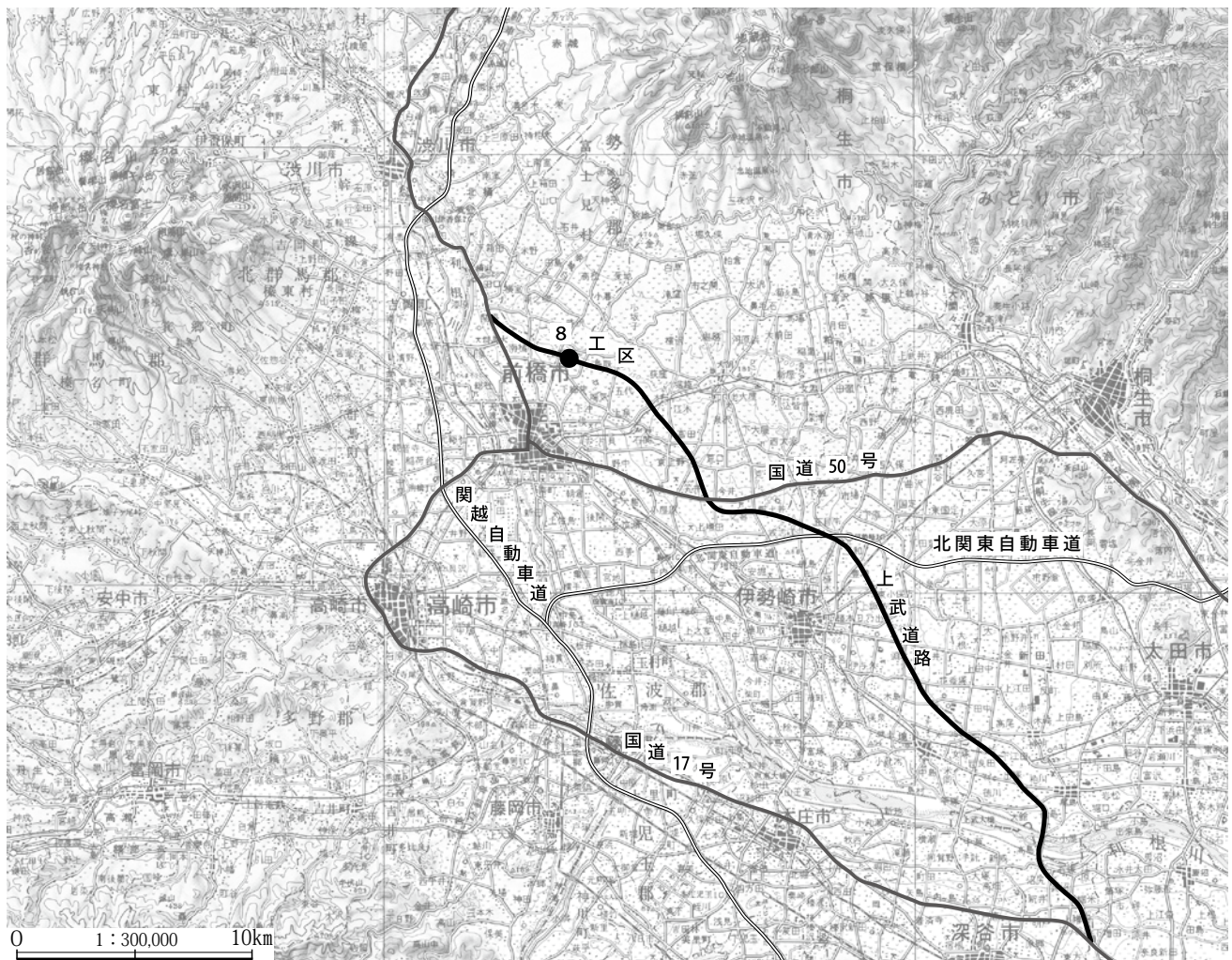
上武道路の建設事業は、昭和45年度から着手され、平成4年2月までには起点から国道50号までの延長27.4km

区間が供用された。その後、供用区間が延伸するとともに交通量は増大し、平成元年度に着手された国道50号から前橋市上泉町までの4.9km区間(7工区)が、平成20年6月に暫定2車線で供用された。現在供用が残されているのは、終点までの8.2km区間となる8工区である。

8工区は、平成17年度に事業が着手され、平成24年度に主要地方道前橋赤城線までの4.7km区間の暫定開通をめざして工事が進められている。

第2節 上武道路と埋蔵文化財

上武道路が通過する地域は、群馬県内でも有数の埋蔵文化財包蔵地域である。群馬県は、昭和48年に文化財保護室を文化財保護課に拡充して調査にあたり、昭和54年



第1図 上武道路と遺跡の位置 国土地理院発行1:200,000地勢図「宇都宮」平成18年発行を縮小して使用

第1章 調査に至る経過

度からは財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(現公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)が調査事業を受託して、現在に至っている。

上武道路の建設事業は起点側から段階的に進められてきた。その工程は概ね①埼玉県境から国道50号まで、②国道50号から前橋市上泉町まで、③前橋市上泉町から前橋市田口町の現国道17号までの3つの区間に分けることができ、現在は②の北端まで供用が開始されている。

埼玉県境から国道50号までの区間では、35箇所(31箇所)の遺跡の発掘調査が行われ、調査の成果は26冊の発掘調査報告書として刊行されている。この区間の事業が完了した平成7年には、埋蔵文化財調査の成果をより広く公開するため、冊子総集編『地域をつなぐ 未来へつなぐー上武道路埋蔵文化財22年の軌跡ー』が刊行された。この総集編では、「弥生時代の開拓者」といった平野部での発掘調査や「芳郷」の墨書土器出土で話題となった古代勢多郡の芳賀郷、東山道駅路のひとつにも推定されていた「あずま道」など、この地域の歴史的課題に対する検討の結果がまとめられており、今後取り組むべき考古学的課題も特記されている。

国道50号から前橋市上泉町までは7工区にあたる。ここでは17箇所(16箇所)の遺跡が発掘調査の対象となり、16冊の発掘調査報告書が刊行されている。この区間の発掘調査では、荒砥川の東で検出された古墳時代の集落が周辺の今井神社古墳や大室古墳群の築造と関連する可能性があること、荒砥前田Ⅱ遺跡では県内でも希少な巴形銅器破片が出土したこと、女堀の調査では浅間粕川テフラが確認されたことで開削年代を特定する手掛かりが得られたこと等が成果としてあげられている。荒砥川の西では、帯状低地に分断された台地ごとに縄文時代前期の集落が立地し、旧石器時代の遺物も暗色帯および上位の複数の土層から出土したこと等が注目されている。

前橋市上泉町から現国道17号までは8工区にあたり、31箇所(30箇所)の遺跡、約40万㎡が埋蔵文化財の調査対象となっている。工区名称は県道前橋赤城線を境界にして東が8-1工区、西が8-2工区と呼ばれている。調査は、平成18年度に8-1工区の東端から始められ、工事工程との調整により、平成23年度からは8-2工区の西端である終点の田口下田尻遺跡の調査も開始された。

8-1工区は、これまでと同様に旧石器時代や縄文時

代の遺構・遺物が多いのに対して、8-2工区では縄文時代より新しい遺跡の存在が続々と明らかになっている。遺跡の実態が未知数であった赤城白川流域の白川扇状地では、予想外の縄文時代の埋没谷や旧石器まで含まれていることが判明している。特に最西端の田口下田尻遺跡では、竪穴住居280棟が検出された大集落が調査され、従来の広瀬川低地帯の遺跡分布の理解を見直す資料が得られている。

これまで、群馬県内の上武道路関連で発掘調査を実施してきた遺跡には、J Kを冠した遺跡略号が付されている。Jが上武、Kが国道を指しており、南側の起点から順次算用数字を1から付している。8工区も、7工区(7)の最終番号J K52に続けて、この略号を記録類作成に際して使用している。J K52だけは、上泉唐ノ堀遺跡が供用部分の関係で7工区と8工区で分割されたことから、8工区分の上泉唐ノ堀遺跡にはJ K52bをつけて7工区と区別している。また、J K59鳥取塚田遺跡は、水田遺構の存在が想定されていたが、試掘調査で遺構の無いことが判明し、発掘調査対象から除外したものの略号は欠番とせず、そのままとした(第1表)。また、当初関根遺跡群で一括されていた遺跡が田口下田尻遺跡、関根細ヶ沢遺跡、関根赤城遺跡に細分されたこと、平成23年度に開始された田口下田尻遺跡を先行して82としたことから、関根細ヶ沢遺跡は81a、関根赤城遺跡は81bとした。

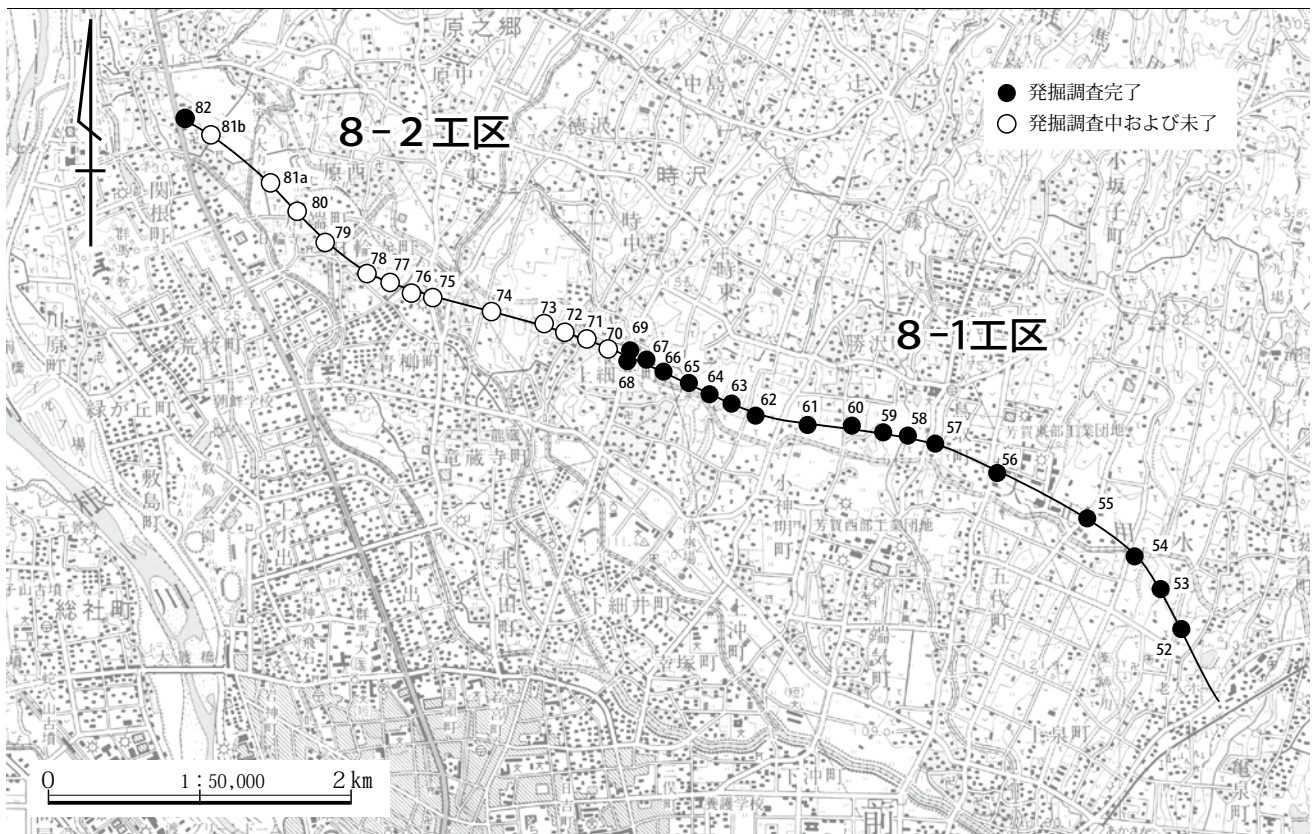
第3節 調査に至る経過

上武道路7工区(7)の発掘調査は、上泉唐ノ堀遺跡を最後に平成16年度末で終了した。その後の工事は順調で、県道前橋赤城線までの供用が間近に迫っていた。さらに同16年度には、国道17号の現道から西の前橋渋川バイパスが着工されたことから、8工区は、開通部分と前橋渋川バイパスとの間に残された格好となり、早期着工を待ち望む声が一段と強まった。

8工区が建設に向けて動いたのは、平成18年度に入ってからである。国土交通省による路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て、用地取得等の工事着工準備が起点側から始まった。これまでの調査状況からみて、埋蔵文化財が用地内にあることは明確であったことから、埋蔵文化財の発掘調査を実施するための調整が

第1表 上武道路8工区調査遺跡一覧表

J K No.	遺跡名	所在地	市町村遺跡番号	調査年度	報告書刊行年
52b	上泉唐ノ堀遺跡	前橋市 上泉町	00774	平成18・19・20年	平成23年
53	上泉新田塚遺跡群	前橋市 上泉町	00775	平成18・19・20年	平成24年
54	上泉武田遺跡	前橋市 上泉町	00773	平成19年	平成24年
55	五代砂留遺跡群	前橋市 五代町	00772	平成19年	平成24年
56	芳賀東部団地遺跡	前橋市 五代町・鳥取町	00357	平成18・19・20年	平成24年
57	鳥取松合下遺跡	前橋市 鳥取町	00776	平成20年	平成24年
58	胴城遺跡	前橋市 鳥取町	00041	平成19・20・21年	平成24年
59	鳥取塚田遺跡	前橋市 勝沢町		調査除外	
60	堤遺跡	前橋市 勝沢町	00034	平成20年	平成24年
61	小神明勝沢境遺跡	前橋市 勝沢町	00778	平成20年	平成23年
62	小神明富士塚遺跡	前橋市 勝沢町・小神明町・上細井町	00403	平成20・21年	平成23年
63	東田之口遺跡	前橋市 上細井町	00125	平成20年	平成23年
64	丑子遺跡	前橋市 上細井町	00134	平成20年	平成24年
65	上細井五十嵐遺跡	前橋市 上細井町	00777	平成20・21年	平成24年
66	天王・東紺屋谷戸遺跡	前橋市 上細井町	00131	平成20・21年	
67		前橋市 富士見町	90094	平成20・21年	
69	上町・時沢西紺屋谷戸遺跡	前橋市 富士見町	90097	平成21年	平成24年
68		前橋市 上細井町	00798	平成21年	
70	王久保遺跡	前橋市 上細井町・富士見町	00794	平成21・24年	平成24年
71	新田上遺跡	前橋市 上細井町	00128	平成24年	
72	上細井中島遺跡	前橋市 上細井町	00787	平成21・24年	
73	上細井蟬山遺跡	前橋市 上細井町	00786	平成21・24年	平成24年
74	山王・柴遺跡群	前橋市 青柳町	00795	平成21・22・23・24年	
75	引切塚遺跡	前橋市 青柳町	00434	平成24年	
76	青柳宿土遺跡	前橋市 青柳町	00325	平成24年	
77	日輪寺諏訪前遺跡	前橋市 日輪寺町		調査除外	
78	諏訪遺跡	前橋市 日輪寺町	00144	調査除外	
79	川端根岸遺跡	前橋市 川端町	00807	平成24年	
80	川端山下(道東)遺跡	前橋市 川端町	00808	平成24年	
81a	関根細ヶ沢遺跡	前橋市 関根町	00802	平成24年	
81b	関根赤城遺跡	前橋市 関根町	00803	平成24年	
82	田口下田尻遺跡	前橋市 田口町	00804	平成23年	



第2図 上武道路8工区の遺跡 国土地理院1:50,000地形図「前橋」平成10年発行を使用

第1章 調査に至る経過

おこなわれた。

埋蔵文化財の発掘調査について実施に向けての協議が、国土交通省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で行われ、平成18年2月16日付で「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)の実施に関する協定書」(以下、「協定書」という。)が三者の間で締結された。これによって、群馬県教育委員会の調整を経て、埋蔵文化財の発掘調査を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託することとなった。

協定書では、協定の適用区間、発掘調査の実施場所・対象面積が示され、平成18年10月1日～平成29年3月31日に発掘調査を完了させることが明記された。なお、「協定書」は、平成18年6月20日付で、調査期間の開始を3ヶ月前倒しとする変更のための「変更協定書」が締結されて、現在に至っている。この「変更協定書」に基づいて、

平成18年7月から東端の上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群の発掘調査が開始された。

上泉武田遺跡については、平成18年12月5～7日に群馬県教育委員会文化課が実施した試掘調査(後にⅡ区と呼ばれる区域にトレンチ4及びトレンチ5の試掘)の結果、トレンチ内で7世紀から8世紀と見られる住居や土坑などの遺構が確認され、発掘調査対象区域として平成19年度に発掘調査が行なわれることとなった。

調査に際して問題となったのは、赤城南麓の基幹水路である「大正用水」の送水管が路線を横断する形で埋設されており、古い耐荷重設計に加えて老朽化が著しいこともあり、掘削用重機の重量に耐えられないと判断されたため、この部分を調査対象範囲から除外すると共に、重機等機械の立ち入りも制限されることとなった。



調査区を横切る大正用水 西上空より

第2章 位置と環境

第1節 位置

上泉武田遺跡は赤城山南麓の南北に延びる幅約200mのなだらかな尾根上にあり、調査区はこの尾根筋を南東―北西の方向で交差する。第3図に国土地理院20万分の1地勢図に上武道路の路線を重ね、遺跡の位置を示した。

本遺跡は赤城火山の第3期噴出物(火砕流堆積物)の上であり、標高は140mから150mの間に相当する。第8図は『群馬県10万分の1地質図』の一部と、『国土地理院5万分の1地形図』の一部とを重ねたもので、遺跡は「大胡・棚下・糸井火砕流堆積物」上にある。

明治時代の陸軍迅速図によれば、周囲は山林で溜め池が散在し、谷筋に沿ったわずかな区域に水田がみられる。農耕には給水を必要とする区域であったという。赤城南麓に大規模な用水路を設置する機運は大正7年の干ばつ

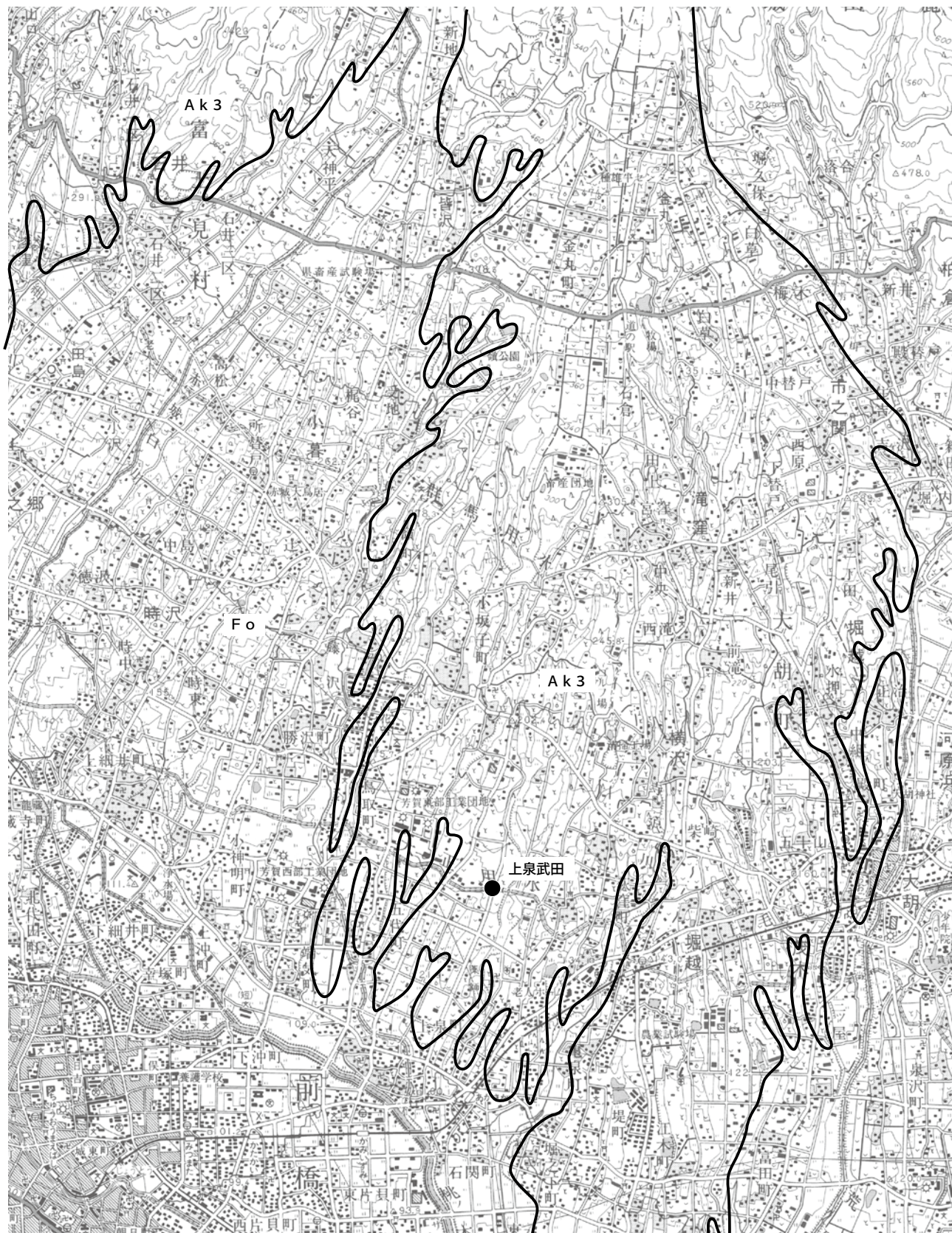
を契機として、12月の群馬県会で決議されたが、大正時代には実現されなかった。昭和18年によく着工され、昭和27年に「大正用水」が竣工した(『勢多郡誌』1958)。本遺跡は上武道路が赤城南麓を北西に向かって標高を上げてゆく過程で、最初に大正用水を横切る地点に当たり、用水を挟んで南東部がⅠ・Ⅱ区、北西部がⅢ・Ⅳ区である。

第5図は陸軍迅速図に遺跡の位置と大正用水とを重ねたものである。明治時代の地形図なので、大正用水は存在しない。

第6図は、第二次大戦後に米軍によって撮影された空中写真で、中央部の途切れた部分が遺跡付近である。その東西両側は白く反射しており、工事中のように見える。撮影コースを西へたどると、白い反射部分が途中で立ち消えてしまうことから、工事中の様相が記録されたと考えられる。



第3図 遺跡の位置 国土地理院1：200,000地勢図を使用

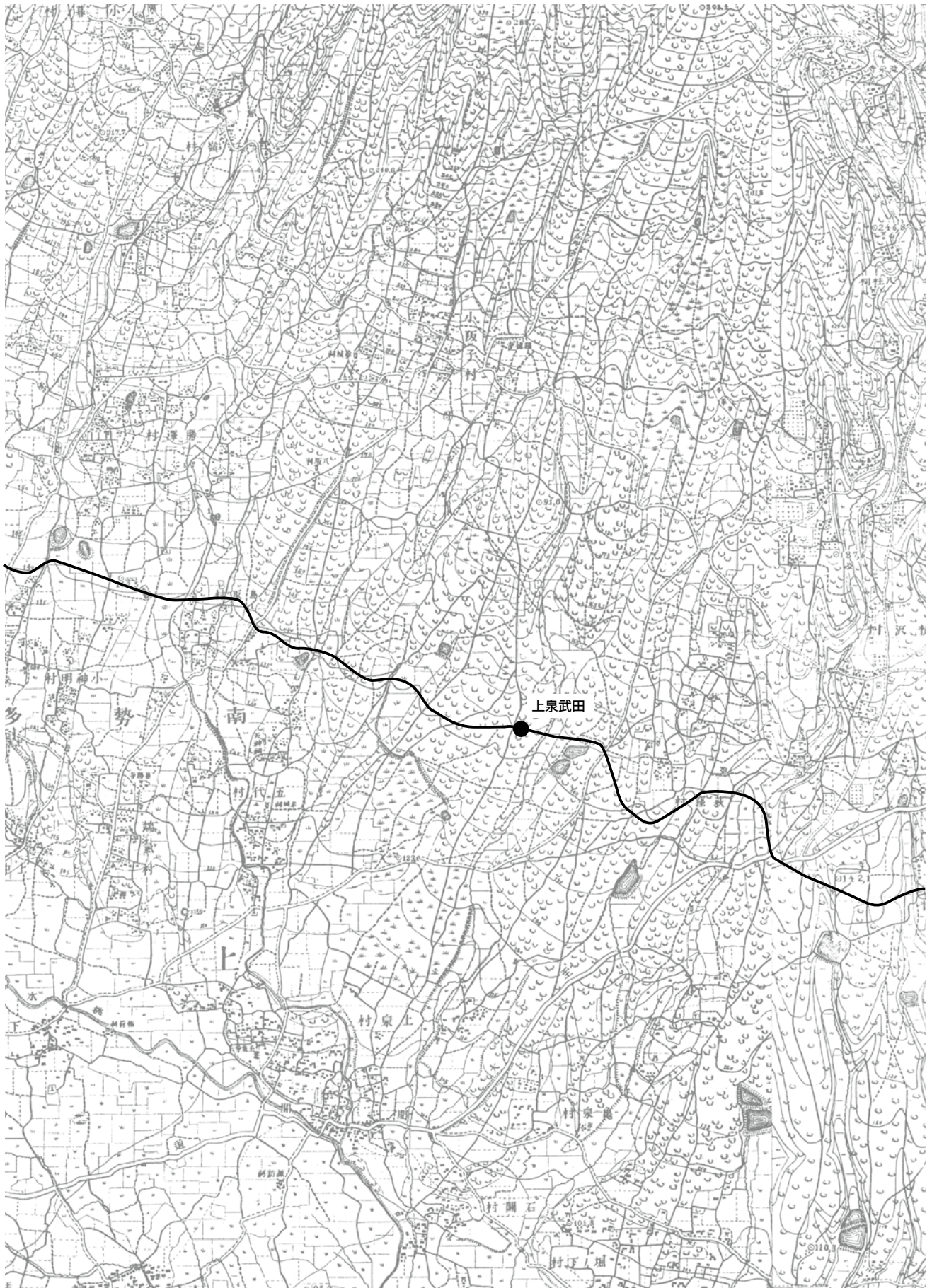


第4図 上泉武田遺跡周辺の地質

(群馬県 10 万分の 1 地質図の一部と国土地理院 5 万分の 1 地形図前橋の一部を合成した)

Ak3 = 赤城火山第 3 期噴出物, 大胡・棚下・糸井火砕流堆積物, 溶結凝灰岩・軽石及び火山灰

Fo = 第四紀, 後期更新世 完新世, 山麓堆積物, 礫・砂及びローム



第5図 陸軍迅速図(明治13～17年に加筆, 1 : 25,000)

第2章 位置と環境

第11図と第12図は前橋市の都市計画図に加筆したもので、前者は昭和43年版、後者は昭和54年版である。I区南東側で南流する荻窪川(薬師川)と、西側の無名の水路との間は高まりになり、本遺跡は東西約200mの南北走行の尾根上にあることが解る。

第2節 周辺の遺跡

上泉武田遺跡は旧石器時代から縄文時代の石器・土器が出土し、古墳時代から中近世に至る複合遺跡である。

発見された遺構は住居・掘立柱建物・溝・土坑・道などがあり、これらに伴う遺物は比較的少ない。ここでは、主として本書で扱う縄文時代以降の周辺遺跡について、やや狭い区域の遺跡の所在やそれらの概要を記しておきたい。

旧石器時代

本遺跡のほか、上泉唐ノ堀遺跡、上泉新田塚遺跡群、五代砂留遺跡群、芳賀東部工業団地遺跡等で旧石器が発見されている。本遺跡を含む上武道路関連旧石器時代の



第6図 米軍空撮写真(1946年,コース158-A-5の一部を拡大)

報告書に詳細が掲載されている。

前橋市の調査によれば、鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡で、細石器が発見されているという。

縄文時代

本遺跡では縄文時代の遺構を検出していないが、旧大胡町横沢の横沢向田遺跡、横沢向山遺跡で縄文時代前期の遺構が確認されている。また、荻窪南田遺跡・亀泉西久保Ⅱ遺跡でも前期の土坑や中期の配石遺構、縄文時代早期から後期の遺物が発見されている。前期の遺跡がやや多い。

弥生時代

縄文時代に比べ弥生時代の遺跡はきわめて少ない。周辺では倉本遺跡で中期、湯気遺跡で後期、小神明勝沢境遺跡で後期から古墳時代初期の竪穴住居が発見されている。端気着帳遺跡では後期末から古墳時代初期の周溝墓が2基発見されている。

古墳時代

前期では芳賀東部工業団地遺跡、鳥取福蔵寺遺跡、五代中原Ⅰ遺跡で竪穴住居群が検出されているが、掲載地図の範囲では意外と少ないようにみえる。未発見の遺跡が存在する可能性もある。

中期では芳賀東部工業団地遺跡、五代中原Ⅰ遺跡で竪穴住居群が発見されている。この集落に対応する墓域が芳賀西部工業団地で発見されている初期群集墳に対応しているとみられる。

後期になるとより多くの集落の存在が確認され、円墳によって構成される群集墳が複数見ることができる。勝沢町のオブ塚古墳は前方後円墳で6世紀後半とされ、この区域ではやや古い。荻窪町のほっこし塚古墳、上泉町の新田塚古墳、五代町の檜峰古墳、五代町の大日塚古墳、五代町の芳賀東部団地遺跡などで、7世紀代とみられる古墳が存在する。本遺跡にもっとも近いのは檜峰古墳で昭和26年に調査され、径17.5m、自然石乱石積両袖型の横穴式石室であり、周囲にかつては十数基の小円墳があったという。大日塚古墳は五代町に所在し、明治38年に村人によって発掘され、出土品は東京帝国大学、帝

室博物館、群馬県師範学校に寄贈された。7世紀前半の古墳とみられている。

奈良・平安時代

この時代になると、古墳時代後期から継続する集落も多いが、新たに形成された集落が発見された遺跡数も増加する。特に大胡町横沢、荻窪町地内、芳賀北部団地遺跡など、標高150m以上の区域にも集落が多数発見されている。

また、松峯遺跡では奈良三彩小型短頸壺、五代竹花遺跡では和同開珎、神功開寶、五代砂留遺跡群では長年大寶が竪穴住居から出土している。これらの竪穴住居については奈良三彩や皇朝十二銭が出土した背景について周辺遺跡を踏まえた検討が必要である。

遺跡が所在する地域は古代律令制では上野国勢多郡に比定される。「和名類聚抄」によると勢多郡には深田、田邑、芳賀、桂萱、真壁、深渠、深沢、時沢、藤沢などの9郷が存在していたことが知られている。その中の芳賀、桂萱、真壁、深渠、時沢、藤沢などは現在でも地名が残る地域があり、古代の郷域に比定することも可能であるが、芳賀とは距離的に離れた二之宮洗橋遺跡から「芳郷」と墨書された須恵器杯が出土しており、断定には至っていない。

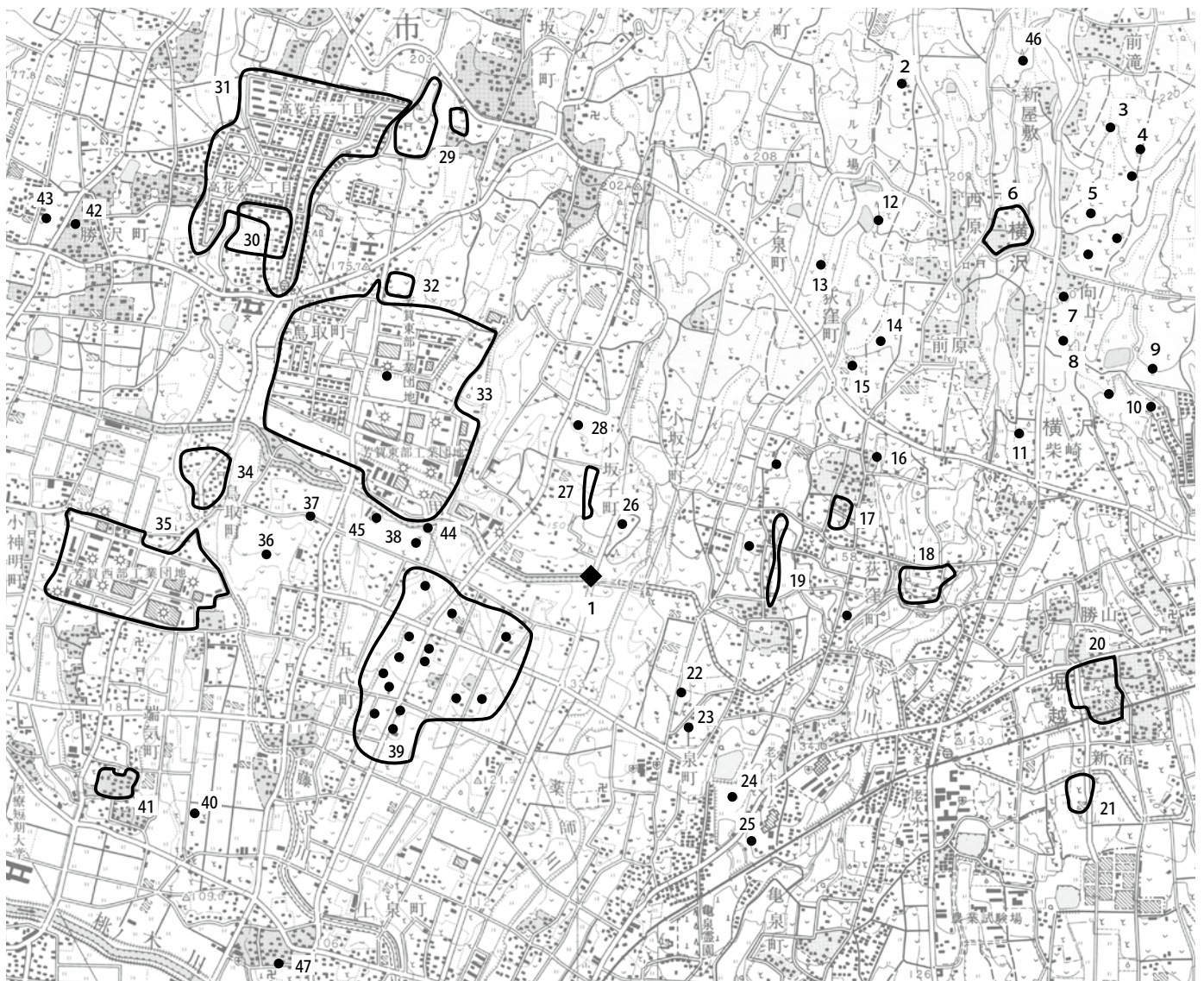
中世

本遺跡の東西の尾根筋上に、中世の城館址がいくつか発見されている。横沢城・荻窪城・勝山城・小坂子城・勝沢城・鳥取城などが知られている。

第2章 位置と環境

第2表 主な周辺遺跡

No.	遺跡名	旧石器	縄文					弥生	古墳				奈良	平安	中世	近世	所在	備考 (その他の遺構)	文献	
			草	早	前	中	後		不明	前	中	後								生
										住	墓	住								墓
1	上泉武田遺跡	●														○	○	上泉町		本報告書
2	芳山遺跡															○	○	横沢芳山	土坑	a
3	宇持遺跡						●											横沢宇持		a
4	丁二本松遺跡																	堀越丁二本松	a,d	
5	横沢向田遺跡																	横沢向田	a,d	
6	横沢城址																	横沢内出	城館	a,h
7	横沢向山遺跡																	横沢向山		a,d
8	大胡町39号墳																	横沢柴崎	獅噛環頭大刀, 7世紀 火葬墓	k
9	堀越甲真木遺跡		●	●														堀越甲真木		a,o,p
10	茂木二本松遺跡																	茂木二本松	a,d	
11	横沢柴崎遺跡																	横沢柴崎	土坑	k
12	荻窪東爪遺跡																	荻窪町		l
13	荻窪鱒塚遺跡																	荻窪町	掘立柱建物	b,l
14	荻窪倉兼Ⅱ遺跡																	荻窪町	掘立柱建物	q
15	荻窪倉兼遺跡																	荻窪町	掘立柱建物	l,q



第7図 周辺遺跡 国土地理院地形図1：25,000に加筆

周辺遺跡表 つづき

No.	遺跡名	旧石器	縄文					弥生	古墳				奈良	平安	中世	近世	所在	備考 (その他の遺構)	文献		
			草	早	前	中	後		不明	中	後	前								中	後
			住	墓	生	住	墓		生	住	墓	生								住	墓
16	ほっこし塚古墳																荻窪町入田	7世紀の古墳	b,l		
17	西荻窪城跡																荻窪町古城	城館	b,h		
18	荻窪城跡																荻窪町	城館	b,h		
19	塔の堀																荻窪町	堀跡	h		
20	勝山城																勝山町	城館	h		
21	今城																	城館	h		
22	新田塚古墳																上泉町新田塚 2694-2	直径約30m・高さ4.5mの円墳。推定横穴式石室で、7世紀代と考えられている。前橋市指定S450210	g		
23	上泉唐ノ堀遺跡	●		○													上泉町		510集		
24	荻窪南田遺跡		●	●	●	●											荻窪町	縄文前期土坑、古代道・溝。中近世道・溝。	420集		
25	亀泉西久保Ⅱ遺跡		●	●	●	●				○							亀泉町	縄文中期配石遺構・前期土坑、古代道・溝	420集		
26	檜峰古墳																上泉町檜峰	径17.5mの円墳。自然石乱石積両袖型石室、7世紀。S26調査。	c		
27	檜峰遺跡																五代町檜峰	奈良三彩小壺	b,e		
28	五代檜峰遺跡																五代町檜峰		l		
29	小坂子城跡																小坂子町新井	城館	b,h		
30	勝沢城跡																勝沢町番城高鼻	城館	b,h		
31	芳賀北部団地遺跡			○	○												高花台一丁目 二丁目	製鉄遺構	b,e		
32	兎替戸(貝戸)の砦跡																小坂子町兎替戸	城館	b,h		
33	芳賀東部団地遺跡			○	○	○											五代町・鳥取町	縄文配石、平安製鉄・鍛冶遺構	f		
34	鳥取城(鳥取の砦跡)																鳥取町内出	城館	b,h		
35	芳賀西部工業団地遺跡			○													鳥取町、小神明町		b,j		
36	鳥取福蔵寺遺跡	●		○	○	○											鳥取町	平安製鉄・鍛冶遺構	s		
37	鳥取東原遺跡																鳥取町東原	近世土坑	b,r		
38	五代中原Ⅰ遺跡			○													五代町中原		b,m		
39	木福遺跡Ⅰ他			○	●	●											五代町木福	製鉄遺構あり	b,n		
40	大日塚古墳																五代町	前方後円墳。M38発掘。7世紀前半。	c		
41	滋野屋敷																端気町	城館	h		
42	オブ塚古墳																勝沢町420	全長35mの前方後円墳。自然石積みの横穴式石室あり。6世紀後半。前橋市指定S480924	b,g		
43	オブ塚西古墳																勝沢町西久保	縦穴式石槨。S34調査。	b,c		
44	五代砂留遺跡群	●		○													上泉町		530集		
45	芳賀東部工業団地遺跡	●		○													五代町、鳥取町		年報27		
46	横沢新屋敷遺跡		●	○	○												横沢		a		
47	上泉城																上泉町宿	城郭(曲輪・土塁・空堀)			

住=住居、墓=墓域、生=生産域を示す。旧石器・縄文の●は遺物の出土を表す。

- [文献] a 『大胡西北部遺跡群 横沢新屋敷遺跡』,1997,大胡町教育委員会
 b 『まえばし文化財地図』,1983(昭和58年),前橋市教育委員会
 c 『前橋市史Ⅰ』,1971(昭和46年),前橋市史編さん委員会,前橋市
 d 『堀越並木(A・C地点)遺跡』,2004,大胡町教育委員会
 e 『芳賀北部団地遺跡Ⅰ』,1994,前橋市教育委員会
 f 『芳賀東部団地遺跡Ⅰ-古墳~平安時代編その1-』,1984,前橋市教育委員会
 g 『増補前橋の文化財』,1999(平成11年),前橋市教育委員会
 h 『群馬県の中世城館跡』,1988,群馬県教育委員会
 i 『年報27』2008,平成19年度事業概要,財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
 j 『芳賀西部団地遺跡』,1991,前橋市教育委員会
 k 『乙西尾引遺跡・西天神遺跡・柴崎遺跡』,1994,大胡町教育委員会
 l 『荻窪鰯塚遺跡・荻窪東爪遺跡』,2001,前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 m 『五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡・五代中原Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡』,2001,前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 n 『五代竹花遺跡・五代木福Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅰ遺跡』,2000,前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 o 『堀越中道遺跡』,1997,大胡町教育委員会
 p 『堀越甲真木遺跡』,2006,前橋市埋蔵文化財調査団
 q 『荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡』,2002,前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 r 『鳥取東原遺跡』,1997,前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 s 『鳥取福蔵寺遺跡』,1-997,前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 420集 『亀泉西久保Ⅱ遺跡・荻窪南田遺跡』,2008,財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第420集
 510集 『上泉唐ノ堀遺跡』,2010,財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第510集
 530集 『五代砂留遺跡群』,2012,財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第530集

第3章 調査の方法と経過

第1節 調査の方法

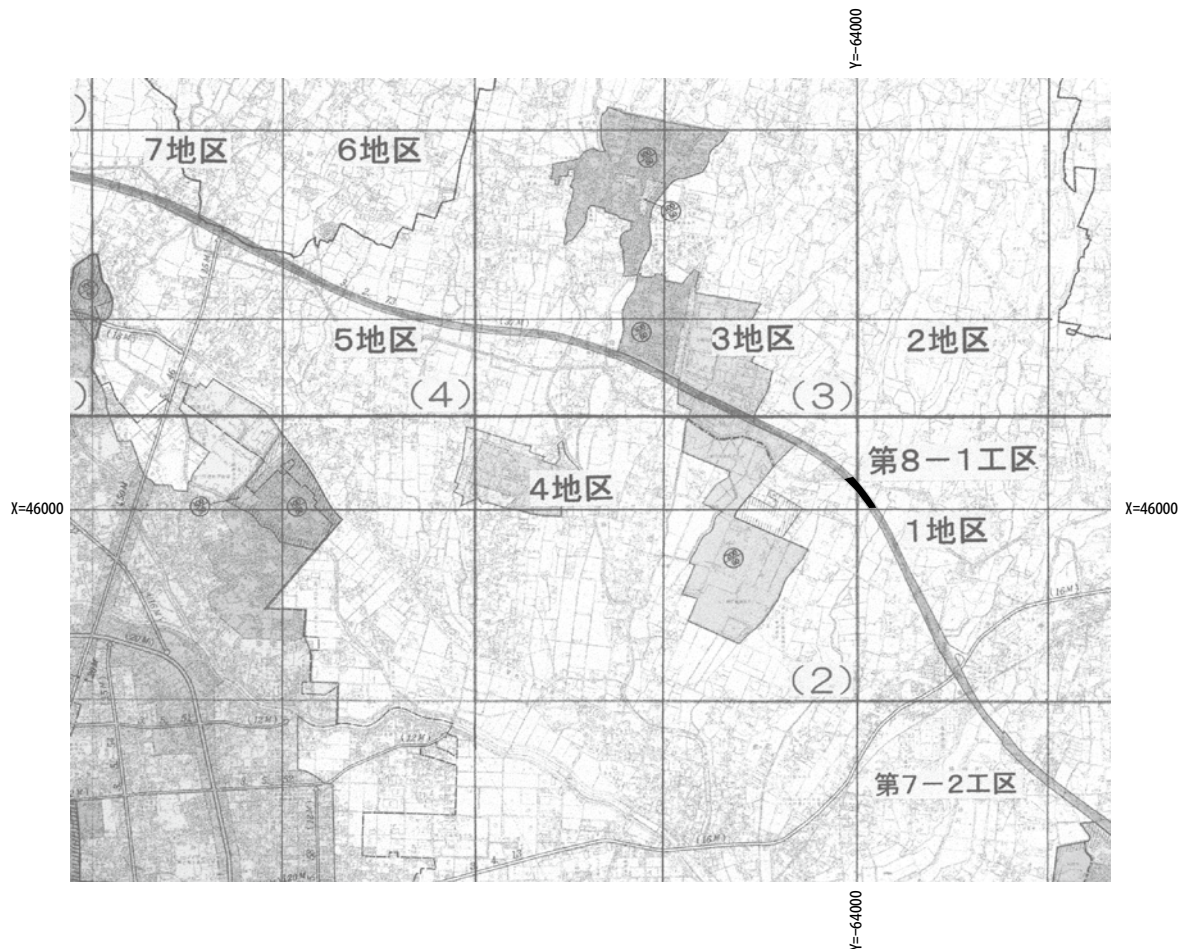
8工区の調査では、用地全線をカバーする地区名を決め、それに沿ってグリッド設定を行なった。8工区全体は1地区から13地区であり、8-1工区は1地区から7地区の県道前橋赤城線(通称赤城道路)までである。座標には世界測地系を利用し、調査区域はX-Y座標によって表現される。8-1工区の地区割付を第8図に示した。

上泉武田遺跡は2地区南西端と3地区南東端にわたり、両地区の接する交点は $X=46,000 \cdot Y=-64,000$ である(第9図上泉武田遺跡付近の地区割1:1万)。地区

割の内部は100mごとに細分し、南東隅の1区から北西隅の100区とした。地区割の内部を細分した図を、第13図に示す。本遺跡は2地区の10区・20区、及び3地区の11区・21区に所在する。

X-Y座標のメッシュと、用地幅杭の座標値による調査区域を重ねたのが第14図である(調査区の座標とグリッド1:1,250)。番号付きの●印は路線中央杭で、20mごとに設定されている。本遺跡はNo.1369から概ねNo.1382の間になる。

遺構等の平面実測はX-Y座標をもとにして5mグリッドの基準を設定した。個別の遺構記録平面図中には必ず座標値交点が複数存在する。



第8図 8-1工区 地区割りと上泉武田遺跡の位置



第9図 上泉武田遺跡付近の地区割り 1 : 10,000

基本土層

本遺跡の基本土層を第15図に示す。調査区域壁の良好な土層断面記録図がないため、IV区6・7号溝の壁断面、及びI区2号溝の南壁断面を示す。

IV区6・7号溝の西側では、ローム層の上に白色軽石を含む黒ボク土があり、その上位に淡色黒ボク土—As-C混じりの黒色土が堆積する。As-C混黒色土の上位は、現代耕作土(表土)である。

I区2号溝の南壁断面では、溝埋没土の最上位にAs-Bテフラが堆積するが、その上位に土層番号8の黄褐色土ロームがのるかたちになっている。ロームの堆積年代とAs-Bの堆積年代との前後関係が逆転しているため、このロームは後世の攪乱によるものか、別地点からの現代客土と考えられる。本遺跡は今回の発掘調査以前に大正用水建設工事が行なわれているため、土の移動が著しいと想像される。

第2節 調査の経過

(1) 試掘調査

上泉武田遺跡の本調査に先立ち、群馬県教育委員会文化課による試掘調査が平成18年12月5日から7日にかけて実施され、2本のトレンチ調査が行なわれた。その結果、トレンチ内で7世紀から8世紀とみられる住居や土坑等が発見され、本調査対象区域となった(第10図試掘トレンチの位置と結果)。

(2) 発掘調査

本調査は平成19年6月1日から平成19年12月31日の間に実施された。各区の最終段階で旧石器時代の遺構・遺物の存否を確認する調査が行なわれ、旧石器が発見された区域ではトレンチを拡張して分布範囲を確認した。本遺跡では旧石器調査が行なわれ、その結果は別途、発掘調査報告書を刊行した。

以下、本調査の実施経過を日誌によって抄録する。

平成19年

- 6月1日 現地入り。測量委託業者・遺跡掘削業者と打ち合わせ。
- 6月5日 調査区の範囲を確認。杭打ちを開始。
- 6月7日 表土の重機による掘削準備を進める。事務所設営準備。
- 6月11日 表土掘削を開始。
- 6月13日 I区の遺構検出を開始。

- 6月15日 I区の土坑・ピットの掘り下げ開始。
- 6月18日 I区1号住居の調査開始。
- 6月20日 I区遺構なしの区域で旧石器の試掘開始。
- 7月5日 I区旧石器トレンチ全景写真撮影。I区南側表土掘削を開始。
- 7月6日 安全週間のため役員来跡。視察及び安全指示。
- 7月10日 業者による遺構測量開始。
- 7月12日 I区北半部の旧石器調査範囲を拡張。I区南半部の遺構確認し、住居・土坑・ピットの調査開始。
- 7月13日 I区2号住居の掘り下げ開始。
- 7月17日 I区南半部の1号掘立柱建物全景撮影。
- 7月18日 I区北半部の旧石器調査で第2文化層の全景写真撮影、遺物の取上げ開始。I区南半部で2・3・6号住居の掘り下げを進める。
- 7月19日 I区南半部2号溝の断面写真撮影、図を記録。
- 7月20日 I区南半部3・6号住居の土層断面を記録、カマド調査開始。I区北半部で旧石器第2文化層が広がるため、北側へ拡張。
- 7月23日 I区2号溝と6号住居の全景写真撮影。
- 7月25日 I区4・5号住居の掘り下げを進め、土層断面を記録。
- 7月26日 I区北半部で第3文化層の調査を開始。
- 7月31日 I区北半部で旧石器試掘トレンチ5箇所を設定、掘り下げ開始。
- 8月3日 4・5・7号住居の遺物分布図作成。旧石器第2・3文化層の遺物出土状態写真撮影、遺物取上げ。
- 8月7日 I区全景の空中写真撮影。I区南半部で旧石器試掘トレンチを5箇所設定、掘り下げ開始。
- 8月9日 II区表土の掘削開始。
- 8月10日 II区遺構検出を開始。
- 8月17日 I区4・5・7号住居掘り方平面図を記録。
- 8月21日 II区土坑・ピットの掘り下げ開始。9・10・11・13・14号住居の調査に着手。
- 8月24日 9～14号住居の掘り下げ記録。
- 9月3日 II区の全景写真(空撮)撮影。
- 9月5日 台風対策を施す。
- 9月13日 調査再開。II区の旧石器調査を開始。
- 9月25日 III区の遺構確認開始。IV区の表土掘削を開始、遺構検出開始。
- 9月26日 III区15号住居・3号溝の調査に着手。
- 10月1日 調査担当者異動。
- 10月2日 II・III区空撮準備。IV区旧石器トレンチ設定。

10月3日 II・Ⅲ区の空中写真を撮影。IV区旧石器トレンチの掘り下げ開始。

10月4日 II区埋め戻し開始。Ⅲ区15・16号住居掘り下げ記録。

10月5日 Ⅲ区1号道の全景写真撮影。

10月9日 II区8号住居調査終了。Ⅲ区16号住居図面記録進める。IV区旧石器試掘継続。事務所設置替え開始。

10月10日 Ⅲ区16号住居全景写真撮影。

10月15日 Ⅲ区16号住居掘り方掘り下げ記録。

10月25日 IV区4～7号溝の掘り下げ開始。

10月29日 IV区18号住居の掘り下げ開始。IV区土坑・ピットの掘り下げ開始。Ⅲ区の埋め戻しを開始。

11月6日 IV区19・20号住居の範囲確認。21号住居の掘り下げ開始。

11月15日 IV区79～92号土坑・366～385号ピット土層断面記録。

11月20日 IV区19・20号住居の掘り下げ開始。

11月22日 IV区22号住居の範囲確認。

11月26日 IV区22号住居の掘り下げ開始。

11月29日 IV区93～95号土坑の土層断面を記録。

11月30日 386～392号ピットの土層断面を記録。

12月3日 IV区18号住居の土層断面・カマド詳細を記録。

12月4日 IV区19・20号住居の土層断面を記録。

12月6日 IV区全景の空中写真撮影。溝の全景写真撮影。

12月7日 IV区22号住居の土層断面を記録。

12月10～12日 IV区18～21号住居の床面・遺物出土全景写真撮影。

12月17～21日 IV区20～22号住居の掘り方を記録。

12月27日 IV区4～7号溝土層断面を記録。記録作業すべてが終了。埋め戻し開始。

第3節 整理作業の方法と経過

1 整理作業の方法

本遺跡の整理は、当初からデジタルの図・写真原稿を作成し、フルデジタル出稿が原則となった。

遺構平面図は現地での記録時にデジタル測量・記録が行なわれたが、土層等の断面図では手書きの紙による記録であったため、断面図は平面図との整合性を確認した後、デジタルトレースにより記録を電子化し、平面図と併せた。

遺構写真のうち、白黒フィルムによる画像はフィルムをデジタルスキャンして電子化し、報告書に掲載した。カラー画像はもともとデジタルカメラによる記録であるため、印刷に最適化して掲載した。

遺物写真は写真室のデジタルカメラで撮影し、これも印刷に最適化して報告書に掲載した。

2 整理作業の経過

整理作業は平成23年1月から開始し、平成23年5月までと24年4月から6月までの2回に分けて行なった。本遺跡は旧石器時代～中近世までの複合遺跡であり、出土遺物の性格上、旧石器時代と縄文時代以降とを分けて整理し、調査報告書も別である。

本書は縄文時代以降を掲載範囲とし、平成23年1月～23年5月と24年4月～6月の延べ8ヶ月を要した。

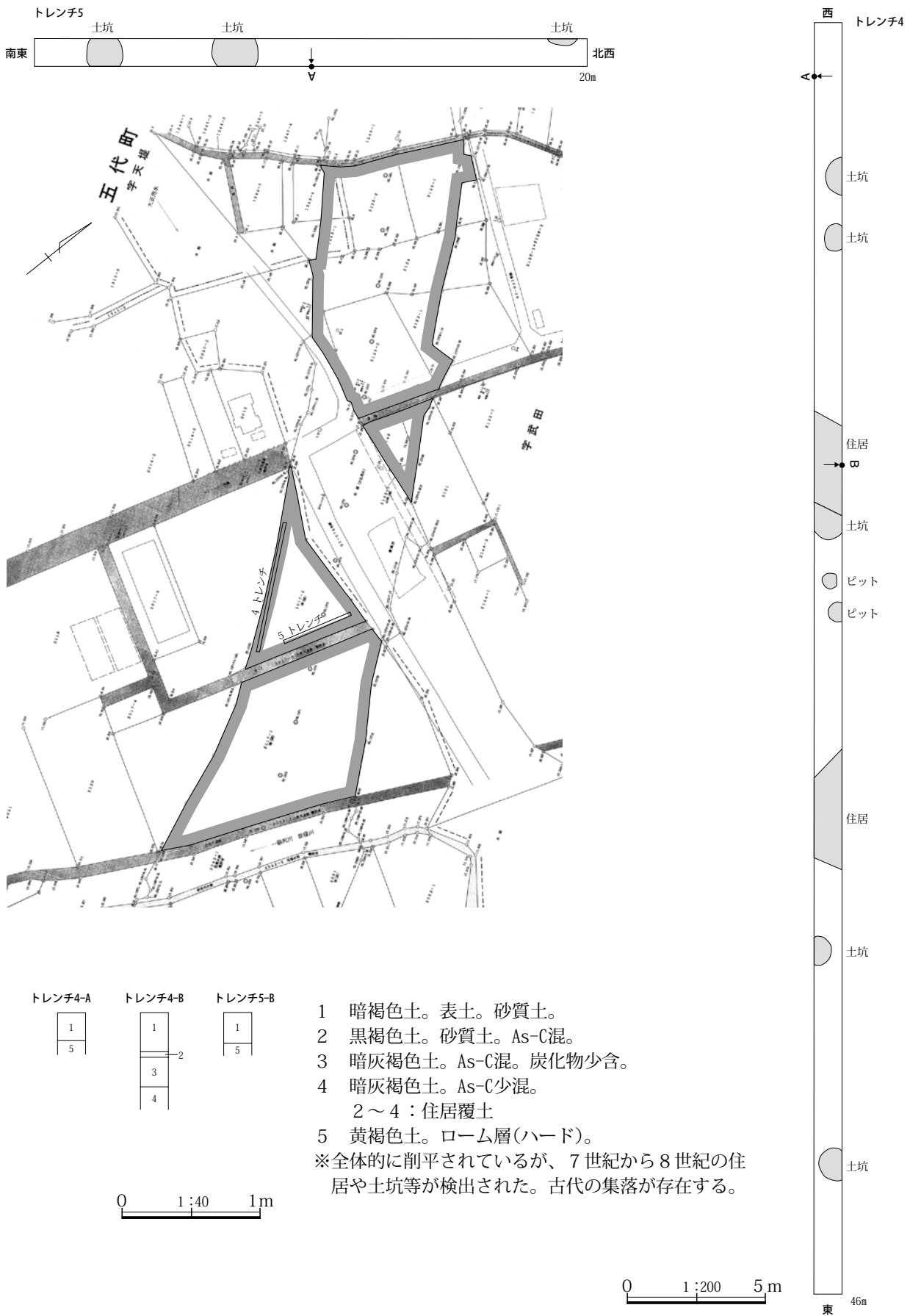
平成22年度は主として遺構内容の確認と出土遺物の接合復元・写真撮影、出土遺物の実測・トレース等を行い、各遺物の観察表等の詳述原稿を執筆した。併行して遺構図の整理を行い、遺構内容の説明原稿を執筆した。平成23年度は第4章遺構と遺物を除く部分の図を作成し、遺構写真・遺物写真とともにレイアウトした、24年度は遺物のレイアウトや全体の編集を経て刊行し、収納を終えた。

3 遺物量

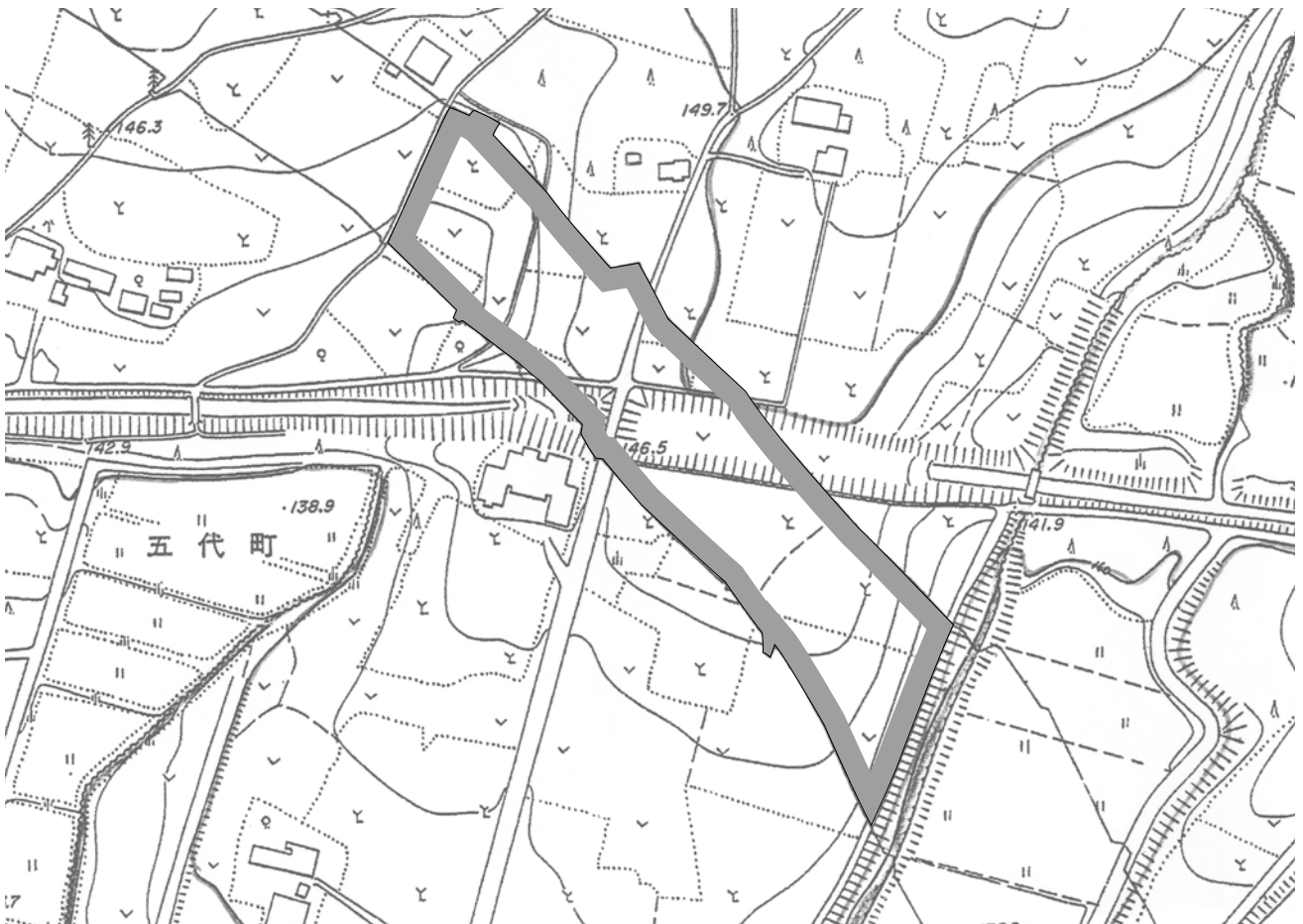
本遺跡で出土した遺物量は、土器・石製品等を納める標準的な遺物収納箱(60×38×15cm)で12箱である。それらのうち、本書に掲載した遺物は総数133点で、箱数にして5箱になる。遺物の種類別では、次の通りである。

縄文土器	16点
縄文時代の石器	8点
土師器・須恵器(土製品含む)	97点
金属製品	3点
製鉄関連遺物	3点
石製品	6点
中近世陶磁器	なし

また、未掲載遺物は標準箱で2箱、その総重量は土器20.47kg、石器4.51kgであった。



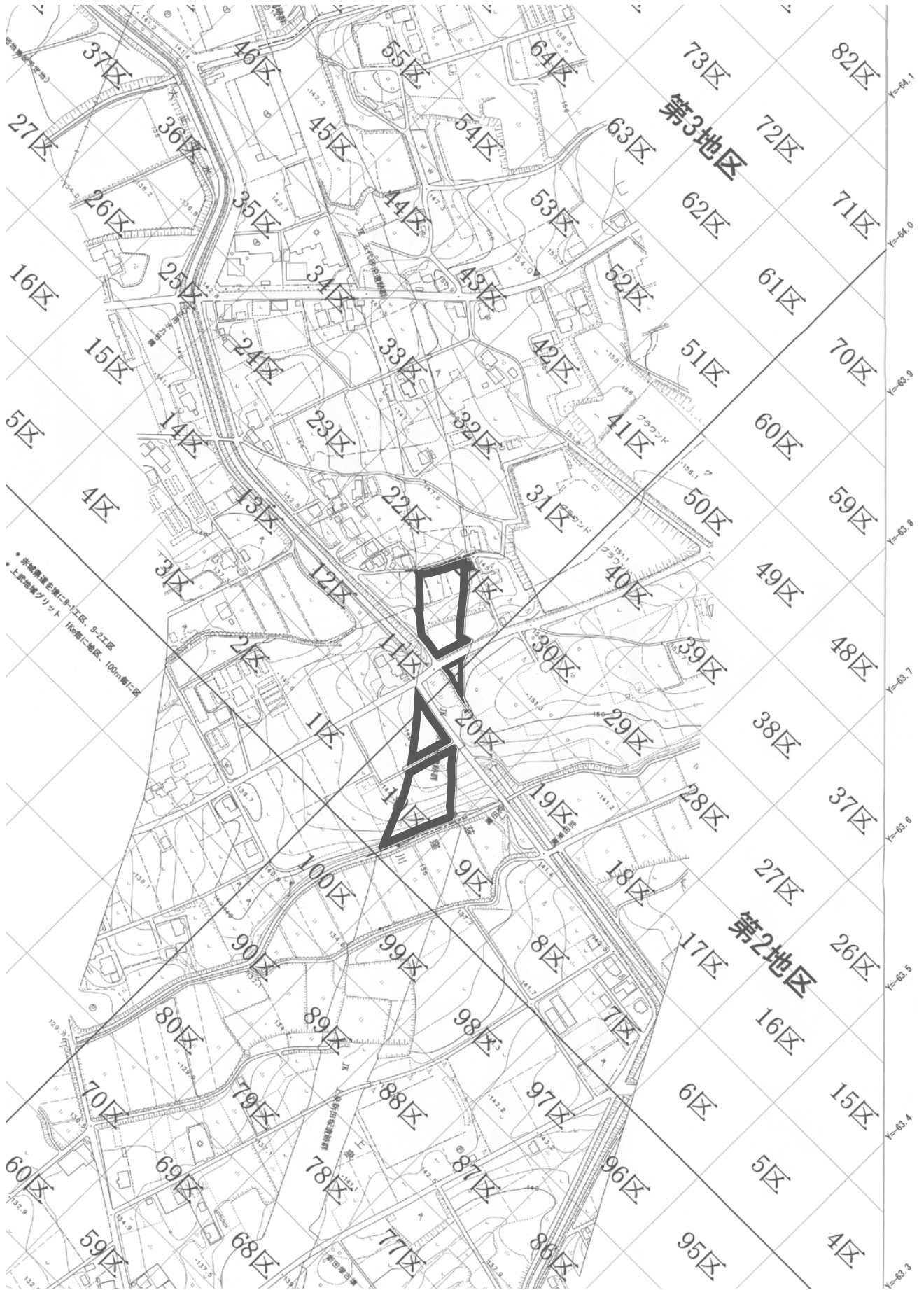
第10図 試掘トレンチの位置と結果



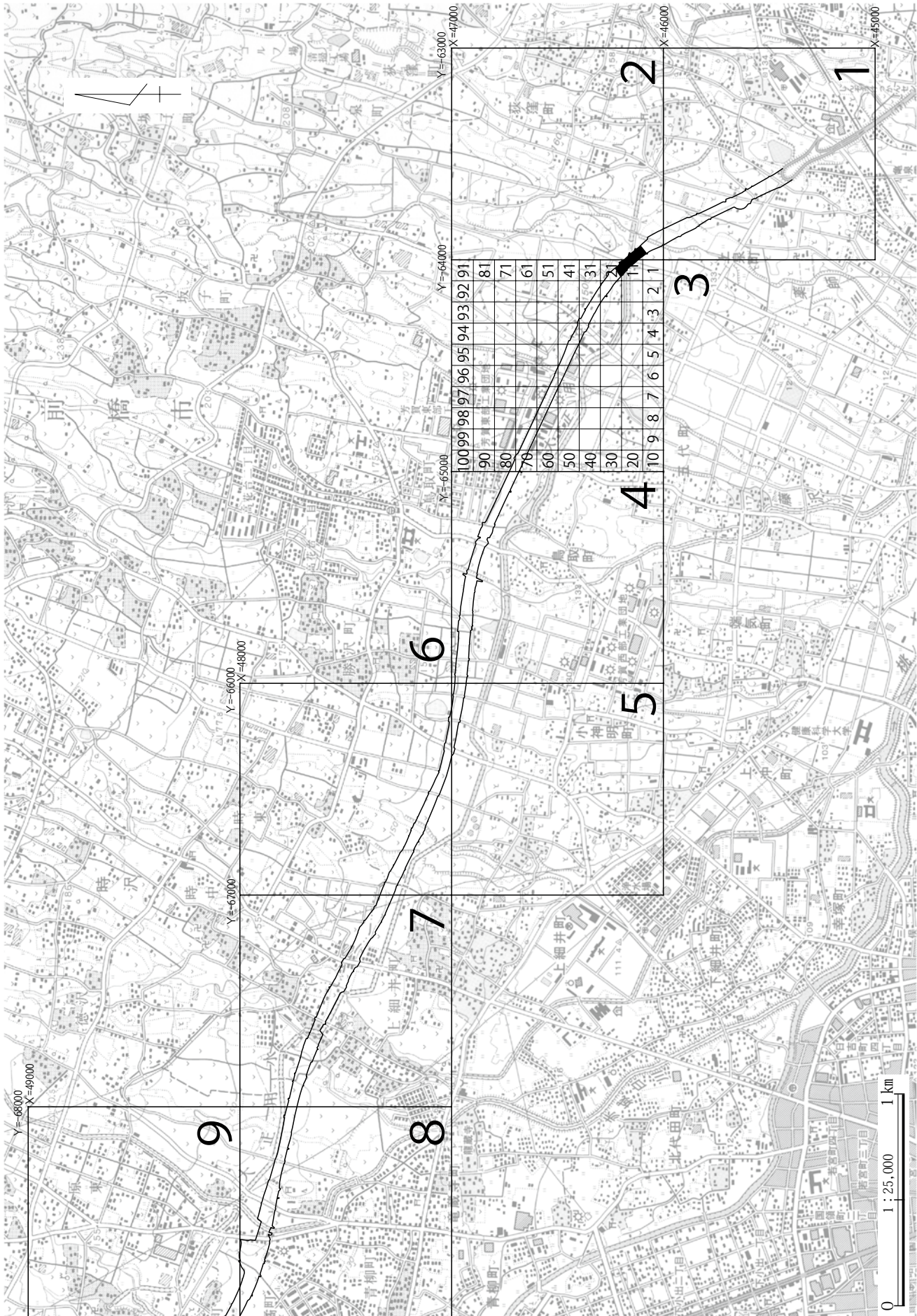
第11図 前橋市都市計画図(昭和43年, 1 : 2,500に加筆)



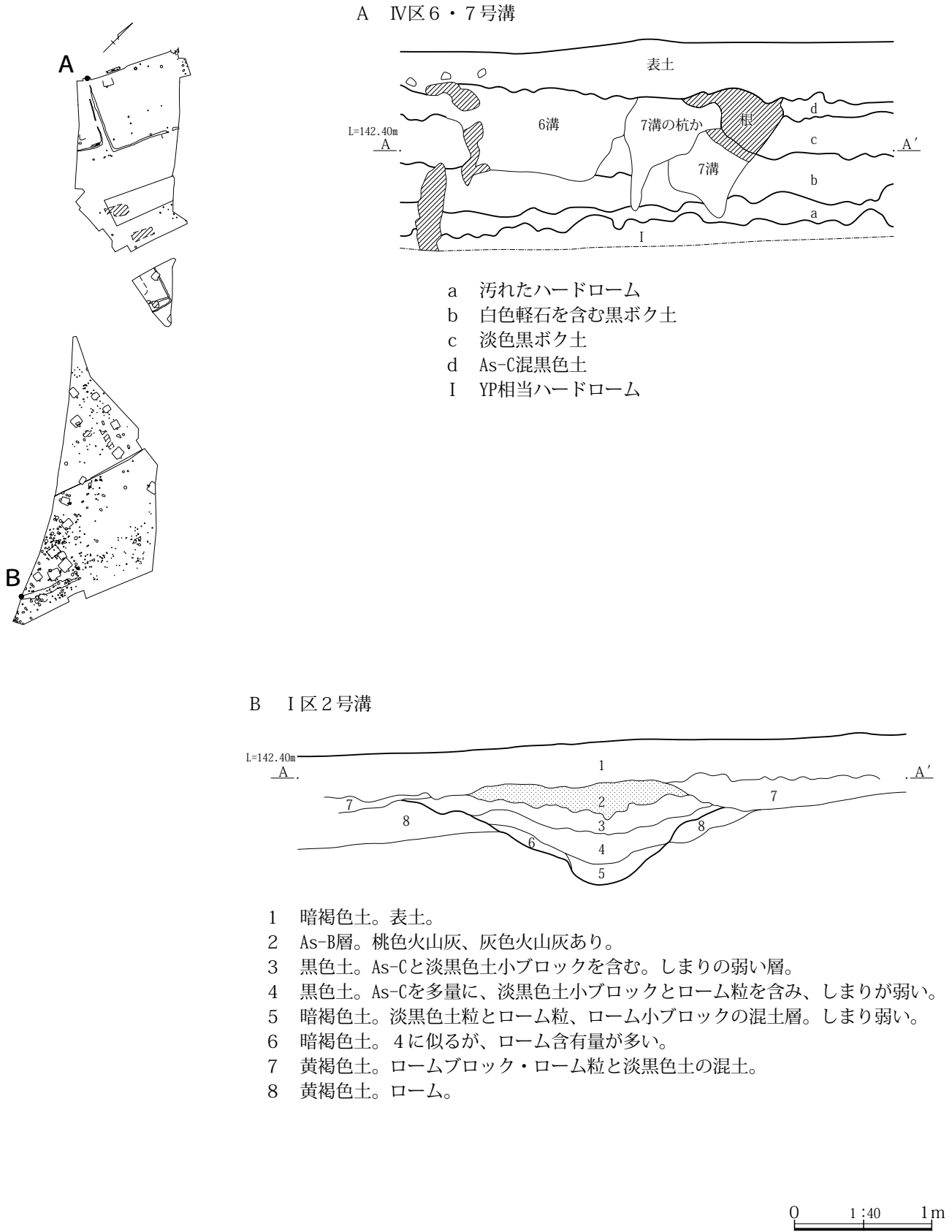
第12図 調査区域の標高と大正用水との位置関係(前橋市都市計画図昭和54年に加筆, 1 : 5,000)



第13図 地区細分図(1 : 5,000)



第14図 大中グリッド設定図(国土地理院 1 : 25,000 地形図「前橋」(平成22年12月 1 日発行)「渋川」(平成14年10月 1 日発行)「大胡」(平成22年12月 1 日発行)「鼻毛石」(昭和56年 7 月30日発行)使用)



第15図 上泉武田遺跡基本土層

第4章 遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

上泉武田遺跡の調査区は、着手前の道路等によって分けたもので、面積と区は次のように分けた。土地番号は委託者からの資料に記載された一筆ごとの土地に付けられた番号である。

調査区と面積

I区	土地番号56	3,244.58㎡
II区	土地番号57	1,187.02㎡
III区	土地番号58～60	403.23㎡
IV区	土地番号61～68	2,567.58㎡

また、本遺跡で発見された遺構は、第3表の通りである。

I区南東部にあり、住居7軒他を検出した。住居群の中心的区域に掘立柱建物がある。2号溝は南東部に位置し、標高142.00mの等高線に沿っていて、谷地形への傾斜変換点に相当する。

II区は農道201-3を挟んで南東部のI区と隣接する。住居8軒他を検出した。I区併せて南北方向の尾根の上にある。

III区は本遺跡のほぼ中央部にあり、住居2軒他を検出した。

IV区は本遺跡の北西端にあり、市道07-090号線を挟んでIII区西側に位置する。住居5軒他を検出した。6・7号溝は隣接し、L字状を呈する。住居の遺存は不良で、近代～現代に削平された可能性が高い。

第3表 上泉武田遺跡遺構数量一覧

遺構	時代	I区	II区	III区	IV区	合計
住居	古墳					0
	奈良・平安	7	8	2	5	22
	時期不明					0
	小計	7	8	2	5	22
掘立柱建物	古墳					0
	奈良・平安	1	1			2
	時期不明					0
	小計	1	1			2
溝	古墳					0
	奈良・平安	1				1
	中近世			1		1
	時期不明		1		4	5
	小計	1	1	1	4	7
土坑	古墳					0
	奈良・平安	1				1
	中近世					0
	時期不明	62	15		17	94
	小計	63	15	0	17	95
ピット	古墳					0
	奈良・平安					0
	中近世					0
	時期不明	308	51		26	385
	小計	308	51	0	26	385
その他	古墳					0
	奈良・平安					0
	中近世			道		0
	時期不明			1		1
	小計	0	0	1	0	1

※ 土坑・ピットの類は時期時代の判定できないものが多い。

第2節 I区の遺構と遺物

I区の概要

I区は本遺跡の南東部にあり、農道を挟んで北西側のII区と隣接する。住居7軒、掘立柱建物1棟、溝1条、土坑63基、ピット308基を検出した。住居はI区中央部の南西寄りに集中し、その中心的区域に掘立柱建物がある。2号溝は2号-3号-5号住居と並ぶ住居群の南東部に位置し、標高142.00mの等高線に沿っている。3号住居カマド煙道-2号溝の間は、最短1m程度しか離れておらず、同時存在したかどうか不明である。北端に離れて検出した1号住居は、北東部1/3が調査区外にあり、全容を確認できなかった。1号住居は西辺にカマドを設置する住居で、本遺跡では特異な存在である。I区はII区と併せて、南北方向に延びるなだらかな尾根の上であり、2号溝は谷地形への傾斜変換点に相当する。なお、1号溝は調査時において近現代の遺構と認められたため、欠番扱いとした。

I区1号住居(第17・18・58図、PL. 3・58)

検出位置 110-941。

重複関係 なし。

規模 南北4.40×東西4.30m、計算面積(18.92) m²、検出面積12.11m²。

長軸方位 N-13°-W。

覆土 黒褐色土を主体とする自然埋没。

壁 22cmを測り、直に近く立ち上がる。

床面 西壁から約2mの範囲と南東隅を含む1×2mの範囲が硬化していた。中央部相当は硬化面なし。

主柱穴 1号ピット(径63×47cm・深さ49cm)・2号ピット(径43×40cm・深さ55cm)・3号ピット(径51×44cm・深さ48cm)がある。1P-2P間:2.40m、2P-3P間:2.31mを測る。

壁溝 カマド両脇から壁直下を巡る。幅10~25cm・深さ2~12cm。

カマド 西壁の南寄りに設置される。燃焼部は壁の内側にあり、中央には支脚石を埋設する。両袖部内には自然礫を心材として埋設する。

カマド対称軸方位 N-78°-E。

貯蔵穴 1号土坑か。規模は径123×85cm・深さ42cm。

掘り方 カマド前、北辺沿い、南辺沿いに不整形掘り込みあり。北辺と略平行に幅50~80cmの平坦な面があり、掘り方底面との段差は4~11cmである。

床溝 3号ピットから北へ延びる幅0.4m・深さ3cm前後の溝を1.6m分検出した。

その他 北東部1/3は調査区外にある。

遺物 カマド前から土師器甕4・5、燃焼部から土師器杯3が、右袖からは土師器杯1が出土している。

時代・時期 出土遺物の年代から、7世紀第3四半期と推察される。

I区2号住居(第19・58図、PL. 4・58)

検出位置 047-945。

重複関係 なし。

規模 南北3.25×東西3.37m、計算面積10.95m²、検出面積7.35m²。

長軸方位 N-81°-W。

覆土 暗褐色土を主体とする自然埋没。

壁 32cm。直に近く立ち上がる。

床面 カマド前がやや高く、西半部は低くなる。

主柱穴 不明。南辺中央部床面に1号ピット(径25×22cm・深さ19cm)がある。

壁溝 南東隅を除き全周する。幅20~39cm・深さ4~14cm。

カマド 東壁の南寄りに設置される。燃焼部は壁よりも突出する。掘り込みは長方形に近い。

カマド対称軸方位 N-82°-W。

貯蔵穴 南東隅の掘り込み。楕円形を呈し、径30×23cm・深さ19cm。

掘り方 不明。

床溝 不明。

遺物 貯蔵穴付近から須恵器杯8が出土している。

時代・時期 出土遺物の年代から、8世紀第3四半期と推察される。

I区3号住居(第20・58・59図、PL. 5・58)

検出位置 053-940。

重複関係 なし。

規模 南北5.09×東西3.96m、計算面積20.16㎡、検出面積14.97㎡。

長軸方位 N-11°-E。

覆土 暗褐色土を主体とする自然埋没。

壁 80cmを測り、直に立ち上がる。

床面 壁際を除き硬化が認められた。

主柱穴 不明。

壁溝 カマド両脇から壁直下を全周する。幅20～38cm・深さ3～12cm。

カマド 東壁の南寄りに設置される。燃烧部中央は壁ラインに相当する。

カマド対称軸方位 N-71°-W。

貯蔵穴 南東隅。径74×44cm、楕円形を二つ重ねた形状で、南側は径44×31cm・深さ18cmである。

掘り方 南東隅が略三角形に凹む。

床溝 不明。

その他 カマド両脇の東辺南半部に幅50～60cm・深さ3～6cmの浅いテラス状の張出し部がある。

遺物 貯蔵穴付近から土師器杯11が出土している。

時代・時期 出土遺物の年代から、8世紀第4四半期と推察される。

Ⅰ区4号住居(第21・59図、PL. 6・59)

検出位置 062-944。

重複関係 4号住居→5号住居の順に新しい。

規模 南北3.13×東西3.19m、東西がわずかに長い。計算面積9.98㎡、検出面積7.65㎡。

長軸方位 N-77°-W。

覆土 黒褐色土・暗褐色土による自然埋没。

壁 39～61cmを測り、やや斜めに立ち上がる。

床面 平坦。

主柱穴 不明。1号ピット(径51×28cm・深さ31cm)は南辺中央部壁際に、2号ピット(径27×25cm・深さ46cm)は北辺ほぼ中央部壁際にある。

壁溝 なし。

カマド 東壁の南寄りに設置される。右袖の石が遺存している。燃烧部は壁の内側にある。

カマド対称軸方位 N-77°-W、住居長軸と同じ。

貯蔵穴 不明。カマド左脇4号ピットか。

掘り方 カマド前を中心に大小の掘り込みあり。

床溝 なし。

その他 5号住居にカマド煙道部を切られており、新旧関係が判明した。

遺物 カマド前から土師器甕18・19、右袖前から杯が出土している。

時代・時期 出土遺物の年代から、7世紀第4四半期と推察される。

Ⅰ区5号住居(第22・23・59図、PL. 6・7・59)

検出位置 060-939。

重複関係 西側で4号住居と重複し、4号住居→5号住居の順に新しい。

規模 南北5.11×東西4.45m、計算面積22.74㎡、検出面積16.60㎡。北西隅が少し突出し南北に長い長方形を呈する。

長軸方位 N-0°。

覆土 黒褐色土を主体とする自然埋没。

壁 49cmを測り、急峻に立ち上がる。

床面 南東隅を基準に東西3.0×南北3.3mの方形の範囲が硬化していた。北辺沿いと西辺沿いは逆L字状に硬化していない範囲がある。

主柱穴 不明。床面中央部に径36×32cm・深さ16cmの1号ピットがある。

壁溝 カマド前・北辺西半部を除き、幅26～36cm・深さ1～11cmの溝が巡る。

カマド 東壁の南寄りに設置される。燃烧部は壁のラインに一致する。左右の袖部に石を配し、燃烧部奥にも石が据えられていた。カマド前の径30cmの浅い凹みに焼土が認められた。

カマド対称軸方位 N-87°-E、住居長軸線と直交する方向だが、わずかに北へ振れている。

貯蔵穴 南東隅。径67×55cmの卵形で、最深部は床面から29cmあり、40×27cm大の石が上位に乗る。

掘り方 北東隅に径165×85cm・深さ11cmの長方形の掘り込み、南西隅に径80×57cm・深さ10cmの楕円形の掘り込みがある。南辺際の西寄り、30×35cmの範囲で不整形の焼土が分布し、焼土上面は硬化していた。

床溝 不明。

その他 南辺中央の壁際に、三日月形の土の高まりがあり、土層断面では三枚の硬化面が認められた。出入口施

第4章 遺構と遺物

設の一部と考えられる。

遺物 カマド内及びカマド前から土師器甕29、須恵器盤27が出土している。北辺中央部壁際で15cm大の石2個が出土し、北西隅の1号土坑周囲から棒状の炭化物が出土している。

時代・時期 出土遺物の年代から、9世紀第1四半期と推察される。

I区6号住居(第24・60図、PL. 8)

検出位置 074—952。

重複関係 なし。

規模 南北に長い長方形を呈し、南北4.59×東西3.20m、計算面積14.69㎡、検出面積11.66㎡。

長軸方位 N-4°-E。

覆土 暗褐色土を主体とする自然埋没の様相がみられる。

壁 37～65cmを測り、直に立ち上がる。北側の遺存良好。

床面 平坦。カマド前を中心に、東西2.5×南北3.0mの不整形の範囲が硬化していた。北辺沿いは硬化面がない。

主柱穴 不明。床面南寄り中央に1号ピット(径31×26cm・深さ32cm)がある。

壁溝 幅13～28cm・深さ3～8cmを測り、カマド両脇から壁直下を巡る。

カマド 東壁の南寄りに設置される。燃焼部中央は壁ラインにあり、両壁がよく焼けていた。焚き口に径37cm・深さ15cmの掘り込みがある。カマド構築材粘土の一部は燃焼部両側に残り、カマド付近には粘土が崩れた状態で広がる。

カマド対称軸方位 N-89°-E。

貯蔵穴 南東隅にあり、径32cm・深さ36cmの円形である。

掘り方 カマド両袖部に掘り込みがみられ、石を据えた痕跡と考えられる。

床溝 なし。

遺物 住居中央部で破片が出土しているが、床面から浮いた状態の出土である。

時代・時期 出土遺物の年代から、8世紀前半と推察される。

I区7号住居(第25・60図、PL. 9・59)

検出位置 080—960。

重複関係 なし。

規模 西辺がやや短く、東辺が長い。全体に台形を呈する。中央部の南北3.02×東西3.67m、計算面積11.08㎡、検出面積8.80㎡。

長軸方位 N-62°-E。

覆土 黒褐～暗褐色土による自然埋没。

壁 32～42cmを測り、斜めに立ち上がる。

床面 平坦だが、西に向かってわずかに低くなる。硬化面不明。

主柱穴 北辺と南辺の東寄りで、壁際に1対のピットを検出している。1号ピット(径25×17cm・深さ12cm)、2号ピット(径31×25cm・深さ62cm)。1P-2P間：2.49mを測る。

壁溝 なし。

カマド 東壁の南寄りに設置される。燃焼部は壁の内側にあり、奥壁が壁ラインにほぼ一致する。煙道が壁外に約1mの長さで直線的に延びる。

カマド対称軸方位 N-67°-E。

貯蔵穴 不明。カマド右脇床面で潰れた状態の甕と杯が出土している。

掘り方 カマド燃焼部下位で略長方形の掘り込み(径84×60cm・深さ12cm)があり、カマド前から中央部にかけて不整形の掘り込み(深さ15cm前後)がある。

床溝 なし。

その他 カマド煙道部下位に、156P・268P・269Pを検出しており、煙道の掘り方の可能性もある。

遺物 カマド前から土師器杯41、左袖北側から土師器杯36、カマド右脇床面から土師器杯34・土師器有孔鉢44が出土し、北辺壁際の床面から土師器杯38・39が重なって出土している。土器破片は中央部と北西部にかけ出土した。

時代・時期 出土遺物の年代から、7世紀第2四半期と推察される。

I区1号掘立柱建物(第26図、PL.10・11)

検出位置 060—950付近。周囲を住居に囲まれた位置にあり、同時存在の可能性がある。

重複関係 なし。

規模 東西2間×南北3間で、南北に長軸をもつ。

長軸方位 中央の178P-184Pを結ぶ線の方位はN-6°-Eと、わずかに東に傾く。桁行方位は同じである。

覆土 柱穴の埋没土は暗褐色土で、As-Cを含んでいる。

柱穴 各ピットの深さは20cm前後で、断面は略半円形を呈する。

その他 185 Pと177 Pとの間に203 Pが存在するが、185 P－177 Pを通るラインからやや外れている。本遺構は6号住居と4号住居との間に存在し、この空間には他にも土坑・ピットが存在するが、近接する35・36・37・38号土坑、173 P・175 P・176 P・163 P・181 P・186 P・187 P・198 P・197 P・190 P・191 P等が本遺構に伴うかどうか、判定できない。4号住居とは間隔が近く、同時存在の可能性は少ないと推定される。5号住居はほぼ同規模かつ長軸方位が近似していることから、同時存在の可能性はある。

遺物 底面近くからいくつかの遺物が出土している。

時代・時期 軸方位より、9世紀第1四半期と推察される。

I区2号溝(第27・63図、PL.12)

検出位置 033～059－932～946。

重複関係 63号土坑→2号溝の順に新しい。

規模 長さ約28.85m、最大幅3.45m、深さ1m前後で、I区南東部で北東－南西方向の走行をもつ。南西端から調査区外に延びている。標高142.00mの等高線とほぼ同じ走行である。2号溝の西側に2・3・5号住居が南北に並び、東側の谷地形との間を画するような位置にある。北東－南西走行の尾根筋の縁辺に相当すると考えられる。

長軸方位 検出両端を結ぶ方位は、N-27°-Eである。溝は東側へ弓なりに緩く曲がっている。

覆土 As-C軽石を含む黒褐色土の上位に、As-Bテフラ純層が堆積し、その上位に暗褐色土(表土)が堆積する。平安時代には凹みが残っていたと考えられる。

壁 B-B'断面で見ると、底面から2cmほどは直に近く、それより上位は斜めに広がって立ち上がる。底面下端では幅約50cmであるが、上面(確認面)では0.7～3.4mほどになる。

底面 底面の標高をみると、検出範囲全体では141.60mであるが、北東部では141.69～141.66m、南西部では141.65～141.61mであり、概ね北側が高く、南側が低い。ただし、土層断面の観察では、水流のあった痕跡がみら

れない。

その他 溝は尾根筋縁辺に沿って、南西方向に向かう様相をみせる。

遺物 底面近くから須恵器杯104・105、須恵器椀106が出土している。

時代・時期 走行軸・重複遺構などから、9世紀前半か。

I区土坑・ピット(第28～34・63図、PL.13～34)

I区全体を掲載の便宜上、五つの範囲に分けて分布状態を掲載した。

第28図はI区北東部の分布図1で、北端の1号住居を除くと、土坑・ピットは南北走行の尾根筋の縁辺部に集中して分布する。

第29図はI区北西部の分布図2で、7号住居の北東側にピットが集中するが、掘立柱建物として組み上がったピット群はない。7号住居→215Pの順に新しい。

第30図はI区中央部東半部の分布図3で、土坑数基のほか、小ピットが斜面下位に分布する。掘立柱建物として組み上がったピット群はない。5号土坑の周囲には75Pを除きピット類が分布しない状態を示す。微地形では谷頭である。

第31図はI区中央部西半部の分布図4で、土坑・ピットがもっとも濃密に分布する範囲である。いくつかのピットが組み合わせあって1号掘立柱建物が認定でき、その北西側に土坑がやや多い。6号住居→61号土坑、3号住居→28号土坑の順に新しい。

第32図はI区南東部の分布図5で、本遺跡調査区域の南東限である。2号溝内及び周辺の土坑・ピットの分布を示す。住居の存在する尾根筋の縁辺部に相当し、南東部の谷筋への傾斜変換範囲にある。2号溝は標高142.00mの等高線に沿っており、その上下にピット・土坑の分布差は認められない。63号土坑は風倒木痕とみられ、確認面と土層断面の観察から、東側に倒れた可能性がある。

なお、I区のピットは全体的に北寄りやや少なく、南から東側にかけて多い傾向がある。

第34図はI区で検出したピット類の断面図である。

時代・時期 41号土坑は8世紀後半、その他の土坑・ピットの時期については、詳細は不明だが、その埋土の様相から、調査区内の周囲の遺構時期である7世紀～9世紀前半を越えないものと推察される。

第3節 II区の遺構と遺物

II区の概要

II区は本遺跡の南東部にあり、農道(2017-3)を挟んで南東部のI区と隣接する。III区との間に市道07-076号線及び大正用水を挟み、略三角形の調査区である。住居8軒(うち14号住居は疑問を残す)、掘立柱建物1棟、土坑15基、ピット51基を検出した。住居はII区中央部の北寄りに集中しているが、17号住居はやや離れている。2号掘立柱建物は2間×2間で、調査区北西端に位置する。

14号住居は南西隅を検出したのみで、全容不詳である。

17号住居は南北に長い長方形のプランで、焼土は確認されたが床面から浮いており、カマド痕跡もなかった。構築途中の住居または特殊な用途の施設と推定される。

その他の住居は東壁にカマドを設置し、やや歪んだ形状のプランを示すものが多い。8号住居は南辺を拡張した痕跡を示す。9・10・13号住居のカマドは比較的遺存状態が良好で、カマド焚き口の天井石が残っていた。

I区と併せて南北方向の尾根の上ののり、住居群は南北に広がるとみられる。

II区8号住居(第36・60図、PL.37・59)

検出位置 110-958。

重複関係 なし。攪乱によりカマド燃焼部の大半・南東隅を欠く。

規模 南北4.42×東西4.02m、計算面積17.77㎡、検出面積14.35㎡。

長軸方位 N-1°-E。

覆土 黒褐色土を主体とする自然埋没。

壁 上面の削平を受け、2~3cm残存するのみ。

床面 削平されているため、硬化面をも削り取られている可能性が高い。

主柱穴 不明。

壁溝 カマド左脇から壁直下を巡るが、南西隅にはない。幅18~34cm・深さ3~11cmを測り、西辺壁溝から南辺は幅約80cmの南辺沿いの拡張部と考えられる。

カマド 東壁の南寄りに設置される。上部構造の袖部・煙道部が削平されて存在せず、また南北に走行の幅約

30cmの攪乱により破壊されているため、焼土分布範囲のみ記録した。焼土範囲が燃焼部底面と推定され、燃焼部は壁ラインにある。

カマド対称軸方位 N-84°-W。

貯蔵穴 不明。

掘り方 カマド前、北東隅から西辺にかけて浅い掘り込みがある。南辺沿いに拡張前の壁溝が認められ、拡張部には掘り方がない。

床溝 不明。

その他 遺存状態が不良で、後世の削平が著しく、調査時の地山上面にはAs-BPが露出していた。

遺物 カマド右脇から土師器甕48が出土し、南辺西寄り掘り方の壁溝から土師器杯47が出土している。

時代・時期 出土遺物より9世紀第2四半期と推定される。

II区9号住居(第37・60図、PL.38)

検出位置 120-968。

重複関係 なし。

規模 長方形-台形。南北3.24×東西3.56m、計算面積11.53㎡、検出面積8.68㎡。

長軸方位 N-74°-W。

覆土 黒褐色土を主体とする自然埋没。

壁 上面の削平を受け、4~13cmを測る。

床面 カマド前から住居中央部にかけて不整形の硬化面を検出した。

主柱穴 不明。

壁溝 カマド両脇から壁直下を巡る。幅14~30cm・深さ5~13cmを測る。

カマド 東壁の中央わずかに南寄りに設置される。カマド焚き口の天井石(砂岩、奥へズレているか)がほぼ壁のライン上にあり、燃焼部は壁の外側に出る。両袖石の一部も遺存する。

カマド対称軸方位 N-83°-W。

貯蔵穴 北東隅1号貯蔵穴(径33cm・深さ13cm)の円形、南東隅2号貯蔵穴(径53×42cm・深さ16cm)の不整形。

掘り方 床面の硬化面を一回り大きくした範囲で、細かい凹凸のある10cm前後のやや高い面があり、東辺を除く各辺沿いは凹凸の著しい底面をもつ。

床溝 なし。

その他 南辺が北辺より30cmほど短く、台形に近い。

遺物 南東隅の2号貯蔵穴付近から南辺にかけて破片が出土し、北辺沿いでも小片が出土している。

時代・時期 出土遺物より8世紀第4四半期と推定される。

II区10号住居(第38図、PL.39)

検出位置 120-978。

重複関係 なし。

規模 長方形。南北3.20×東西2.60m、計算面積8.32㎡、検出面積7.08㎡。各辺の中央部が外側へやや張出す。

長軸方位 N-12°-E。

覆土 黒褐色土を主体とするレンズ状自然堆積を示す。

壁 12~26cm。斜めに立ち上がる。

床面 中央部の南北1.5×1.3mの範囲で硬化が認められた。

支柱穴 不明。

壁溝 なし。

カマド 東壁の南寄りに設置される。両袖石・焚き口天井部の石が壁のライン上にあり、燃烧部は壁の外側にある。支脚は燃烧部奥壁近くに設置され、長さ26cm・幅11cmの自然石を利用する。焚き口天井石は架かった状態で検出した。

カマド対称軸方位 N-78°-W。

貯蔵穴 南東隅。径49×58cm・深さ10cmで浅い。

掘り方 南西隅近くに径59×69cm・深さ10cmほどの浅い掘り込み1号土坑がある。カマド前から貯蔵穴にかけて浅い掘り込みがある。

床溝 なし。

その他 胴張りの形状を示す。

遺物 カマド燃烧部から甕の破片が出土している。

時代・時期 出土遺物より9世紀第2四半期と推定される。

II区11号住居(第39・61図、PL.40)

検出位置 120-985。

重複関係 西辺中央部で楕円形の土坑(径120×55cm・深さ18cm)と重複し、住居→土坑の順に新しい。

規模 長方形。南北3.25×東西2.48m、計算面積8.06㎡、検出面積5.50㎡。

長軸方位 N-8°-E。

覆土 黒褐~暗褐色土による自然埋没。

壁 21~28cmを測り、直に近く立ち上がる。

床面 平坦。硬化範囲は不明。

支柱穴 掘り方で検出した3・5号ピットか。3号ピット(径34×27cm・深さ52cm)、5号ピット(径28×18cm・深さ13cm)。3P-5P間:1.53mを測る。

壁溝 カマド左脇から壁直下-南東隅まで巡る。幅18~34cm・深さ3~6cmを測る。

カマド 東壁の南寄りに設置される。燃烧部は壁の外側にある。

カマド対称軸方位 N-84°-W。

貯蔵穴 掘り方で検出した南東隅の掘り込み。楕円形で、径52×37cm・深さ10cmと浅い。北東隅にも掘り方で検出した2号土坑がある。

掘り方 南西隅で1号ピット(径48×48cm・深さ17cm)、2号ピット(径22×17cm・深さ14cm)、4号ピット(径32×43cm・深さ11cm)。1号土坑(径67×91cm・深さ14cm)、2号土坑(径58×59cm・深さ17cm)。全体に凹凸著しい。カマド燃烧部の掘り方底面は、カマド前よりも10cmほど楕円形に深くなる。

床溝 なし。

その他 西辺中央部で重複する土坑の最下層に、As-B純層が認められた。

遺物 カマド左脇及び燃烧部から、土師器甕52の破片が出土した。

時代・時期 出土遺物より9世紀第2四半期と推定される。

II区12号住居(第40・61図、PL.41・59)

検出位置 110-982。

重複関係 12号住居→74号土坑の順に新しい。

規模 台形を呈し、東辺がやや短い。南北4.43×東西4.10m、計算面積18.16㎡、検出面積11.47㎡。

長軸方位 N-3°-E。

覆土 黒褐~暗褐色土による自然埋没。

壁 30~64cmを測り、急峻に立ち上がる。

床面 カマド前から西辺にかけて硬化していた。北辺沿い・西辺沿いは幅50~70cmの硬化していない面が存在する。

主柱穴 不明。1号ピットは径33×26cm・深さ27cmを測る。

壁溝 カマド両脇から壁直下を巡る。幅30～58cm・深さ4～20cm。南辺沿いの壁溝はやや幅が広く、かつ深い傾向がある。特に南辺中央部は幅58cmと極大である。

カマド 東壁の南寄りに設置される。袖石は壁ラインの内側にあり、燃烧部は壁ラインから外側の中間にある。焚き口は5～6cmの浅い長方形の掘り込みをもつ。

カマド対称軸方位 N-87°-E。

貯蔵穴 1号貯蔵穴は北東隅にあり、不整形で径53×55cm・深さ22cmを測り、中から遺物が出土した。2号貯蔵穴は掘り方検出の遺構で、径36×34cm・深さ13cmを測り、柱穴の可能性もある。

掘り方 全体に細かい凹凸をもつ。焚き口前に浅い掘り込みが二つ並ぶ。

床溝 なし。

その他 南東隅外形・南西隅外形が不整形で、西辺がやや大きくなる。

遺物 北西隅・北辺沿い中央・北東隅貯蔵穴、中央部、カマド右袖から土師器杯54が出土している。カマド煙道部から土器小片が出土している。

時代・時期 出土遺物より8世紀第1四半期と推定される。

II区13号住居(第41・61・62図、PL.42・60)

検出位置 115-992。

重複関係 なし。

規模 台形を呈し、西辺よりも東辺がやや長く、南北辺が東西の辺よりも長い。南北(中央部)3.09×東西(中央やや北)3.99m、計算面積10.97㎡、検出面積8.59㎡。

長軸方位 N-83°-W。

覆土 黒褐～暗褐色土による自然埋没。

壁 33～53cm。南辺では20cmほど直に近く立ち上がり、さらに斜めに立ち上がる。

床面 中央部に1.5×0.8mほどの硬化面が認められた。東辺沿いの幅50cm前後の範囲は、帯状に数cmの平坦な高まりがある。

主柱穴 不明。

壁溝 北東隅から壁沿いに南辺に続き、南辺中央から約

1mほど延びるが、南東隅には至らない。幅19～40cm・深さ6～15cm。

カマド 東壁の中央に設置される。両袖石と焚き口天井部の石が遺存していた。天井石が東壁のライン上にあり、燃烧部は壁の外側にある。焚き口前に略楕円形の径50×36cm・深さ19cmの掘り込みがある。

カマド対称軸方位 N-83°-W。

貯蔵穴 北東隅。略円形で、径50cm・深さ22cmである。

掘り方 カマド前から南東隅にかけて幅70cm・深さ8cmの掘り込みがある。住居中央部が帯状にくぼむ。南辺沿いの中央やや東寄り、1・2号ピットを検出している。1号ピット(径16cm・深さ23cm)、2号ピット(径25×21cm・深さ24cm)。両者の距離は1P-2P間:38cmを測る。

床溝 なし。

その他 カマド袖部南北の住居壁は斜めに立ちあがる。

遺物 東辺沿いに集中する。カマド右袖前から須恵器杯69と須恵器杯蓋67が、北寄りでは土師器甕71の破片が、南東隅付近では床面から浮いた状態で土師器盤66が出土している。

時代・時期 出土遺物より9世紀第1四半期と推定される。

II区14号住居(第42図、PL.44)

検出位置 127-999。

重複関係 なし。

規模 南辺約1m、西辺約1mを検出したが、全体像は不詳。住居ならば南西隅に相当する。検出面積0.58㎡。

長軸方位 不明。

覆土 黒褐～暗褐色土による自然埋没。

壁 16～20cmを測り、直に近く立ち上がる。

床面 底面は平坦だが、硬化面不明。

主柱穴 不明。

壁溝 不明。

カマド・カマド対称軸方位 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 床面の認定が不確実で不明。

床溝 不明。

その他 遺構の大半は調査区外にある。

遺物 なし。

時代・時期 検出深さ・埋没土から推定すると、奈良時代～平安時代の遺構と考えられる。

II区17号住居(第42図、PL.43)

検出位置 091-962。

重複関係 なし。

規模 長方形を呈し、各隅に丸みがある。南北3.23×東西2.24m、計算面積7.24㎡、検出面積5.91㎡。

長軸方位 N-13°-W。

覆土 黒褐～暗褐色土による自然埋没。

壁 26～41cm。南北の短辺は直に近く、東西の長辺は斜めに立ち上がる。

床面 平坦だが、硬化面なし。

支柱穴 不明。

壁溝 なし。

カマド なし。東辺南寄りの床面から浮いた状態で焼土(52×45cm)が検出されたものの、東壁にもカマド構築痕跡がない。

カマド対称軸方位 カマドなし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 底面は大きめの凹凸があり、不整形の掘り込みが全体に認められる。

床溝 なし。

その他 ほかの住居と同様の構築がされているが、床面の硬化がみられず、カマド痕跡も見られないことから、構築途上の住居または特殊な用途の施設と考えられる。

遺物 なし。

時代・時期 出土遺物がなく、時期認定しにくいだが、近隣の住居の埋没土の様相に近いことから、奈良時代～平安時代の遺構と推察される。

II区2号掘立柱建物(第44図)

検出位置 125-64000付近。調査区の北西端に位置する。北側に14号住居、南東部に13号住居がある。

重複関係 なし。

規模 東西2間×南北2間で、南北に長軸をもち、長軸の方位はN8度Wでわずかに西に傾く。南北が約30cmほど長い。364Pは363Pと365Pとを結ぶ線よりも東側に

外れる。各ピットの大きさ・深さは概ね同様で、343P・363P・346Pがやや深い。

長軸方位 中央の343P-346Pを結ぶ線の方位はN-8°-Wである。

覆土 不詳。

壁 各ピットの深さは20cm前後で、343Pと363Pが37cm、346Pが20cm、断面は略半円形を呈する。

その他 周辺の住居と同時存在の可能性もある。

遺物 なし。

時代・時期 9世紀前半と推定される。

II区土坑・ピット(第43～45図、PL.45・46)

II区全体を掲載の便宜上、二つの範囲に分けて、分布状態を掲載した。

第43図はII区東半部の分布図1で、66・73号土坑のように長方形を呈する土坑が目立つ。西半部の74号土坑は12号住居→74号土坑の順に新しいことから、これらと同じ形態を示す66・73号土坑も、より新しい時期の所産と考えられる。中世から近世・近代か。67・72・75号土坑は重複し、75→67・75→72号土坑の順に新しい。71号土坑は旧石器調査時に確認された土坑で円形を呈し、径1.5mほどである。縄文時代の遺構の可能性はあるが、遺物は出土しなかった。ピット類は中央部に分布するが、企画性は読み取れない。

第44図はII区西半部の分布図2で、北西端のピット群を図上復元で2号掘立柱建物とした。2号掘立は344P-345P-347P・343P-346P・363P-364P-365Pで構成する2間×2間の建物で、東列の364Pのみは結ばれた線上から外れる。

11号住居西辺に重複する土坑は無番号で、11号住居→土坑の順に新しい。底面にAs-Bテフラ純層が堆積しており、11号住居の下限を示す。

332P・333P-334P-335P-336P-337Pは1.2mほどの間隔で南北の弧状に並ぶピット群である。これと同様の並び方を示す群として、360P-328P-327P-326Pの列、324P-325P-358P-361Pの列がある。柵列または植栽痕跡が考えられるが、明確な根拠に乏しい。

第45図はII区で検出したピット類の断面図である。

第4節 III区の遺構と遺物

III区の概要

III区は本遺跡のほぼ中央部にあり、市道07-076号線を挟んでII区と隣接し、市道07-090号線を挟んでIV区と隣接する。面積403.23㎡と各区の中でもっとも狭く、遺構数も少ない。住居2軒、溝1条、道路1本を検出した。15号住居はIII区南東隅付近にあり、南西隅を中心にして略三角形の範囲を検出したのみで、大半は調査区外にある。16号住居は現代の3号溝に切られていたが、全形を検出した。いずれも、出土遺物は少ない。

III区中央部やや東寄りには現代の攪乱が広がり、1号道路の一部を破壊していた。また、3号溝は1号道路を破壊していた。道路面を形成する土は硬くしまり、薄い層が重なっていた。直上の土にはAs-Bを含む黒褐色土であることから、この道路は平安時代以降で近代以前と推定される。

III区はあまり傾斜のみられない比較的平坦な旧地形を示し、尾根筋の頂上に近い範囲と推定され、周囲の調査区外に住居が広がっていたと考えられる。

III区15号住居(第46・62図、PL.48・60)

検出位置 171-989。**重複関係** なし。

規模 南辺2.50m、西辺2.65m以上を検出し、略三角形の範囲を確認した。全体のプランは不明だが、西辺北端が曲がり始めのようにも見える。

長軸方位 不明。

覆土 黒褐～暗褐色土による自然埋没。

壁 42～63cmを測り、斜めに立ち上がる。

床面 硬化面は確認されていない。

主柱穴 不明。1号ピット(径26cm・深さ34cm)がある。

壁溝 なし。

カマド 不明。東壁側か。

カマド対称軸方位 不明。**貯蔵穴** 不明。

掘り方 不明。硬化面がなく、調査区壁の断面ではローム層に達している。**床溝** なし。

その他 1号土坑の内部は二つの深い掘り込みがあり、ともに30cmほどの深さがある。

遺物 床面から浮いた状態で、南寄りにいくつかの土器片が出土した。

時代・時期 出土遺物より7世紀第4四半期と推定される。

III区16号住居(第47・62図、PL.49・60)

検出位置 182-004。

重複関係 3号溝と重複し、16号住居→3号溝の順に新しい。

規模 長方形を呈し、北辺・南辺の中央部がやや凹む。南北3.52×東西2.63m、計算面積9.26㎡、検出面積6.70㎡。

長軸方位 N-4°-W。**覆土** 黒色土を主体とする自然埋没。**壁** 49～65cmで、やや深い。斜めに立ち上がる。

床面 平坦で、北西隅付近に炭化物が認められた。

主柱穴 不明。

壁溝 床面では認められず、掘り方で検出した。北辺で幅13～16cm・深さ9cmである。

カマド 東壁の南寄りに設置される。燃焼部は壁のライン付近から外側にかけて広がる。

カマド対称軸方位 N-80°-W。**貯蔵穴** 不明。

掘り方 カマド前・中央部・四隅に不整形の掘り込みがある。**床溝** なし。

その他 カマド掘り方がやや深い。

遺物 中央部床面から割れた状態の石、南側中央部で土師器杯78が出土した。

時代・時期 出土遺物より7世紀前半か。

III区3号溝(第48図)

検出位置 167～182-992～008。

重複関係 16号住居→3号溝の順に新しい。

規模 西北西-東南東の走行をもつ長い部分と、北北東-南南西の走行の短い部分があり、ほぼ直角に曲がる。長い部分は16.84m、短い部分は9.95mである(いずれも1/40図で計測)。幅35～80cm・深さ23～43cm。長辺部西半での底面標高は147.00m代の後半を測り、短辺部底面の標高は148.00mを数cm上回る。微差であるが、水があれば南東部から北西へ向かったと推定される。

長辺方位 N-72°-W。短辺は外側に湾曲して計測できない。

壁 23～43cmを測る。**その他** 用途不明。

遺物 なし。

時代・時期 IV区検出の方形区画と軸をほぼ同じくすることから、同時期の溝と推察される。

Ⅲ区1号道路(第48図)

検出位置 170～177-999～995。

重複関係 1号道路→3号溝の順に新しい。

規模 長さ8.83m、幅60～90cmを検出した。南寄りには攪乱により破壊されている。

方位 南西端を除く方位はN-26°-Eの走行を示す。

底面 浅く凹んだ状態で、深さ3～7cmを測る。

遺物 なし。

時代・時期 土層断面から、平安時代以降で近代以前と推定される。

第5節 IV区の遺構と遺物

IV区の概要

IV区は本遺跡の北西端にあり、市道07-090号線を挟んでⅢ区の西側に位置する。住居5軒、溝4条、土坑17基、ピット26基を検出した。388号ピットは欠番である。

住居は調査区の端にあり、いずれもプランが明確ではない。18号住居はカマド痕跡・貯蔵穴痕跡を残し、削平されていた。19・20号住居は北西端の調査区壁際であり、20号住居の南北長のみ確認できたが、大半は調査区外にあり、詳細は不明である。19・20号住居は、両者の床面高さが異なっていることから、別住居と判断されたが、同一住居の可能性もある。21号住居は西辺を確認できなかった。22号住居は東辺に攪乱が入っていることと、調査区壁にかかっていることから、南北長の確認にとどまる。

6号溝と7号溝とは、東西辺の走行がわずかに異なるが、同じような様相を示し、6号溝は南へ、7号溝は北へそれぞれほぼ直角に曲る。7号溝の方が掘り込みも深く、しっかりしている。7号溝は北東辺の端に掘り込みのない部分が約2.5mあり、出入口施設と考えられる。この溝なし部を7号溝の中央部と見なして単純に反転すると、南北約56mの大きな区画となる。内部の土坑・ピッ

トの配置をみても、掘立柱建物に組み上がる一群は読み取れない。

調査区北西端は西に向かって低くなる谷につながり、五代砂留(ごだいすなどめ)遺跡群へと続く。

IV区18号住居(第50・62図、PL.52・60)

検出位置 200-072。**重複関係** なし。

規模 南辺・東辺それぞれ2.5mほどを認定。削平著しい。計算面積不明、検出面積不明。

長軸方位 不明。

覆土 不詳。**壁** 不明。

床面 カマド痕跡と貯蔵穴とで住居範囲を推定したのみ。

主柱穴 不明。**壁溝** 不明。

カマド 東壁の南寄りと推定。焼土ブロックを含む埋没土で範囲を推定した。**カマド対称軸方位** 不明。

貯蔵穴 カマド痕跡南側の円形掘り込み。径73cm・深さ9cmを測る。

掘り方 カマド痕跡が掘り方の残りと考えられる。

床溝 不明。

その他 後世の削平著しいため、カマド痕跡と貯蔵穴痕跡で住居南東部を推定した。住居外との段差はわずか数cmである。規模等の詳細は不明。

遺物 カマド痕跡から須恵器椀81、貯蔵穴内から須恵器椀80が出土している。

時代・時期 出土遺物より10世紀第1四半期と推定される。

IV区19号住居(第50図、PL.52・53)

検出位置 230-085。

重複関係 20号住居→19号住居→攪乱の順に新しい。

規模 南辺0.8mを検出したが、北辺の立ち上がりは確認できず、南北の規模は不明。西側は調査区外にあり、東側も削平されて東西規模は不明である。

長軸方位 不明。**覆土** 黒褐色土を主体とする自然埋没。

壁 南辺で32cm。直に近く立ち上がる。

床面 平坦で、20号住居よりも10cm前後高い位置で床面を検出した。

主柱穴・壁溝 不明。

カマド・カマド対称軸方位 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 地山が床面か。床溝 なし。

その他 20号住居に比較して床面が高いこと、20号住居で掘り方がしっかりしているのに対して本住居は明確な掘り方が認められないこと等から、19号住居は20号住居と重複する別遺構と推定された。

遺物 なし。

時代・時期 出土遺物より10世紀第1四半期と推定される。

IV区20号住居(第50・62図、PL.52・53・60)

検出位置 230-085。

重複関係 20号住居→19号住居→攪乱の順に新しい。

規模 北辺0.93mを検出したが、南北の規模は不明。西側は調査区外にあり、東側も削平されて東西規模は不明である。

長軸方位 不明。

覆土 黒褐色土を主体とする自然埋没。

壁 北辺で31cm。直に近く立ち上がる。

床面 平坦で、19号住居よりも10cm前後低い位置で床面を検出した。

支柱穴・壁溝 不明。

カマド・カマド対称軸方位 不明。 **貯蔵穴** 不明。

掘り方 なし。床溝 なし。

その他 19号住居に比較して床面が低いこと、掘り方がしっかりしている。19号住居と重複する別遺構と推定された。

遺物 中央部で須恵器皿83が出土している。

時代・時期 出土遺物より10世紀第1四半期と推定される。

IV区21号住居(第51・62・63図、PL.54・55・60)

検出位置 228-080。 **重複関係** なし。

規模 方形または長方形で、西辺を欠く。北辺2.89m、南辺2.77mを検出した。南北4.55×東西2.8m以上、計算面積12.74㎡以上、検出面積12.71㎡。

長軸方位 不明。東辺の方位はN-27°-E。

覆土 黒色土を主体とする自然埋没。

壁 1~18cmで、遺存の良い東辺がやや深い。

床面 中央部北寄りで炭化物が0.5×1.2mの範囲に分布し、一部に焼土が認められた。

支柱穴 不明。1号ピット(径35cm・深さ5cm)、2号ピット(不整形 径46×40cm・深さ5cm)である。

壁溝 なし。

カマド 東壁の南寄りに設置される。燃焼部は壁のライン上にある。埋没土上位で小片に割れた甕の破片が多数出土した。袖部及び燃焼部壁付近から大小の石が出土したことから、石を組んでカマドを構築したと考えられる。

カマド対称軸方位 N-63°-W。 **貯蔵穴** 不明。

掘り方 カマド燃焼部付近で30cm前後の掘り込みが3箇所認められた。石組みの掘り方と考えられる。住居中央部付近はローム層が踏み固められて床面を形成したとみられる。床溝 なし。

その他 西側はなだらかに低くなり、調査区の限界になり、住居の全体像は把握できなかった。

遺物 カマド付近から土師器甕97・98・99・100・101、須恵器椀91が出土している。

時代・時期 出土遺物の年代は、椀は10世紀第1四半期、甕は10世紀第2四半期。

IV区22号住居(第52・63図、PL.55)

検出位置 260-070。 **重複関係** なし。

規模 北辺1.20m、南辺0.71mを検出し、両者の間は南北3.59mである。東辺はカマド痕跡を検出したが不明確であり、西辺は調査区外となる。東西規模は不明だが、カマド痕跡を参考にして、東西1.88m以上となる。

長軸方位 不明。北辺-南辺に直交する方位はN-34°-E。

覆土 暗褐~黒褐色土による自然埋没。

壁 調査区内では数cm程度の残存だが、調査区壁で75cmを確認した。壁は直に近く立ち上がる。

床面 南北3.6×東西1.8mの範囲を住居内側と認定した。想定北東隅は攪乱で破壊されている。

支柱穴 不明。1号ピット(径31cm・深さ29cm)で、カマド前に位置する。 **壁溝** 不明。

カマド 東壁の南寄りに推定した。詳細不明。

カマド対称軸方位 推定N-56°-W。

貯蔵穴 南隅の掘り込み。径39×35cm・深さ7cmを測る。

掘り方 不明。床溝 不明。

その他 北西に向かって緩やかに低くなる面にあり、調査区内は削平されていた。

遺物 貯蔵穴周辺と北辺付近から土器片が出土した。

時代・時期 出土遺物より9世紀後半と推定される。

IV区4号溝(第53図、PL.56)

検出位置 IV区中央部南寄り、195～205-065～070。
重複関係 5・6号溝と重複し、5号溝→6号溝→4号溝の順に新しい。
規模 北東-南西走行を示し、長さ11.76mを検出した。幅34～73cm・深さ25～30cmである。6号溝から分岐するように湾曲して南西に向かう。
走行方位 南東部の直線的な部分でN-35°-Eを示す。
覆土 As-Bらしい軽石を多く含む暗褐色土。上位では、より軽石が多く、黒味が強い。

壁 底部に平坦な面をもち、壁は斜めに立ち上がる。
底面 底面の標高をみると141.70m前後で、南西端の調査区壁近くでは標高141.60mほどを示し、わずかに低くなる。土層断面の観察では、水流のあった痕跡がみられない。

その他 重複関係からみると、5号溝が掘削され、その後北西-南東走行→北東-南西走行の6号溝が掘削され、曲がる部分からさらに東側に湾曲させて4号溝を掘削したように見える。4号溝は6号溝南東部の付け替えとも考えられる。
遺物 なし。

時代・時期 埋没土にAs-Bが混じっていることから、平安時代～中世の可能性が高い。

IV区5号溝(第53図、PL.56)

検出位置 IV区南西部、204～205-065～066。
重複関係 4・6号溝と重複し、5号溝→6号溝→4号溝の順に新しい。
規模 4・5・6号溝のなかで、もっとも古い溝である。幅28～40cm・深さ6～10cmで、6号溝の曲がる部分から南西に約2m直線的に延び、その後6号溝と一体になる。6号溝同様に北西方向に曲がるかどうか、不明である。

走行方位 N-23°-E。
覆土 黒褐色土で、軽石を含まない。
壁 6号溝との境をなす東壁は、わずか2～7cmの高さである。

底面 浅い半円形の断面をもつ。検出長さが短いので、詳細不明。

その他 6号溝の西側で長さ約2mを検出したのみであ

るが、調査区南西部の壁で6号溝と重複し、より古い溝であることが判明した。5号溝は掘り直されて、6号溝になったと考えられる。

遺物 なし。
時代・時期 掘削時期は不明だが、埋没土に軽石を含まず、6号溝にAs-C・Hr-FAを含むことから、古墳時代以前に埋没した可能性がある。ただし、4・5・6号溝が一連のものとするれば、5号溝のみが古くなるとは想定できず、ここでは6号溝同様に中世以降の所産としておく。

IV区6号溝(第53図、PL.56)

検出位置 IV区南西部、200～204-065～067。
重複関係 4・5号溝と重複し、5号溝→6号溝→4号溝の順に新しい。
規模 北西-南東走行部分で10.0+(未検出2.83m)+8.24m、北東-南西走行部分で5.34mを検出した。幅23～52cm・深さ2～15cmで、曲がる部分のみ深さ35cmと深くなる。

走行方位 北西部の直線的な部分でN-61°-W、2.8mほど消滅して8.2m南東方向へ延び、ほぼ直角に曲がって、南東部でN-29°-Eの走行を示す。

覆土 黒褐色土で、As-C・Hr-FAを含む。この様相は調査区南西部の壁断面でも変わらないので、全体の様相を示していると考えられる。

壁 断面は南東部で洗面器状に浅く広がる。
底面 底面の標高をみると、北西部の直線的な部分では141.70m前後で、南東部では141.90mほど、調査区南西部の壁で141.70mである。底面形状はやや幅が広く、底面に凹凸がある。水流のあった痕跡がみられない。

その他 5号溝の掘り直しと考えられるが、5号溝が直角に曲がる走行であったかどうかは不明である。北西部は北側に走行する7号溝とほぼ平行するような配置であり、7号溝が北東に曲がるのに対して、6号溝は南西に曲がり、走行を反転させたように見える。何らかの区画を必要とする施設が、L字状に曲がる内部に存在したのと考えられる。溝の走行が北西部の一部で途切れていることから、この部分に出入口等の存在も想定される。

遺物 なし。
時代・時期 埋没土にAs-C・Hr-FAが混じっていることから、古墳時代～平安時代に埋没した可能性もある。し

かし、南西調査区壁では直上に「新しい攪乱」土が入り、北西調査区壁では埋没土直上に「表土」があることから、古く想定する確証に乏しいため、ここでは中世以降の所産としておきたい。

IV区7号溝(第53図、PL.56・57)

検出位置 IV区西半部、206～235-045～087。

重複関係 なし。

規模 南西辺で長さ31.8m・幅27～116cm・深さ8～52cm、北東辺で長さ25.3m・幅58～120cm・深さ16～77cm及び長さ3.1m・幅80～120cm・深さ31～46cmである。北東辺には長さ2.7mの未検出範囲がある。南西辺の幅は70cm前後・深さ30～40cm、北東辺では幅70cm前後・深さ30～40cmを示すところが多い。両辺の接する角は、対角線方向に測って幅146cm・深さ58cmである。未検出部の両側では溝幅が120cmと太くなり、方形区画の出入り口が想定される。この周辺の89・90号土坑は溝の走行と直交するように並び、374P-375Pも溝と直交するように並ぶが、溝との関係は明らかではない。

89号土坑(径58×39cm・深さ12cm)、90号土坑(径49×40cm・深さ13cm)、両者の芯芯距離は202cmである。

374P(径33×29cm・深さ30cm)、375P(径35×24cm・深さ18cm)、両者の芯芯距離は78cmである。

走行方位 それぞれの辺の下端中央を直線的に結ぶ線で走行を代表すると、それらの計測値は次の通りである。南西辺の走行はN-66°-W、北東辺の走行はN-24°-Eで、ほぼ直交する。北東端の溝は、やや東に傾いており、N-37°-Eを示す。

覆土 黒褐色土で、As-C・Hr-FAを少量含み、上位にAs-Bを含む。

壁 断面V字状で、斜めに立ち上がる。西端の調査区壁断面では、溝に伴う杭痕跡とみられる土層が観察された。この杭痕跡が7号溝に伴うものとするれば、北西壁の土層で観察された断面から、6号溝→7号溝の順に新しいと考えられる。ただし、表土がこれらの土層の直上にあるため、断定は困難である。

底面 底面の標高をみると、南西辺の西半部で141.50～141.60m、東半部で141.80～142.50m、北東辺では142.90m～143.80mまで緩やかに上昇する。土層断面

の観察では、水流のあった痕跡がみられない。

その他 市道07-090線から西側に向けて下る斜面が、いったん緩やかな平坦面を形成し、さらに西側の谷地形に向けて下がる地形のうち、緩やかな平坦面の大部分を7号溝が占めている。溝の掘削は隣接する6号溝に比較してしっかりしており、L字状に曲がる溝の内側に、何らかの施設があって、北東端付近の溝未検出部に出入口があったと推定される。

7号溝の北側(区画内部)には土坑・ピットが散在するが、掘立柱建物を想定できる組合せは確認できない。また、6号溝の角と7号溝の角とが近づく範囲に、386P-391Pが並んだ状態で検出されている。

遺物 なし。

時代・時期 埋没土にAs-C・Hr-FAが混じり、上位にAs-Bの軽石が混じっていることから、古墳時代～平安時代に遡る館跡の可能性もあるが、ここでは中世以降の所産としておく。

IV区土坑・ピット(第54～57図)

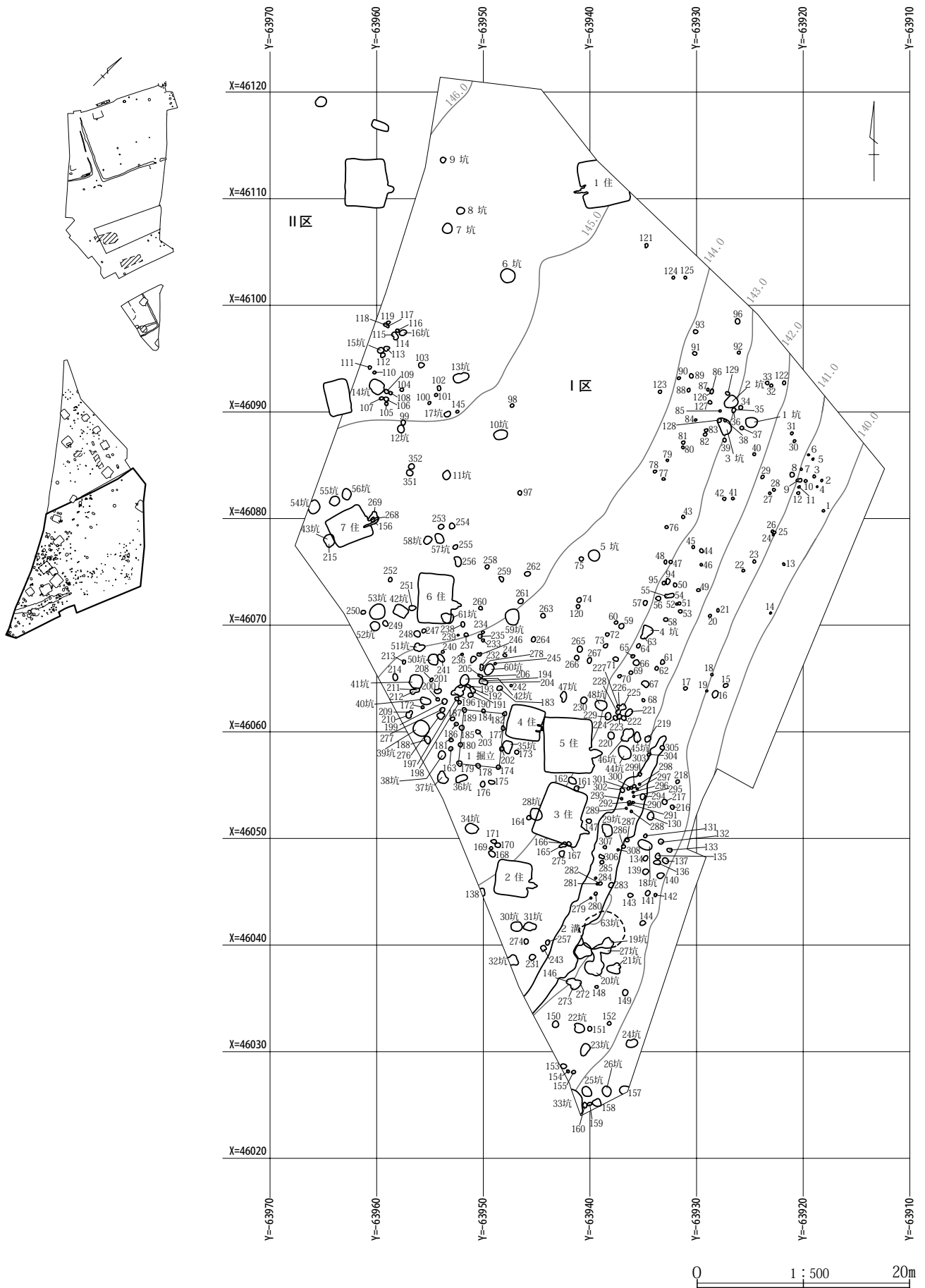
IV区全体を掲載の便宜上、三つの範囲に分けて、分布状態を掲載した。

第54図はIV区南東部の分布図で、北寄りのピットと79号土坑、南寄りの80・81号土坑・373Pに分れる。中央部に大きな攪乱が入り、この付近の様相は不詳である。368P-367P-372P-369Pが直線的に並ぶようにみえるが、調査区内の分布では、掘立柱建物にならない。

第55図はIV区中央部の分布図で、7号溝の本文で記述したように、89-90号土坑、374P-375Pが7号溝に直交するように見え、この付近に出入口を想定できる。7号溝の内側では、掘立柱建物を想定できるピット群が見当たらない。7号溝が直角に曲る部分の東側に、386P-391Pが弧を描くように並ぶが、どのような施設なのかは不明である。

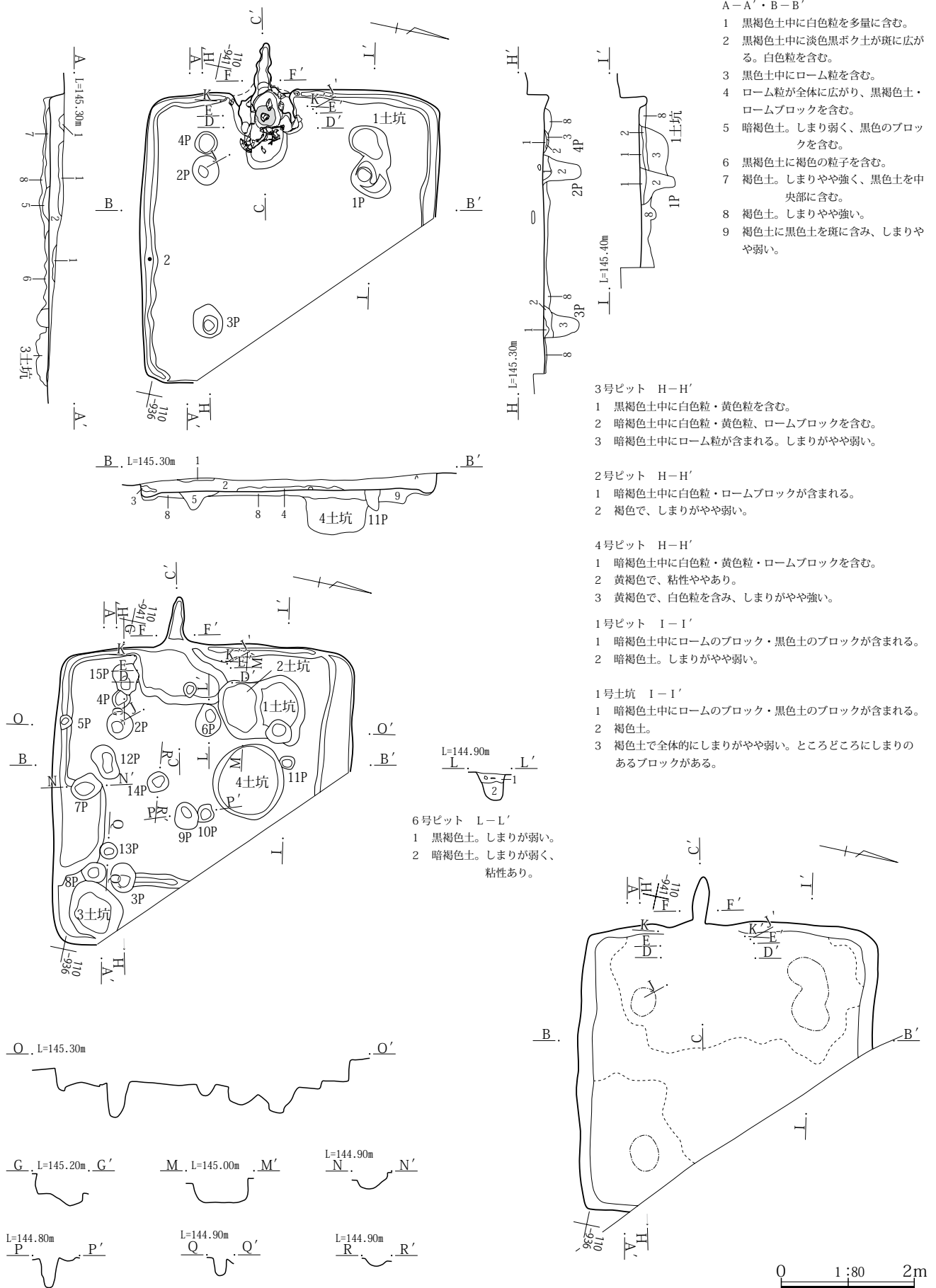
第56図はIV区北端付近の分布図で、91・92・95号土坑の大きさが径110～120cmと近い。95号土坑の現地記録によると、断面はフラスコ状を呈し、新しい時期の埋没土(中世以降)である。

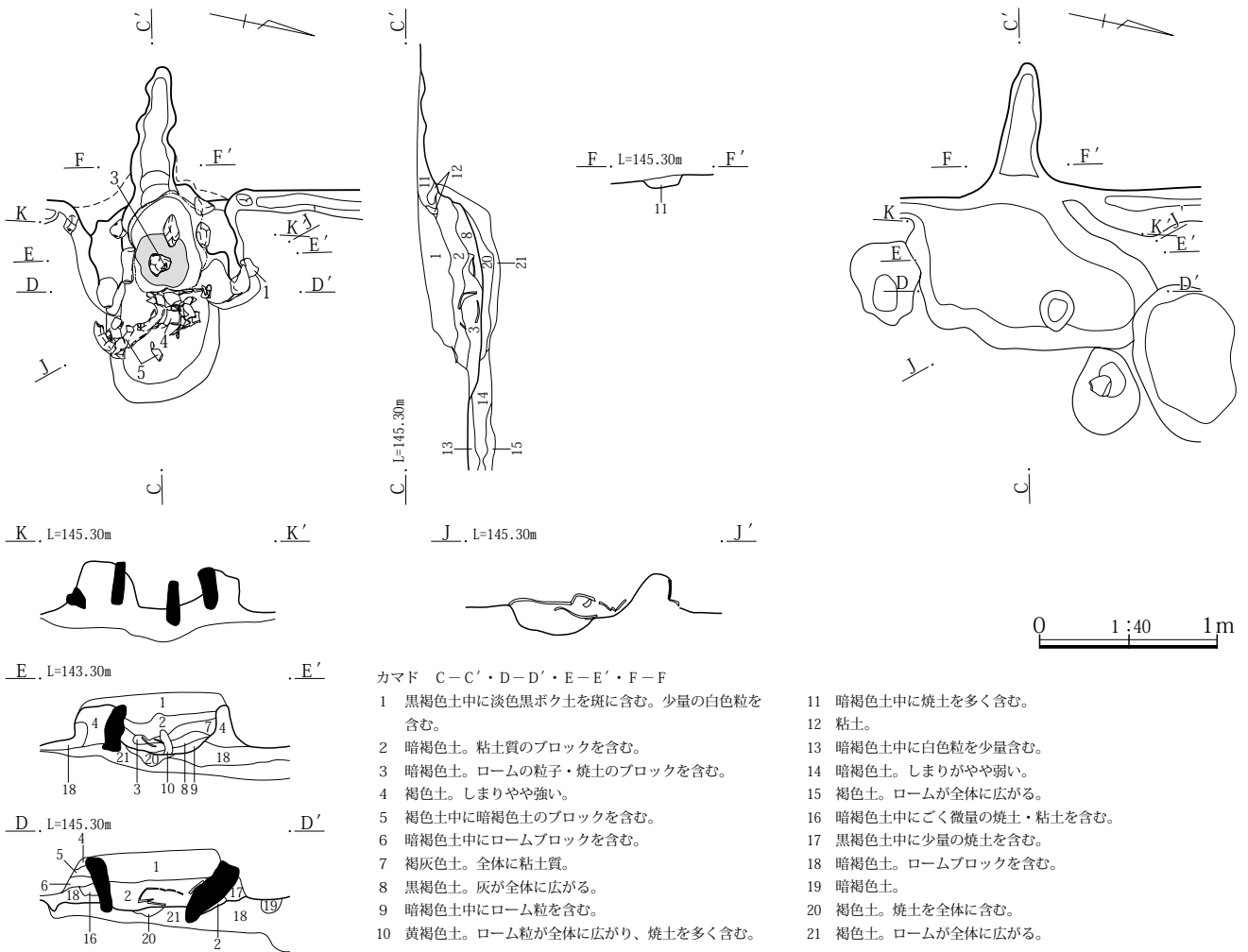
第57図はIV区で検出したピット類の断面図である。



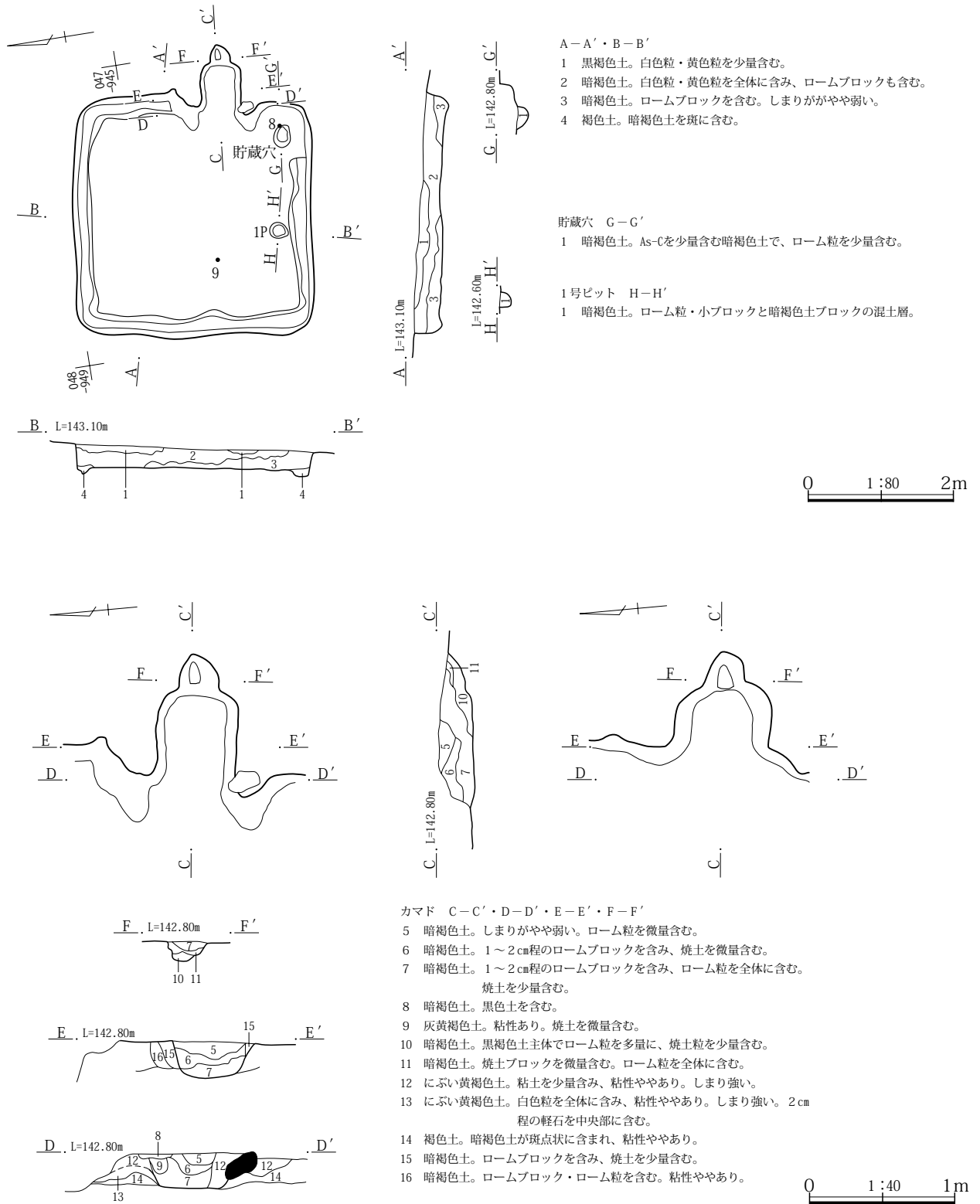
第16図 I区遺構配置図

第4章 遺構と遺物



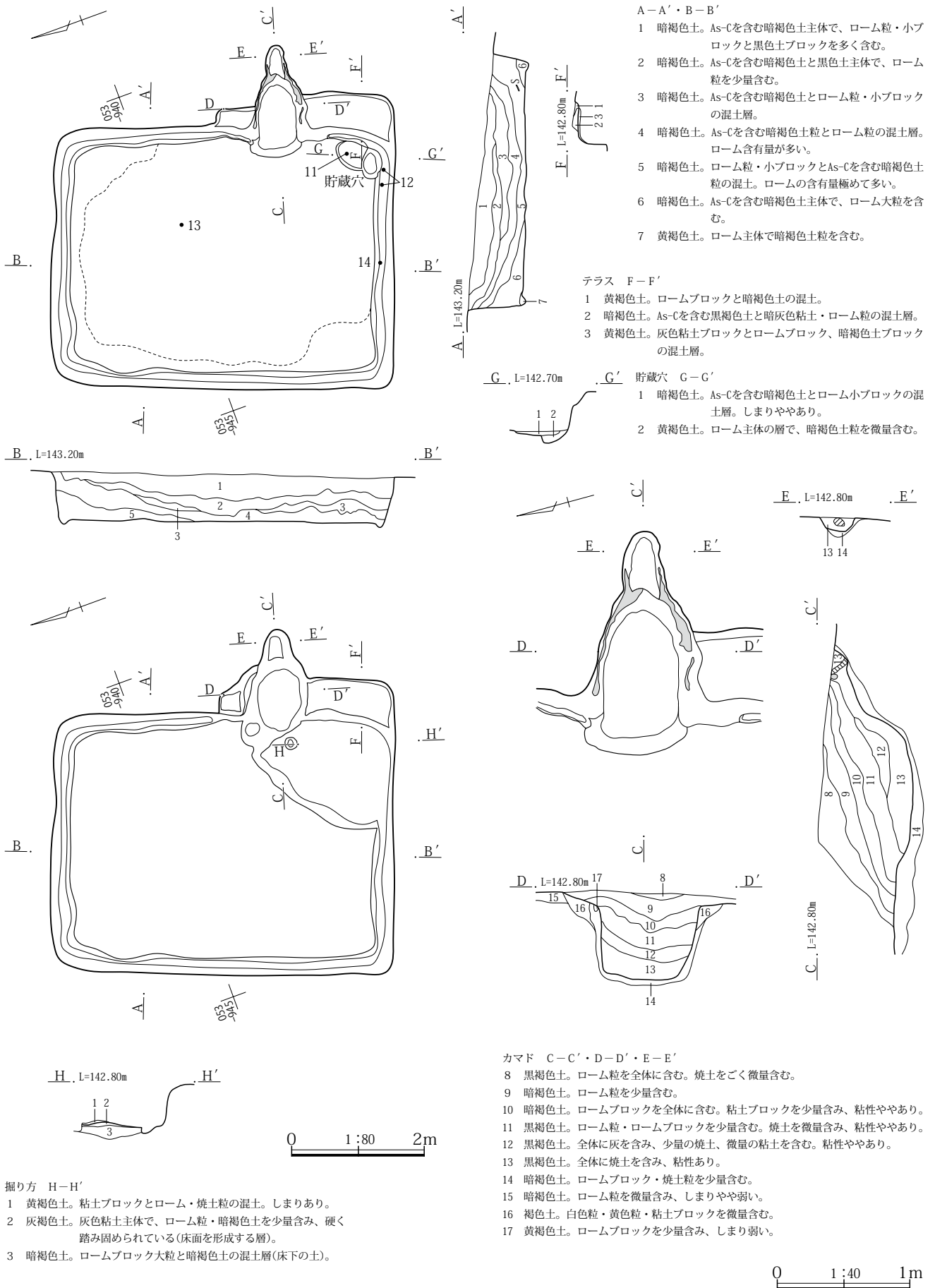


第18図 I区1号住居カマド遺構図



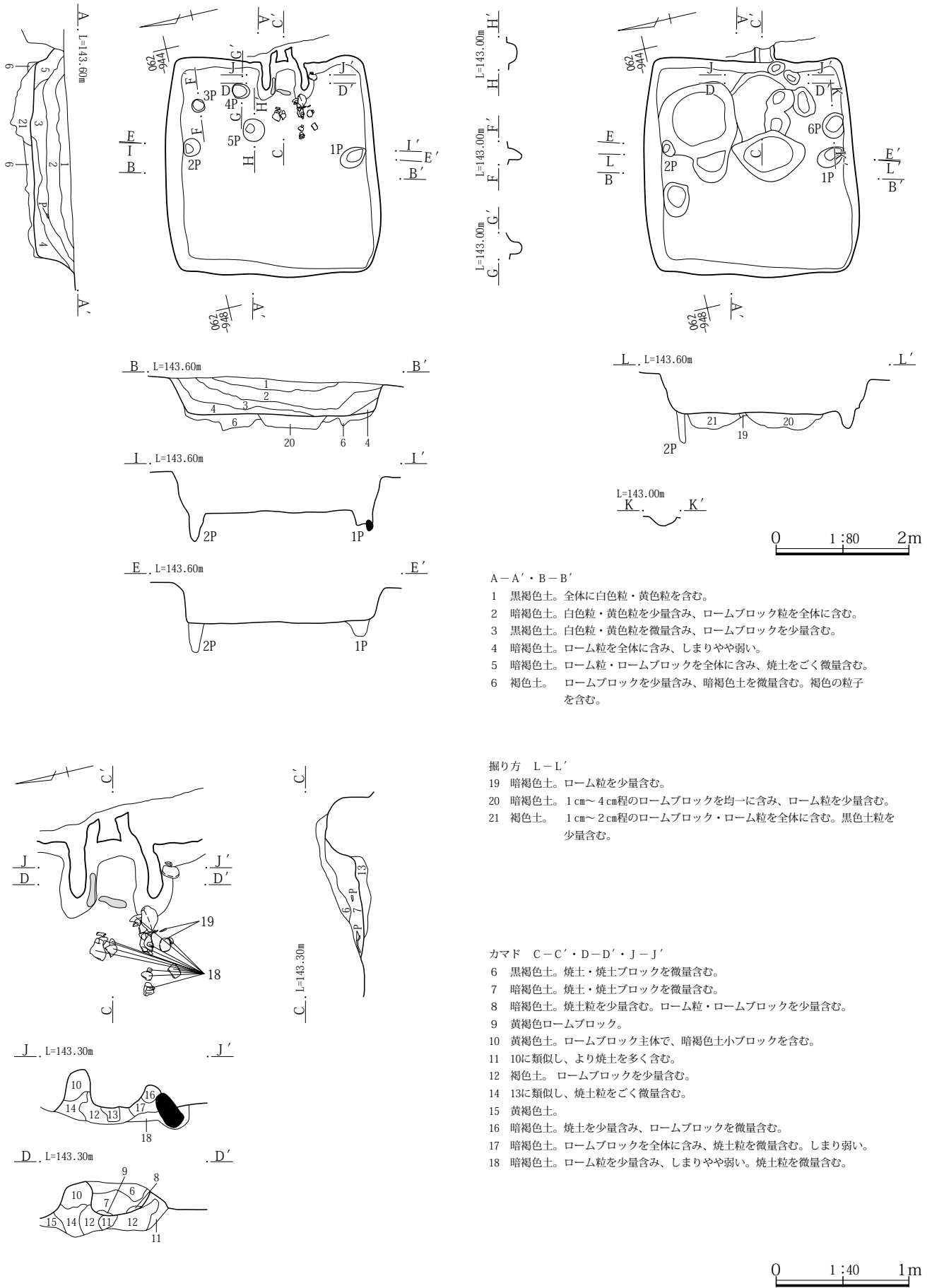
第19図 I区2号住居遺構図

第2節 I区の遺構と遺物



第20図 I区3号住居遺構図

第4章 遺構と遺物



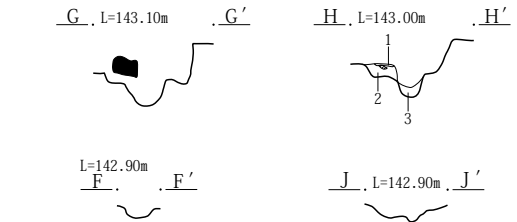
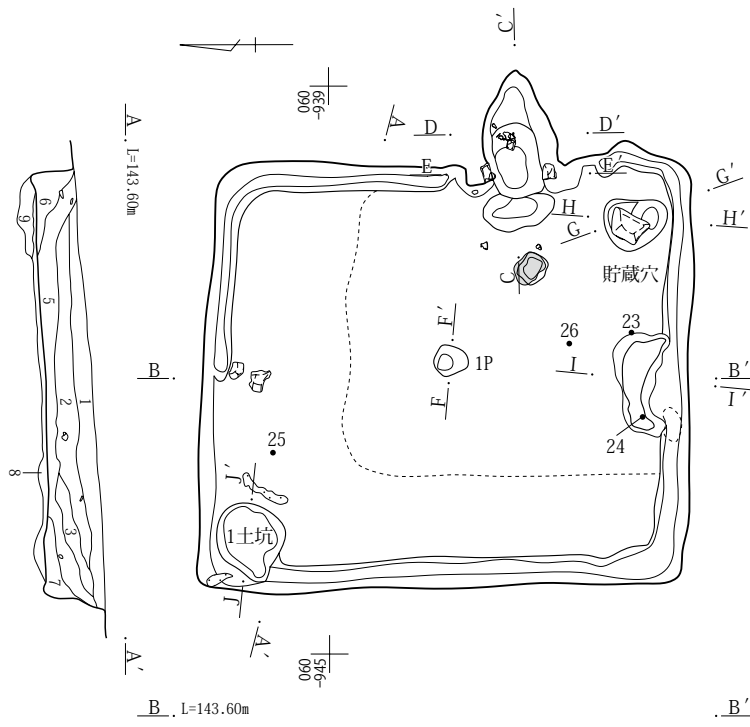
- A-A'・B-B'
- 1 黒褐色土。全体に白色粒・黄色粒を含む。
 - 2 暗褐色土。白色粒・黄色粒を少量含み、ロームブロック粒を全体に含む。
 - 3 黒褐色土。白色粒・黄色粒を微量含み、ロームブロックを少量含む。
 - 4 暗褐色土。ローム粒を全体に含み、しまりやや弱い。
 - 5 暗褐色土。ローム粒・ロームブロックを全体に含み、焼土をごく微量含む。
 - 6 褐色土。ロームブロックを少量含み、暗褐色土を微量含む。褐色の粒子を含む。

- 掘り方 L-L'
- 19 暗褐色土。ローム粒を少量含む。
 - 20 暗褐色土。1cm～4cm程のロームブロックを均一に含み、ローム粒を少量含む。
 - 21 褐色土。1cm～2cm程のロームブロック・ローム粒を全体に含む。黒色土粒を少量含む。

- カマド C-C'・D-D'・J-J'
- 6 黒褐色土。焼土・焼土ブロックを微量含む。
 - 7 暗褐色土。焼土・焼土ブロックを微量含む。
 - 8 暗褐色土。焼土粒を少量含む。ローム粒・ロームブロックを少量含む。
 - 9 黄褐色ロームブロック。
 - 10 黄褐色土。ロームブロック主体で、暗褐色土小ブロックを含む。
 - 11 10に類似し、より焼土を多く含む。
 - 12 褐色土。ロームブロックを少量含む。
 - 14 13に類似し、焼土粒をごく微量含む。
 - 15 黄褐色土。
 - 16 暗褐色土。焼土を少量含み、ロームブロックを微量含む。
 - 17 暗褐色土。ロームブロックを全体に含み、焼土粒を微量含む。しまり弱い。
 - 18 暗褐色土。ローム粒を少量含み、しまりやや弱い。焼土粒を微量含む。

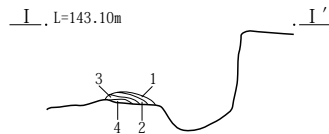
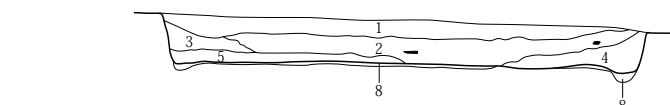
第21図 I区4号住居遺構図

第2節 I 区の遺構と遺物

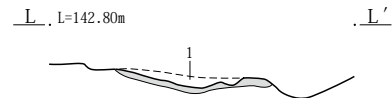
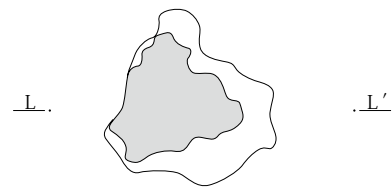
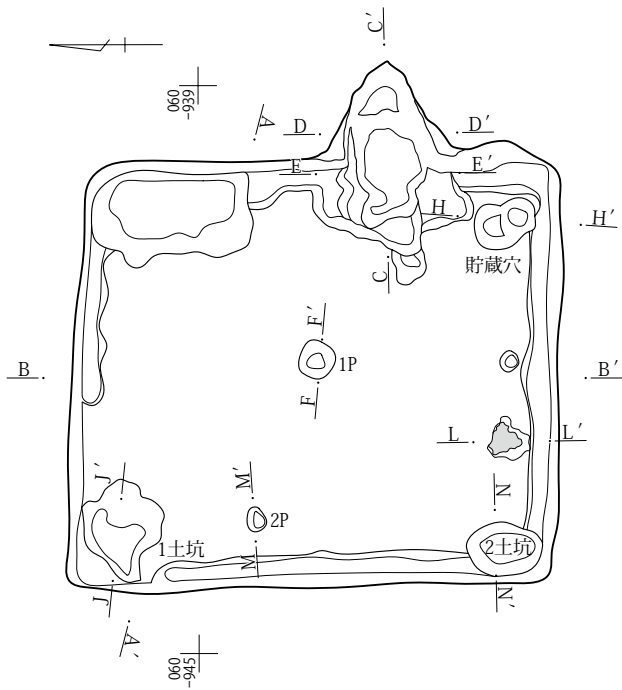
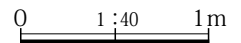


- A-A'・B-B'
- 1 黒褐色土。白色粒・黄色粒を全体に含む。
 - 2 黒褐色土。白色粒・黄色粒を少量含む、ロームブロック・ローム粒を少量含む。
 - 3 黒褐色土。白色粒・黄色粒を微量含む、ローム粒を少量含む。
 - 4 黒褐色土。白色粒・黄色粒を微量含む、ロームブロック・ローム粒を少量含む。しまりやや弱い。
 - 5 暗褐色土。ローム粒を全体に含む、ロームブロックを少量含む。しまりやや弱い。
 - 6 黒褐色土。ローム粒を全体に含む、焼土をごく微量含む。
 - 7 黒褐色土。ローム粒を全体に含む、しまりやや弱い。
 - 8 暗褐色土。白色粒・黄色粒を微量含む、しまりやや強い。ロームブロック・ローム粒を少量含む。
 - 9 暗褐色土。ロームブロックを均一に含む、黄色粒を微量含む。しまりやや弱い。

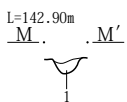
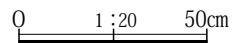
- 貯蔵穴 H-H'
- 1 灰黄褐色土。焼土粒を少量含む、炭を全体に含む。
 - 2 明黄褐色土。ロームブロックを少量含む。
 - 3 暗褐色土。ローム粒を少量含む、しまり弱い。



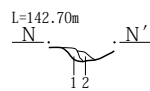
- 出入口 I-I'
- 1 黄褐色土。ローム主体で暗褐色土小ブロックを含む。上面硬化。
 - 2 暗褐色土。ローム大粒と暗褐色土粒の混土層。上面硬化。
 - 3 暗褐色土。暗褐色土主体で、ローム粒を含む。
 - 4 黄褐色土。ローム主体の層。1に近似。上面硬化。



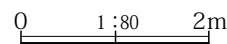
- 掘り方焼土 L-L'
- 1 黄褐色土。ロームブロックと黒褐色土小ブロックの混土で、硬化している。



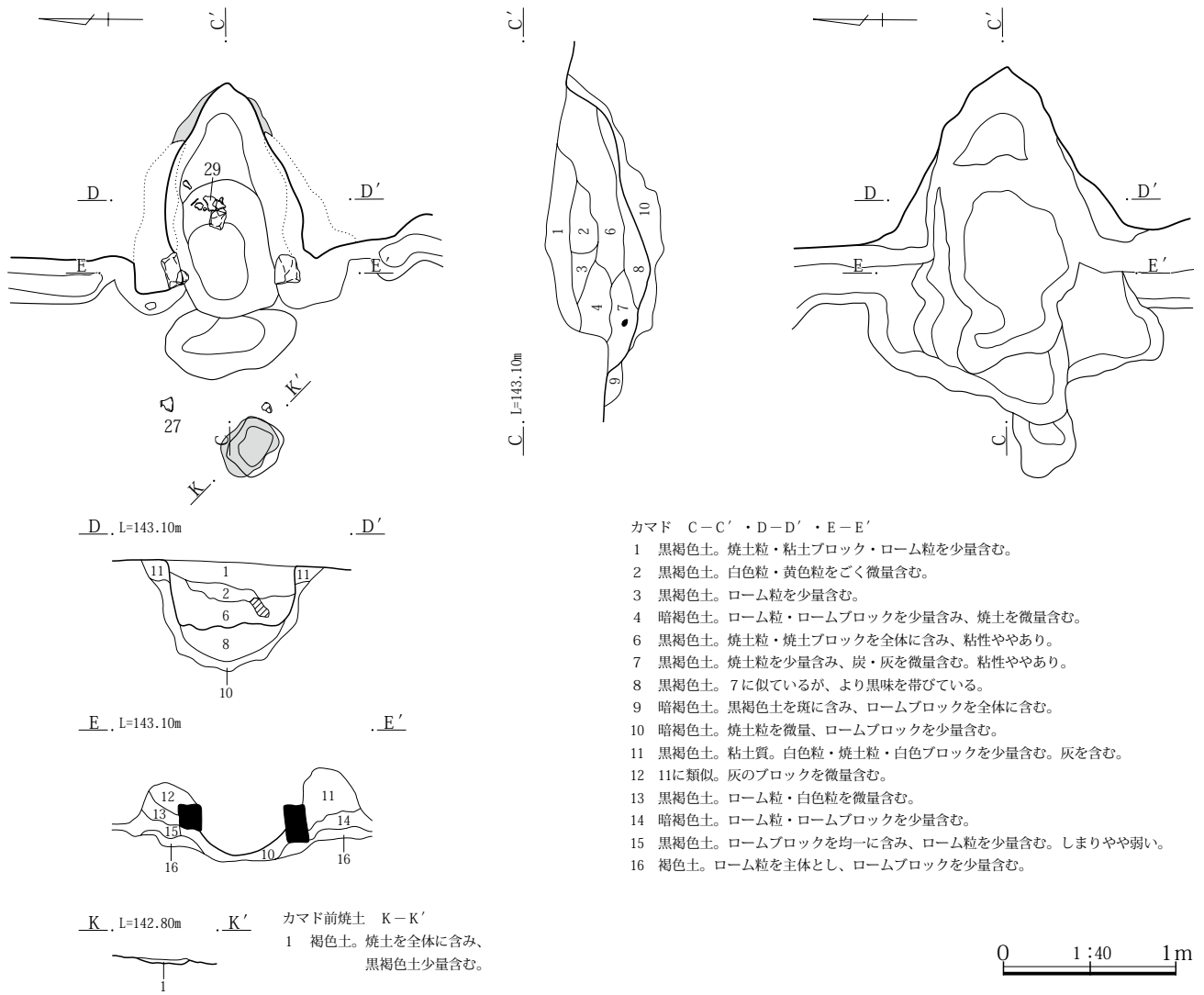
- 2号ピット M-M'
- 1 暗褐色土。ローム粒を微量含む。粘性ややあり。



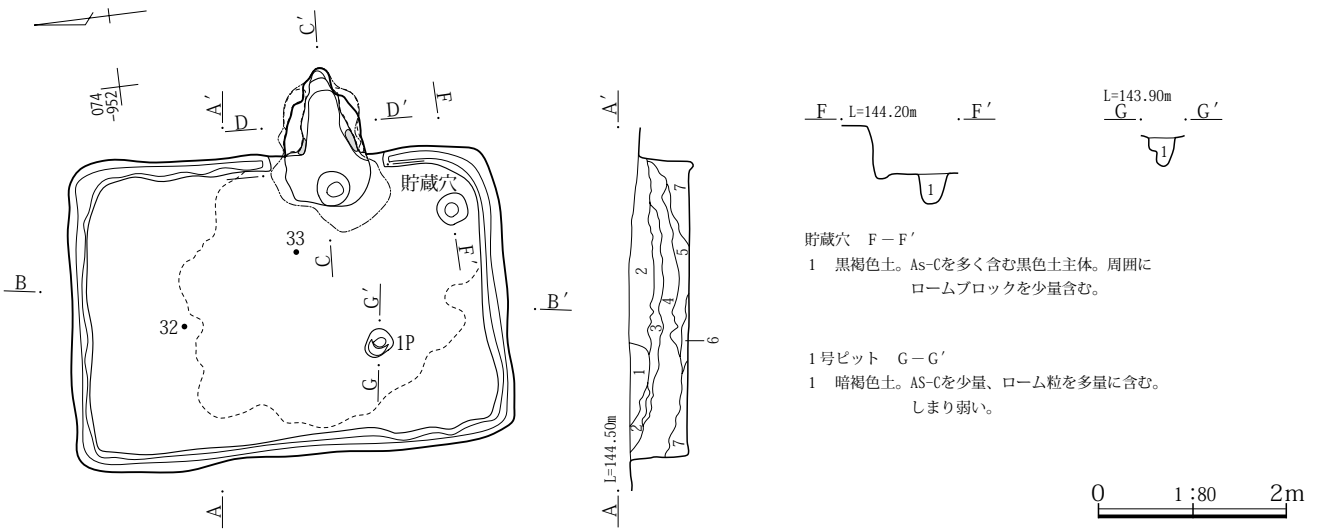
- 2号土坑 N-N'
- 1 黒褐色土。ローム粒・ロームブロックを少量含む。
 - 2 褐色土。ローム主体で暗褐色土を少量含む。しまりやや弱い。



第22図 I 区5号住居遺構図

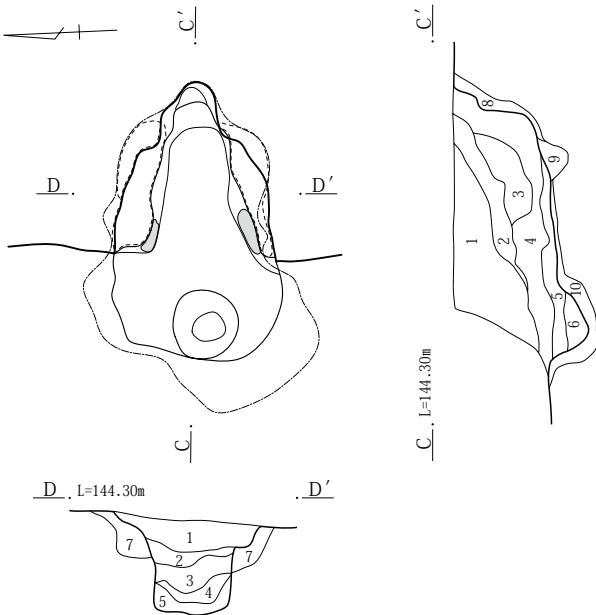
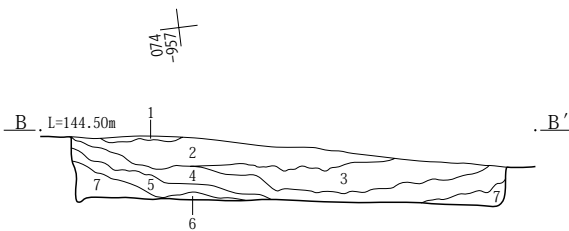


第23図 1区5号住居カマド遺構図



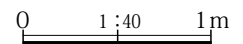
A-A'・B-B'

- 1 灰褐色砂質土。全体に砂質で、黒色粘質土ブロック・ローム粒を少量含む。しまりなし。
- 2 暗褐色土。As-Cを含む暗褐色土主体で、ローム粒と焼土粒を含む。しまり弱い。
- 3 暗褐色土。As-Cを含む黒色土とロームブロック・ローム粒の混土层。しまり弱い。
- 4 暗褐色土。As-Cを含む暗褐色土とローム粒・ロームブロックの混土层。3よりローム含有量が多い。
- 5 黒褐色土。As-Cを含む黒色土主体で、ロームブロックを少量含む。
- 6 黄褐色土。ローム粒・ロームブロック主体で、As-Cを含む黒色土ブロックを均一に含む。
- 7 黒褐色土。As-Cを含む黒色土主体で、4のブロックとロームブロックを少量含む。

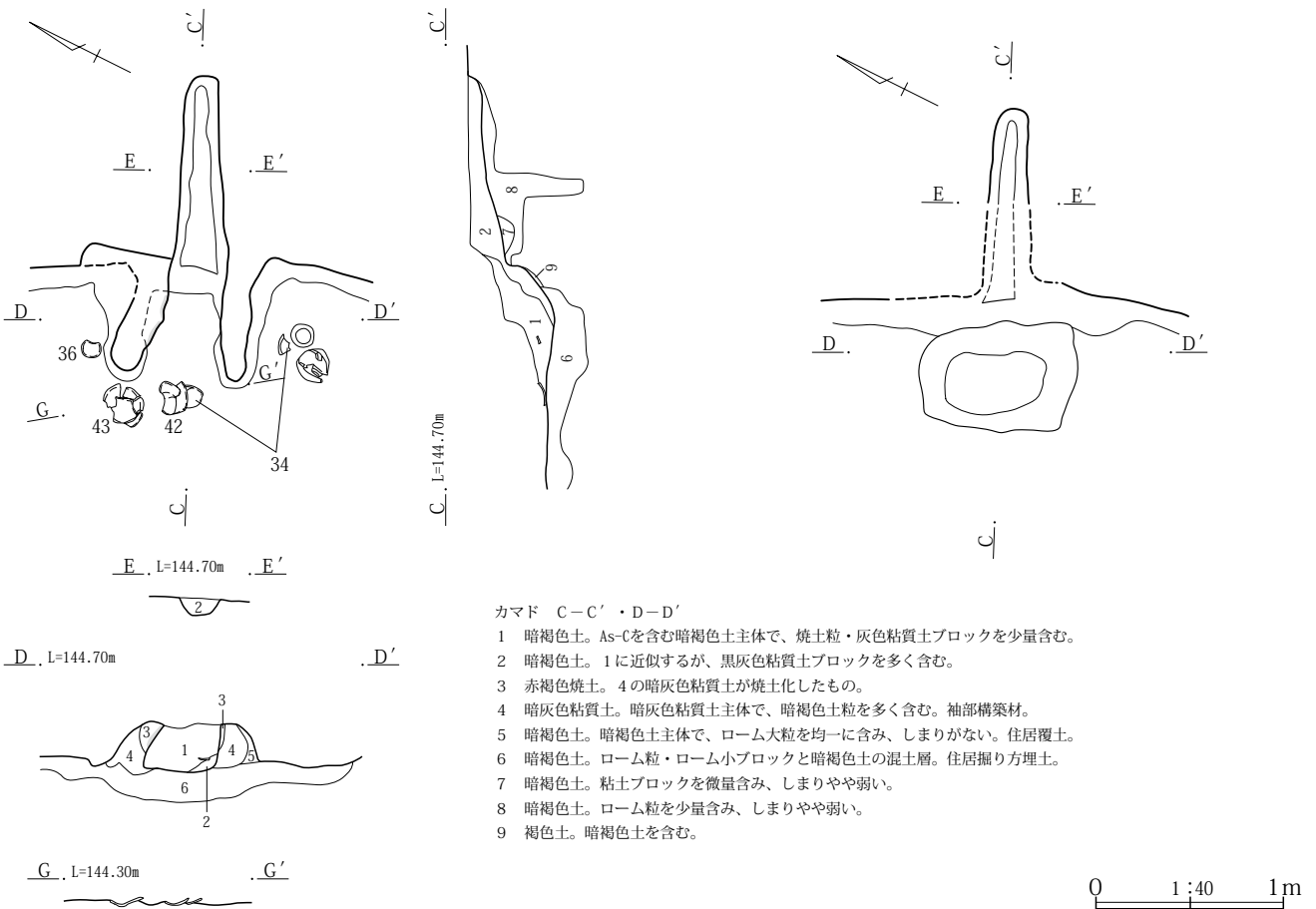
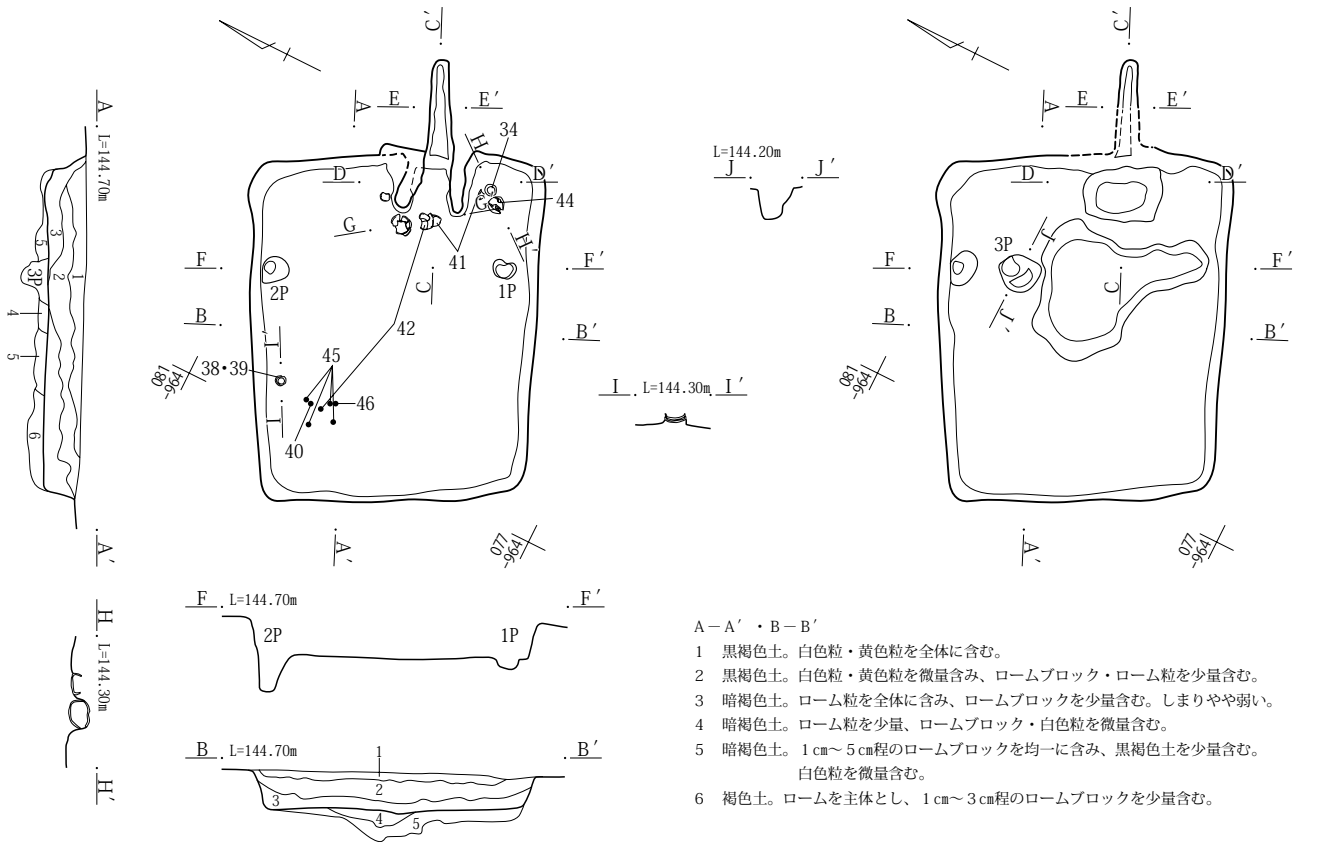


カマド C-C'・D-D'・E-E'

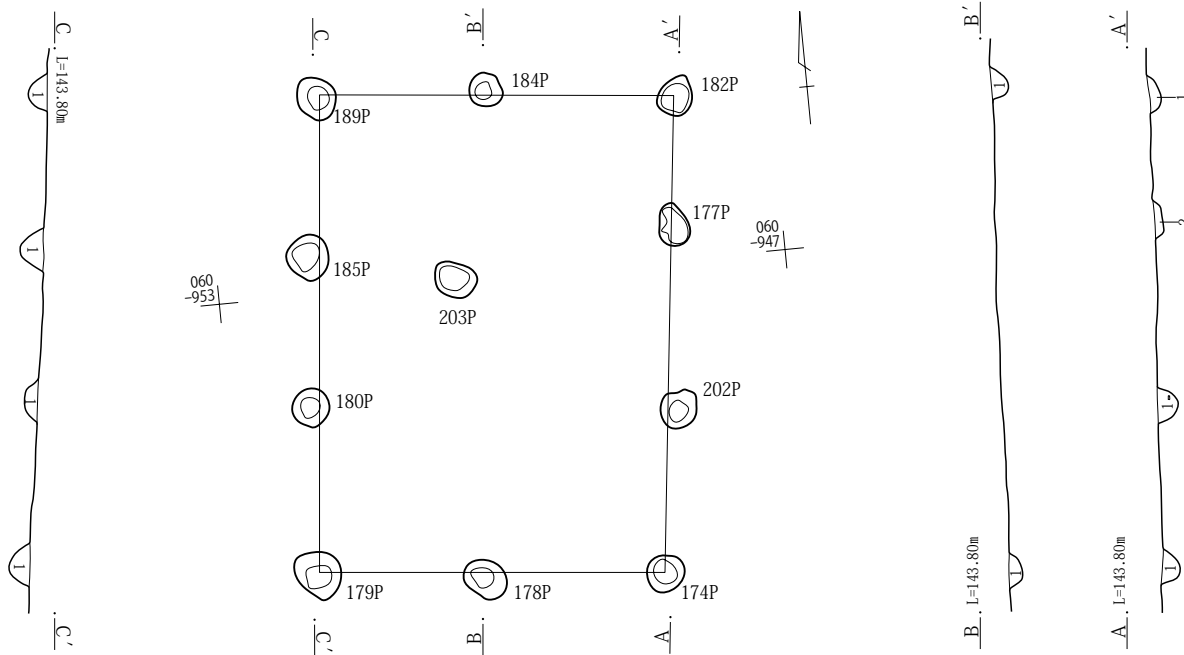
- 1 暗褐色土。As-Cを含む暗褐色土主体で、ローム粒を少量含む。
- 2 暗褐色土。暗灰色粘土ブロックと暗褐色土の混土层。
- 3 暗褐色土。暗灰色粘質土主体で、ローム大粒と焼土粒を多く含む。
- 4 暗褐色土。暗灰色粘質土と暗褐色土主体で、ローム粒を少量含む。
- 5 暗褐色土。暗褐色土主体で、焼土ブロックを多く含む。
- 6 暗褐色土。暗褐色土主体で、ローム粒と炭化物を含む。しまりなし。
- 7 暗灰色粘質土。暗灰色粘質土主体で、ローム粒・焼土粒を微量含む一袖構築材。
- 8 暗褐色土。焼土粒をごく微量含む。しまりやや弱い。
- 9 黒褐色土。ローム粒を全体に含み、焼土粒をごく微量含む。
- 10 黒褐色土。炭・焼土粒を少量含み、ロームを斑状に含む。しまりやや弱い。
- 11 黒褐色土。焼土粒・炭を微量含み、ローム粒を少量含む。しまり弱い。



第24図 I区6号住居遺構図



第25図 I区7号住居遺構図



A-A'・B-B'・C-C'

- 1 暗褐色土。As-Cを含む暗褐色土主体で、ローム粒・ローム小ブロックを含み、しまりの弱い層。
- 2 暗褐色土。全体に明るい色調で、As-Cをほとんど含まない。しまり比較強い。

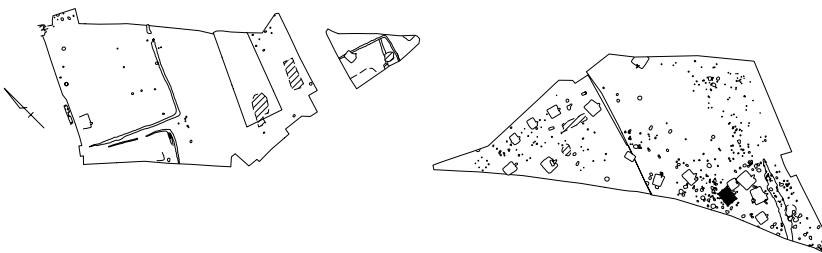
0 1:80 2m

I区1号掘立柱建物計測値表

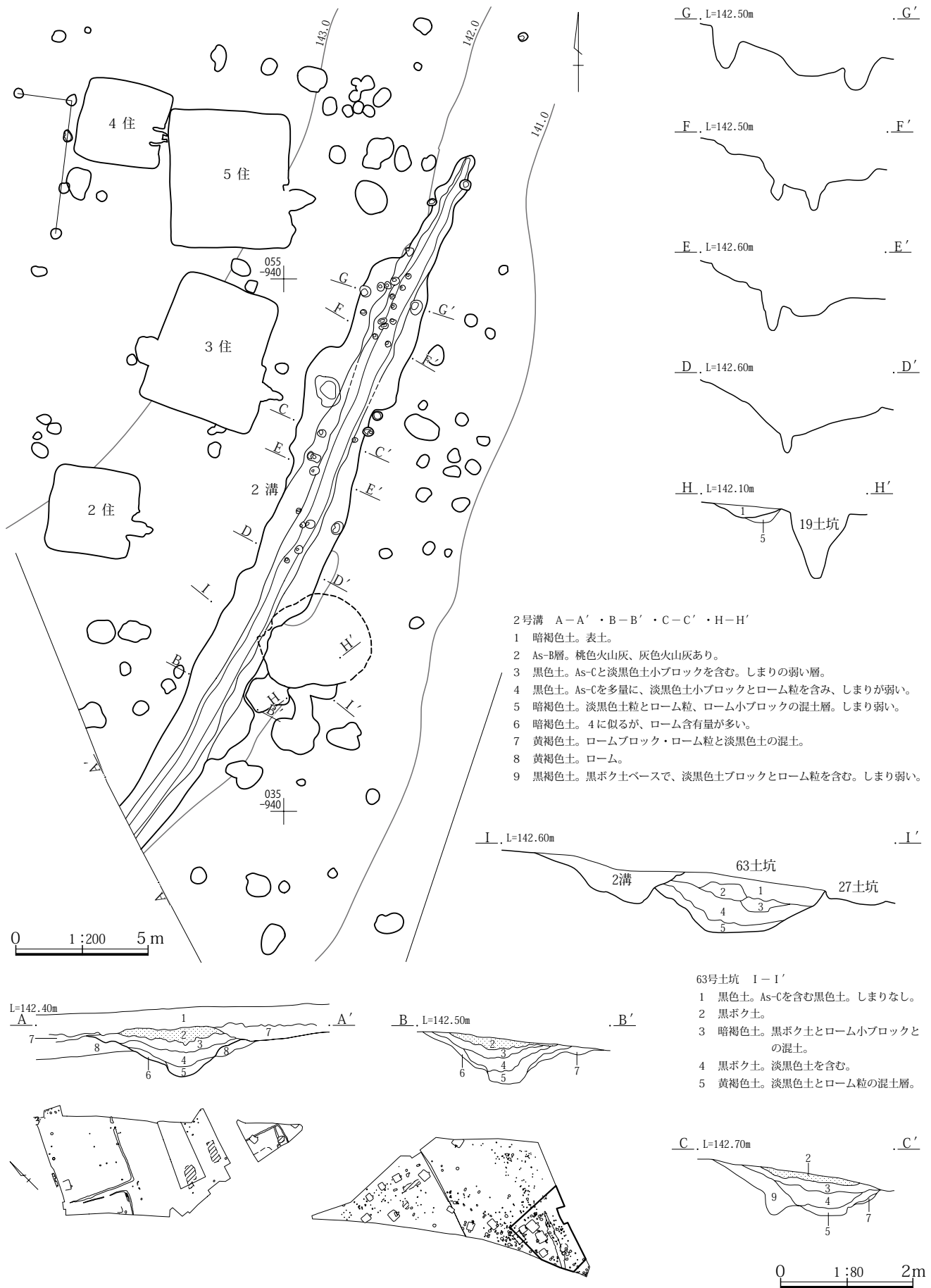
平面形 長方形				規模 3間×2間		長軸方位N-6°-E			
桁行cm ピット：距離	梁間cm ピット：距離	桁行柱間cm ピット：距離	梁間柱間cm ピット：距離	番号	規 模			備 考	
					上端長径×短径cm	下端長径×短径cm	深さcm		
179-189:503	179-174:367	179-180:179	179-178:173	179	54×45	29×23	25		
178-184:507	180-202:390	180-185:160	178-174:196	180	40×38	21×20	19		
174-182:500	185-177:394	185-189:168	189-184:173	185	48×45	31×27	29		
	189-182:380	174-202:170	184-182:205	189	48×41	24×23	22		
		202-177:197		178	48×39	25×21	13		
		177-182:136		184	35×35	19×18	23		
				174	42×39	26×23	20		
				202	45×39	23×19	27		
				177	45×32	40×27	13		
				182	43×35	32×27	17		

※1 計測値は1/20原図から起こした数値

※2 柱穴間の距離は下端芯芯で計測

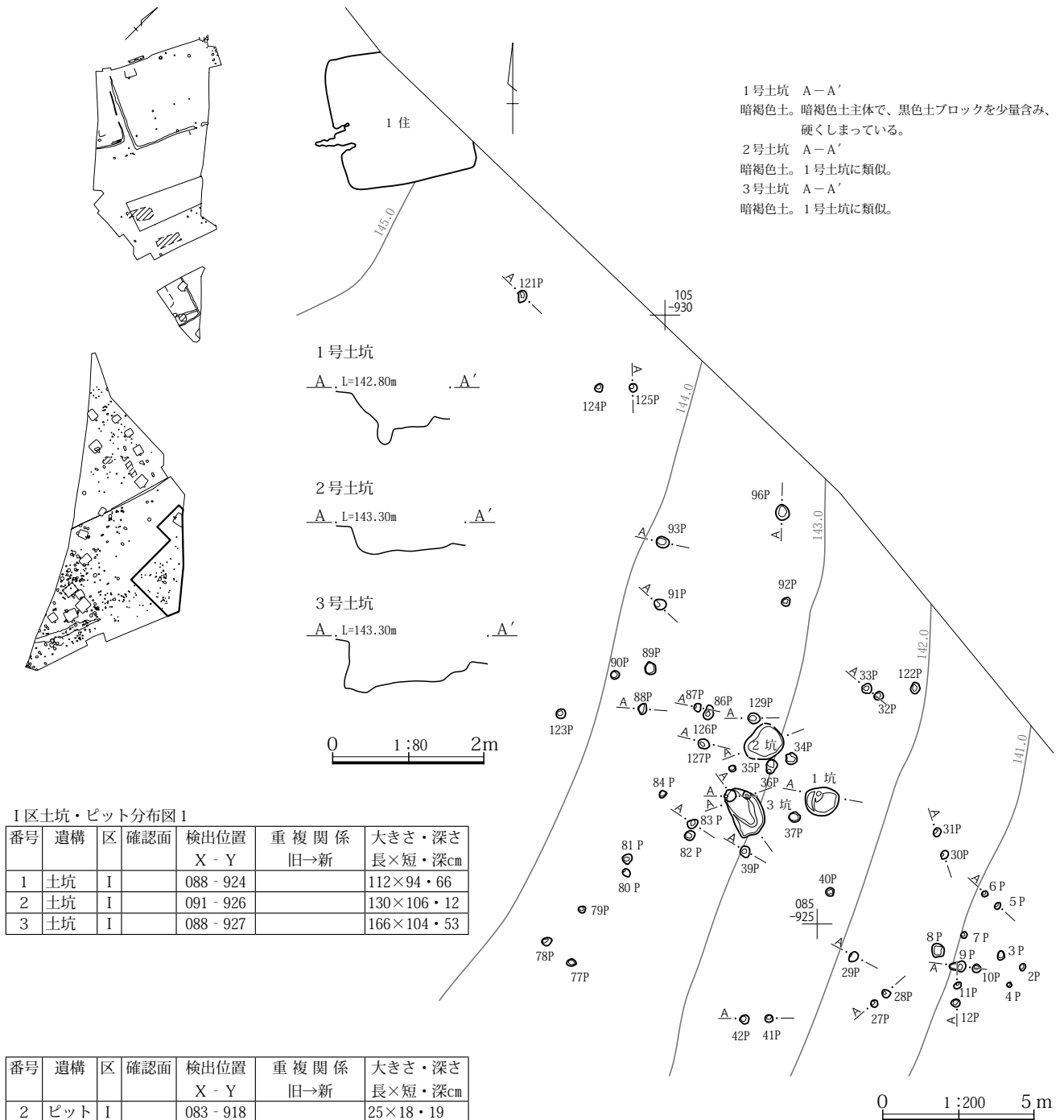


第26図 I区1号掘立柱建物遺構図

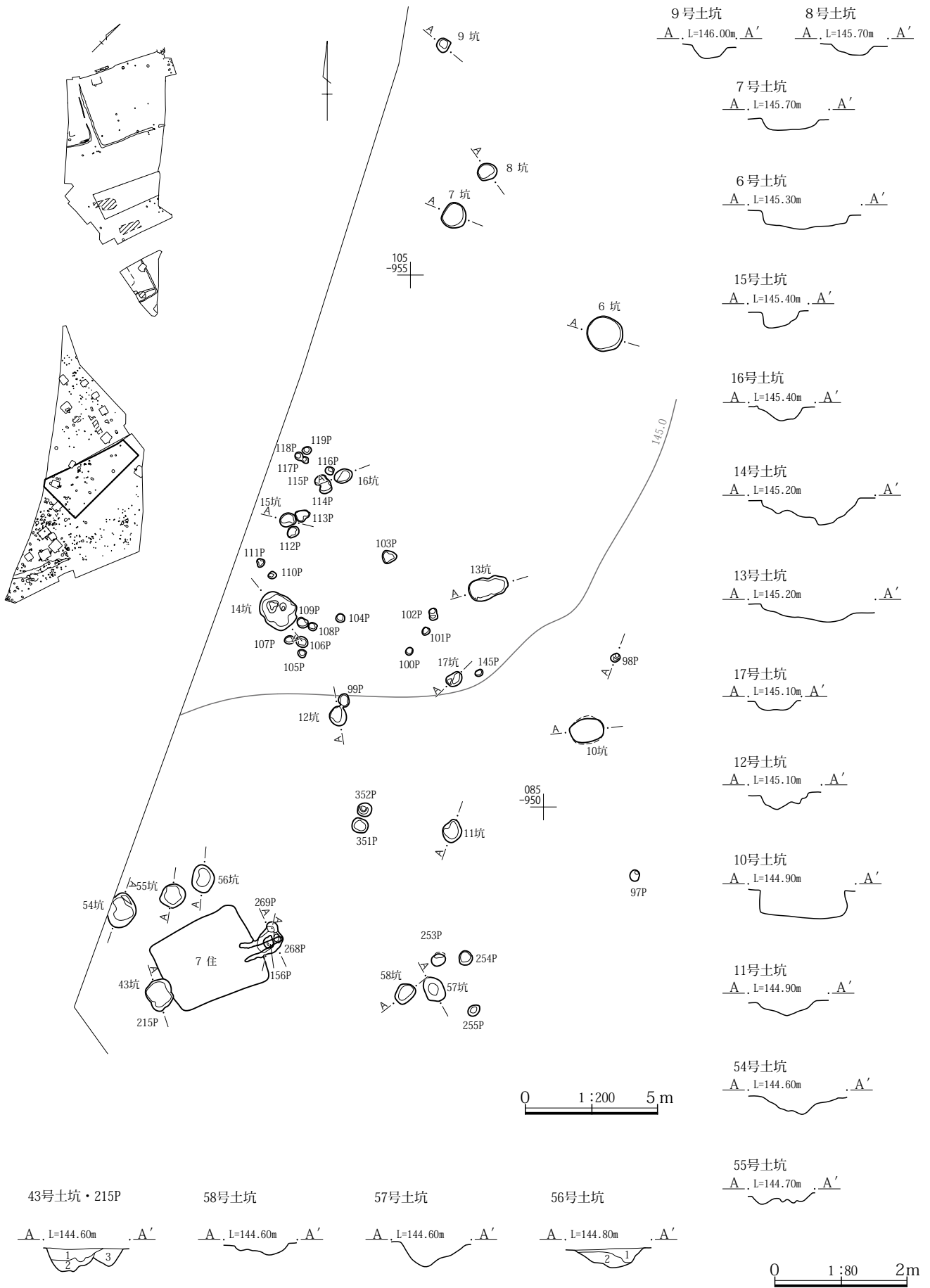


第27図 I区2号溝遺構図

第2節 I区の遺構と遺物



第28図 I区土坑・ピット分布図1



第29図 I区土坑・ピット分布図2

第2節 I区の遺構と遺物

9号土坑 A-A'
 暗褐色土。暗褐色土とロームの混土で、硬くしまっている。As-YPを含む。
 8号土坑 A-A'
 黄褐色土。ローム主体で、暗褐色土粒と炭化物粒を多量に含む。
 7号土坑 A-A'
 暗褐色土。暗褐色土主体で、ローム小ブロックを含み、硬くしまっている。
 6号土坑 A-A'
 暗褐色土。ローム粒とローム小ブロックを含む。しみ状。
 15号土坑 A-A'
 黒褐色土。しみ状。
 16号土坑 A-A'
 暗褐色土。ローム粒・As-YPを少量含む。
 14号土坑 A-A'
 暗褐色土。暗褐色土主体で、ロームブロックとローム粒を含み、やや柔らかい。
 13号土坑 A-A'
 暗褐色土。黒褐色土・ロームブロックの混土層。As-YPと炭化物粒を少量含む。
 17号土坑 A-A'
 黄褐色土。ローム主体で、暗褐色土とAs-YP粒を含む。
 12号土坑 A-A'
 暗褐色土。ローム主体で、暗褐色土を含む。
 10号土坑 A-A'
 暗褐色土。暗褐色土主体で、As-YPを少量含む、硬くしまっている。

11号土坑 A-A'
 黒色土。黒ボク土。
 54号土坑 A-A'
 暗褐色土。やや黒味の強い暗褐色土主体で、ローム粒とロームブロックを含む。
 55号土坑 A-A'
 54号土坑と同じ。
 56号土坑 A-A'
 1 黒褐色土。灰白色軽石を均一に含む。黒褐色土ブロックと暗褐色土ブロックの混土で、ローム粒と小ブロックを少量含む。
 2 暗褐色土。暗褐色土とロームの混土で、ロームは縞状に入る。
 43号土坑・215号ピット A-A'
 1 暗褐色土。灰白色軽石を含む暗褐色土の均質な層。
 2 暗褐色土。ローム粒・大粒を縞状に含む。
 3 黒褐色土。黒褐色土主体で、暗褐色土ブロックとローム粒を含む。
 57号土坑 A-A'
 黒褐色土。黒褐色土主体で、濁ったローム粒を多く含む。

I区土坑・ピット分布図1

番号	遺構	区	確認面	検出位置 X-Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm
81	ピット	I		087-931		34×32・12
82	ピット	I		087-929		36×30・22
83	ピット	I		088-929		36×28・38
84	ピット	I		089-930		24×20・14
86	ピット	I		092-928	126と重複	24× - ・21
87	ピット	I		092-928		26×22・65
88	ピット	I		092-930		36×30・33
89	ピット	I		093-930		42×36・20
90	ピット	I		093-931		27・10
91	ピット	I		095-930		38・55
92	ピット	I		095-926		30×27・12
93	ピット	I		097-930		44×35・32
96	ピット	I		098-926		50×43・32
121	ピット	I		105-934		40×30・36
122	ピット	I		092-921		36×30・22
123	ピット	I		091-933		33×30・19
124	ピット	I		102-932		30×26・22
125	ピット	I		102-931		26・46
126	ピット	I		091-928	86と重複	30× - ・26
127	ピット	I		090-928		40×31・40
129	ピット	I		091-927		40×34・44

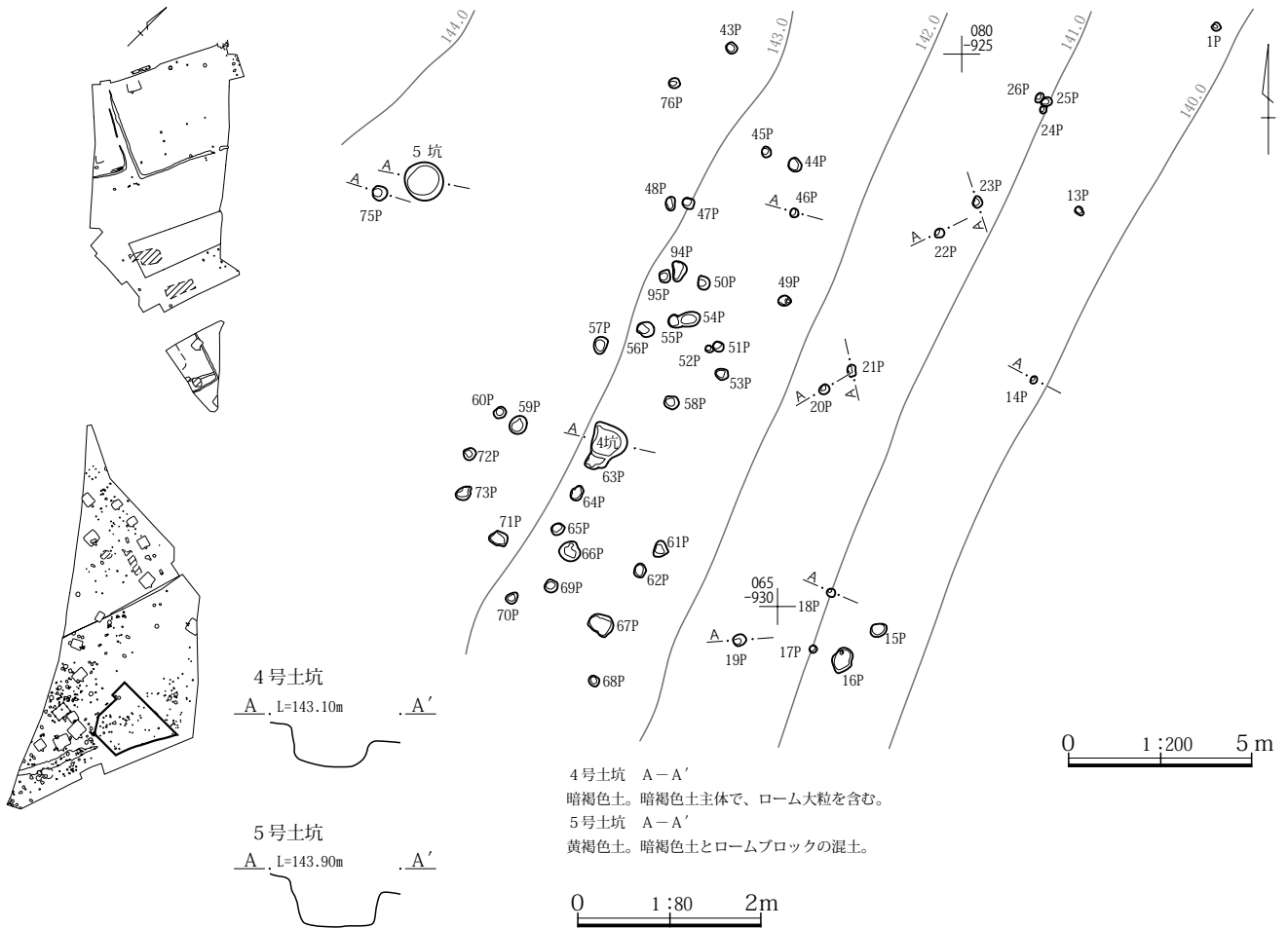
I区の土坑・ピット分布図2

番号	遺構	区	確認面	検出位置 X-Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm
6	土坑	I		102-947		132・33
7	土坑	I		107-953		96×88・19
8	土坑	I		108-952		73×64・19
9	土坑	I		113-953		52・22
10	土坑	I		087-948		126×102・45
11	土坑	I		084-953		87×71・22
12	土坑	I		088-957		74×62・26
13	土坑	I		093-952		148×84・34
14	土坑	I		092-960		148×122・57
15	土坑	I		095-959		60×50・27
16	土坑	I		097-957		70×50・22
17	土坑	I		089-953		62×48・18
43	土坑	I		078-964	215P→43土坑	100× - ・38
54	土坑	I		081-965		134×96・50
55	土坑	I		081-964		100×84・31
56	土坑	I		082-962		106×82・40
57	土坑	I		078-954		100×70・40
58	土坑	I		077-955		80×65・25

I区土坑・ピット分布図2

番号	遺構	区	確認面	検出位置 X-Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm
97	ピット	I		082-946		42×36・37
98	ピット	I		090-947		36×30・59
99	ピット	I		089-957		50×40・15
100	ピット	I		090-955		30×27・12
101	ピット	I		091-954		30×27・8
102	ピット	I		092-954		44×27・13
103	ピット	I		094-955		54×48・16
104	ピット	I		092-957		34・13
105	ピット	I		090-959		34×30・15
106	ピット	I		091-959		47×38・17
107	ピット	I		091-959		37×31・13
108	ピット	I		091-957		32×30・13
109	ピット	I		092-959		44×35・16
110	ピット	I		093-960		31×26・20
111	ピット	I		094-960		32×30・10
112	ピット	I		095-959		46×40・25
113	ピット	I		096-959		54×42・23
114	ピット	I		097-958	115と重複	46× - ・21
115	ピット	I		097-958	114と重複	46× - ・18
116	ピット	I		097-958		34×30・16
117	ピット	I		098-958	118と重複	23× - ・9
118	ピット	I		098-959	117と重複	30× - ・17
119	ピット	I		098-958		36×28・14
145	ピット	I		090-952		30×23・12
156	ピット	I		079-960	7住居カマド内	48×36・47
215	ピット	I		077-964	7住居→215P→43土坑	86× - ・27
253	ピット	I		079-953		53×50・56
254	ピット	I		079-952		54×49・12
255	ピット	I		077-952		50×39・27
268	ピット	I		080-960	7住居カマド内・269と重複	23× - ・22
269	ピット	I		080-960	268と重複	40× - ・32
351	ピット	I		084-956		61×58・22
352	ピット	I		084-956		52・38

第4章 遺構と遺物



4号土坑 A-A'
 暗褐色土。暗褐色土主体で、ローム大粒を含む。
 5号土坑 A-A'
 黄褐色土。暗褐色土とロームブロックの混土。

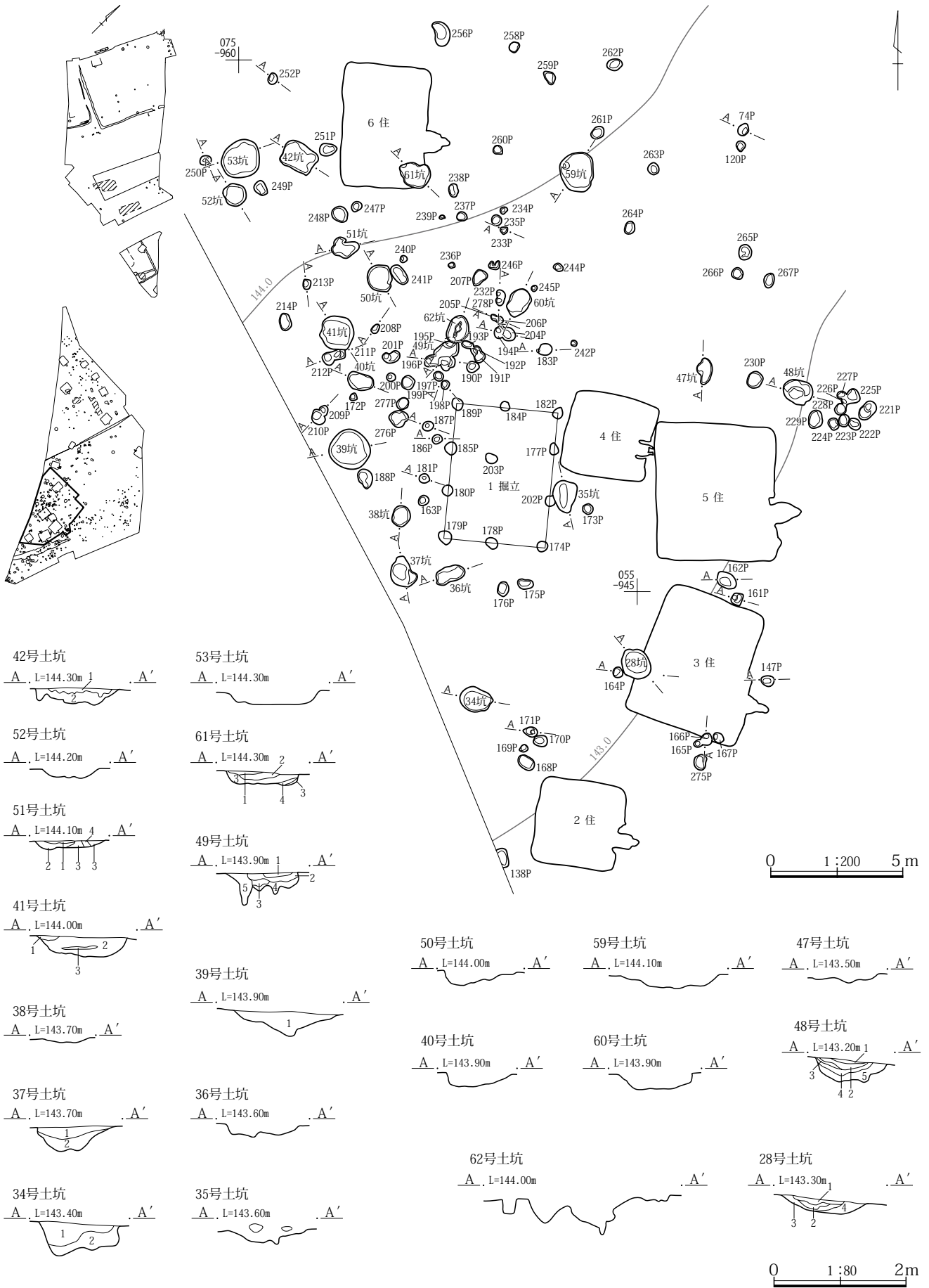
I区土坑・ピット分布図3

番号	遺構	区	確認面	検出位置 X - Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm
4	土坑	I		069 - 934	63Pと重複	130×90・45
5	土坑	I		076 - 939		106・54

番号	遺構	区	確認面	検出位置 X - Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm
1	ピット	I		080 - 917		25×23・21
13	ピット	I		075 - 921		25×20・14
14	ピット	I		071 - 923		22×17・39
15	ピット	I		064 - 927		47×35・24
16	ピット	I		063 - 928		71×52・53
17	ピット	I		063 - 929		20・17
18	ピット	I		065 - 928		30×24・52
19	ピット	I		064 - 930		34×30・28
20	ピット	I		070 - 928		30×24・52
21	ピット	I		071 - 928		32×22・27
22	ピット	I		075 - 925		34×32・31
23	ピット	I		076 - 924		32×26・30
24	ピット	I		078 - 922		22×17・3
25	ピット	I		078 - 922		30×26・20
26	ピット	I		078 - 922		28×20・20
43	ピット	I		080 - 931		30×28・11
44	ピット	I		077 - 929		38×34・13
45	ピット	I		077 - 930		30×25・17
46	ピット	I		075 - 929		23・22
47	ピット	I		075 - 932		32・10
48	ピット	I		075 - 932		38×25・15
49	ピット	I		073 - 929		35×27・50
50	ピット	I		073 - 932		38×34・23

番号	遺構	区	確認面	検出位置 X - Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm
51	ピット	I		072 - 931		28・17
52	ピット	I		072 - 931		22×18・14
53	ピット	I		071 - 931		36×30・11
54	ピット	I		072 - 932	55と重複	40× - ・19
55	ピット	I		072 - 932	54と重複	35× - ・13
56	ピット	I		072 - 934		46×40・28
57	ピット	I		072 - 934		47×36・27
58	ピット	I		070 - 932		40×37・15
59	ピット	I		070 - 937		52×46・26
60	ピット	I		070 - 937		34×28・11
61	ピット	I		066 - 933		45×38・19
62	ピット	I		066 - 933		37×32・15
63	ピット	I		068 - 935	4土坑と重複	56× - ・23
64	ピット	I		068 - 935		42×30・17
65	ピット	I		067 - 936		35×31・19
66	ピット	I		066 - 935		57×55・21
67	ピット	I		064 - 934		66×54・35
68	ピット	I		063 - 935		30×27・2
69	ピット	I		065 - 936		35・18
70	ピット	I		065 - 937		35×28・8
71	ピット	I		066 - 937		50×36・9
72	ピット	I		069 - 938		35・11
73	ピット	I		068 - 938		46×34・9
75	ピット	I		076 - 940		40・42
76	ピット	I		079 - 932		30×27・15
94	ピット	I		074 - 932		55×36・16
95	ピット	I		074 - 933		35×33・20

第30図 I区土坑・ピット分布図3



第31図 I区土坑・ピット分布図4

第4章 遺構と遺物

53号土坑 A-A'

黄褐色土。ローム主体で、暗褐色土をしみ状に含む。

42号土坑 A-A'

- 1 黒色土。灰白色軽石を含む黒色土で、ローム粒と小ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土。ローム粒と黒色土粒の混土。

61号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土。暗褐色土主体で、ローム大粒を少量含む。
- 2 黄褐色土。ややにごったローム主体の層で、暗褐色土小ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土。暗褐色土の均質な層。
- 4 黄褐色土。ローム主体の層。

59号土坑 A-A'

暗褐色土。ローム主体で、暗褐色土がしみ状に入る。

52号土坑 A-A'

暗褐色土。やや暗色の暗褐色土とローム粒の混土層で、ロームブロックを少量含む。

51号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土。ローム粒と暗褐色土の混土。ロームブロックを微量含む。
- 2 暗褐色土。暗褐色土主体で、ローム粒を多量に含む。
- 3 黄褐色土。ローム主体の層で、ややにごった色調を呈する。
- 4 黄褐色土。ローム主体で、暗褐色土を少量含む。

50号土坑 A-A'

黄褐色土。ローム主体で、暗褐色土粒を均一に含む。

60号土坑 A-A'

暗褐色土。灰白色軽石を均一に含む暗褐色土主体で、ローム大粒を少量含む。

41号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土。黒褐色土、暗褐色土ブロックの混土で、ローム粒と小ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土。暗褐色土主体で、ローム粒を多量に、ローム小ブロックを少量含む。
- 3 黒褐色土。黒褐色粘質土主体の層。

49号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土。暗褐色土主体で、ローム粒を少量含む。
- 2 暗褐色土。1に類似する。ローム粒が多く、均一に含む。
- 3 黄褐色土。ローム主体の層。
- 4 暗褐色土。2に似る。ローム含有量が少ない。
- 5 暗褐色土。2に似る。

40号土坑 A-A'

黒褐色土。軽石を含む黒褐色土主体で、中央部に暗褐色土ブロックとローム粒を多く含む。

39号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土。軽石を含む暗褐色土と黒褐色土の混土で、ローム粒と小ブロックを多く含む。

47号土坑 A-A'

暗褐色土。暗褐色土主体で、ローム粒を含む。

48号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土。暗褐色土主体で、ローム粒を少量含む。
- 2 暗褐色土。1に似る。ローム粒の含有量が多く、色調やや明るい。
- 3 暗褐色土。1に似る。色調が暗い。
- 4 暗褐色土。暗褐色土主体で、ローム粒・小ブロックを多量に含む。
- 5 黄褐色土。4に似る。ローム含有量が多い。

38号土坑 A-A'

黒褐色土。灰白色軽石を均一に含む黒褐色土主体で、ロームブロックを多量に含む。

35号土坑 A-A'

暗褐色土。暗褐色土主体で、ローム粒を多量に、ロームブロックを少量含む。

37号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土。灰白色軽石を均一に含む暗褐色土主体で、ローム粒を均一に、ローム小ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土。1よりも全体に暗色で、ローム小ブロックの含有量が多い。

36号土坑 A-A'

黒褐色土。黒褐色土主体で、ローム粒・ローム小ブロックを多量に含む。

34号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土。暗褐色土を主体に、ローム粒及びローム小ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土。暗褐色土を主体に、ローム小ブロックを1よりもやや多く含み、全体に黒味が強い。

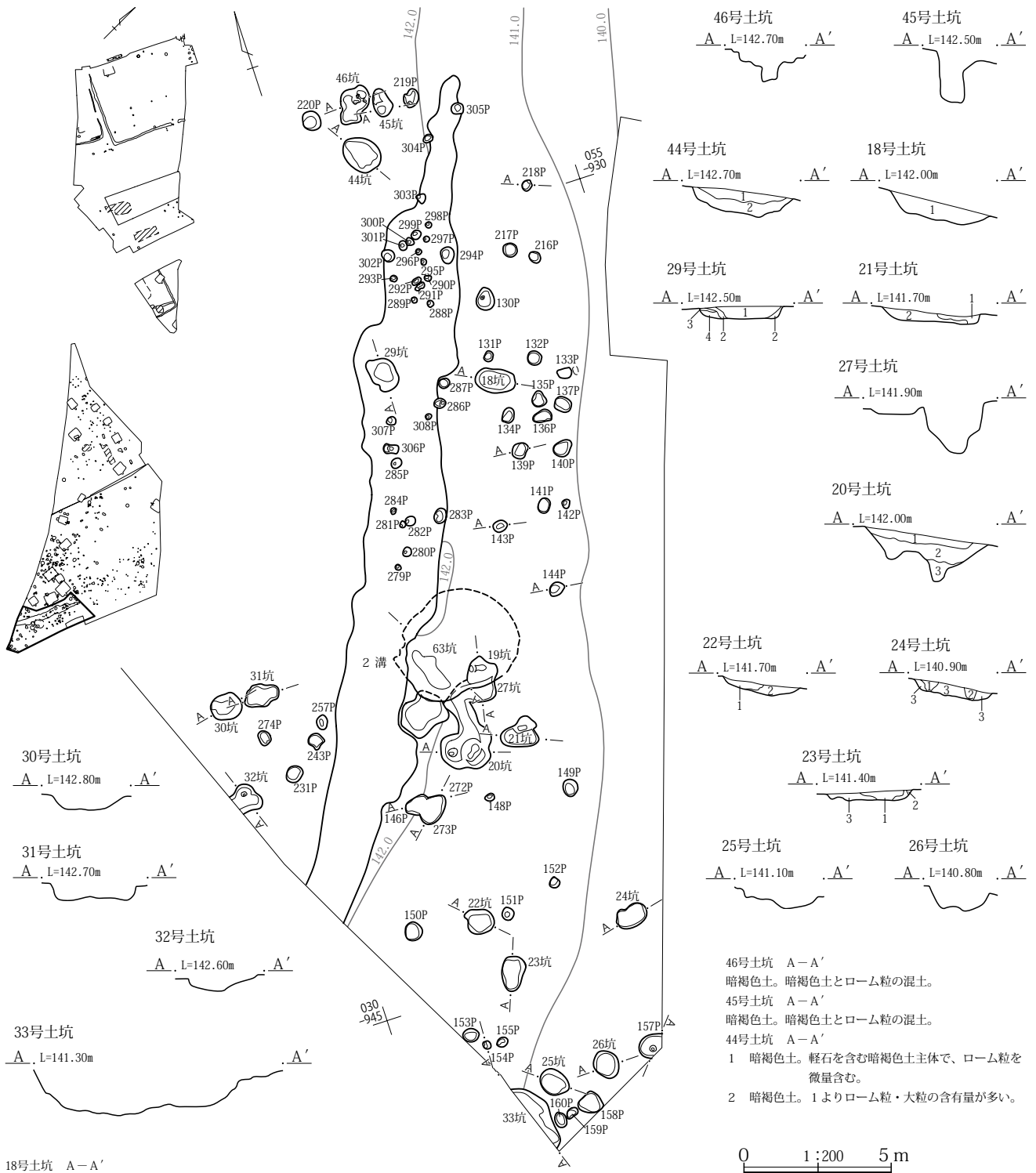
28号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土。灰白色軽石を均一に含む暗褐色土主体で、ローム大粒を均一に含む。
- 2 暗褐色土。1に似るが、ローム粒を多量に含み、全体に色調が明るい。
- 3 暗褐色土。1をベースにして、ローム粒とローム小ブロックを含む。
- 4 黄褐色土。暗褐色土小ブロックとローム小ブロックの混土層。

I区土坑・ピット分布図4

番号	遺構	区	確認面	検出位置 X-Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm
28	土坑	I		052-945	3住居→28土坑	124×102・29
34	土坑	I		050-951		124×96・53
35	土坑	I		058-947		124×88・29
36	土坑	I		055-952		116×58・22
37	土坑	I		055-953		118×80・50
38	土坑	I		057-953		80×67・13
39	土坑	I		060-955		152・29
40	土坑	I		063-955		100×62・25
41	土坑	I		064-956		138×125・38
42	土坑	I		071-957		130×98・24
47	土坑	I		063-942		100×58・15
48	土坑	I		062-939		114×90・41
49	土坑	I		064-952		100×90・54
50	土坑	I		066-954		106×93・22
51	土坑	I		067-956		104×80・17
52	土坑	I		069-960		84×82・22
53	土坑	I		071-959		142・29
59	土坑	I		070-947		146×125・46
60	土坑	I		065-949		110×78・24
61	土坑	I		070-953	6住居→61土坑	120×85・47
62	土坑	I		064-951	62土坑→195P	108×80・25
74	ピット	I		072-941		48×40・87
120	ピット	I		071-941		40×35・26
138	ピット	I		045-950		72×33・25
147	ピット	I		051-940		50×40・27
161	ピット	I		054-941		45×40・36
162	ピット	I		055-941		80×56・32
163	ピット	I		058-952		40×36・23
164	ピット	I		052-945		40×35・23
165	ピット	I		049-942	166・3住居と重複	26× - ・11
166	ピット	I		049-942	165と重複	43× - ・40
167	ピット	I		049-942	3住居と重複	42×34・11
168	ピット	I		048-949		68×47・13
169	ピット	I		049-949		32×26・11
170	ピット	I		049-948		53×40・15
171	ピット	I		049-949		54×37・55
172	ピット	I		062-955		30×26・17
173	ピット	I		058-946		40・12
175	ピット	I		055-949		59×35・11
176	ピット	I		055-950		55×42・8
181	ピット	I		059-953		40×36・50

番号	遺構	区	確認面	検出位置 X-Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm
183	ピット	I		064-948		58×45・56
186	ピット	I		060-952		38×32・23
187	ピット	I		061-952		42×36・35
188	ピット	I		059-955		74×53・42
190	ピット	I		063-951		46×42・21
191	ピット	I		063-950	192と重複	42× - ・8
192	ピット	I		064-951	191と重複	36× - ・10
193	ピット	I		064-951		46×26・9
194	ピット	I		064-950	204と重複	50×36・59
195	ピット	I		064-952	62土坑→195P	- ・42
196	ピット	I		063-952		42× - ・26
197	ピット	I		063-952		38×34・33
198	ピット	I		062-952		33×30・25
199	ピット	I		062-953		53×49・10
200	ピット	I		063-954		34×31・25
201	ピット	I		063-954		65×36・33
204	ピット	I		064-949	194と重複	50× - ・16
205	ピット	I		065-950	206と重複	22× - ・23
206	ピット	I		065-950	205と重複	26× - ・31
207	ピット	I		066-950		64×45・13
208	ピット	I		064-954		38×26・35
209	ピット	I		061-956	210と重複	37× - ・31
210	ピット	I		061-957	209と重複	60× - ・39
211	ピット	I		063-956	212と重複	38× - ・48
212	ピット	I		063-956	211と重複	50× - ・29
213	ピット	I		066-957		37×29・36
214	ピット	I		065-958		65×42・27
221	ピット	I		061-936		78×50・35
222	ピット	I		061-936		48×40・19
223	ピット	I		061-937		46×38・20
224	ピット	I		061-937		46×35・10
225	ピット	I		062-936	226・227と重複	53× - ・25
226	ピット	I		062-937	225・227・228と重複	28× - ・5
227	ピット	I		062-937	225・226と重複	34× - ・16
228	ピット	I		061-937	226と重複	42× - ・10
229	ピット	I		061-938		70×54・18
230	ピット	I		063-940		64×55・22
232	ピット	I		066-950	278と重複	32× - ・54
233	ピット	I		068-950		29×27・31
234	ピット	I		069-950		29×23・21
235	ピット	I		069-950		42×36・20
236	ピット	I		067-952		26×22・17
237	ピット	I		069-951		40×33・10
238	ピット	I		070-951		50×35・13
239	ピット	I		069-952		22×15・24
240	ピット	I		067-953		26・23
241	ピット	I		067-954		82×46・30



- 18号土坑 A-A'
- 1 黒褐色土。灰白色軽石を均一に含む黒褐色土主体で、ローム粒と小ブロックを多量に含む。
- 30号土坑 A-A'
- 暗褐色土。灰白色軽石を均一に含む暗褐色土主体で、ローム粒を多く含む。
- 31号土坑 A-A'
- 暗褐色土。灰白色軽石を均一に含む暗褐色土主体で、ローム粒を多く含む。
- 32号土坑 A-A'
- 暗褐色土。30号土坑に似る。ロームブロックを多量に含む。
- 21号土坑 A-A'
- 1 暗褐色土。暗褐色土粒とローム粒の混土で、色調は一樣。
 - 2 黒褐色土。灰白色軽石を均一に含む黒褐色土主体の層。わずかにローム大粒を含む。
- 22号土坑 A-A'
- 1 暗褐色土。灰白色軽石を均一に含む暗褐色土主体で、ローム小ブロックを少量含む。
 - 2 黄褐色土。ローム粒と小ブロック主体で、暗褐色土ブロックを少量含む。

- 29号土坑 A-A'
- 1 暗褐色土。灰白色軽石を均一に含む暗褐色土主体の均質な層で、ローム粒を微量含む。
 - 2 暗褐色土。暗褐色土とローム粒・小ブロックの混土層。
 - 3 暗褐色土。暗褐色土とローム粒の混土層。
 - 4 暗褐色土。1に似るが、色調が明るい。
- 20号土坑 A-A'
- 1 黒褐色土。灰白色軽石を均一に含む黒褐色土主体で、ローム粒を微量含む。
 - 2 暗褐色土。黒褐色土粒とローム粒・小ブロックの混土層。
 - 3 暗褐色土。2に似る。ロームブロックの含有量が多い。

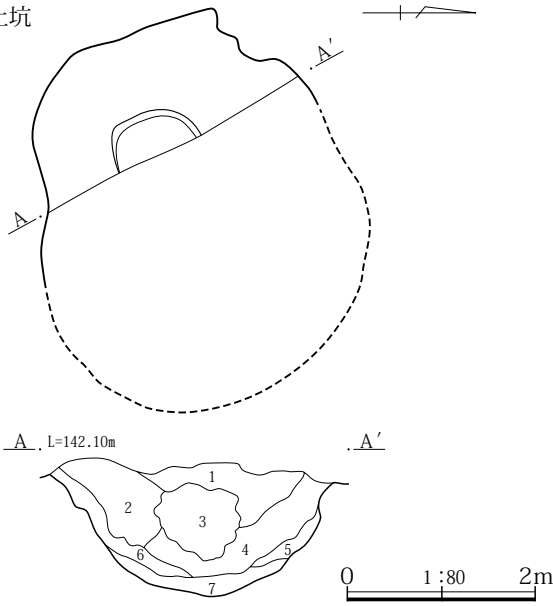
0 1:200 5 m

0 1:80 2m

第32図 I区土坑・ピット分布図5 (1)

第4章 遺構と遺物

63号土坑



I区土坑・ピット分布図4

番号	遺構	区	確認面	検出位置 X - Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm
242	ピット	I		064 - 947		24×22・20
244	ピット	I		067 - 948		38×27・17
245	ピット	I		066 - 948		23×20・9
246	ピット	I		067 - 950		44×36・10
247	ピット	I		069 - 955		41×34・19
248	ピット	I		069 - 956		64×56・21
249	ピット	I		070 - 959		57×43・14
250	ピット	I		071 - 961		43×36・53
251	ピット	I		071 - 956		66×48・29
256	ピット	I		076 - 952		95×66・36
258	ピット	I		075 - 949		41×34・9
259	ピット	I		074 - 948		57×34・17
260	ピット	I		071 - 950		39×33・4
261	ピット	I		072 - 946		53×33・15
262	ピット	I		074 - 945		58×45・20
263	ピット	I		070 - 944		45×42・8
264	ピット	I		068 - 945		48×37・17
265	ピット	I		067 - 940		58×47・22
266	ピット	I		066 - 941		47×42・19
267	ピット	I		066 - 940		56×40・5
275	ピット	I		048 - 942		58×45・15
276	ピット	I		061 - 954		73×63・31
277	ピット	I		062 - 953		48×42・15
278	ピット	I		065 - 950	232と重複	32× - ・24

I区土坑・ピット分布図5

番号	遺構	区	確認面	検出位置 X - Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm
18	土坑	I		049 - 934		136×82・43
19	土坑	I		040 - 938	27土坑→19土坑	94×86・73
20	土坑	I		039 - 939		172×120・49
21	土坑	I		037 - 937		130×102・52
22	土坑	I		032 - 941		104×86・39
23	土坑	I		030 - 940		118×75・19
24	土坑	I		030 - 936		110×70・37
25	土坑	I		026 - 940		108×80・33
26	土坑	I		026 - 938		100×84・40
27	土坑	I		039 - 938	27土坑→19土坑	160×90・11
29	土坑	I		050 - 938	2溝内	126×92・57
30	土坑	I		041 - 946		106×87・31
31	土坑	I		041 - 945		120×80・34
32	土坑	I		038 - 947		96×78・59
33	土坑	I		025 - 941		252×66・30
44	土坑	I		058 - 936		136×106・45
45	土坑	I		059 - 935		96×60・71
46	土坑	I		059 - 936		142×90・59
63	土坑	I		041 - 938		400×340・117
130	ピット	I		053 - 934		76×60・46
131	ピット	I		050 - 934		37×30・12
132	ピット	I		049 - 933		50×47・25

23号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土。灰白色軽石を均一に含む暗褐色土主体で、ローム大粒を少量含む。しまりが弱い。
- 2 暗褐色土。1に似る。黒褐色土小ブロックを微量含む。
- 3 黒褐色土。灰白色軽石を均一に含む黒褐色土主体で、ローム大粒及び小ブロックを少量含む。

24号土坑 A-A'

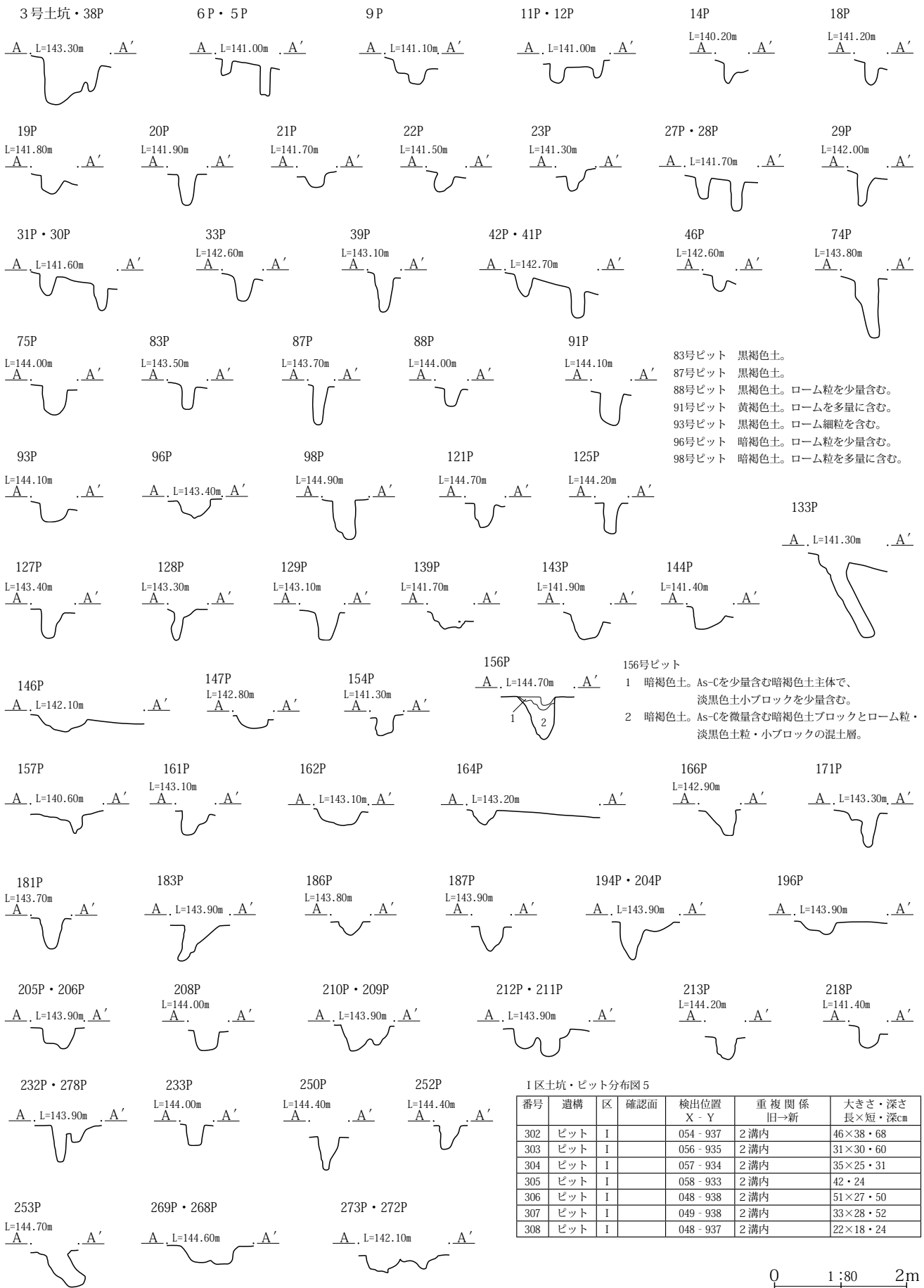
- 1 暗褐色土。暗褐色土主体で、ローム粒を均一に含む。
- 2 暗褐色土。暗褐色土とローム粒・ブロックの混土。
- 3 黄褐色土。ローム粒・小ブロック主体で、暗褐色土小ブロックを多く含む。

63号土坑 A-A' 風倒木痕

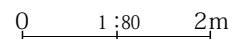
- 1 暗褐色土。柔らかいロームと淡黒色土の混土。
- 2 黄褐色土。ロームブロックとローム粒主体の層で、淡黒色土ブロックを含む。
- 3 黒色土。黒ボク土主体で、黒色粘質土ブロックと焼土化した黒色粘質土ブロック、ローム粒を含む。しまりのある層。
- 4 黒褐色土。黒ボク土と淡黒色土とローム粒の混土層。しまりあり。
- 5 黄褐色土。ロームブロック主体の層で、淡黒色土ブロックを少量含む。
- 6 暗褐色土。淡黒色土粒とローム粒の混土層。わずかにロームブロックを含む。しまりなし。
- 7 黒褐色土。黒ボク土ブロックとロームブロック・ローム粒の混土層。

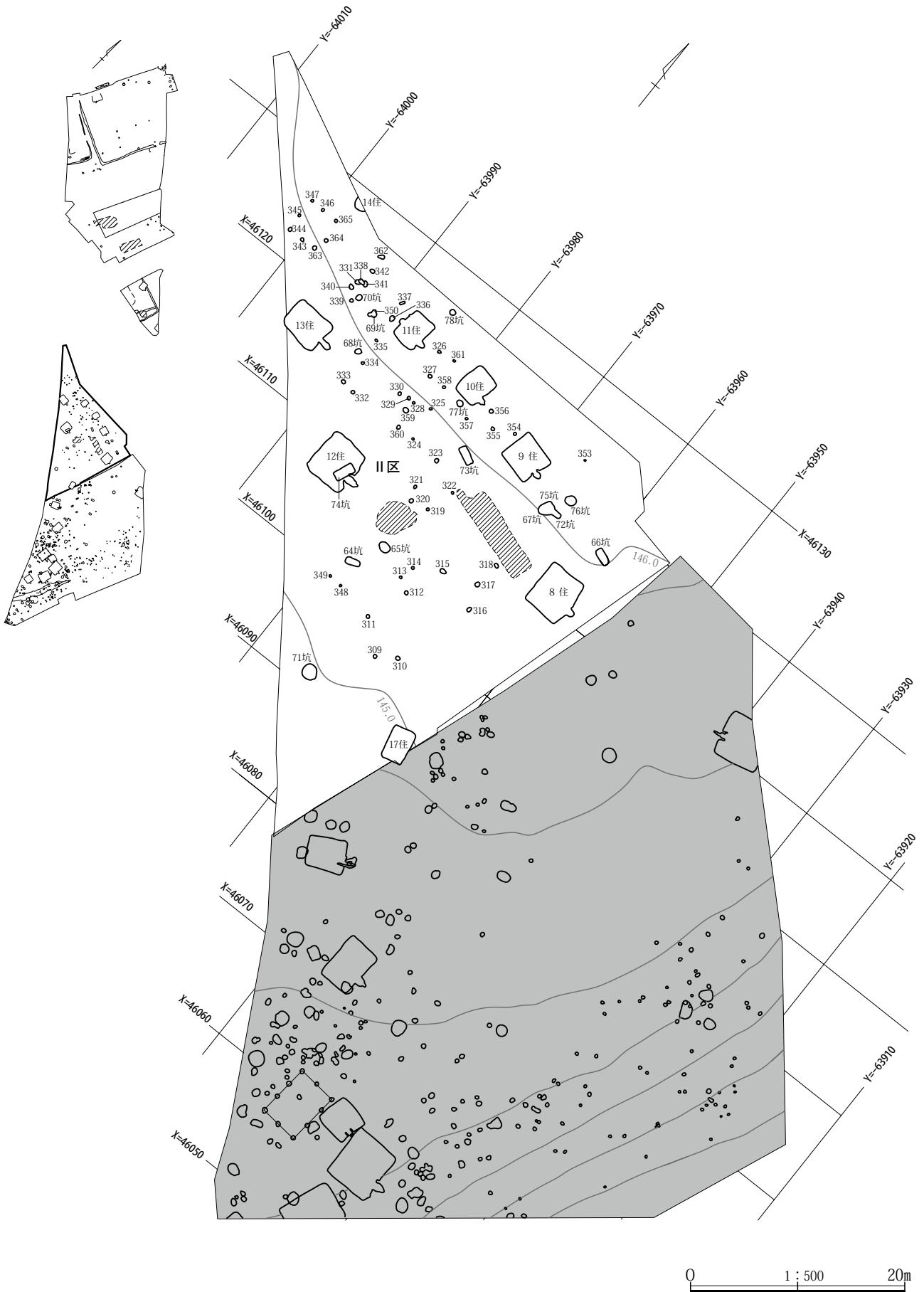
番号	遺構	区	確認面	検出位置 X - Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm
133	ピット	I		048 - 932		73×34・135
134	ピット	I		048 - 934		52×38・13
135	ピット	I		048 - 933		53×47・14
136	ピット	I		047 - 933		66×40・21
137	ピット	I		048 - 933		58×48・17
139	ピット	I		047 - 934		55×47・26
140	ピット	I		046 - 933		67×50・27
141	ピット	I		045 - 934		50×40・5
142	ピット	I		044 - 933		30×27・21
143	ピット	I		044 - 936		47×38・41
144	ピット	I		042 - 935		54×40・36
146	ピット	I		036 - 941	272・273と重複	75× - ・26
148	ピット	I		036 - 939		33×25・17
149	ピット	I		035 - 936		58×50・35
150	ピット	I		032 - 943		63×58・16
151	ピット	I		032 - 940		42・26
152	ピット	I		032 - 938		35・14
153	ピット	I		028 - 942		54×45・21
154	ピット	I		028 - 942		28×26・36
155	ピット	I		028 - 941		38×30・28
157	ピット	I		026 - 936		100×70・40
158	ピット	I		025 - 939		86×72・24
159	ピット	I		025 - 940		46×30・15
160	ピット	I		025 - 940		52×38・13
216	ピット	I		053 - 932		43×35・17
217	ピット	I		053 - 933		50×45・24
218	ピット	I		055 - 931		38×32・40
219	ピット	I		059 - 934		63×50・21
220	ピット	I		059 - 938		67×60・13
231	ピット	I		038 - 945		60×50・23
243	ピット	I		039 - 944		55×53・15
257	ピット	I		040 - 944		48×35・23
272	ピット	I		036 - 941	272→273	65× - ・24
273	ピット	I		036 - 941	272→273	62× - ・32
274	ピット	I		040 - 946		50×40・9
279	ピット	I		044 - 939	2溝内	20×18・27
280	ピット	I		044 - 939	2溝内	30・32
281	ピット	I		045 - 939	2溝内	22×20・24
282	ピット	I		045 - 939	2溝内	36×31・40
283	ピット	I		045 - 938	2溝内	50×40・72
284	ピット	I		046 - 939	2溝内	20・19
285	ピット	I		047 - 938	2溝内	38×33・63
286	ピット	I		049 - 936	2溝内	40×32・48
287	ピット	I		049 - 936		35・19
288	ピット	I		052 - 936	2溝内	24×20・35
289	ピット	I		052 - 936	2溝内	20・19
290	ピット	I		053 - 935	2溝内	24×21・18
291	ピット	I		053 - 936	2溝内	37×18・21
292	ピット	I		053 - 936	2溝内	34×20・15
293	ピット	I		053 - 937	2溝内	24×22・17
294	ピット	I		054 - 935	2溝内	56×45・39
295	ピット	I		054 - 935	2溝内	22×20・27
296	ピット	I		054 - 936	2溝内	20・10
297	ピット	I		054 - 935	2溝内	20×18・30
298	ピット	I		055 - 935	2溝内	20・25
299	ピット	I		054 - 935	2溝内	35×30・63
300	ピット	I		054 - 936	2溝内	26×25・39
301	ピット	I		054 - 936	2溝内	32×26・37

第33図 I区土坑・ピット分布図5 (2)

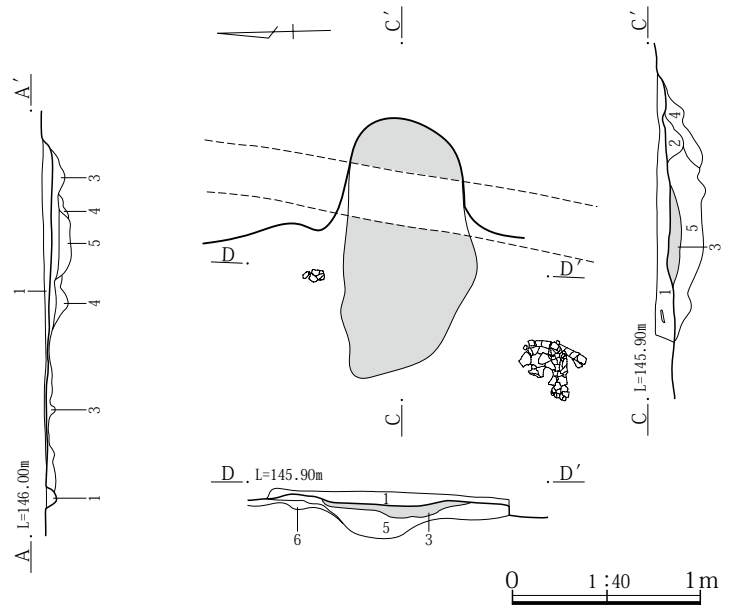
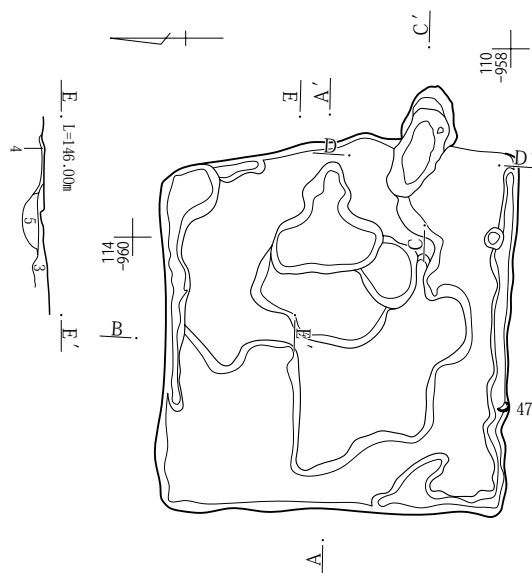
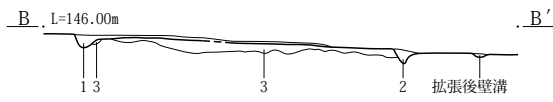
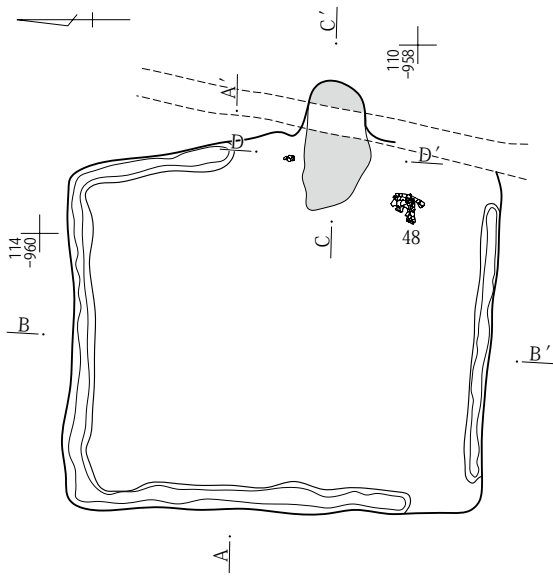


第34図 I 区ピット断面図





第35図 II区遺構配置図

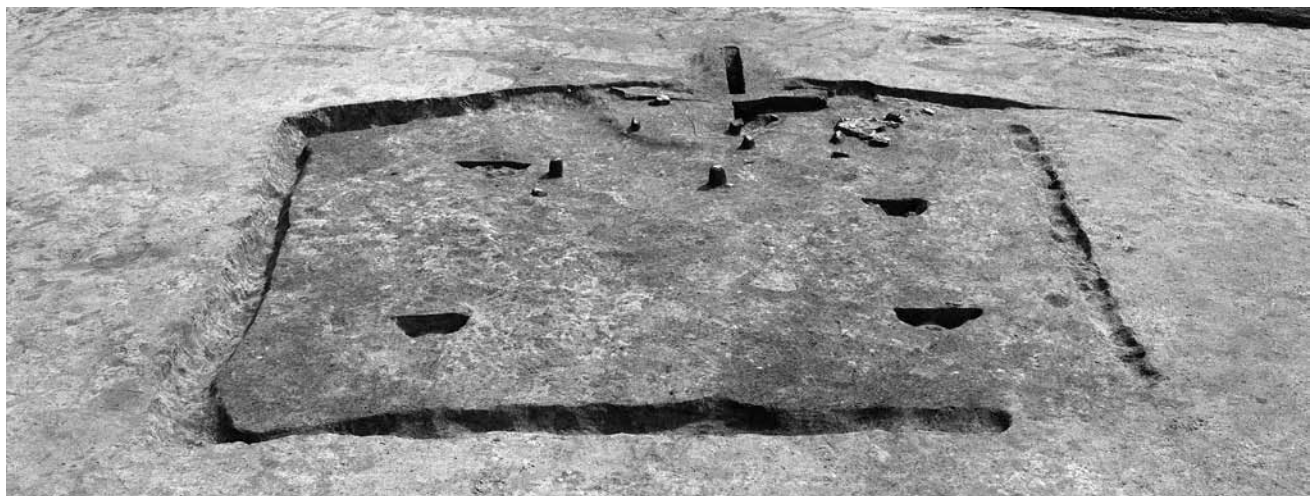
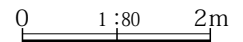


A-A'・B-B'・E-E'

- 1 黒褐色土。軽石・ロームブロックを多量に含む。
- 2 褐色土。多量のローム粒と少量の焼土粒・炭化物を含む。住居拡張前壁溝埋土。
- 3 黒褐色土。多量のローム粒・ハードロームブロック(5~30mm)を含む。住居貼り床土。貼り床土であるが、硬化が認められない。
- 4 黒褐色土。少量のローム粒・ローム小ブロック(3~10mm)を含む。
- 5 褐色土。多量のローム粒・ローム小ブロック(3~10mm)を含む。
3~5は掘り方埋土。住居掘り方は拡張前の底面にのみ存在し、拡張部は床面の延長と壁溝の付け替えのみを施工し、掘り方がない。

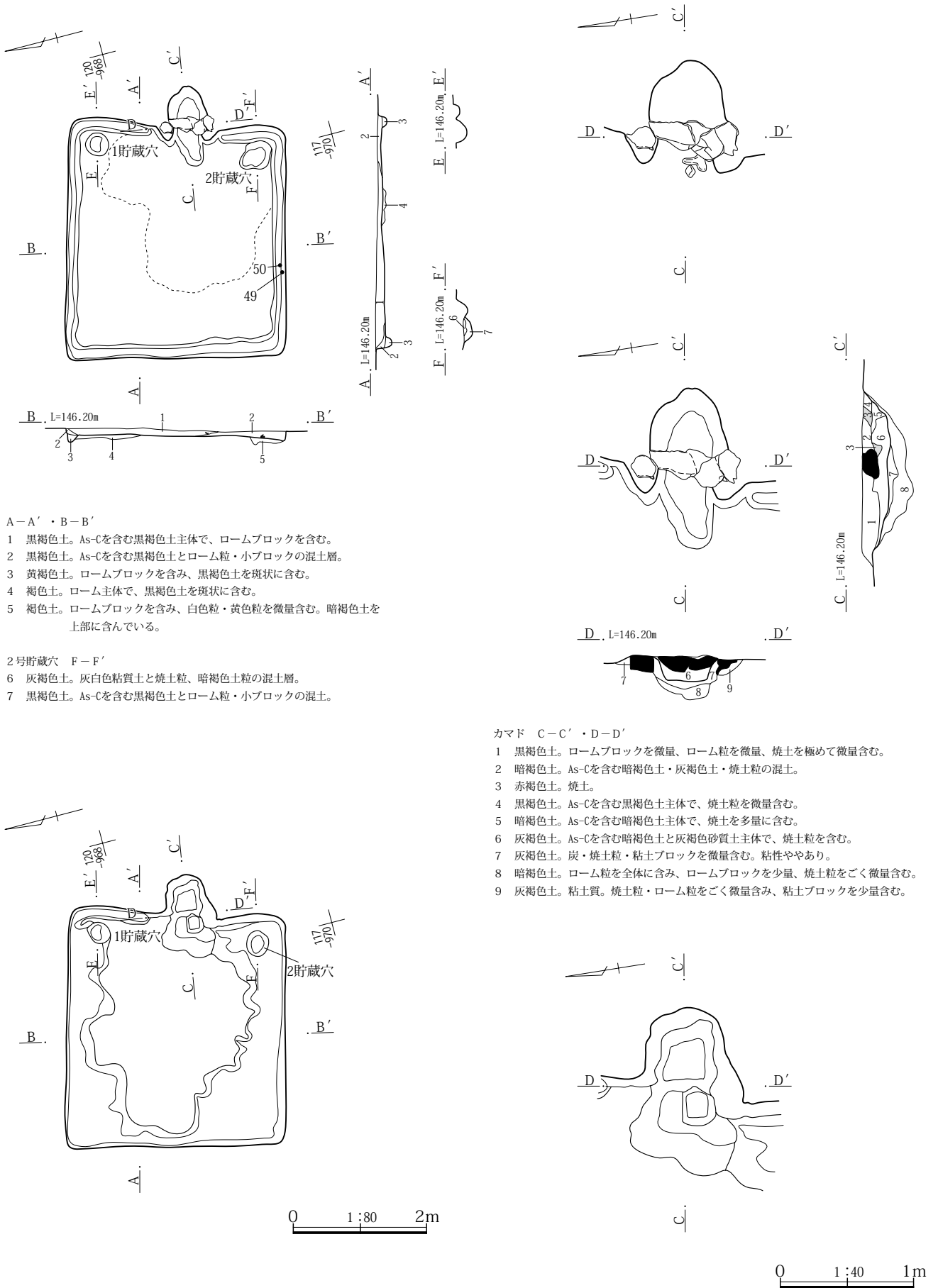
カマドC-C'・D-D'

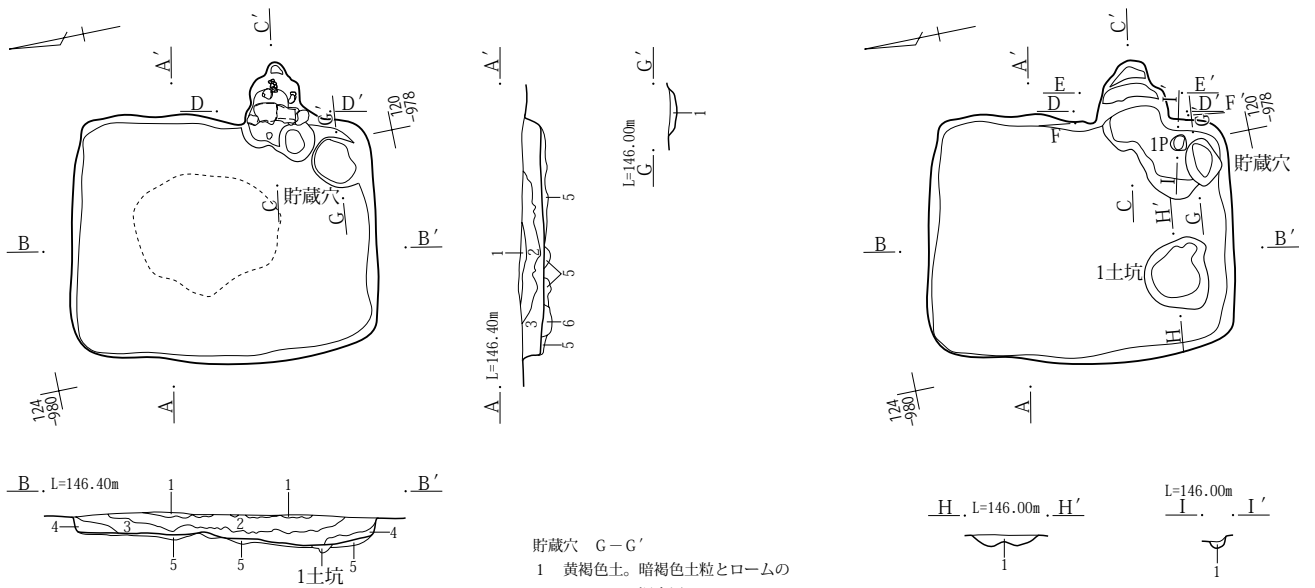
- 1 暗褐色砂質土。多量の白色軽石(Hr-FA)と少量の焼土粒・ローム粒を含む。
- 2 黒褐色砂質土。少量のローム粒・焼土粒を含む。
- 3 褐色土。多量の焼土ブロック(5~20mm)と少量の炭化物・灰を含む。天井部崩落土焼土を含む使用面。
- 4 暗褐色土。多量のローム粒・ローム小ブロック(3~10mm)を含む。
- 5 暗褐色土。多量のローム粒・ローム小ブロック(3~10mm)・黒色土ブロック(3~10mm)を含む。
- 6 黄色土。ローム土を主体にし、多量の黒色土ブロック(3~30mm)を含む。
4~6はカマド掘り方埋土。



第36図 II区8号住居遺構図

第4章 遺構と遺物





A-A' · B-B'

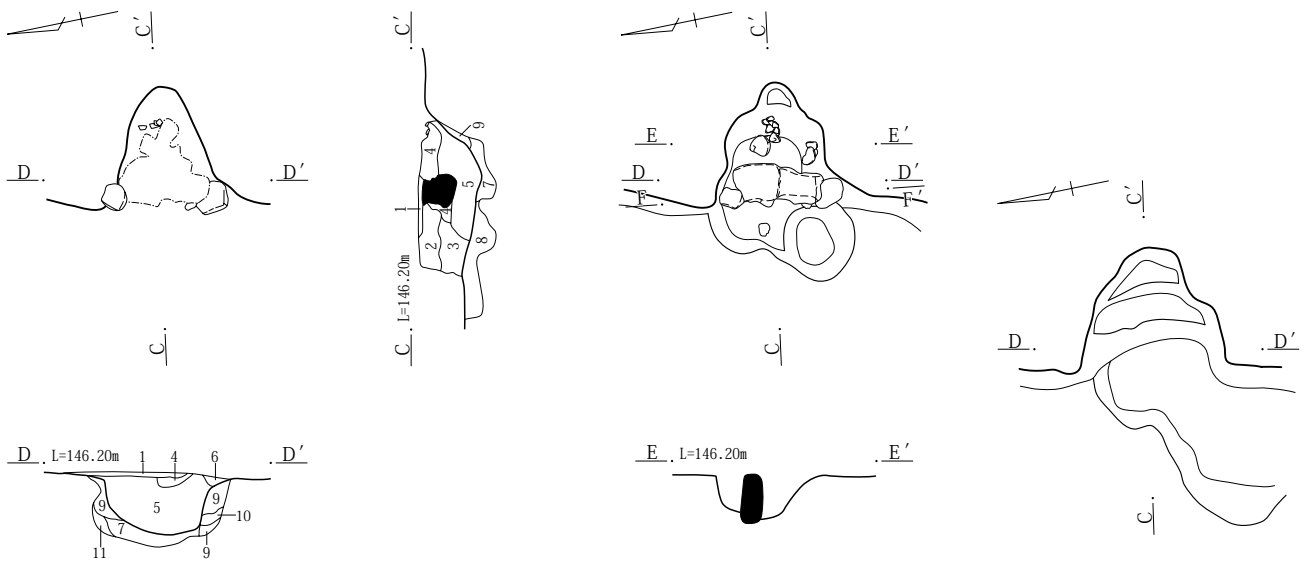
- 1 表土。
- 2 黒色土。白色粒(As-C)を均一に含む。
- 3 黒褐色土。白色粒を少量含み、ロームブロックを微量含む。黒色に近い黒褐色土を斑状に少量含む。
- 4 褐色土。ロームブロックを少量含み、黒褐色土を斑状に少量含む。
- 5 褐色土。ロームブロックを微量含み、暗褐色土を少量含む。
- 6 暗褐色土。ローム粒を少量含み、ロームブロックを微量含む。

1号土坑 H-H'

- 1 暗褐色土。ロームブロックと暗褐色土の混土层。

1号ピット I-I'

- 1 暗褐色土。ローム粒少量とロームブロックを微量含む。

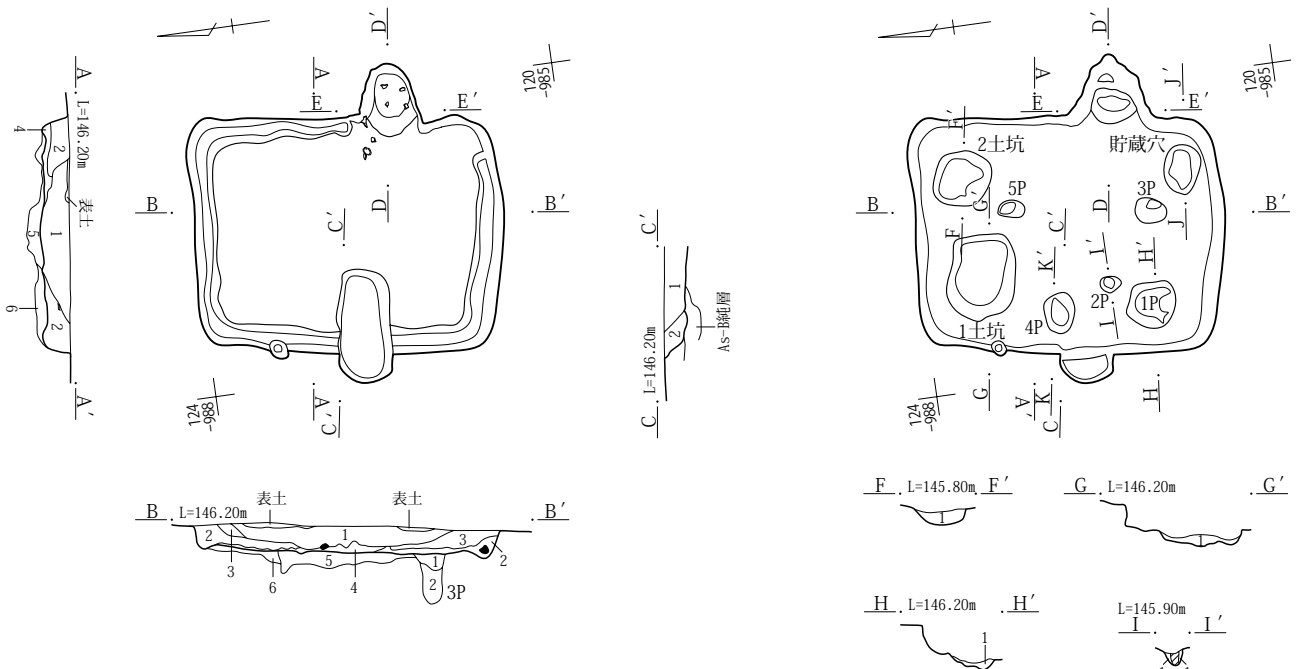


カマド C-C' · D-D'

- 1 暗褐色土。As-Cを含む暗褐色土主体で、焼土粒を含む。表土に似る。
- 2 暗褐色土。As-Cを含む暗褐色土主体で、八崎らしい軽石と焼土粒を含む。硬くしまりあり。
- 3 暗褐色土。暗褐色土とローム粒の混土。焼土粒を微量含む。
- 4 暗褐色土。八崎らしい軽石主体。カマド天井部材として八崎を使用か。
- 5 暗褐色土。As-Cを含む暗褐色土主体で、ローム大粒と焼土粒を多く含む。柔らかい。
- 6 茶褐色土。焼土粒と八崎?粒を含む暗褐色土。
- 7 暗褐色土。ローム粒・ロームブロックを少量含む。黒褐色土を斑状に含む。
- 8 褐色土。ローム粒を全体に含み、ロームブロックを少量含む。
- 9 暗褐色土。焼土粒を少量含み、白色粒を微量含む。
- 10 褐色土。焼土粒をごく微量含み、粘性ややあり。
- 11 黄褐色土。粘土質。

第38図 II区10号住居遺構図

第4章 遺構と遺物



A-A'・B-B'・C-C'

- 1 黒褐色土。As-Cを多く含む黒色土主体の層。
- 2 暗褐色土。As-Cを含む暗褐色土とローム、淡黒色土の混土層。
- 3 暗褐色土。As-Cを含む黒褐色土と淡黒色土ブロックの混土。
- 4 暗褐色土。ローム主体で、暗褐色土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土。ローム主体で、暗褐色土を斑状に含む。
- 6 褐色土。暗褐色土を少量含む。しまり弱い。

3号ピット

- 1 暗褐色土。ローム粒を少量含む。
- 2 褐色土。ロームブロックを少量含み、しまりやや弱い。

2号土坑 F-F'

- 1 褐色土。ロームを主体とし、ブロックを少量含む。

1号土坑 G-G'

- 1 褐色土。ロームを主体とし、ブロックを少量含む。粘性ややあり。

1号ピット H-H'

- 1 褐色土。ロームを主体とし、ブロックを少量含む。粘性ややあり。

2号ピット I-I'

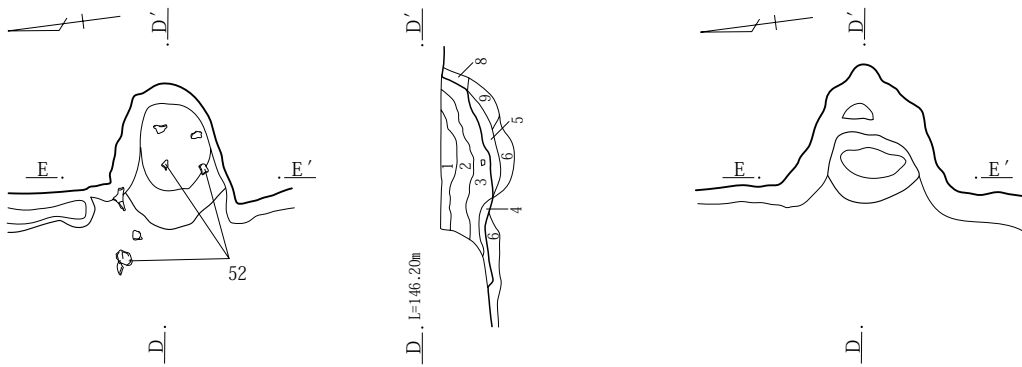
- 1 褐色土。ロームを主体とし、ブロックを少量含む。粘性ややあり。

貯蔵穴 J-J'

- 1 黒褐色土。焼土粒・ローム粒・ロームブロックを微量含む。

4号ピット K-K'

- 1 暗褐色土。ロームブロックを少量含み、黒褐色土を斑状に含む。
- 2 暗褐色土。ロームを主体とし、粘性ややあり。



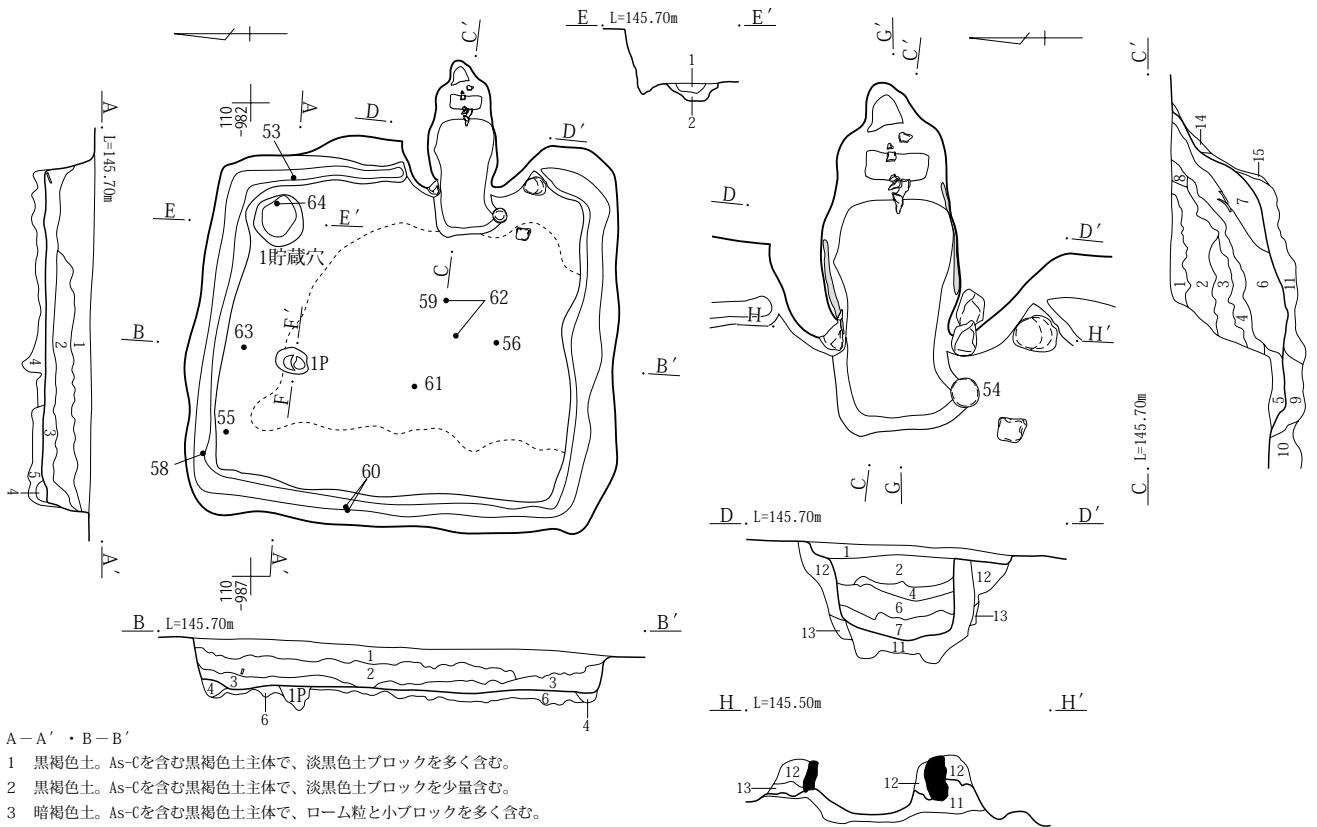
E-E', L=146.20m

カマド D-D'・E-E'

- 1 黒褐色土。白色粒を全体に含み、しまりやや強い。
- 2 黒褐色土。白色粒を少量、焼土粒を微量含む。
- 3 黒褐色土。白色粒・焼土粒とともに微量含み、粘性ややあり。
- 4 黒褐色土。ロームブロックを少量、焼土粒をごく微量含み、粘性ややあり。
- 5 暗褐色土。As-Cを含む黒褐色土小ブロックと、ローム粒・小ブロックの混土。焼土粒を微量含む。
- 6 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒を少量含み、粘性ややあり。
- 7 黒褐色土。白色粒・焼土粒を微量含み、粘土質。
- 8 暗褐色土。白色粒・焼土粒をごく微量含む。
- 9 暗褐色土。中央部に黒褐色土を広範囲に含み、ロームブロックを少量含む。

0 1:40 1m

第39図 II区11号住居遺構図



A-A'・B-B'

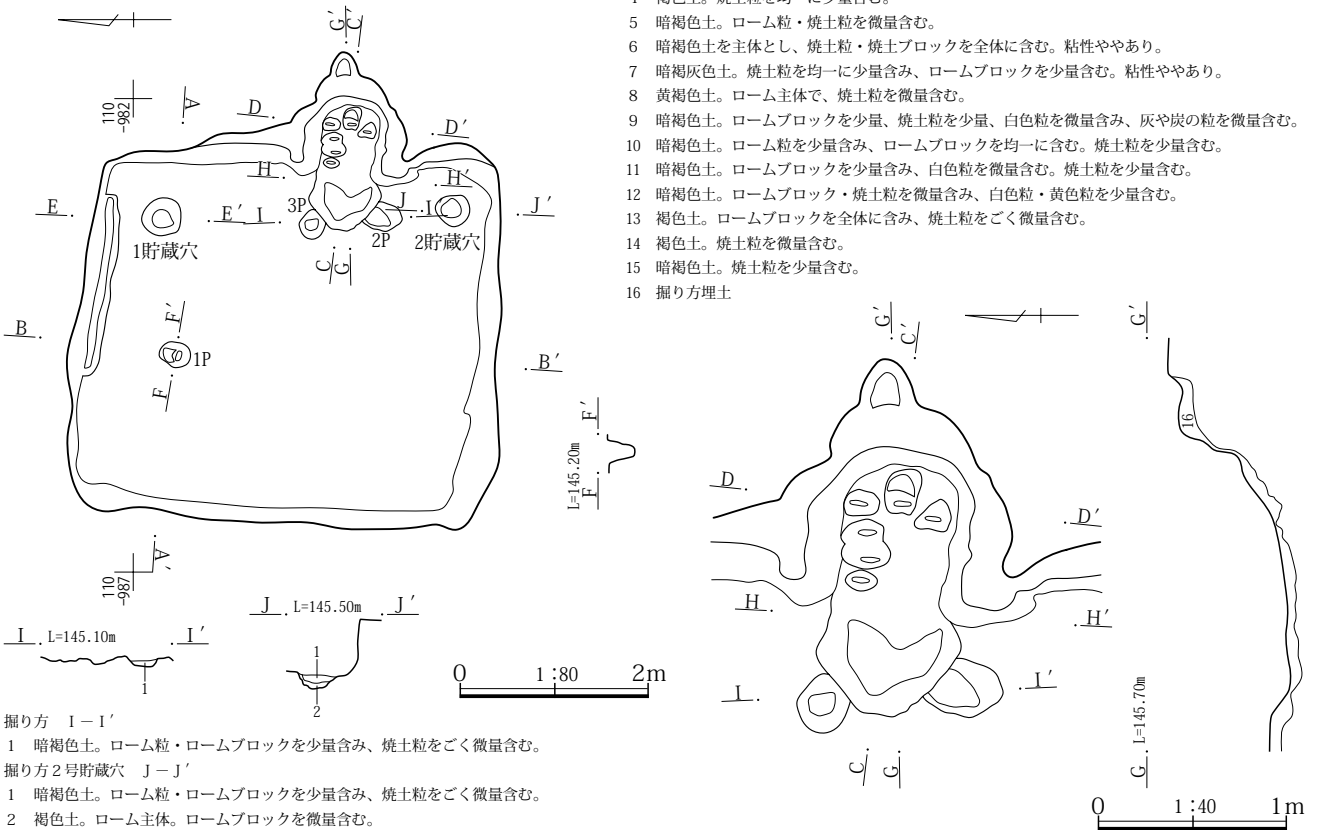
- 1 黒褐色土。As-Cを含む黒褐色土主体で、淡黒色土ブロックを多く含む。
- 2 黒褐色土。As-Cを含む黒褐色土主体で、淡黒色土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土。As-Cを含む黒褐色土主体で、ローム粒と小ブロックを多く含む。
- 4 暗褐色土。暗褐色土とローム粒の混土。
- 5 暗褐色土。暗褐色土を主体とし、ローム粒・ロームブロックを少量含む。
- 6 褐色土。ロームブロックを全体に含み、黒褐色土を斑状に含む。

1号貯蔵穴 E-E'

- 1 黒褐色土。As-Cを含む黒褐色土主体で、ローム粒を含む。しまり弱い。
- 2 暗褐色土。As-Cを含む黒褐色土とローム粒・小ブロックの混土。

カマド C-C'・D-D'・H-H'

- 1 黒褐色土。白色粒・黄色粒を微量含む。
- 2 暗褐色土。白色粒・黄色粒を少量含み、焼土粒を微量含む。ロームブロックを少量含み、黒褐色土を微量含む。
- 3 暗褐色土。黒褐色土のしみを中央部に含み、ロームブロックを少量、粘土ブロック・焼土粒を微量含む。
- 4 褐色土。焼土粒を均一に少量含む。
- 5 暗褐色土。ローム粒・焼土粒を微量含む。
- 6 暗褐色土を主体とし、焼土粒・焼土ブロックを全体に含む。粘性ややあり。
- 7 暗褐色灰土。焼土粒を均一に少量含み、ロームブロックを少量含む。粘性ややあり。
- 8 黄褐色土。ローム主体で、焼土粒を微量含む。
- 9 暗褐色土。ロームブロックを少量、焼土粒を少量、白色粒を微量含み、灰や炭の粒を微量含む。
- 10 暗褐色土。ローム粒を少量含み、ロームブロックを均一に含む。焼土粒を少量含む。
- 11 暗褐色土。ロームブロックを少量含み、白色粒を微量含む。焼土粒を少量含む。
- 12 暗褐色土。ロームブロック・焼土粒を微量含み、白色粒・黄色粒を少量含む。
- 13 褐色土。ロームブロックを全体に含み、焼土粒をごく微量含む。
- 14 褐色土。焼土粒を微量含む。
- 15 暗褐色土。焼土粒を少量含む。
- 16 掘り方理土



掘り方 I-I'

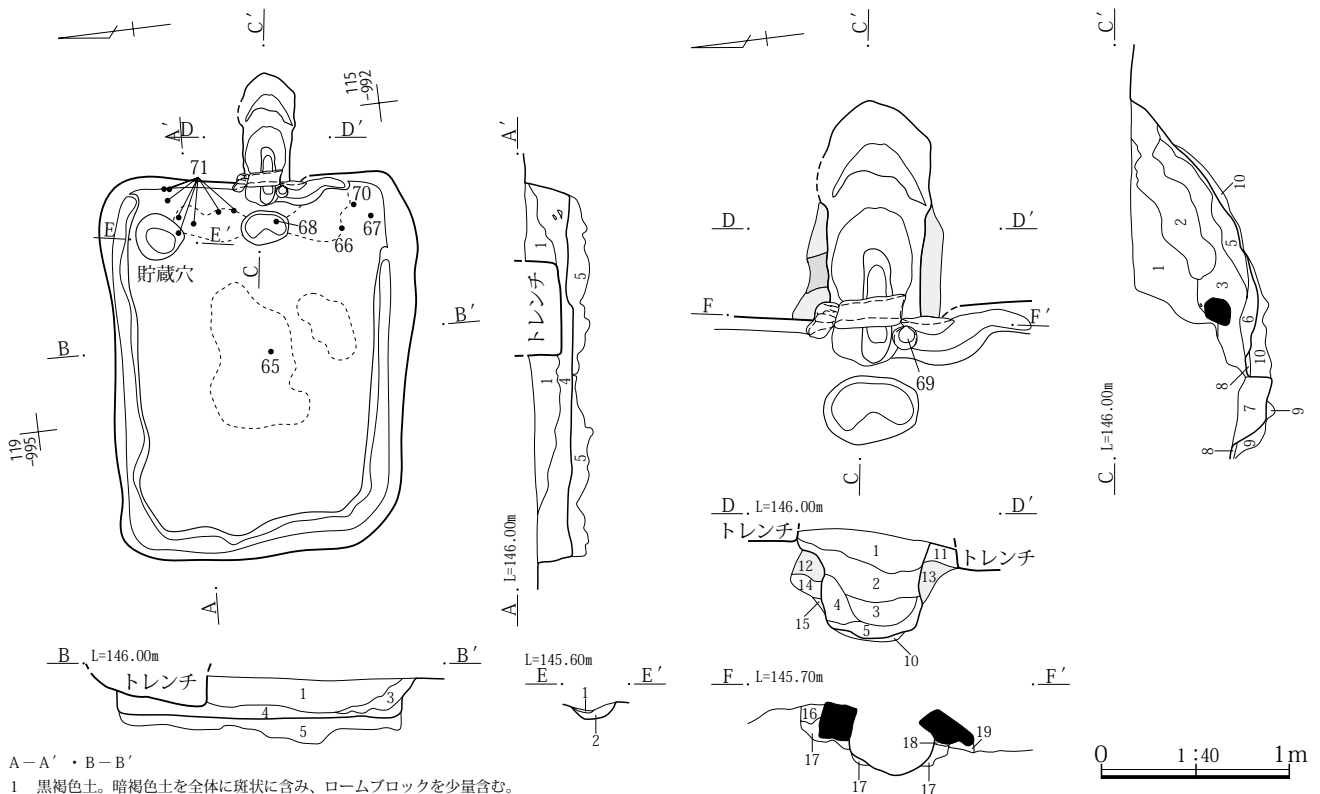
- 1 暗褐色土。ローム粒・ロームブロックを少量含み、焼土粒をごく微量含む。

掘り方2号貯蔵穴 J-J'

- 1 暗褐色土。ローム粒・ロームブロックを少量含み、焼土粒をごく微量含む。
- 2 褐色土。ローム主体。ロームブロックを微量含む。

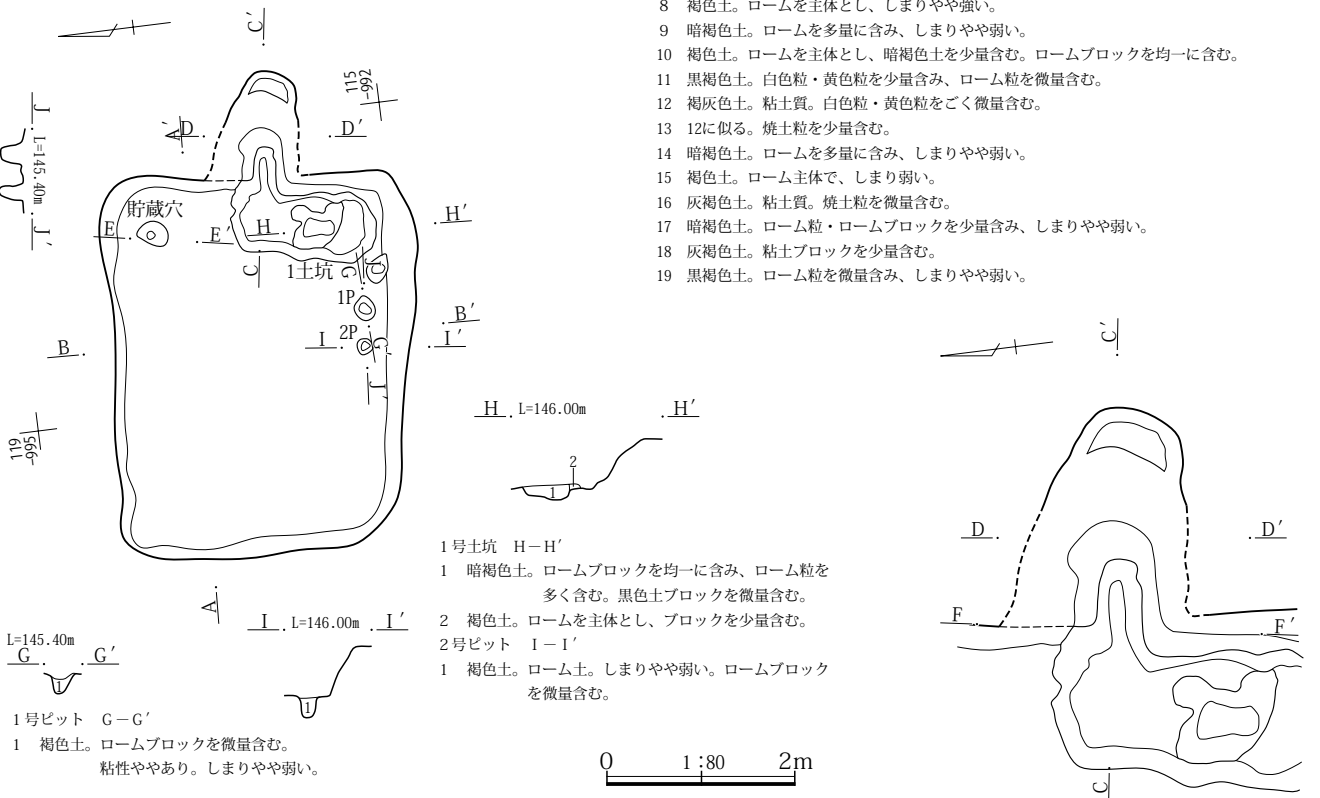
第40図 II区12号住居遺構図

第4章 遺構と遺物



- A-A'・B-B'
- 1 黒褐色土。暗褐色土を全体に斑状に含み、ロームブロックを少量含む。白色粒・黄色粒を全体に含む。
 - 3 黒褐色土。白色粒・黄色粒を少量含み、ロームブロックを微量含む。
 - 4 暗褐色土。ロームブロックを少量、白色粒を微量含む。ロームを斑状に少量含む。
 - 5 褐色土。ロームブロックを少量含み、暗褐色土を少量含む。ロームを多量に含む。
- 貯蔵穴 E-E'
- 1 黒褐色土。中央部にロームブロックあり。しまりやや弱い。
 - 2 暗褐色土。ローム粒を全体に含み。しまりやや弱い。

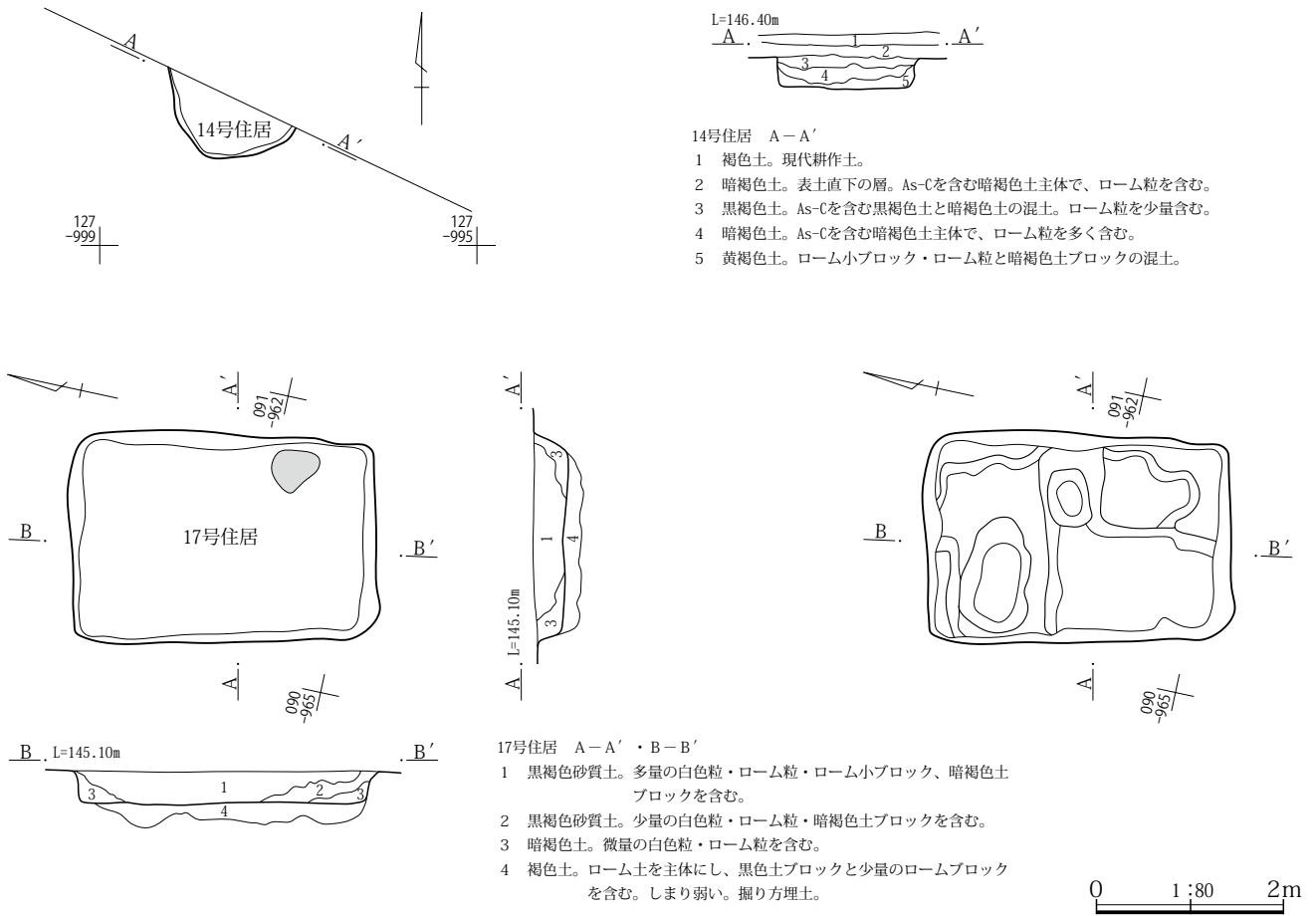
- カマド C-C'・D-D'・F-F'
- 1 黒褐色土。暗褐色土を斑状に含む。白色粒・黄色粒を少量含む。
 - 2 暗褐色土。白色粒・黄色粒を微量含み、焼土粒をごく微量含む。粘性ややあり。
 - 3 暗褐色土。焼土粒・焼土ブロックをごく微量含み、粘土ブロックを微量含む。粘性ややあり。
 - 4 灰褐色土。焼土粒を少量含み、ローム粒を微量含む。粘性ややあり。
 - 5 黒褐色土。ローム粒を少量含み、粘性ややあり。
 - 6 暗褐色土。ローム粒を全体に含み、ロームブロックを少量含む。粘性ややあり。
 - 7 暗褐色土。As-Cを含む暗褐色土主体で、ローム粒・ロームブロックを多量に含む。
 - 8 褐色土。ロームを主体とし、しまりやや強い。
 - 9 暗褐色土。ロームを多量に含み、しまりやや弱い。
 - 10 褐色土。ロームを主体とし、暗褐色土を少量含む。ロームブロックを均一に含む。
 - 11 黒褐色土。白色粒・黄色粒を少量含み、ローム粒を微量含む。
 - 12 褐灰色土。粘土質。白色粒・黄色粒をごく微量含む。
 - 13 12に似る。焼土粒を少量含む。
 - 14 暗褐色土。ロームを多量に含み、しまりやや弱い。
 - 15 褐色土。ローム主体で、しまり弱い。
 - 16 灰褐色土。粘土質。焼土粒を微量含む。
 - 17 暗褐色土。ローム粒・ロームブロックを少量含み、しまりやや弱い。
 - 18 灰褐色土。粘土ブロックを少量含む。
 - 19 黒褐色土。ローム粒を微量含み、しまりやや弱い。



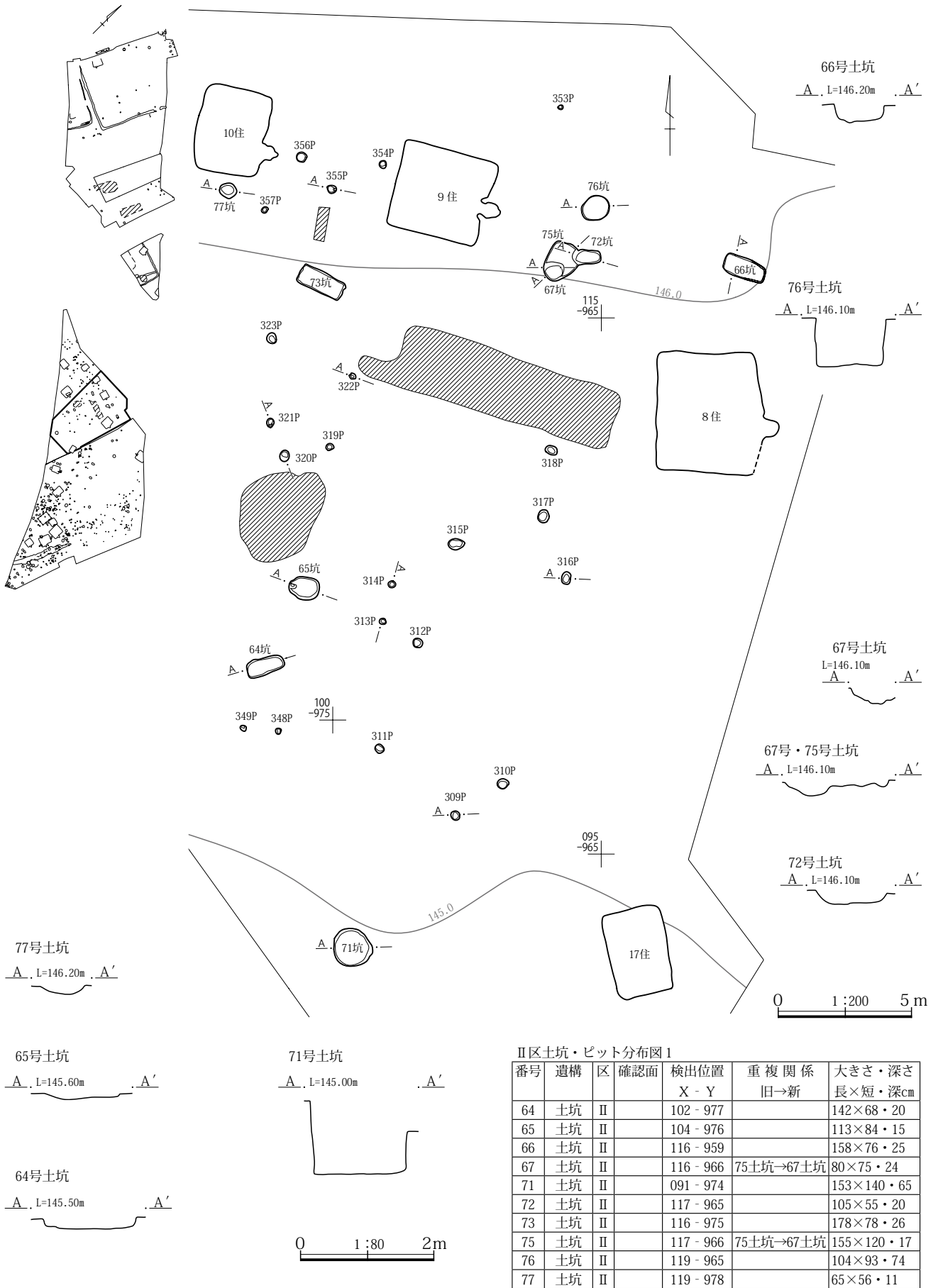
- 1号坑 H-H'
- 1 暗褐色土。ロームブロックを均一に含み、ローム粒を多く含む。黒色土ブロックを微量含む。
 - 2 褐色土。ロームを主体とし、ブロックを少量含む。
- 2号ピット I-I'
- 1 褐色土。ローム土。しまりやや弱い。ロームブロックを微量含む。

- 1号ピット G-G'
- 1 褐色土。ロームブロックを微量含む。粘性ややあり。しまりやや弱い。

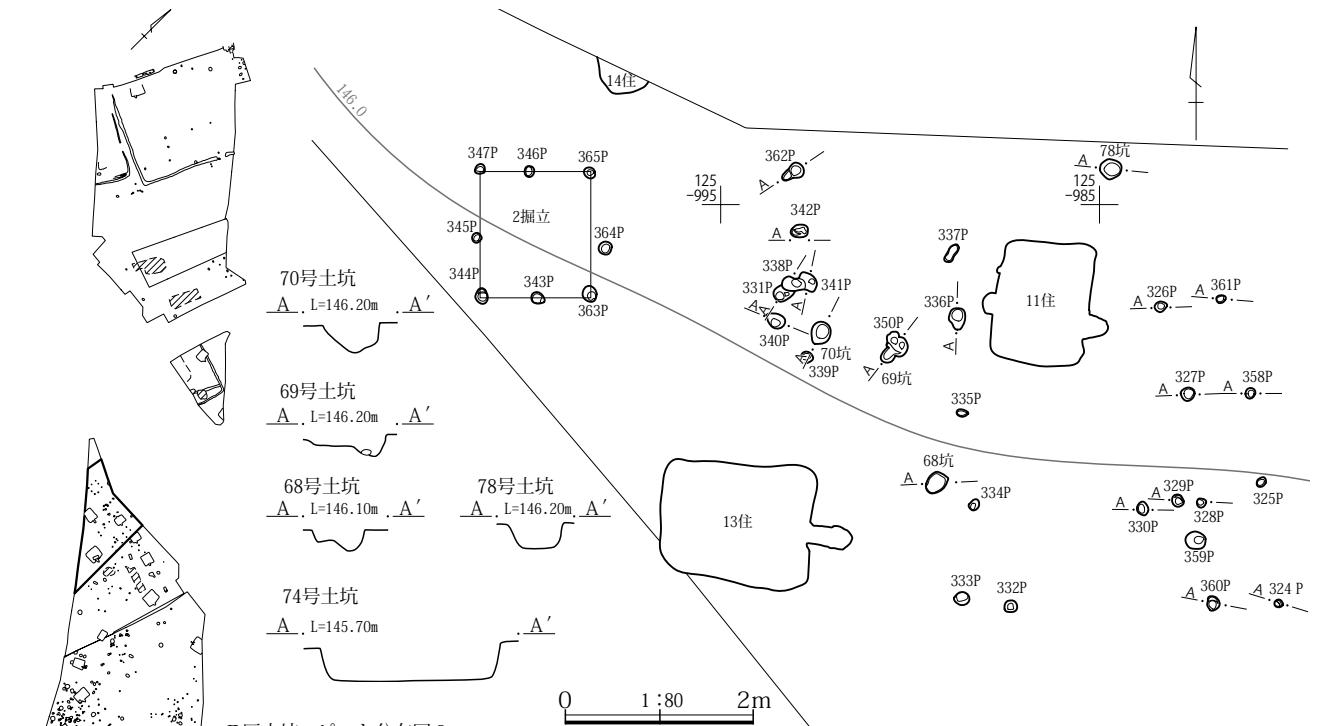
第41図 II区13号住居遺構図



第42図 II区14号・17号住居遺構図

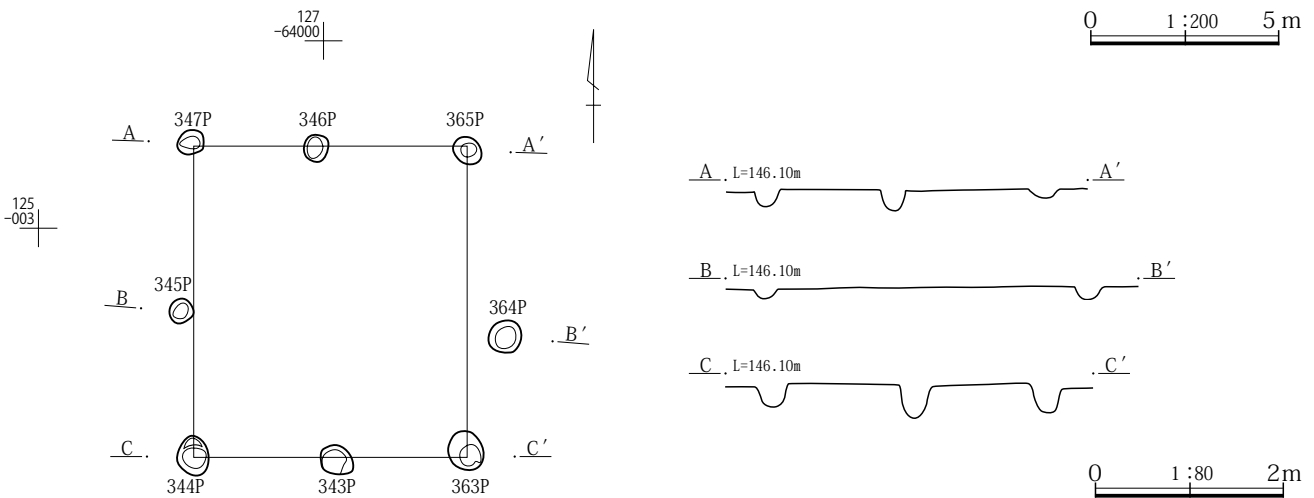
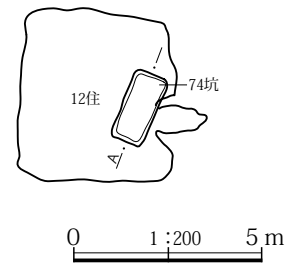


第43図 II区土坑・ピット分布図1



II区土坑・ピット分布図2

番号	遺構	区	確認面	検出位置 X - Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm
68	土坑	II		117 - 989		62×49・24
69	土坑	II		121 - 990	350P と重複	84×46・28
70	土坑	II		121 - 992		61×50・36
74	土坑	II		108 - 983	12住居内	192×93・40
78	土坑	II		125 - 984		58×53・27



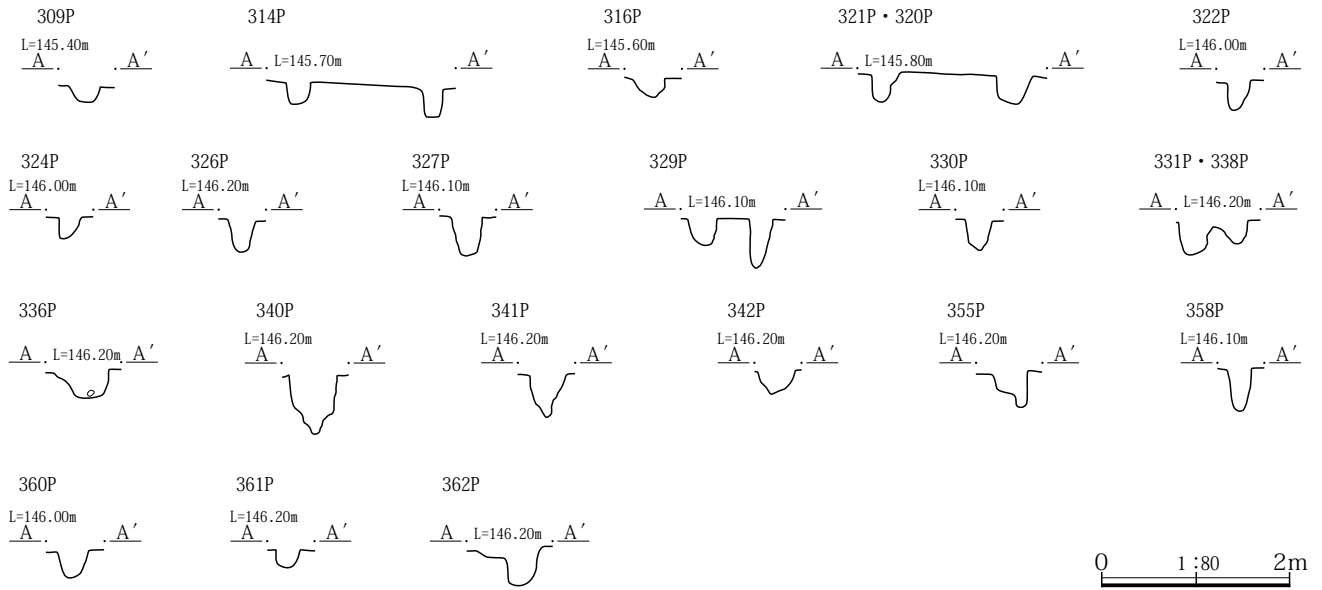
II区2号掘立柱建物計測値表

平面形 正方形		規模 2間×2間		長軸方位N-8°-W				
桁行cm	梁間cm	桁立柱間cm	梁間柱間cm	番号	規模			備考
ピット：距離	ピット：距離	ピット：距離	ピット：距離		上端長径×短径cm	下端長径×短径cm	深さcm	
344 - 347 : 335	344 - 363 : 293	344 - 345 : 155	344 - 343 : 149	344	42×33	25×21	22	
343 - 346 : 335	345 - 364 : 345	345 - 347 : 182	343 - 363 : 293	343	38×30	25×22	37	
363 - 365 : 325	347 - 365 : 294	363 - 364 : 130	347 - 346 : 132	363	42×36	21×21	37	
		364 - 365 : 203	346 - 365 : 164	345	27×24	18×12	11	
				364	35×33	24×20	17	
				347	27×25	21×13	17	
				346	29×25	22×15	20	
				365	31×27	16×14	11	

※1 計測値は1/40原図から起こした数値
 ※2 柱穴間の距離は下端芯で計測

第44図 II区土坑・ピット分布図2、2号掘立柱建物遺構図

第4章 遺構と遺物

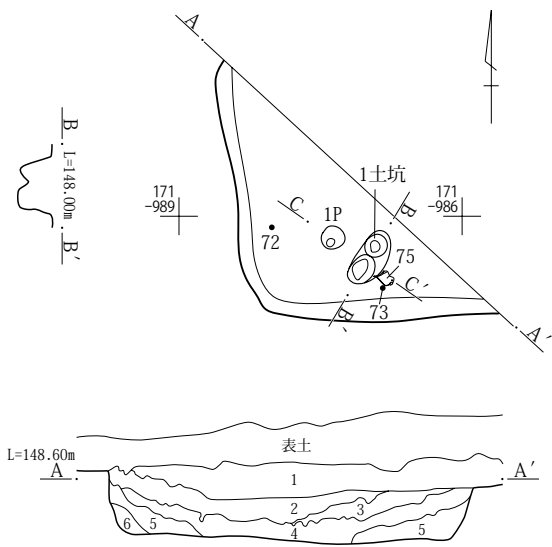
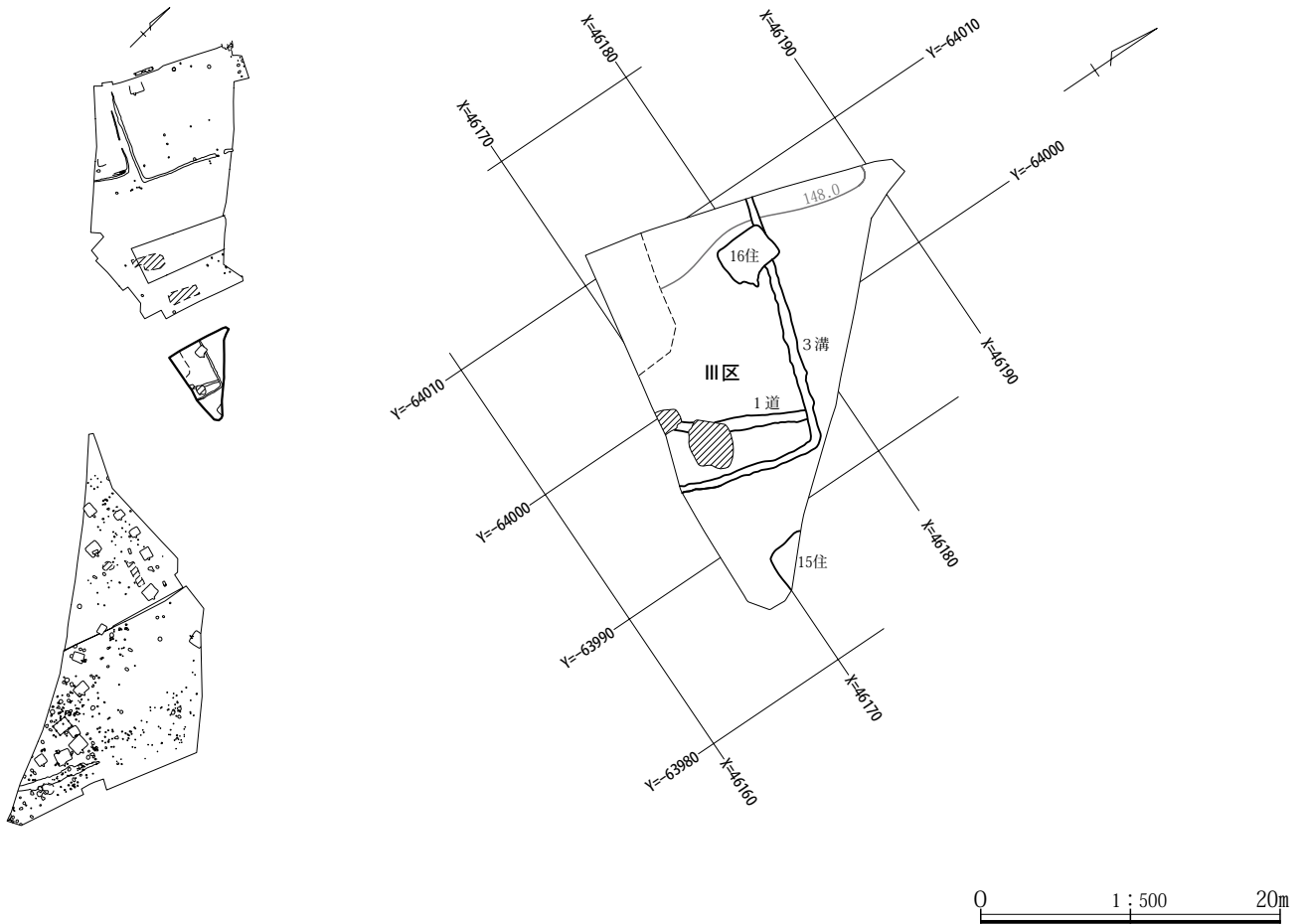


Ⅱ区土坑・ピット分布図1・2

番号	遺構	区	確認面	検出位置 X - Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm	分布図
309	ピット	Ⅱ		096 - 970		36×32・21	1
310	ピット	Ⅱ		097 - 968		44×38・14	
311	ピット	Ⅱ		099 - 973		35×30・11	
312	ピット	Ⅱ		102 - 972		38×36・11	
313	ピット	Ⅱ		103 - 973		25×22・32	
314	ピット	Ⅱ		105 - 972		27・24	
315	ピット	Ⅱ		106 - 970		62×42・18	
316	ピット	Ⅱ		105 - 966		46×33・25	
317	ピット	Ⅱ		107 - 967		48×42・24	
318	ピット	Ⅱ		110 - 966		44×35・22	
319	ピット	Ⅱ		110 - 975		30×24・18	
320	ピット	Ⅱ		109 - 976		42×35・29	
321	ピット	Ⅱ		111 - 977		34×26・32	
322	ピット	Ⅱ		112 - 974		25×22・32	
323	ピット	Ⅱ		114 - 977		40×35・21	
324	ピット	Ⅱ		114 - 980		21・25	
325	ピット	Ⅱ		117 - 980		28×23・18	
326	ピット	Ⅱ		122 - 983		33×27・39	
327	ピット	Ⅱ		120 - 982		38×35・65	
328	ピット	Ⅱ		117 - 982		24・43	
329	ピット	Ⅱ		117 - 982		34×30・29	
330	ピット	Ⅱ		117 - 983		36×30・37	
331	ピット	Ⅱ		122 - 933	338と重複	40× - ・36	
332	ピット	Ⅱ		114 - 987		34×30・26	
333	ピット	Ⅱ		114 - 988		40×36・21	
334	ピット	Ⅱ		117 - 988		31×26・19	
335	ピット	Ⅱ		119 - 988		31×19・7	

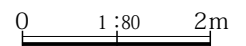
番号	遺構	区	確認面	検出位置 X - Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm	分布図
336	ピット	Ⅱ		122 - 988		56×43・31	2
337	ピット	Ⅱ		123 - 988		53×20・15	
338	ピット	Ⅱ		123 - 993	331・341と重複	62×32・46	
340	ピット	Ⅱ		122 - 993		52×38・66	
341	ピット	Ⅱ		123 - 992	338と重複	57× - ・49	
342	ピット	Ⅱ		124 - 992		46×32・25	
343	ピット	Ⅱ		122 - 999		37×30・31	
344	ピット	Ⅱ		122 - 001		42×34・24	
345	ピット	Ⅱ		124 - 001		26・11	
346	ピット	Ⅱ		125 - 000		28×24・21	
347	ピット	Ⅱ		125 - 001		27・19	
348	ピット	Ⅱ		099 - 977		22×20・13	1
349	ピット	Ⅱ		099 - 978		25×18・21	
350	ピット	Ⅱ		121 - 990	69土坑と重複	32× - ・13	2
353	ピット	Ⅱ		122 - 966		18・16	1
354	ピット	Ⅱ		120 - 973		30×27・8	
355	ピット	Ⅱ		119 - 975		35×30・38	
356	ピット	Ⅱ		121 - 976		40×38・12	
357	ピット	Ⅱ		119 - 977		26×22・15	
358	ピット	Ⅱ		120 - 981		30×24・46	
359	ピット	Ⅱ		116 - 982		54×45・18	
360	ピット	Ⅱ		114 - 982		38×34・32	
361	ピット	Ⅱ		122 - 981		24×20・21	2
362	ピット	Ⅱ		125 - 993		62×36・42	
363	ピット	Ⅱ		122 - 998		43×36・31	
364	ピット	Ⅱ		123 - 998		35・17	
365	ピット	Ⅱ		125 - 998		32×27・11	

第45図 Ⅱ区ピット断面図



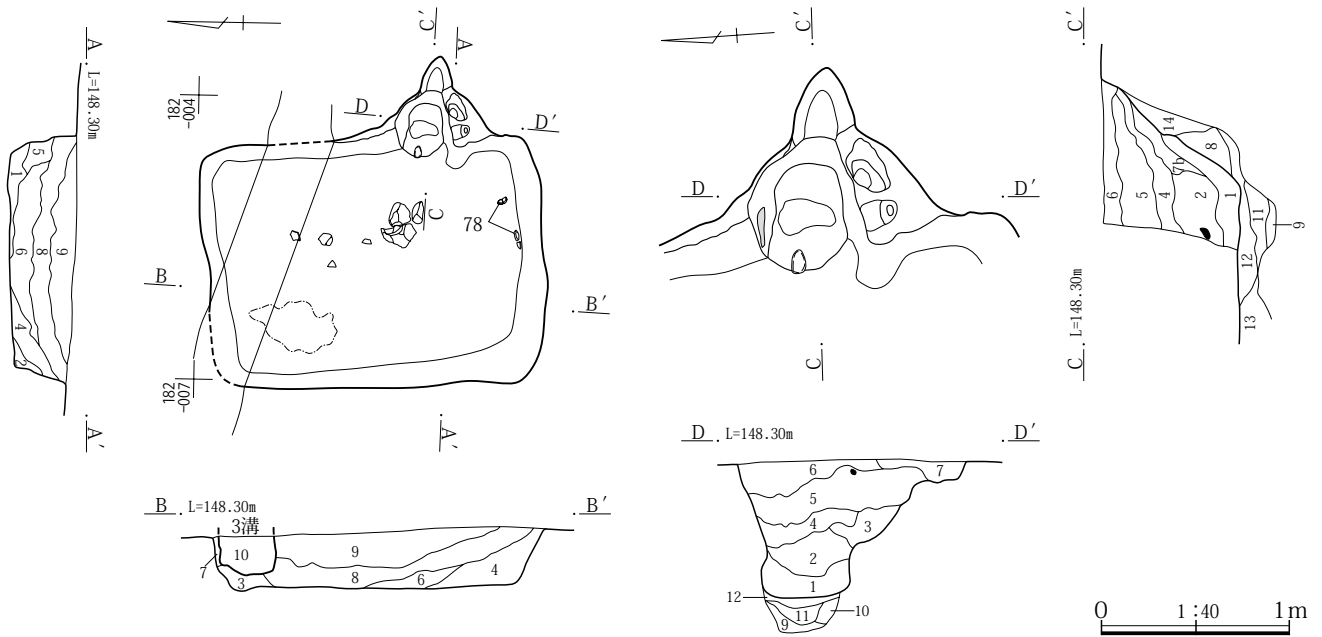
- A-A'
- 1 暗褐色土。As-B軽石堆積。桃色火山灰層あり。木の根攪乱が大きい。
 - 2 黒褐色土。Hr-PP軽石含む。
 - 3 暗褐色土。黒色土・ローム粒・軽石含む。
 - 4 黄褐色土。ローム粒・ブロック含む。
 - 5 黄褐色土。ローム粒・黒色土粒を含む。
 - 6 黄褐色土。ロームブロック含む。

- 1号ピット・1号土坑 C-C'
- 1 暗褐色土。黄褐色ロームを斑に含む。やや粘質。しまり弱い。
 - 2 暗褐色土。黄褐色ローム小ブロックを含む。黒色土を斑に含む。やや粘質。しまり弱い。



第46図 III区遺構配置図・15号住居遺構図

第4章 遺構と遺物

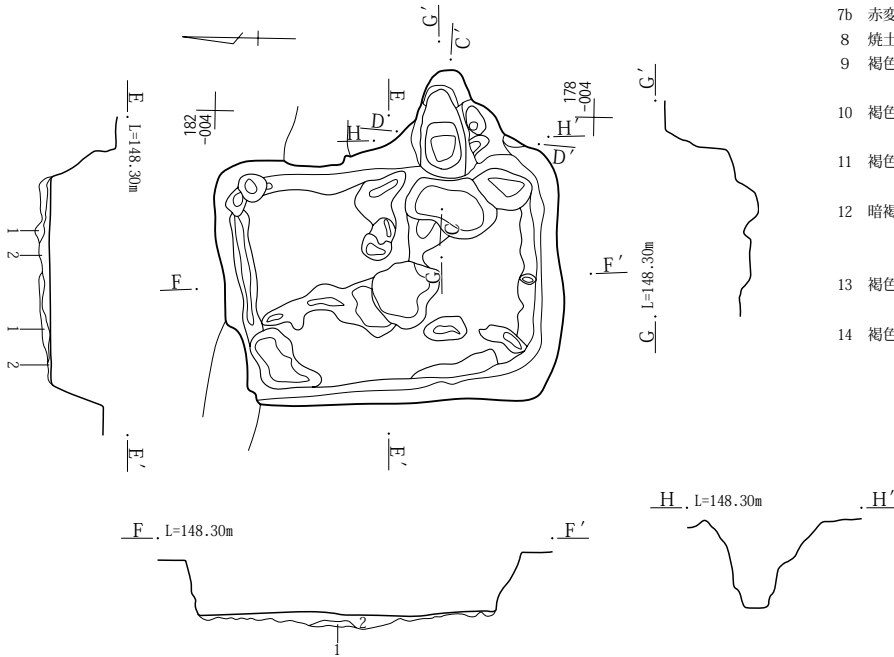


A-A'・B-B'

- 1 褐色土。ローム粒を含む。焼土粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土。ローム粒・小ブロックを含む。粘性あり。しまり弱い。
- 3 暗褐色土。ローム粒・小ブロックを含む。粘性あり。しまり弱い。
- 4 暗褐色土。ローム粒・崩れたローム斑を含む。
- 5 褐色土。ローム粒を少量含む。粘性あり。焼土は含まない。
- 6 褐色土。ローム小ブロックをごく少量含む。しまり弱い。
- 7 褐色土。ローム小ブロックを含む。しまりやや弱い。
- 8 褐色土。崩れたローム斑、As-YPを含む。しまりあり。
- 9 黒色土。As-C・Hr-FAを含む。最上位にAs-Bのアッシュ・パミスを多く含む。ローム粒を少量含む。粘性やや弱い。
- 10 3号溝覆土。

カマド C-C'・D-D'

- 1 褐色土。弱く赤変したロームを含む。やや粘質。しまり弱い。炭化物含まない。
- 2 褐色土。ローム粒少量含む。炭化物を少量含む。やや粘質。ややしまっている。
- 3 暗褐色土。褐色土ブロックを少量含む。やや粘質。ややしまっている。
- 4 にぶい黄褐色土。褐色土のブロックを含む。黒褐色土斑を少量含む。やや粘質。ややしまっている。
- 5 暗褐色土。褐色土ブロックを少量含む。やや砂質。1~4層よりしまっている。
- 6 黒褐色土。As-Bを多く含む。硬くしまっている。
- 7 黒褐色土。As-Bを多く含むが、汚れた感じ。6が乱されたもの。灰や顕著な炭化物はない。構造材は抜き取られている。構築材の残痕も覆土中には認められない。
- 7b 赤変したローム斑。焼土粒多く含む。
- 8 焼土ブロック・焼土斑を多く含む。
- 9 褐色土。ロームの崩れたものが主体。褐色土の小斑。弱く赤変したローム粒を含む。粘性弱い。しまり弱い。
- 10 褐色土。ローム小ブロックを含む。11が乱されたものか。粘性弱い。しまり弱い。
- 11 褐色土。ロームブロックを含む。焼土粒・炭化物粒を少量含む。粘性やや弱い。ややしまっている。
- 12 暗褐色土。ロームブロックを少量含む。焼土小ブロックを含む。炭化物やや多く含む。粘性やや弱い。しまっている。使用面下部。
- 13 褐色土。表層は硬くしまる。褐色土斑含む。粘性あり。しまっている。床面構成土。
- 14 褐色土。全体的に弱く赤変したロームの再堆積。粘性ごく弱い。しまり弱い。

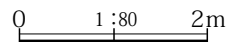


F-F', L=148.30m

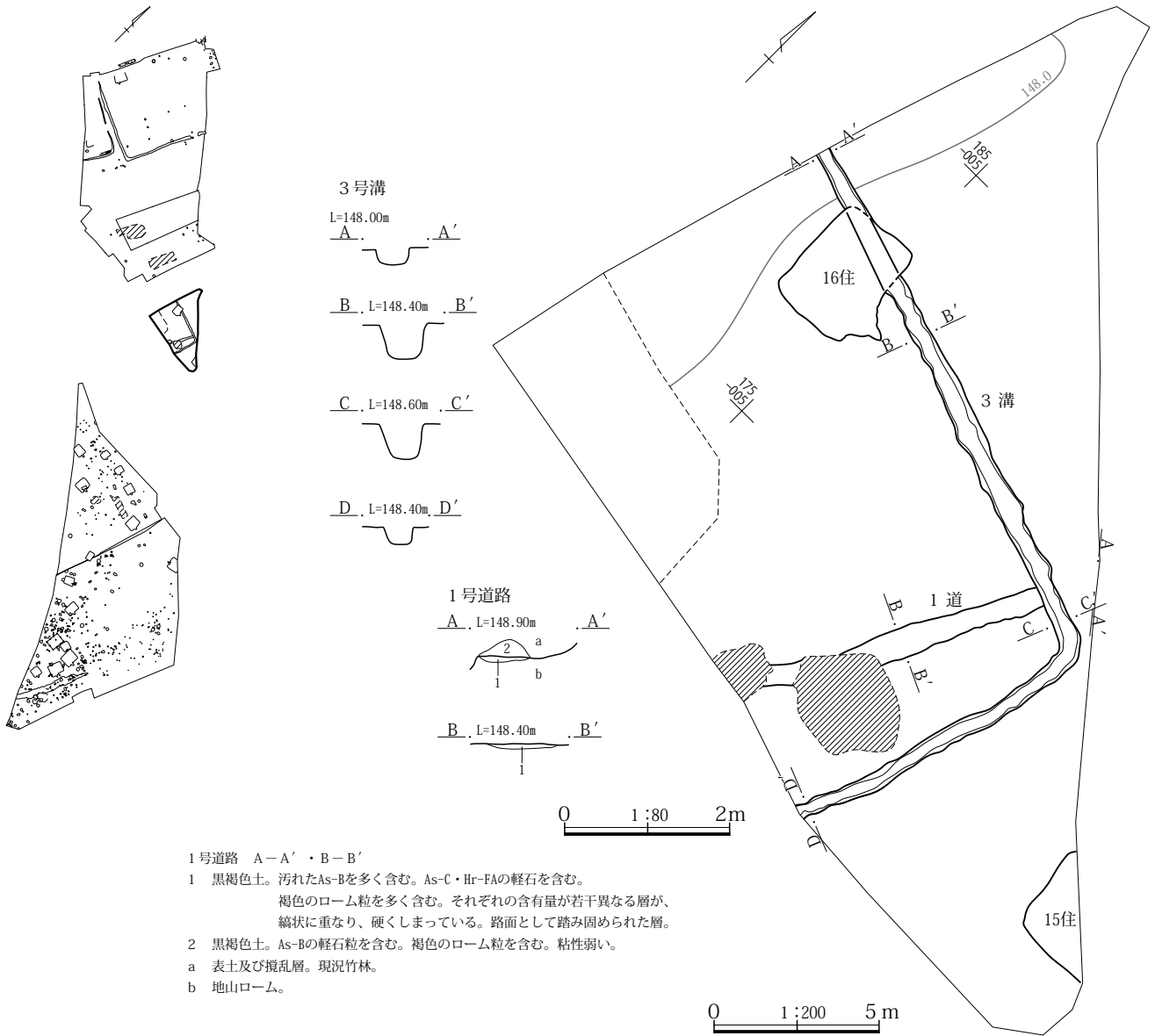
H-H', L=148.30m

掘り方 E-E'・F-F'

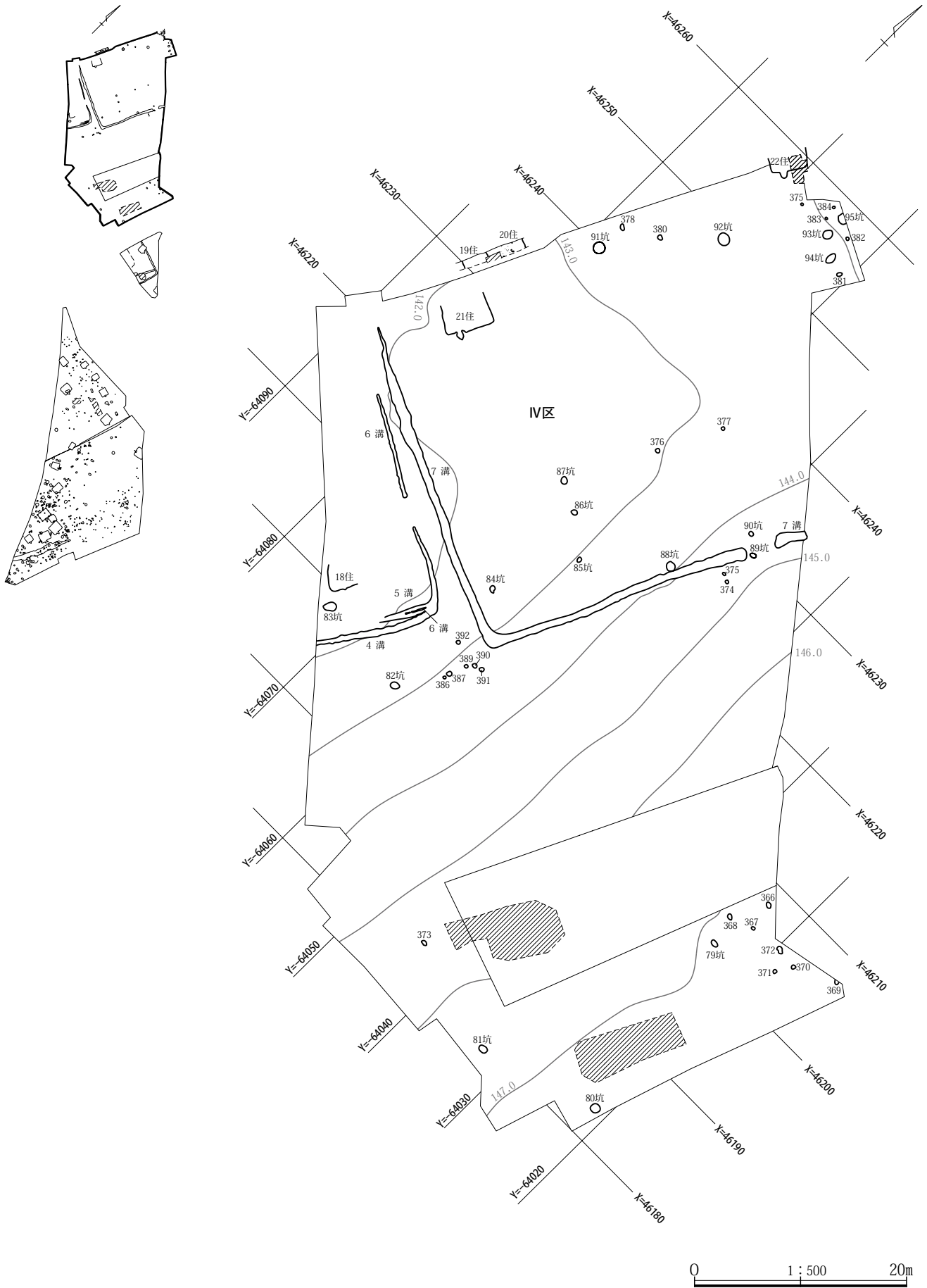
- 1 褐色土。褐色土の斑を含む。粘性やや強い。しまっている。
- 2 黒褐色土。As-C・Hr-FA粒ごく少量含む。褐色土斑を含む。表面は炭化物粒を多く含む。黒色を呈す。硬くしまっている。



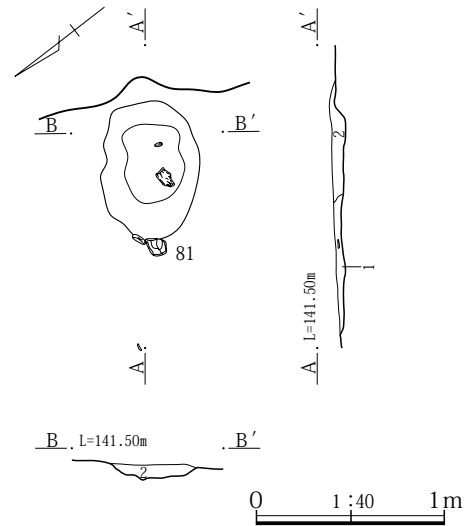
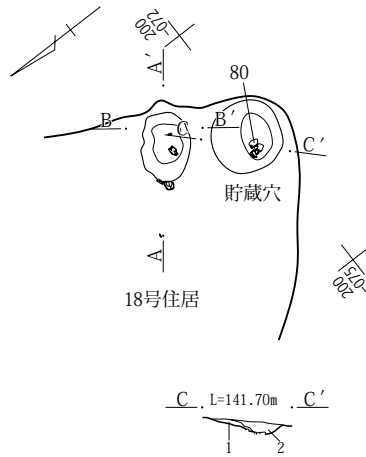
第47図 III区16号住居遺構図



第48図 Ⅲ区3号溝・1号道路遺構図



第49図 IV区遺構配置図

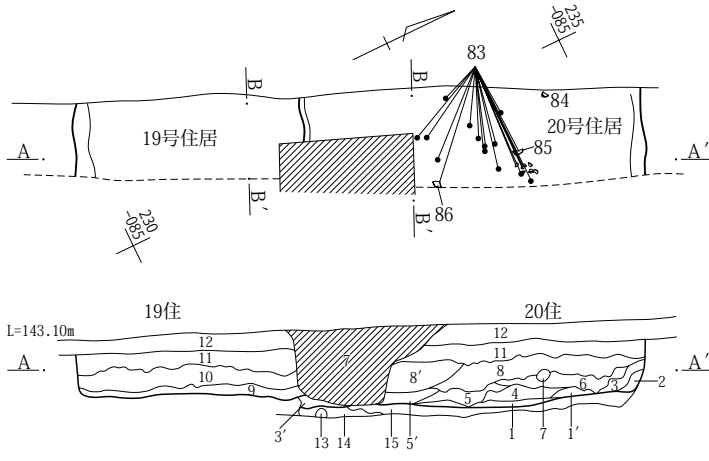


18号住居 貯蔵穴 C-C'

- 1 黒色土。焼土ブロック・にぶい黄褐色土粒(カマド起源か)を少量含む。やや粘質。ややしまっている。
- 2 黒色土。やや灰色がかった。As-C・Hr-FAを含む。焼土粒・にぶい黄褐色粘土粒をごく少量含む。やや粘質。ややしまっている。

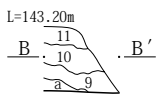
18号住居 カマド A-A'・B-B'

- 1 黒色土。焼土ブロック・にぶい黄褐色土粒(カマド起源か)を少量含む。やや粘質。ややしまっている。
- 2 貯蔵穴2に近いが、焼土ブロック・にぶい黄褐色粘土ブロックとともに大きく・多い。



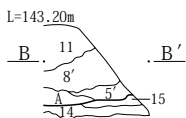
19号・20号住居 A-A'

- [20号住居]
- 1 黒褐色土。にぶい黄褐色土のぼやけた不定形小斑を含む。炭化物粒を少量含む。やや粘質。しまりやや弱い。As-C・Hr-FAはほとんどない。
 - 1' にぶい黄褐色土の斑を含まない。
 - 2 暗褐色土。明黄褐色土の斑を含む。やや粘質。ややしまっている。(壁面が崩れたもの)
 - 3・3' 黒褐色土。暗褐色土のぼやけた斑を含む。粘性弱い。しまり弱い。As-C・Hr-FAはほとんど含まない。
 - 4 黒褐色土。にぶい黄褐色土のぼやけた斑を含む。As-C・Hr-FAをごくわずか含む。やや粘質。しまりやや弱い。
 - 5 黒褐色土。にぶい黄褐色土のぼやけた斑を含む。As-C・Hr-FAをごくわずか含む。焼土粒・炭化物粒を含む。やや粘質。しまりやや弱い。
 - 5' 5よりも焼土粒・炭化物粒やや多い。
 - 6 黒褐色土。As-C・Hr-FAをやや多く含む。やや粘質。ややしまっている。
 - 7 攪乱。木の根。
 - 8 黒褐色土。As-C・Hr-FAをやや多く含む。暗褐色土のぼやけた斑を含むため、6よりもかなり明るく見える。やや粘質。ややしまっている。
 - 8' 8よりも黒味強い。しまり強い。炭化物粒を少量含む。



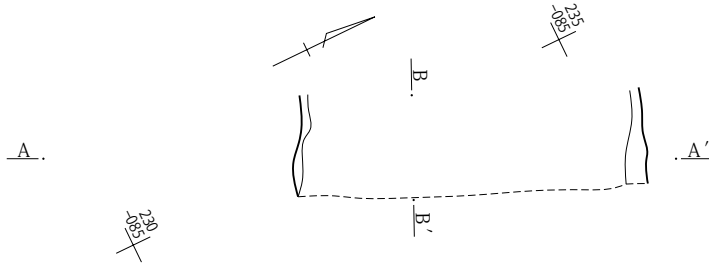
19号住居 B-B'

- a 黒褐色土。As-C・Hr-FAを含む。炭化物粒・焼土粒を含む。褐色土漸移層のぼやけた斑を含む。粘性・しまりに共に弱い。



20号住居 B-B'

- A 暗褐色土。褐色土漸移層が粒子化したもの。褐色土ローム斑を少量含む。粘性弱い。しまり弱い。壁際に近い位置と思われる。

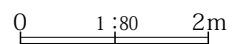


[19号住居]

- 9 黒褐色土。As-C・Hr-FAを少量含む。やや粘質。ややしまっている。
- 10 黒褐色土。As-C・Hr-FAをやや多く含む。暗褐色土粒を多く含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
- 11 暗褐色土。As-Bと思われる軽石を多量に含む。やや灰色味を帯びる。粘性なし。しまっている。
- 12 表土。

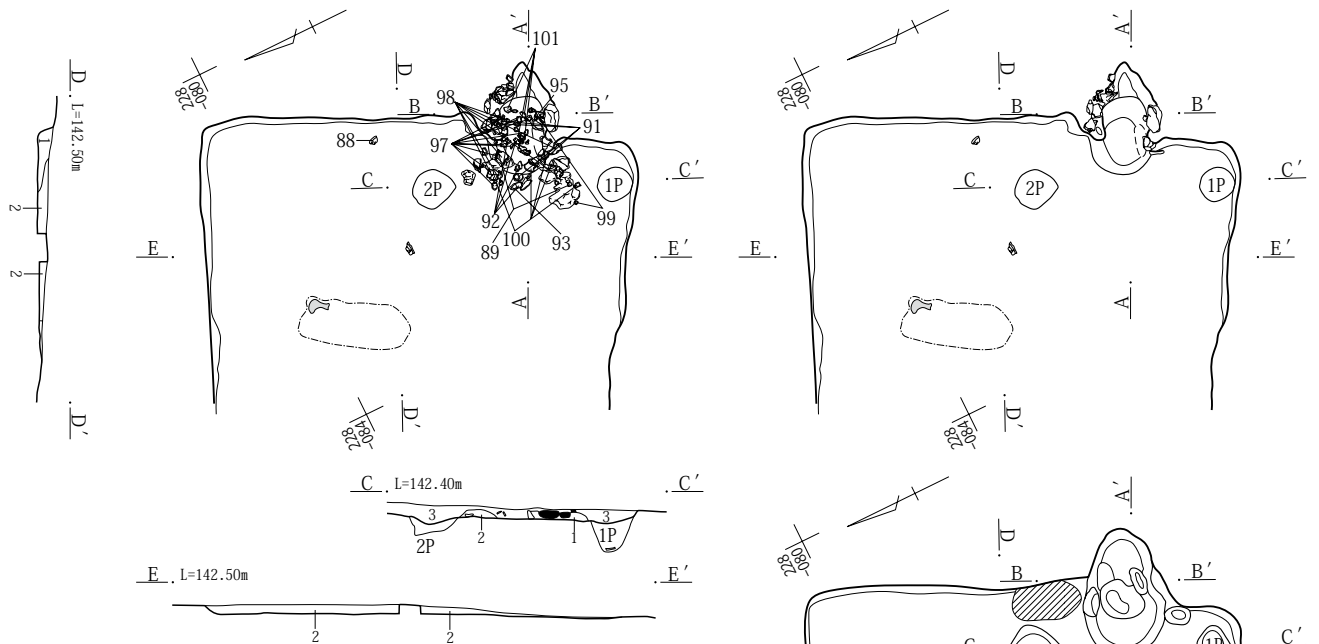
[20号住居掘り方]

- 13 にぶい黄褐色土。カマド用材と共通すると思われる灰白色粘土の崩れたブロック。1に含まれるものとはほぼ同じ。
- 14 黒褐色土。褐色土の不定形小斑を含む。炭化物粒を少量含む。やや粘質。ややしまっている。
- 15 黒褐色土。As-C・Hr-FAをごく少量含む。上位は圧縮されて、層状に変形する。



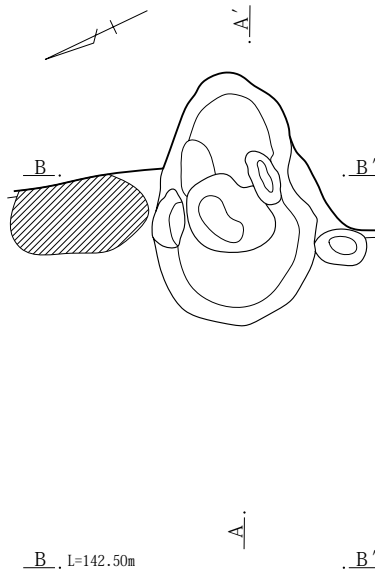
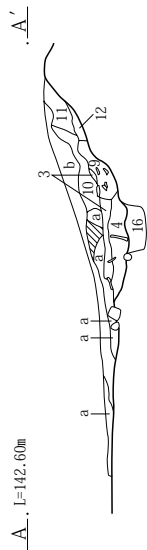
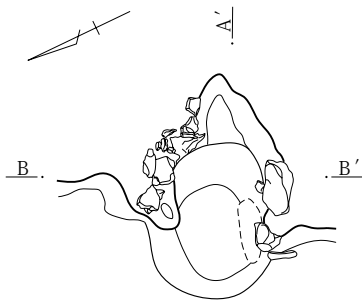
第50図 IV区18号住居、19号・20号住居遺構図

第4章 遺構と遺物



C-C'

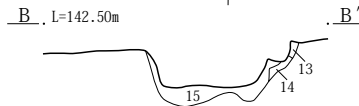
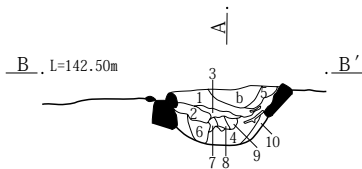
- 1 黒色土。As-C・Hr-FAを含む。焼土粒を少量含む。にぶい橙色のシルト-粘土粒を少量含む。
 - 2 黒色土。As-C・Hr-FAを少量含む。焼土粒含む。にぶい橙色のシルト-粘土ブロックを含む。しまっている。
 - 3 黒色土。As-C・Hr-FAを含む。焼土粒・炭化物粒を少量含む。粘性弱い。しまりやや強い。
- D-D'・E-E'
- 1 黒色土。炭化物粒を含む。にぶい橙色のぼやけた円形小斑を含む。やや粘質。しまっている。
 - 2 黒色土。As-C・Hr-FAを含む。炭化物粒・焼土粒を少量含む。粘性弱い。しまりやや強い。



0 1:80 2m

カマド掘り方
A-A'・B-B'

- 13 黒褐色土。暗褐色土斑を含む。白色粒含む。やや粘性あり。ややしまりあり。
- 14 暗褐色土。黒褐色土斑あり。
- 15 黒褐色土。焼土粒を少量含む。
- 16 黒色土。混入物少ない。粘性やや強く、ややしまっている。

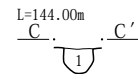
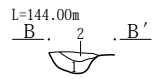
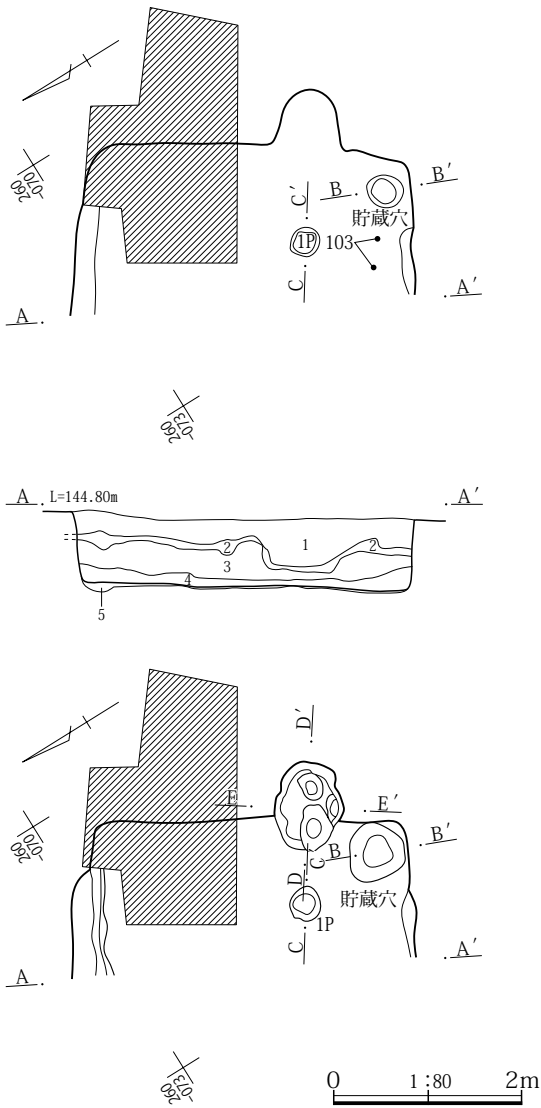


0 1:40 1m

カマド A-A'・B-B'

- 1 黒色土。灰白色粘土粒を含む。ややしまりあり。
- 2 黒褐色土。焼土ブロック・焼土粒含む。やや粘性あり。ややしまりあり。
- 3 黒褐色土。焼土粒を含む。やや粘性あり。ややしまりあり。
- 4 褐色土。焼土斑あり。しまりやや弱い。
- 5 黒色土。灰白色粒・焼土粒を含む。
- 6 黒褐色土。焼土小ブロックを含む。やや粘性あり。ややしまりあり。
- 7 焼土ブロック。攪乱された焼土ブロック。
- 8 焼土ブロック。
- 9 7に似る。
- 10 黒褐色土。焼土小ブロックを含む。As-C・Hr-FA・灰白色粒を含む。粘性やや弱い。しまりやや弱い。
- 11 黒色土。灰白色土斑あり。焼土粒を含む。As-C・Hr-FAを少量含む。粘性弱く、しまりやや弱い。
- 12 黒褐色土。焼土粒を少量含む。やや粘性あり。しまり弱い。粒子細かく揃っている。
- a 黒色土。As-C・Hr-FAを含む。炭化物粒・焼土粒を少量含む。粘性弱い。しまりやや強い。
- b 黒色土。炭化物粒を含む。にぶい橙色のぼやけた円形小斑を含む。やや粘質。しまっている。

第51図 IV区21号住居遺構図



貯蔵穴 B-B'

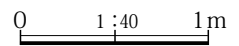
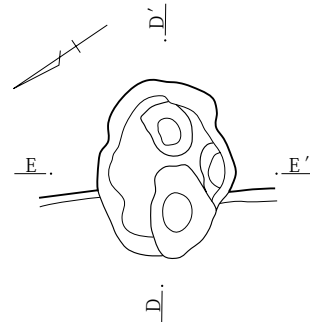
- 1 にぶい黄褐色土のブロックを主体とし、黒褐色土(2層)の汚れた斑を含む。
焼土粒・焼土小ブロックを含む。カマドからの流入土。
- 2 黒褐色土。焼土粒・炭化物粒を含む。As-C・Hr-FAを少量含む。
ややしまっている。

1号ピット C-C'

- 1 黒褐色土。焼土粒・炭化物粒を含む。As-C・Hr-FAを少量含む。
やや粘質。ややしまっている。

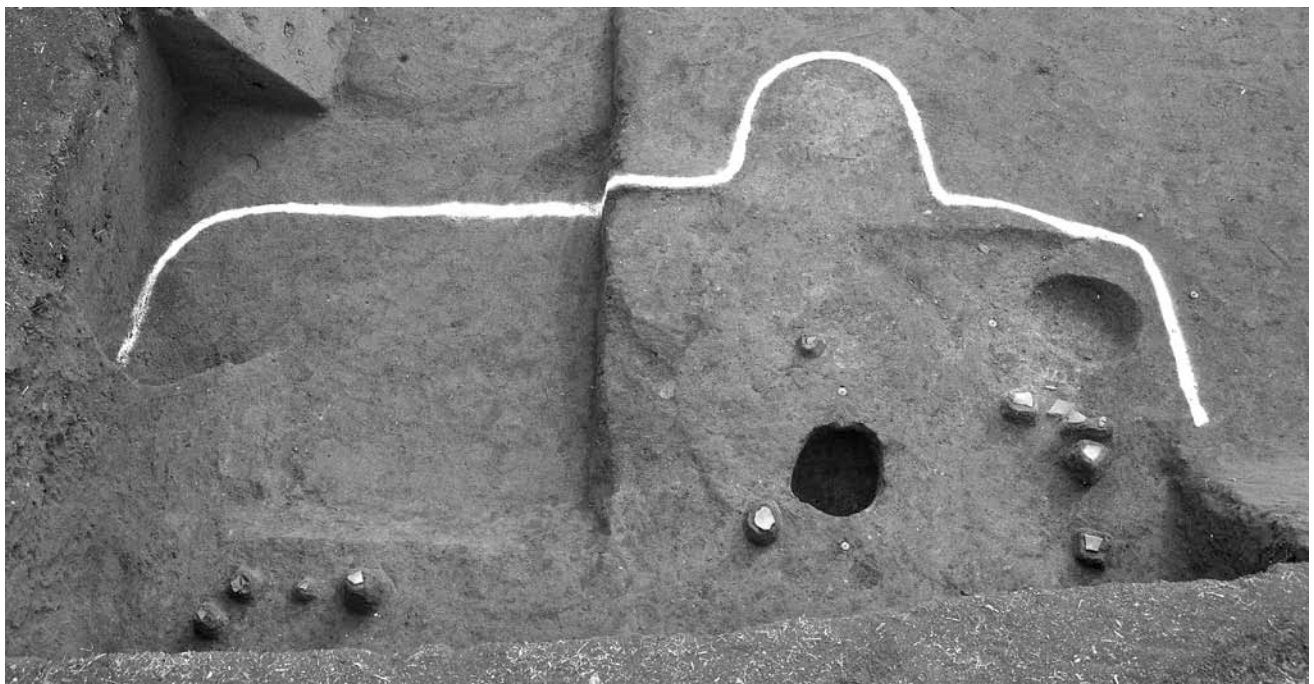
A-A'

- 1 暗褐色土。表土。
- 2 灰褐色土。表土。
- 3 暗褐色土。砂質土。ロームの漸移層褐色土を斑状に含み、多量の榛名白色軽石を含む。
- 4 黒褐色土。砂質土。少量のローム漸移層褐色土を斑状に含み、少量の榛名白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土。砂質土。多量のローム漸移層褐色土ブロック(φ30mm大)を含む、掘り方埋土。



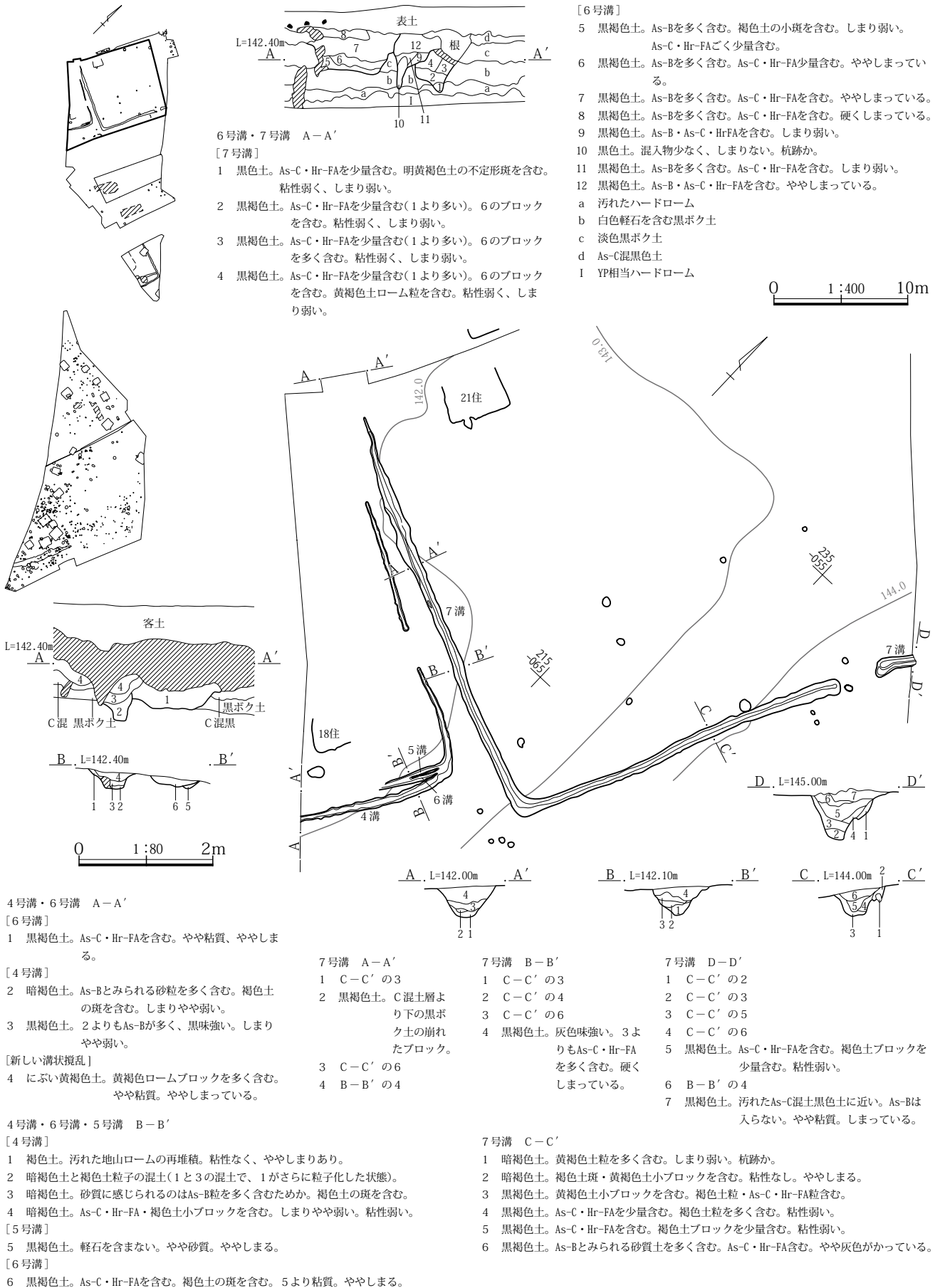
カマド D-D'・E-E'

- 1 暗褐色土。焼土粒を少量含む。粘性弱い。ややしまっている。
- 2 褐色土。焼土小ブロックを含む。黄褐色土の斑を含む。炭化物粒含む。
やや粘質。しまっている。
- 3 褐色土焼土小ブロックを含む。黄褐色土ブロックを含む。粘性強い。

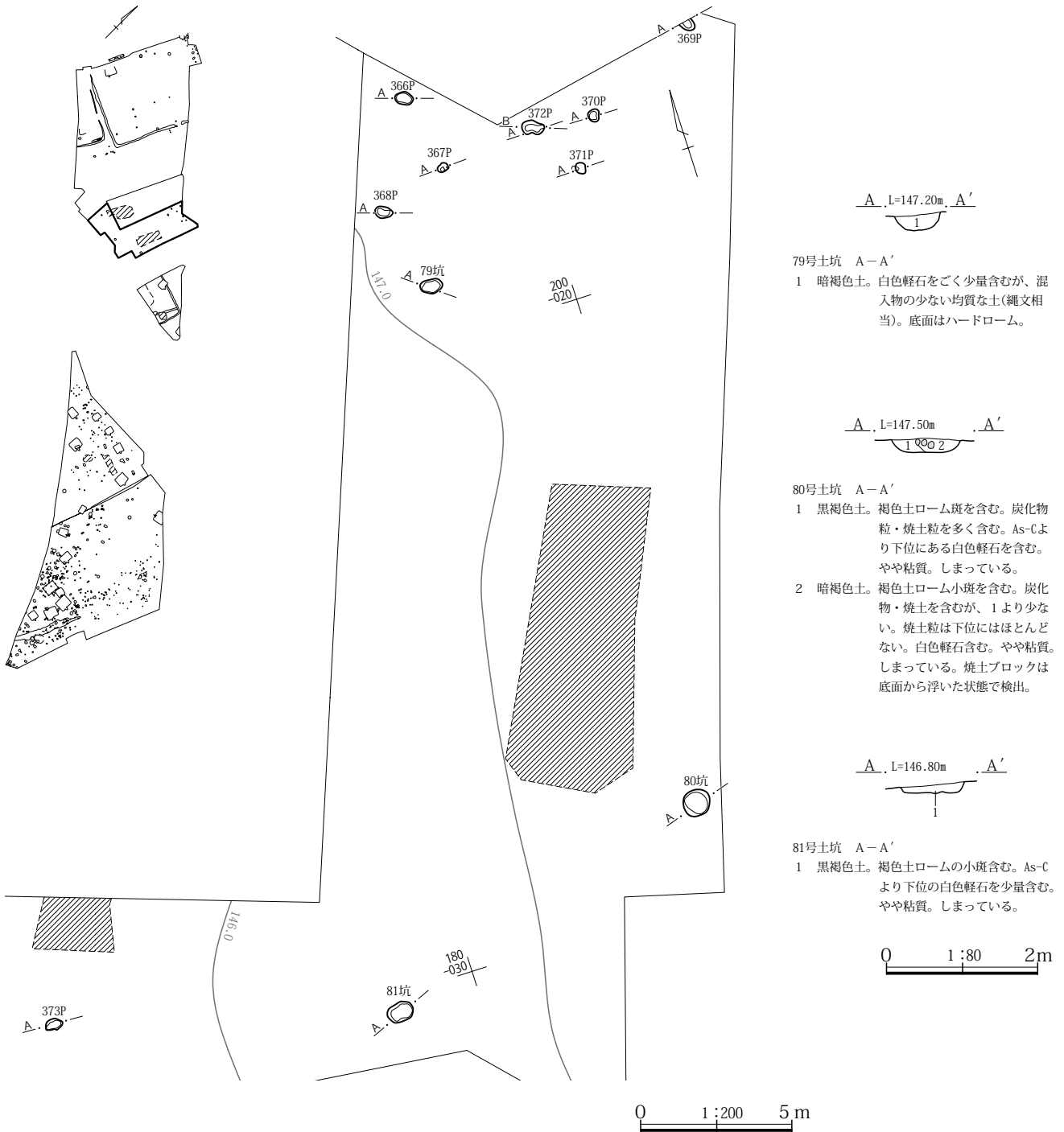


第52図 IV区22号住居遺構図

第4章 遺構と遺物



第53図 IV区4号～7号溝遺構図

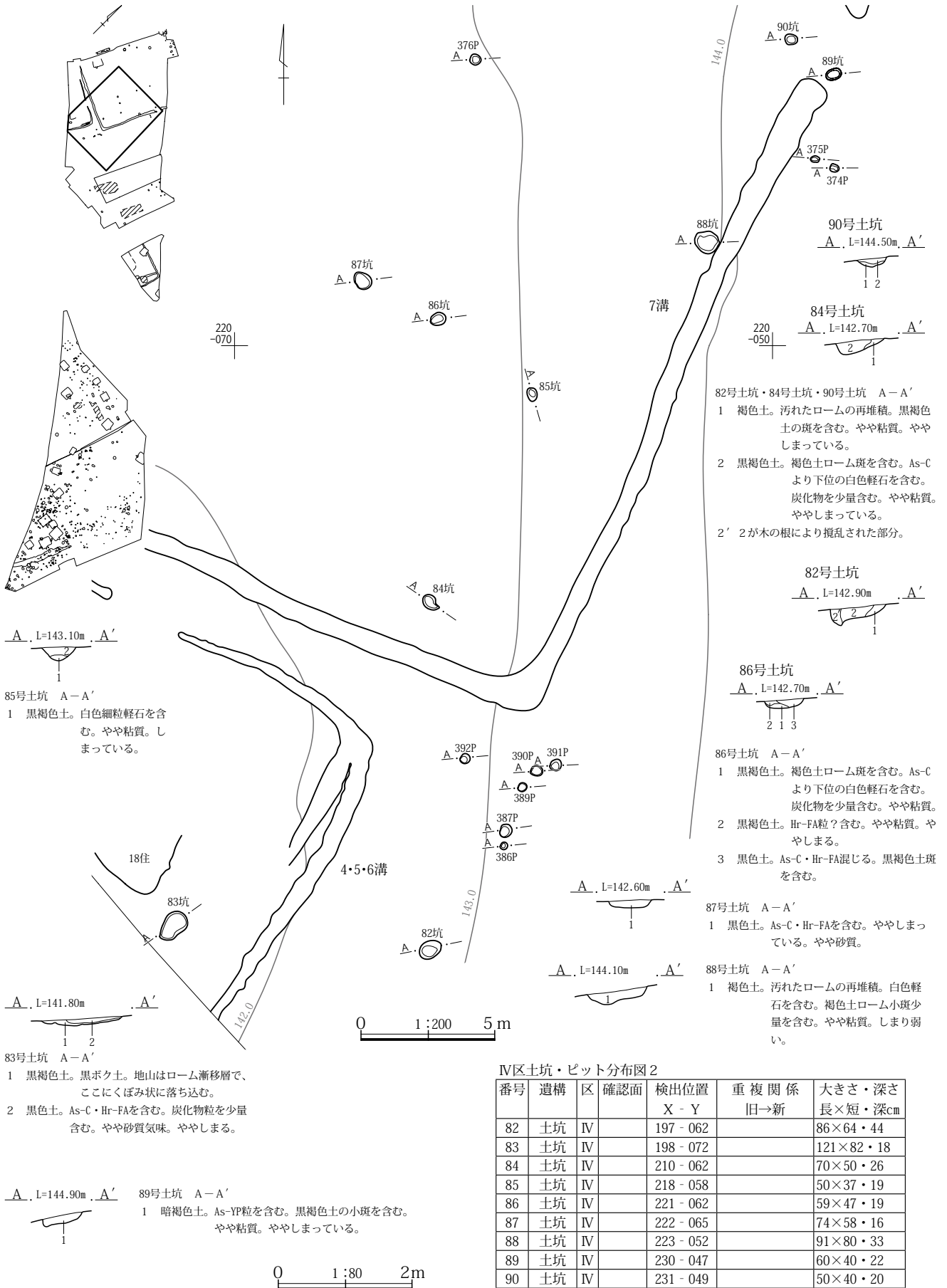


IV区土坑・ピット分布図1

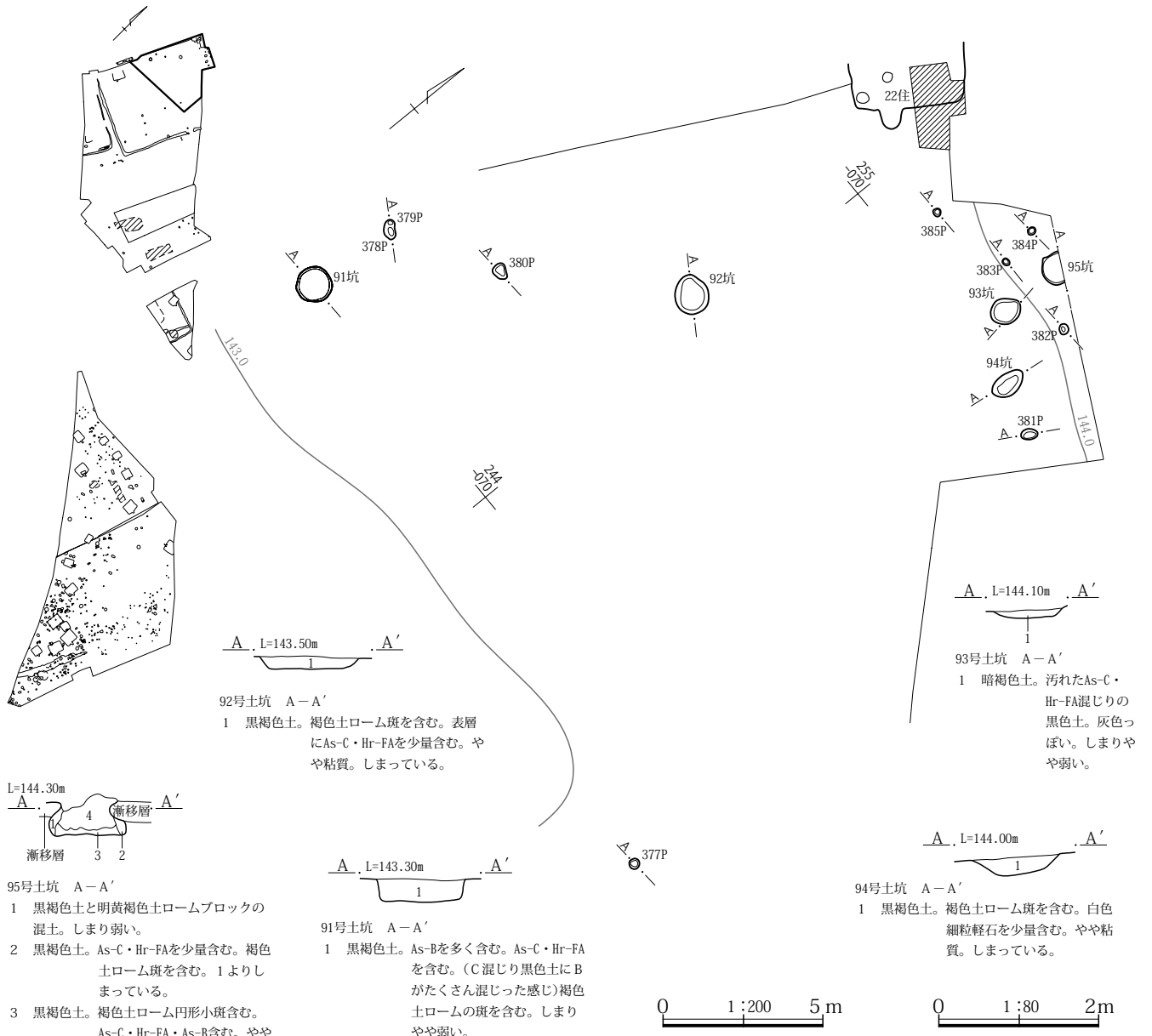
番号	遺構	区	確認面	検出位置	重複関係	大きさ・深さ
79	土坑	IV	1	201 - 024	旧→新	72×48・26
80	土坑	IV	1	183 - 021		95×87・25
81	土坑	IV	1	179 - 032		86×62・20

番号	遺構	区	確認面	検出位置	重複関係	大きさ・深さ
366	ピット	IV		208 - 023		60×40・16
367	ピット	IV		205 - 022		38×28・43
368	ピット	IV		204 - 025		60×38・41
369	ピット	IV		207 - 013		40×36・13
370	ピット	IV		205 - 017		40×36・41
371	ピット	IV		204 - 018		46×35・57
372	ピット	IV		205 - 019		75×42・43
373	ピット	IV		182 - 043		56×39・12

第54図 IV区土坑・ピット分布図1



第55図 IV区土坑・ピット分布図2



IV区土坑・ピット分布図2

番号	遺構	区	確認面	検出位置 X - Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm
374	ピット	IV		226 - 047		34×29・40
375	ピット	IV		226 - 048		34×24・17
376	ピット	IV		230 - 061		42×40・12
386	ピット	IV		201 - 060		28・13
387	ピット	IV		202 - 060		51×44・27
389	ピット	IV		203 - 059		34・19
390	ピット	IV		204 - 058		46×40・25
391	ピット	IV		204 - 058		44×41・25
392	ピット	IV		204 - 061		38・36

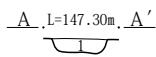
IV区土坑・ピット分布図3

番号	遺構	区	確認面	検出位置 X - Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm
91	土坑	IV		240 - 078		110・32
92	土坑	IV		248 - 070		124×104・17
93	土坑	IV		256 - 064		98×81・19
94	土坑	IV		254 - 062		110×66・28
95	土坑	IV		258 - 064		98×62・17

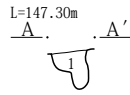
番号	遺構	区	確認面	検出位置 X - Y	重複関係 旧→新	大きさ・深さ 長×短・深cm
377	ピット	IV		236 - 058		32・14
378	ピット	IV		244 - 078	379と重複	35× - ・22
379	ピット	IV		245 - 078	378と重複	30× - ・30
380	ピット	IV		244 - 075		50×40・14
381	ピット	IV		254 - 060		51×34・15
382	ピット	IV		257 - 062		32×30・33
383	ピット	IV		257 - 065		24×20・20
384	ピット	IV		258 - 065		27×22・38
385	ピット	IV		256 - 068		26・20

第56図 IV区土坑・ピット分布図3

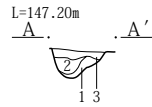
第4章 遺構と遺物



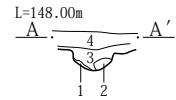
366号ピット
1 暗褐色土。混入物のない均質な土。ローム漸移層が汚れた状態。ややしまっている。



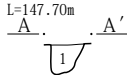
367号ピット
1 暗褐色土。黄褐色土の粒子を多く含む。新しいテフラは含まない。上層はややしまる。下層はしまり弱い。



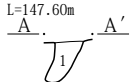
368号ピット
1 褐色土。汚れたロームの再堆積土。ハードロームブロックを含む。やや粘質。しまりやや弱い。
2 暗褐色土。1と3の混土。ハードロームブロックを含む。しまり弱い。
3 黒褐色土。As-B・As-C・Hr-FAを少量含む。1の小斑を含む。しまりやや弱い。



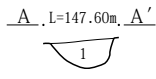
369号ピット
1 黒色土。As-C・Hr-FAを少量含む。ローム斑を含む。硬くしまっている。
2 黒褐色土。As-C・Hr-FAを含む。硬くしまっている。「C黒」よりかなり明るい。
3 暗褐色土。2が乱された小斑と汚れたソフトロームが混じる。やや粘質。しまりやや弱い。
4 最上層は駐車場敷石。下位は2が汚れ、強く圧縮される。



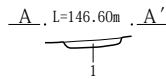
370号ピット
1 暗褐色土。褐色土の小ブロックを含む。As-C・Hr-FAを少量含む。上位に多い傾向がある。しまりやや弱い。



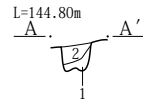
371号ピット
1 暗褐色土。黄褐色土ブロックを含む。上位にAs-C・Hr-FAを少量含む。上位はしまりやや強く、下位はやや弱い。



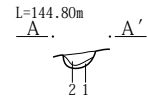
372号ピット
1 暗褐色土。上位にAs-C・Hr-FAを含む。下位に黄褐色土ローム小ブロックを含む。しまりやや強い。



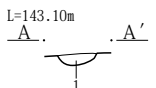
373号ピット
1 炭化物・焼土粒をわずかに含む。



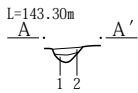
374号ピット
1 褐色土。汚れたロームの再堆積。黒褐色土の斑を含む。やや粘質。しまり弱く、ボソボソ。
2 黒褐色土。褐色土ローム斑を含む。白色軽石細粒を含む。やや粘質。ややしまる。



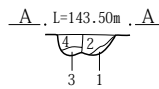
375号ピット
1 暗褐色土。黄褐色土ローム斑を含む。やや粘質。ややしまる。
2 黒褐色土。As-YP・As-C・Hr-FAを含む。炭化物を少量含む。やや粘質。ややしまる。



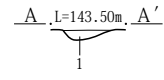
376号ピット
1 黒色土。As-C・Hr-FA混じる。



377号ピット
1 黒色土。As-C下の黒色土に近い。
2 黒色土。As-C・Hr-FAを含む。やや灰色味がかかる。



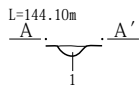
378号ピット・379号ピット
1 暗褐色土。汚れたロームの再堆積。褐色土ロームの小斑含む。やや粘質。しまっている。
2 暗褐色土と褐色土のぼやけた斑粒子の混土。しまり・粘性弱い。
3 1に近いがしまり弱い。
4 黒褐色土。褐色土ローム斑を含む。As-C・Hr-FA少量含む。やや粘質。ややしまる。



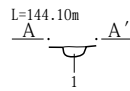
380号ピット
1 黒褐色土。ロームの再堆積土とAs-C・Hr-FA混じり黒色土の混土。粘性弱い。しまりやや弱い。



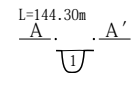
381号ピット
1 暗褐色土。褐色土斑を含む。やや粘質。ややしまっている。



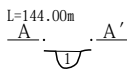
382号ピット
1 黒色土。As-C混黒色土中に褐色土ローム斑を含む。しまっている。



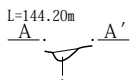
383号ピット
1 382号ピットと同じ。



384号ピット
1 暗褐色土。汚れたロームの再堆積。As-C・Hr-FAを含む黒色土の斑を含む。しまり弱い。



385号ピット
1 黒褐色土。As-C・Hr-FA混の黒色土中に、As-Bが多く混入する。しまりやや弱い。



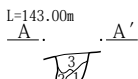
386号ピット
1 暗褐色土。淡色黒ボク土を主体に、褐色土ローム斑を含む。炭化物片を少量含む。やや粘質。ややしまっている。



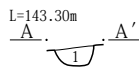
387号ピット
1 暗褐色土。淡色黒ボク土に近い。褐色土ローム斑を含む。しまり弱い。粘性弱い。
2 1に似る。褐色土ロームを含む。炭化物粒を少量含む。やや粘質。ややしまっている。



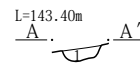
389号ピット
1 褐色土。ローム漸移層の汚れた再堆積土。炭化物粒を少量含む。やや粘質。しまっている。



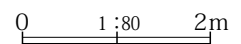
392号ピット
1 暗褐色土。明黄褐色土ローム斑を含む。明黄褐色土粒を多く含む。やや粘質。しまりやや弱い。
2 暗褐色土。明黄褐色土ローム粒を多く含む。しまり弱い。
3 黒褐色土。褐色土ロームの不定形斑を含む。やや粘質。しまっている。



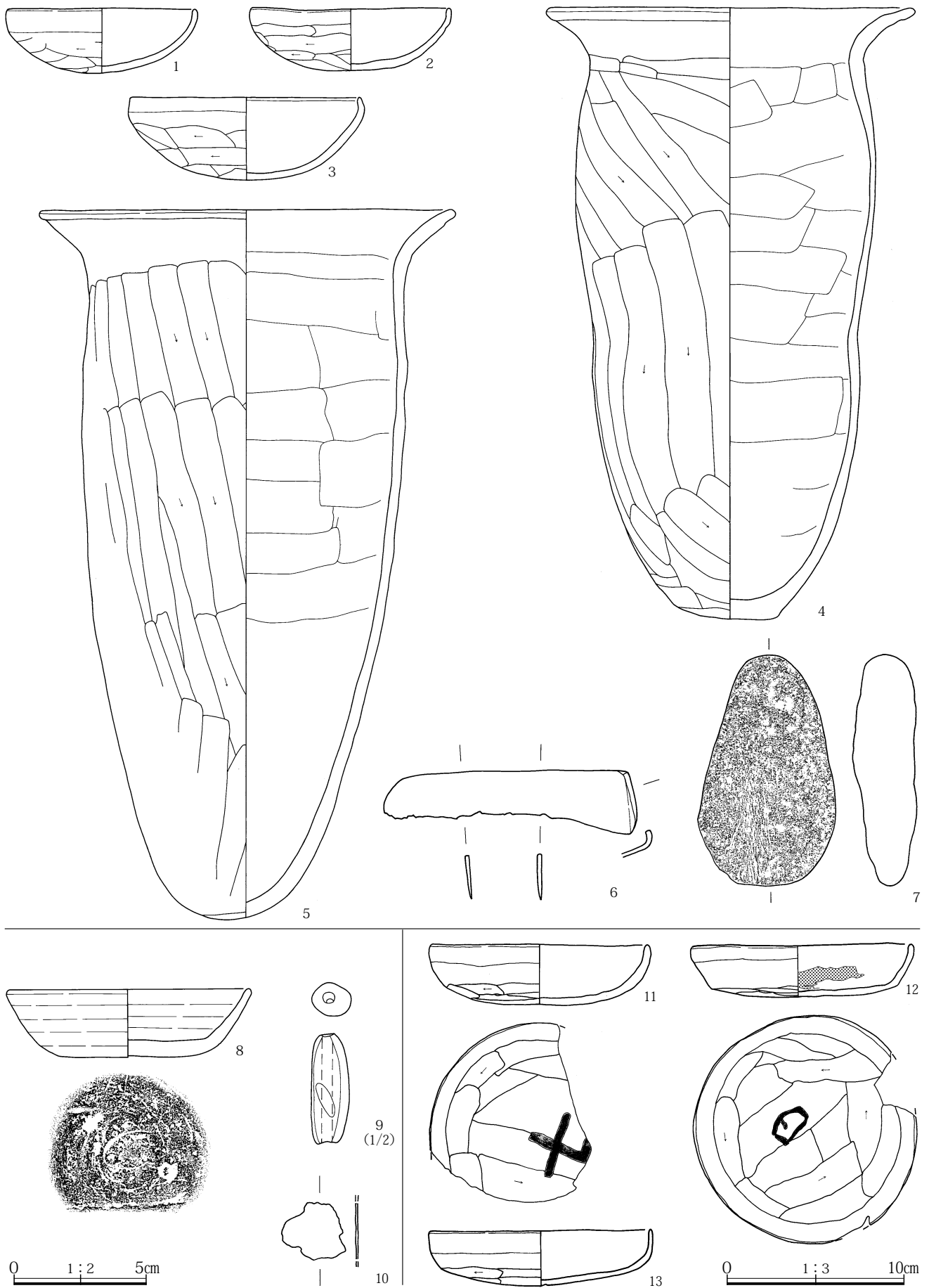
390号ピット
1 暗褐色土。淡色黒ボク土に近い。褐色土ローム斑を含む。やや粘質。ややしまっている。



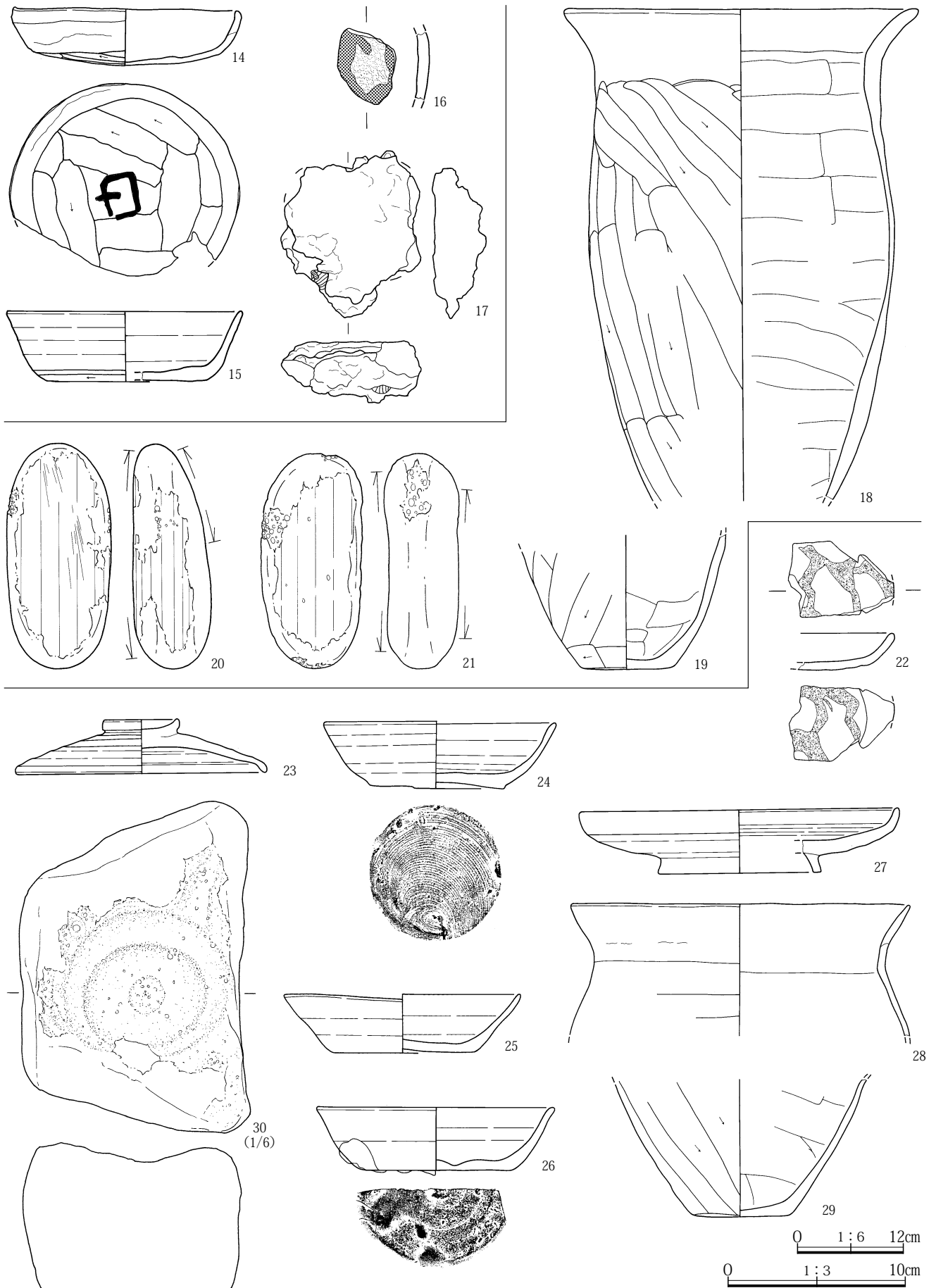
391号ピット
1 黒褐色土。褐色土ロームの小斑を含む。やや粘質。しまっている。



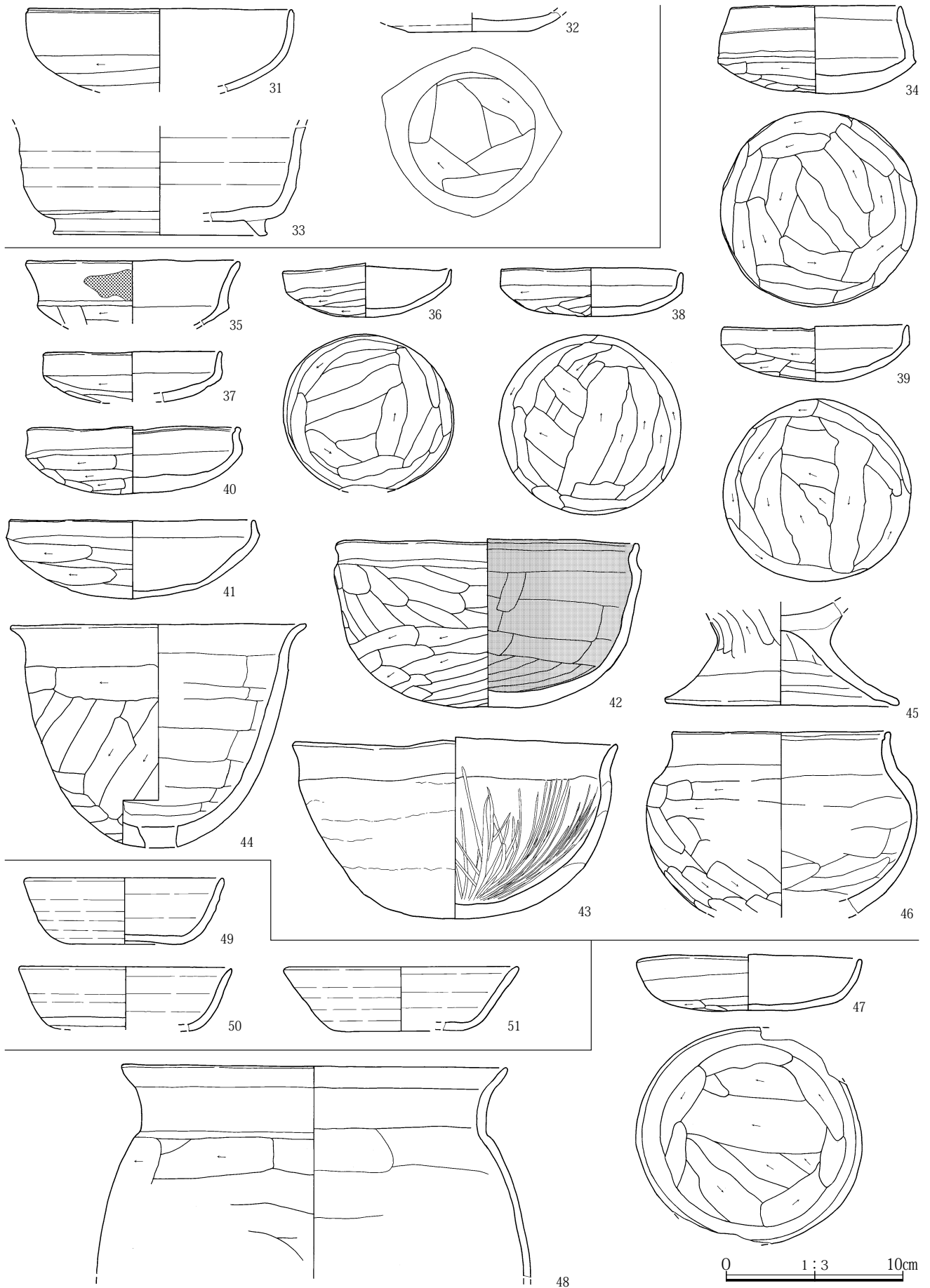
第57図 IV区ピット断面図



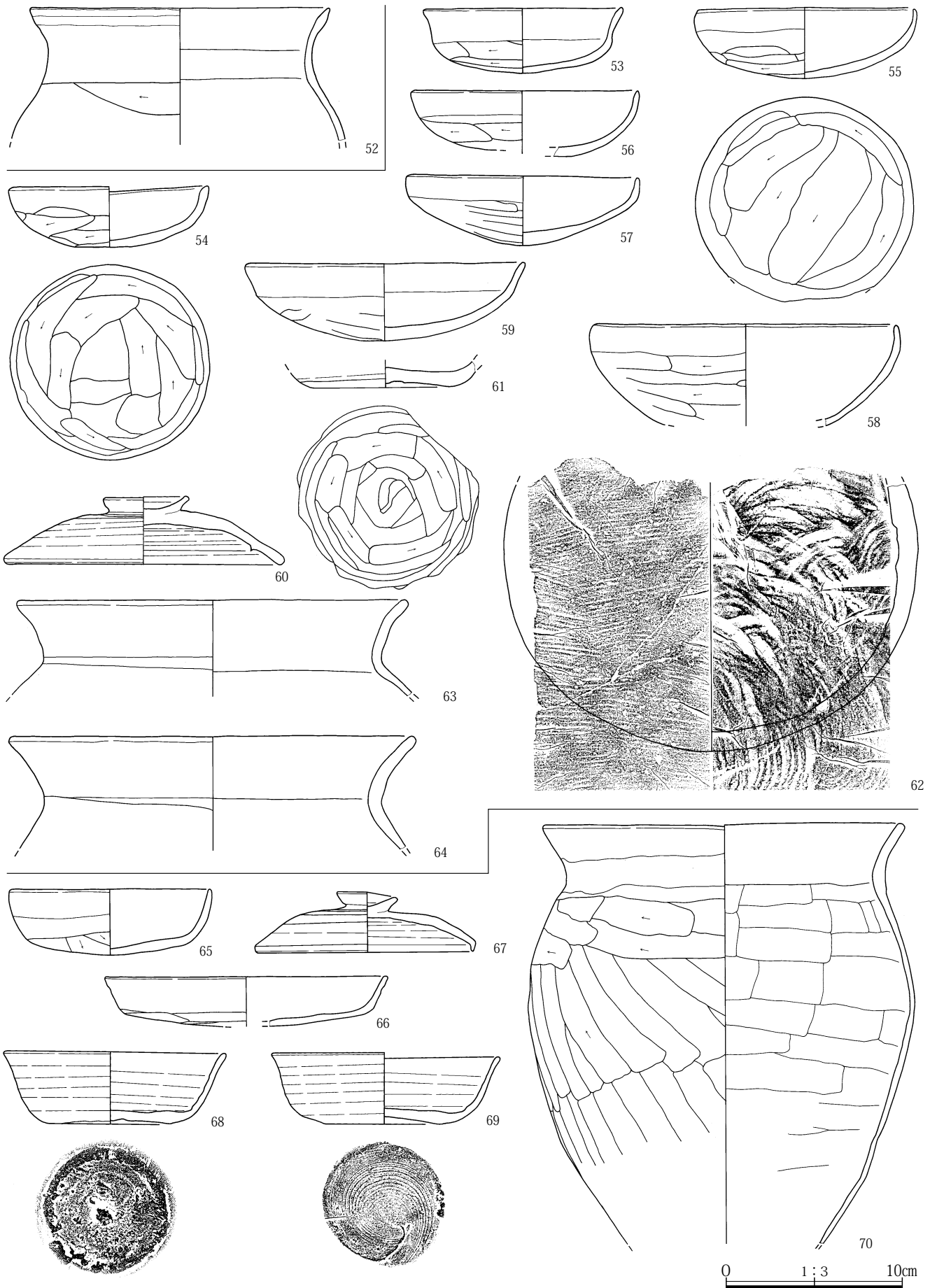
第58図 I区1号~3号住居出土遺物図 1~13



第59図 I区3号~5号住居出土遺物図 14~30



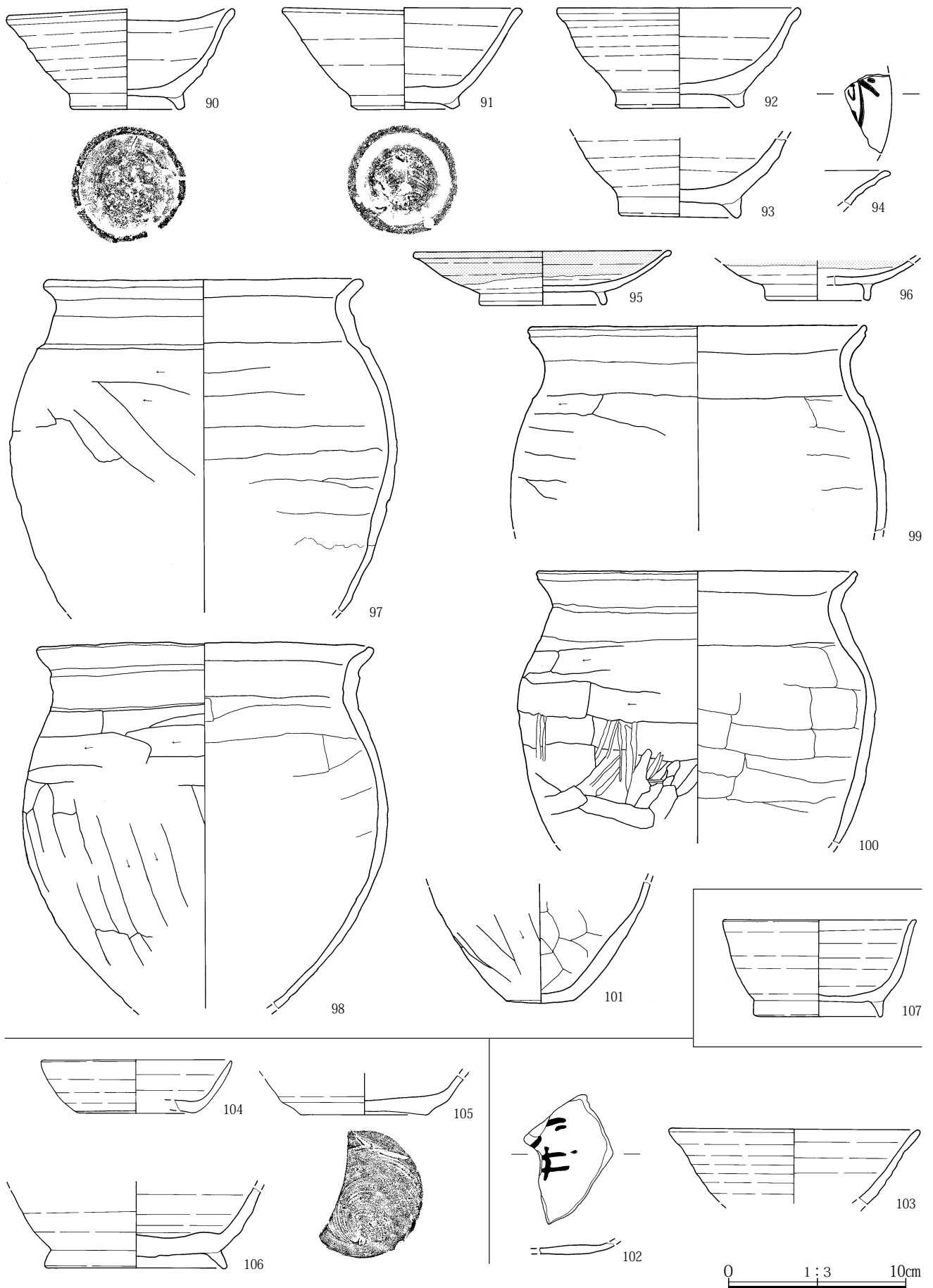
第60図 I区6号~8号住居・II区9号住居出土遺物図 31~51



第61图 II区11号~13号住居出土遺物图 52~70



第62図 II区13号住居、III区15号・16号住居、IV区18号・20号・21号住居出土遺物図 71～89

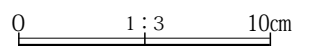
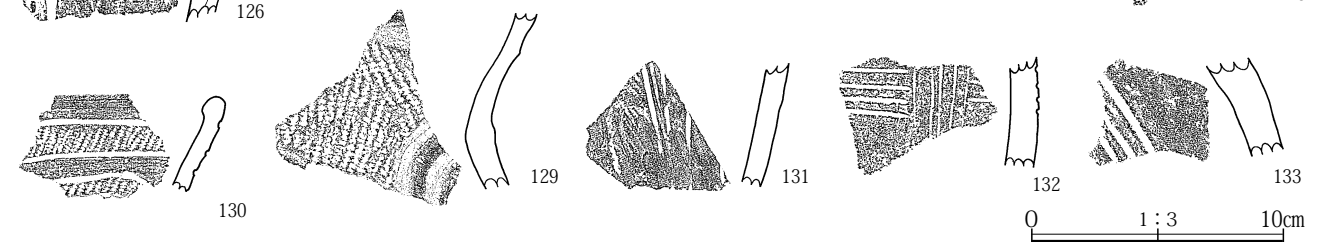
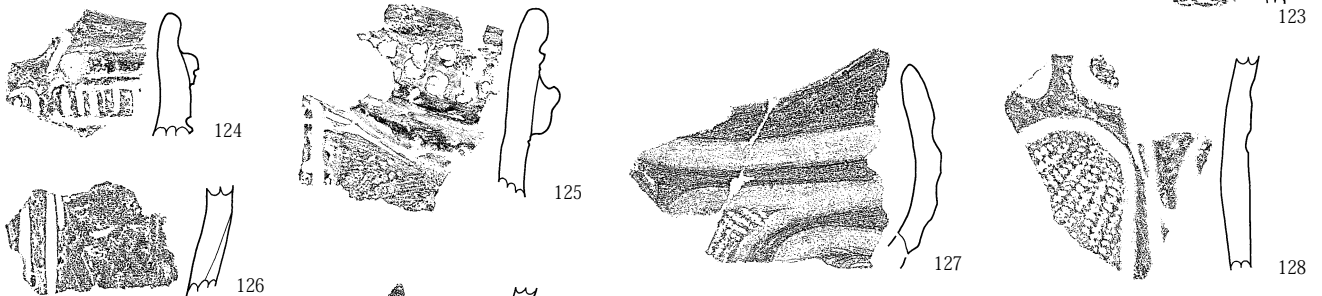
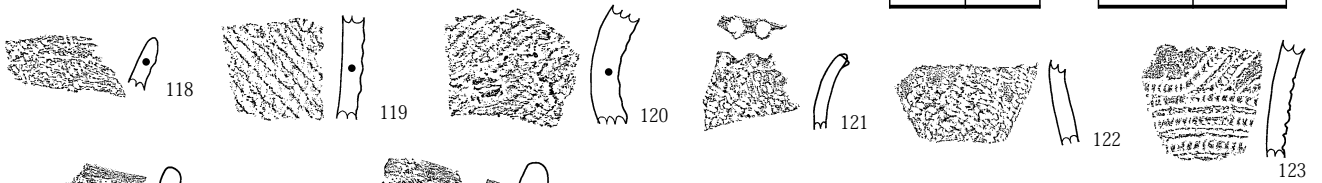
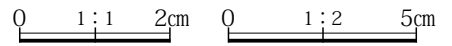
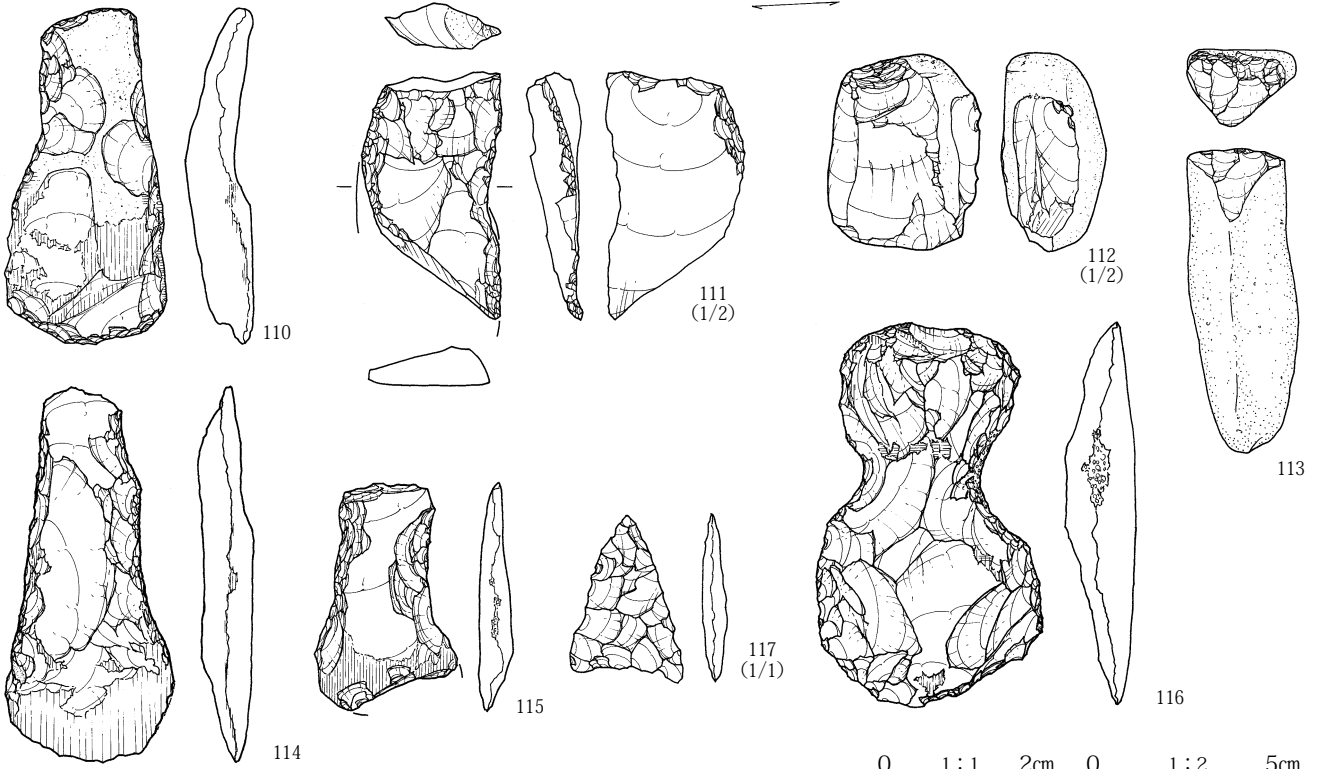
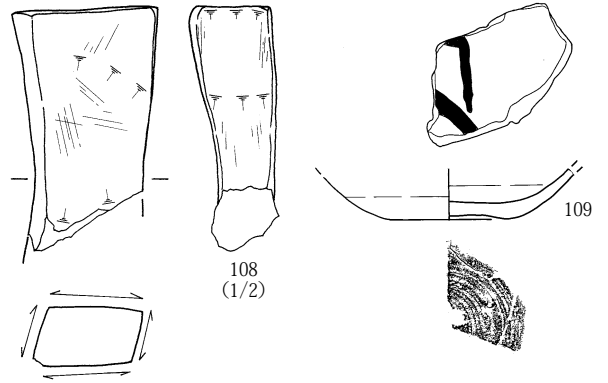


第63図 IV区21号・22号住居、I区2号溝・41号土坑出土遺物図 90～107

第6節 遺構外出土の遺物

(第64図、PL.60・61)

本遺跡の遺構外出土遺物のうち、依存状態が良好な物、代表的な物を以下に掲げる。いずれも各調査区の遺構確認面や住居・溝・土坑等の埋土内に流れ込んだ状態での出土である。個々の出土位置については、遺物観察表を参照願いたい。



第64図 遺構外出土遺物図、縄文石器・土器 108～133

第4章 遺構と遺物

第4表 上泉武田遺跡出土遺物観察表

I区1号住居

計測値の単位はcm、重はgとする。

挿図番号 PL.番号	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第58図 PL.58	1	土師器 杯	1/2	口 10.4 高 3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第58図 PL.58	2	土師器 杯	ほぼ完形	口 11.0 高 3.5	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第58図 PL.-	3	土師器 杯	床面直上 1/4	口 12.7 高 4.6 大 13.0	細砂粒・ガラス質粒 /良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第58図 PL.58	4	土師器 甕	床面直上 5/6	口 20.3 高 34.1 底 5.6	細・粗砂粒・褐色粒 /良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	底部平面形態は矩形に近い。
第58図 PL.58	5	土師器 甕	1/3	口 23.0 高 39.7 底 4.5	細砂粒・粗砂粒少/ 良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部・底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

I区2号住居

挿図番号 PL.番号	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第58図 PL.58	8	須恵器 杯	1/2	口 13.4 高 3.8 底 8.0	細・粗砂粒・角閃/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第58図 PL.-	9	土製品 土錘	ほぼ完形	長 4.0 孔 0.4 径 1.4 重 5.9	微砂粒/良好/浅黄橙	表面はナデ。	

I区3号住居

挿図番号 PL.番号	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第58図 PL.58	11	土師器 杯	1/3	口 12.0 高 3.4	細砂粒/良好/にぶい 橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	外面底部に墨書、一部のため判読不能。
第58図 PL.58	12	土師器 杯	口縁部一部欠損	口 12.1 高 3.0 底 10.6	細砂粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	外面底部に「日」の墨書、内面に煤が付着。
第58図 PL.58	13	土師器 杯	床面直上 4/5	口 12.4 高 3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第59図 PL.58	14	土師器 杯	床面直上 2/3	口 12.4 高 3.2 底 10.6	細砂粒/良好/橙	外面体部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	外面底部に「日」？の墨書。
第59図 PL.-	15	土師器 杯	1/4	口 12.8 高 3.9 底 9.0	細砂粒・粗砂粒少/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部全面と体部の最下位は回転ヘラ削り。	
第59図 PL.-	16	土師器 甕	胴部小片		細砂粒/良好/にぶい 橙	胴部はヘラ削り。	内面に炭と煤が付着。

I区4号住居

挿図番号 PL.番号	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第59図 PL.59	18	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部下位	口 19.6 胴 17.0	細砂粒・褐色粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第59図 PL.-	19	土師器 甕	底部～胴部下位	底 5.0	細砂粒多・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	胴部と底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

I区5号住居

挿図番号 PL.番号	NO.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
第59図 PL.-	22	土師器 杯	1/6		細砂粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	内外面に墨痕が付着か。
第59図 PL.-	23	須恵器 杯蓋	床面直上 1/3	口 14.0 高 3.0 摘 4.3	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中ほどまで回転ヘラ削り。	
第59図 PL.59	24	須恵器 杯	床面直上 ほぼ完形	口 12.8 高 3.7 底 7.4	細砂粒微/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第59図 PL.-	25	須恵器 杯	床面直上 2/5	口 13.2 高 3.2 底 8.0	細砂粒・角閃/還元 焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第59図 PL.-	26	須恵器 杯	1/3	口 13.0 高 3.4 底 8.6	細砂粒・黒色粒/還 元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	窯内で液化滓付着。
第59図 PL.-	27	須恵器 盤	1/5	口 17.7 高 3.5 底 8.9	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部切り離し技法不明。	
第59図 PL.-	28	土師器 甕	口縁部～胴部上位片	口 18.8	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第59図 PL.-	29	土師器 甕	底部～胴部下位片	底 5.6	細砂粒/良好/にぶい 橙	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

I区6号住居

挿図番号 PL.番号	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第60図 PL.-	31	土師器 杯	口縁部～体部片	口 14.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第60図 PL.-	32	須恵器 杯	底部～体部下位 片	底 7.0	細・粗砂粒・角閃/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第60図 PL.-	33	須恵器 椀	底部～体部片	底 14.0 台 11.8	細砂粒/良好/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転ヘラ削り。	

I区7号住居

挿図番号 PL.番号	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第60図 PL.59	34	土師器 杯	床面直上 完形	口 9.4 高 5.0 稜 11.0	細砂粒・粗砂粒/良 好/明黄褐	口縁部横ナデ、底部(稜下)は手持ちヘラ削り。口 縁部中に段を有す。	
第60図 PL.-	35	土師器 杯	口縁部～体部片	口 11.8 稜 10.8	細砂粒/良好/にぶい 黄橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ 削り。	外面口縁部に煤が 付着。
第60図 PL.59	36	土師器 杯	床面直上 ほぼ完形	口 9.4 高 3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	口縁部に歪みがみ られる。
第60図 PL.-	37	土師器 杯	口縁部～底部片	口 9.8 稜 10.0	細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ 削り。	
第60図 PL.59	38	土師器 杯	完形	口 10.0 高 2.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第60図 PL.59	39	土師器 杯	床面直上 完形	口 10.3 高 3.1 稜 10.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘ ラ削り。	
第60図 PL.59	40	土師器 杯	床面直上 4/5	口 11.6 高 3.7 稜 12.0	細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘ ラ削り。	
第60図 PL.59	41	土師器 杯	床面直上 3/4	口 13.6 高 4.4 大 14.1	細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第60図 PL.59	42	土師器 鉢	床面直上 3/5	口 16.8 高 9.5	細・粗砂粒・砂岩/ 良好/にぶい黄橙	内面黒色処理。口縁部横ナデ、体部上半はヘラナ デ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面体部と 底部はヘラナデ。	
第60図 PL.59	43	土師器 鉢	床面直上 5/6	口 18.0 高 10.2	細砂粒多/良好/にぶ い黄橙	内面黒色処理。外面体部に輪積み痕が残る。口縁 部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り、器 面磨滅のため単位など不明。内面底部から体部は 雑な放射状ヘラ磨き(暗文状)。	
第60図 PL.59	44	土師器 有孔鉢	床面直上 4/5	口 16.3 高 12.5 底 1.7	細砂粒・褐色粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。 内面底部から体部はヘラナデ。	
第60図 PL.-	45	土師器 台付甕	床面直上 脚部	脚 13.0	細砂粒/良好/にぶい 黄橙	脚部内面は黒色処理。脚部は貼付、脚部はヘラ削 り、裾部は横ナデ、内面はヘラナデ。	
第60図 PL.59	46	土師器 短頸壺	口縁部～胴部下 位	口 12.0	細砂粒多/良好/灰黄 褐	内面黒色処理。口縁部から頸部は横ナデ、胴部は ヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

II区8号住居

挿図番号 PL.番号	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第60図 PL.59	47	土師器 杯	口縁部1/3欠損	口 12.4 高 3.2	細砂粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ 削り。	
第60図 PL.-	48	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口 21.4	細砂粒/良好/にぶい 赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	

II区9号住居

挿図番号 PL.番号	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第60図 PL.-	49	須恵器 杯	床面直上 1/4	口 11.0 高 3.7 底 6.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	
第60図 PL.-	50	須恵器 杯	床面直上 口縁部～体部片	口 11.8	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。体部下位は回転ヘラ 削り。	
第60図 PL.-	51	須恵器 杯	1/4	口 13.0 高 3.6 底 7.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	

II区11号住居

挿図番号 PL.番号	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第61図 PL.-	52	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口 16.8	細砂粒/良好/赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	

II区12号住居

挿図番号 PL.番号	No.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第61図 PL.59	53	土師器 杯	2/3	口 11.0 高 3.6 稜 10.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ 削り。	

第4章 遺構と遺物

挿図番号 PL.番号	NO.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第61図 PL.59	54	土師器 杯	床面直上 完形	口 11.0 高 3.4	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第61図 PL.59	55	土師器 杯	口縁部1/4欠損	口 12.2 高 4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
第61図 PL.59	56	土師器 杯	床面直上 2/3	口 12.6 高 3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第61図 PL.-	57	土師器 杯	1/4	口 12.9 高 3.9	細砂粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第61図 PL.-	58	土師器 杯	口縁部～体部片	口 16.9 大 17.4	細砂粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第61図 PL.-	59	土師器 杯	床面直上 1/3	口 15.6 高 4.3 稜 14.7	細砂粒・褐色粒/良 好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第61図 PL.59	60	須恵器 杯蓋	床面直上 ほぼ完形	口 15.2 高 3.8 摘 4.8	細砂粒・角閃/還元 焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部中央は回転ヘラ削り。	
第61図 PL.-	61	須恵器 杯身	底部	底 8.0	細砂粒・角閃/還元 焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部はヘラ起し後手持ちヘラ削り。	
第61図 PL.-	62	須恵器 瓶	床面直上 胴部片		細・粗砂粒・角閃/ 還元焰/灰	外面は平行叩き、内面は同心円状アテ具痕が残る。	内面のアテ具痕の状態から横瓶か。
第61図 PL.-	63	土師器 甕	口縁部～胴部上 位片	口 21.6	細砂粒/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第61図 PL.-	64	土師器 甕	口縁部～頸部片	口 22.6	細砂粒・褐色粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

Ⅱ区13号住居

挿図番号 PL.番号	NO.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第61図 PL.-	65	土師器 杯	1/3	口 11.2 高 3.7 底 8.8	細砂粒/良好/にぶい 黄褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第61図 PL.-	66	土師器 盤	2/5	口 15.7 高 2.8 底 13.5	細砂粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第61図 PL.60	67	須恵器 杯蓋	完形	口 12.2 高 3.3 摘 3.4	細砂粒・角閃/還元 焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部中央は回転ヘラ削り。	
第61図 PL.60	68	須恵器 杯	床面直上 ほぼ完形	口 12.3 高 4.1 底 6.9	細砂粒微/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ起し後部分的に手持ちヘラ削り。	
第61図 PL.60	69	須恵器 杯	ほぼ完形	口 12.7 高 4.0 底 6.7	細砂粒・白色粒/還 元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り未調整。	
第61図 PL.60	70	土師器 甕	口縁部～胴部下 位	口 20.0 胴 21.6	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第62図 PL.60	71	土師器 甕	口縁部～胴部下 位	口 20.0 胴 20.1	細砂粒/良好/にぶい 赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

Ⅲ区15号住居

挿図番号 PL.番号	NO.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第62図 PL.-	72	土師器 杯	床面直上 1/3	口 10.8 高 4.0	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第62図 PL.-	73	土師器 杯	床面直上 2/5	口 11.2 高 3.4 大 11.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第62図 PL.-	74	土師器 杯	1/4	口 11.6 高 3.4	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部上位ナデ、中位から底部は手持ちヘラ削り。	
第62図 PL.-	75	土師器 甕	口縁部～胴部上 半片	口 21.4	細砂粒・ガラス質粒/ 良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

Ⅲ区16号住居

挿図番号 PL.番号	NO.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第62図 PL.60	78	土師器 杯	完形	口 10.3 高 3.4 稜 10.0	細砂粒/良好/にぶい 橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	外面に煤が付着。
第62図 PL.60	79	土師器 杯	3/4	口 10.6 高 3.3 稜 10.4	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	

Ⅲ区18号住居

挿図番号 PL.番号	NO.	種 類 器 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第62図 PL.60	80	須恵器 椀	ほぼ完形	口 13.9 高 4.7 底 6.3 台 5.5	細砂粒・角閃/還元 焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	内面に墨書。
第62図 PL.-	81	須恵器 椀	床面直上 底部～体部片	底 7.0 台 6.2	細砂粒/酸化焰/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

IV区20号住居

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第62図 PL.60	83	須恵器 皿	床面直上 ほぼ完形	口 12.9 高 3.9 底 6.5 台 6.0	細砂粒・褐色粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
第62図 PL.-	84	須恵器 椀	床面直上 底部～体部下 半片	底 6.9 台 6.0	細砂粒・ガラス質粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	内面は二次被熱を受けたか。
第62図 PL.-	85	須恵器 椀	底部～体部下 半片	底 7.2 台 7.0	細砂粒/酸化焰きみ/オリブ黄	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部切り離し技法不明。	
第62図 PL.-	86	須恵器 甗	床面直上 底部～胴部下 位片	底 17.6	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部はヘラナデ、胴部最下位に1段の回転ヘラ削り。	

IV区21号住居

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第62図 PL.-	88	土師器 杯	床面直上 1/4	口 12.8 高 4.1 底 7.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上位ナデ、中位から下位と底部は手持ちヘラ削り。	
第62図 PL.60	89	須恵器 椀	1/3	口 11.7 高 4.3 底 5.8	細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整か。	
第63図 PL.60	90	須恵器 椀	口縁部1/2欠損	口 12.5 高 5.6 底 6.4 台 5.8	細砂粒/やや酸化焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切りか磨滅のため不鮮明。	
第63図 PL.60	91	須恵器 椀	床面直上 口縁部～体部1/4 欠損	口 13.0 高 5.7 底 6.2 台 5.4	細砂粒/やや酸化焰/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
第63図 PL.-	92	須恵器 椀	床面直上 2/5	口 13.4 高 5.6 底 7.3 台 6.4	細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切りか。	口唇部はやや玉縁状を呈す。
第63図 PL.-	93	須恵器 椀	底部～体部片	底 7.0 台 6.6	細砂粒/やや酸化焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部回転ナデ。	
第63図 PL.-	94	須恵器 椀	口縁部片		細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	内面口縁部に墨書、小片のため判読不能。
第63図 PL.-	95	灰釉陶器 皿	1/4	口 14.2 高 3.0 底 7.0 台 6.7	微砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。施釉方法は漬け掛け。	内面底部に重ね焼き痕が残る。
第63図 PL.-	96	灰釉陶器 椀	底部片	底 6.2 台 5.7	緻密(水鏡)/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は回転ナデ。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期
第63図 PL.-	97	土師器 甗	床面直上 口縁部～胴部下 位片	口 17.4 胴 21.7	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	外面胴部は二次被熱を受けている。
第63図 PL.60	98	土師器 甗	床面直上 口縁部～胴部下 位	口 18.6 胴 20.3	細・粗砂粒多・角閃/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ、器面剥離のため不鮮明。	
第63図 PL.-	99	土師器 甗	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口 18.6	細砂粒・褐色粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第63図 PL.-	100	土師器 甗	床面直上 口縁部～胴部中 位片	口 17.6 胴 19.7	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り、部分的にヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第63図 PL.-	101	土師器 甗	床面直上 底部～胴部下 位片	底 3.8	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい赤褐	底部・胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	外面の一部に粘土が付着。

IV区22号住居

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第63図 PL.-	102	土師器 杯	底部片		細砂粒/良好/明赤褐	底部は手持ちヘラ削り。	内面底部に墨書。一部片のため判読不能。
第63図 PL.-	103	須恵器 椀	口縁部～体部片	口 13.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。	

I区2号溝

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第63図 PL.-	104	須恵器 杯	口縁部～体部片	口 10.5 高 2.9 底 6.4	細砂粒、黒色粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	
第63図 PL.-	105	須恵器 杯	底部～体部下 位片	底 7.0	細砂粒/還元焰/オリブ黒	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、部分的にヘラ削り。	底部は疑似高台状を呈す。
第63図 PL.-	106	須恵器 椀	底部～体部下 半片	底 9.5 台 9.7	細・粗砂粒・角閃/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。	

第4章 遺構と遺物

I区41号土坑

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第63図 PL.-	107	須恵器 椀	2/5	口 10.6 高 5.3 底 7.2 台 6.8	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。	

遺構外

挿図番号 PL.番号	NO.	種 器 類 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	摘 要
第64図 PL.-	109	須恵器 杯	底部片	底 5.0	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内面底部に墨書。一部片のため判読不能。

第5表 上泉武田遺跡金属製品観察表

I区1号住居

計測値の単位はcm、重はgとする。

挿図番号 図版番号	NO.	種 器 類 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	特 徴 ・ 状 態
第58図 PL.58	6	鉄器 鎌	刃部先端僅かに欠	長14.2 幅4.5 厚0.3 重56.8	柄取付部は折り曲げ、錆化が進んでいる。

I区2号住居

挿図番号 図版番号	NO.	種 器 類 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	特 徴 ・ 状 態
第58図 PL.58	10	金属製品 不明	一部片	長2.3 幅2.0 厚0.05 重1.2	銅製品、非常に薄く作られている。

I区3号住居

挿図番号 図版番号	NO.	種 器 類 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	特 徴 ・ 状 態
第59図 PL.58	17	椀形鍛冶滓 (中、含鉄)	床面直上	長7.9 幅9.3 厚2.9 残存重256.7 磁着度2 メタル度錆化(△)	平面不整形円形。厚さ2.9cmとやや薄手。色調は黒褐色。気泡が内在し、滓質は粗であるが、錆化した金属鉄が内在する為、比重が高い。上面は平滑で、下面は全面に細かい木炭痕が観察できる。

Ⅲ区15号住居

挿図番号 図版番号	NO.	種 器 類 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	特 徴 ・ 状 態
第62図 PL.-	76	鍛冶羽口 (先端部)		残存重35.3 磁着度3 メタル度錆化(△)	羽口先端部片。器厚が2.5cmとやや薄手。胎土には白色軽石とスサを含む。先端部は黒色ガラス化している。
第62図 PL.60	77	椀形鍛冶滓 (中、羽口付き)		長9.7 幅7.1 厚2.8 残存重241.0 磁着度2 メタル度なし	平面不整形円形。厚さ2.8cmとやや薄手。左側部に羽口のアゴ部が付着している。金属鉄が内在し比重が高い。

Ⅳ区18号住居

挿図番号 図版番号	NO.	種 器 類 種	出 土 位 置 残 存 率	計 測 値	特 徴 ・ 状 態
第62図 PL.60	82	鉄器 不明	床面直上 棒状	長4.9 幅0.7 厚0.6 重6.3	図上位にかけて細くなる。錆化が激しい。

第6表 上泉武田遺跡石器・石製品観察表

I区1号住居

挿図番号 図版番号	NO.	器 種 形 態 ・ 素 材	出 土 位 置	長 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材
第58図 PL.58	7	砥石? 礫砥石	床面直上	13.0	7.8	450.3	先端部に線条痕を伴う強い摩耗痕、側縁稜部に弱い摩耗痕。下端側に刃ならし傷。側縁に打痕。	粗粒輝石安山岩

I区4号住居

挿図番号 図版番号	NO.	器 種 形 態 ・ 素 材	出 土 位 置	長 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材
第59図 PL.59	20	磨石 楕円礫	床面直上	12.6	5.8	497.0	背面側から裏面・左辺側が顕著に摩耗。側縁敲打痕。	粗粒輝石安山岩
第59図 PL.59	21	磨石 楕円礫		12.0	5.7	342.8	表裏面とも摩耗痕。側縁敲打痕。	粗粒輝石安山岩

I区5号住居

挿図番号 図版番号	NO.	器 種 形 態 ・ 素 材	出 土 位 置	長 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	製 作 ・ 使 用 状 況	石 材
第59図 PL.59	30	不明石製品 垂角礫		37.2	25.6	27860.0	背面側は敲打により全体として浅く窪む。裏面側は平坦で、中央部分に敲打痕がある。製作意図不明。	粗粒輝石安山岩

IV区20号住居

挿図番号 図版番号	NO.	器 種 形態・素材	出土位置	長 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	製作・使用状況	石 材
第62図 PL.60	87	砥石 手持ち砥石		(7.9)	4.2	66.5	背面側・右側面に縦位の刃ならし傷。四面使用。	砥沢石

遺構外

挿図番号 図版番号	NO.	器 種 形態・素材	出土位置	長 (cm)	幅 (cm)	重 (g)	製作・使用状況	石 材
第64図 PL.60	108	砥石 手持ち砥石	I区1面	(6.4)	3.8	65.5	上端小口部に砥石初期整形面を残す。四面使用。	砥沢石
第64図 PL.61	110	打製石斧 短冊型	63号土坑	13.1	6.3	186.4	完成状態。刃部摩耗・捲縛痕あり。装着部は細身で、「ハ」字状に側縁が開く。側面形状は大きく反る。	黒色頁岩
第64図 PL.61	111	削器 縦長剥片	I区1面	6.5	3.6	31.3	左側縁の加工に比べ右側縁の加工は浅く、表裏面を加工。先端部側は基本的に節理面で破損しているが、節理面に続く左側縁側は被熱破損したように見える。	珪質頁岩
第64図 PL.61	112	石核 楕円礫	II区1面	5.1	4.0	80.5	上端・側面で小型幅広剥片を剥離。	珪質頁岩
第64図 PL.61	113	石核 棒状礫	II区1面	11.9	4.2	204.0	小口部で小型剥片を剥離。裏面側に小剥離が並び、弧状刃部を作出しているように見え、搔器とすることも可能。	黒色頁岩
第64図 PL.61	114	打製石斧 短冊型	IV区1面 G-16	14.8	6.6	211.2	完成状態。刃部摩耗が著しい。剥片端部を加工せず刃部とする。側縁は潰れ、装着を指揮しているようだが、刃部側に偏り、装着を意図するものではない。	黒色頁岩
第64図 PL.61	115	打製石斧 短冊型	IV区1面 Q-8	9.0	5.5	61.2	完成状態。装着部は細身で、側縁が「ハ」字状に開く。刃部摩耗が激しく、刃部再生を試みている。	細粒輝石安山岩
第64図 PL.61	116	打製石斧 分銅型	IV区攪乱	15.1	8.8	327.9	完成状態。微弱な刃部摩耗・捲縛痕あり。装着部は上端側に偏り、側縁は敲打され潰れる。	黒色頁岩
第64図 PL.61	117	石鏃 凹基無茎鏃	IV区1面 I-16	2.2	1.5	0.8	完成状態？加工が粗く、粗雑な作り。基部を浅く抉る。	黒色安山岩

第7表 上泉武田遺跡縄文土器観察表

遺構外

挿図番号 図版番号	NO.	種 類 器 種	残 存	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第64図 PL.61	118	深鉢	口縁部破片	II区1面	粗砂、片岩、繊維 にぶい黄橙 ふつう	L Rを横位施文する。	黒浜式
第64図 PL.61	119	深鉢	胴部破片	I区	粗砂、繊維 にぶい黄橙 ふつう	無節R1を横位施文する。	黒浜式
第64図 PL.61	120	深鉢	胴部破片	II区1面	細砂、黒色粒、繊維 にぶい黄橙 ふつう	緩く外反。L Rを横位施文する。	黒浜式
第64図 PL.61	121	深鉢	口縁部破片	II区1面	細砂、黒色粒、石英 明赤褐 良好	口縁が緩く外反。L Rを横位施文する。口唇部に竹管外皮による刻みを付す。	諸磯a式
第64図 PL.61	122	深鉢	胴部破片	II区1面	細砂、黒色粒、石英 赤褐 良好	緩く外反。L Rを横位施文する。	諸磯a式
第64図 PL.61	123	深鉢	胴部破片	I区1面	粗砂、細礫 にぶい黄橙 ふつう	連続爪形紋を横位、弧状に施す。	諸磯b式
第64図 PL.61	124	深鉢	口縁部破片	II区1面	粗砂、細礫 にぶい黄橙 ふつう	横位隆帯、沈線によるモチーフを描く。	加曾利E2式
第64図 PL.61	125	深鉢	口縁部破片	II区	粗砂、細礫、石英 にぶい赤褐 良好	弧状隆帯を施し、口縁部に列点を充填施文。隆帯下は沈線による懸垂文を施す。	加曾利E3式
第64図 PL.61	126	深鉢	胴部破片	II区	にぶい赤褐	No.125と同一個体。胴部懸垂文の部位。	加曾利E3式
第64図 PL.61	127	深鉢	口縁部破片	II区1面	粗砂、白色粒 にぶい黄橙 ふつう	隆帯により横位弧状モチーフを施し、RLを充填施文する。	加曾利E3式
第64図 PL.61	128	深鉢	胴部破片	IV区1面	粗砂、白色粒、黒色粒 にぶい黄橙 ふつう	沈線によりU字状モチーフを描き、RLを縦位充填施文する。	加曾利E4式
第64図 PL.61	129	深鉢	胴部破片	II区1面	粗砂、白色粒 にぶい黄橙 ふつう	沈線によりU字状モチーフを描き、RLを縦位充填施文する。	加曾利E4式
第64図 PL.61	130	深鉢	口縁部破片	IV区1面	粗砂、黒色粒、石英 橙 良好	口縁内面肥厚。帯状沈線により幾何学モチーフを描き、L Rを充填施文する。	称名寺1式
第64図 PL.61	131	深鉢	胴部破片	I区1面	粗砂、白色粒、黒色粒 にぶい黄橙 ふつう	沈線を垂下させ、L Rを充填施文する。	称名寺1式
第64図 PL.61	132	深鉢	胴部破片	II区1面	粗砂 にぶい黄橙 ふつう	縦位、横位の沈線を施す。	堀之内1式
第64図 PL.61	133	深鉢	胴部破片	IV区1面	粗砂、黒色粒 橙 ふつう	斜位の沈線を施す。	堀之内1式

第8表 上京武田遺跡居住一覽表

区画番号	時期・年代	平面形状	規模m	面積㎡		壁高cm	長軸方位	壁		主柱六	位置	カマド			貯蔵穴			備考	
				計算面積	検出面積			幅cm	深さcm			対称軸方位	構築材	支脚	位置	平面形状	規模cm		深さcm
I 1 1	奈良 7世紀	方形	4.40×4.30	(18.92)	12.11	22	N13°W	10~25	2~12	3	西壁南寄り	石	北西隅	不整形	123×85	42	北東隅副区外		
I 1 2	奈良 8世紀	方形	3.25×3.37	10.95	7.35	32	N81°W	20~39	4~14	不明	東壁南寄り	粘土+石	南東隅	楕円形	30×23	19	中央部の遺物は床面から浮いている		
I 1 3	奈良 8世紀	長方形	5.09×3.96	20.16	14.97	80	N11°E	20~38	3~12	不明	東壁南寄り	粘土	南東隅	楕円形×2	74×44	18	東辺沿いに浅い長方形のテラス状掘り込み		
I 1 4	奈良 7世紀	方形	3.13×3.19	9.98	7.65	39~61	N77°W	なし	なし	不明	東壁南寄り	粘土+石	不明、伊か	-	-	-	南辺・北辺の壁際にP・2P		
I 1 5	平安 9世紀	長方形	5.11×4.45	22.74	16.60	49	N0°	26~36	1~11	不明	東壁南寄り	粘土+石	南東隅	卵形	67×55	29	床面中央に1P、南壁際中央に出入口施設		
I 1 6	奈良 8世紀	長方形	4.59×3.20	14.69	11.66	37~65	N4°E	13~28	3~8	不明	東壁南寄り	粘土	南東隅	円形	32	36	床面南寄り中央に1P		
I 1 7	奈良 7世紀	台形	3.02×3.67	11.08	8.80	32~42	N62°E	なし	2	不明	不明	不明	不明	-	-	-	南辺幅約80cmで拡張		
II 1 1	平安 9世紀	長方形	4.42×4.02	17.77	14.35	2~3	N1°E	18~34	3~11	不明	不明	不明	不明	-	-	-	南辺が北辺より短い		
II 1 9	奈良 8世紀	台形	3.24×3.56	11.53	8.68	4~13	N74°W	14~30	5~13	不明	東壁中央	粘土+石	1	円形	33	13			
II 1 10	平安 9世紀	長方形	3.20×2.60	8.32	7.08	12~26	N12°E	なし	なし	不明	東壁南寄り	石+粘土	2	不整形	53×42	16			
II 1 11	平安 9世紀	長方形	3.25×2.48	8.06	5.50	21~28	N8°E	18~34	3~6	不明	東壁南寄り	石+粘土	南東隅	楕円形	49×58	10	脚張り状		
II 1 12	奈良 8世紀	台形	4.43×4.10	18.16	11.47	30~64	N3°E	30~58	4~20	不明	東壁南寄り	石+粘土	南東隅	楕円形	52×37	10	西辺の土坑底部にAs-B堆積		
II 1 13	平安 9世紀	不明	3.09×3.99	10.97	8.59	33~53	N83°W	19~40	6~15	不明	東壁中央	石+粘土	北東隅	不整形	53×55	22	南東隅の掘り方で2号貯蔵穴		
II 1 14	奈良~平安か	不明	1.0×1.0以上	-	0.58	16~20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	東辺沿いの床面は一段高、	
III 1 15	奈良 7世紀	不明	2.50×2.65以上	-	2.90	42~63	-	-	-	不明	不明	-	-	-	-	-	-	住居南西隅または土坑の一部	
III 1 16	奈良 7世紀	長方形	3.52×2.63	9.26	6.70	49~65	N4°W	掘り方検出	-	不明	不明	不明	不明	-	-	-	-	南西部のみ検出	
IV 1 17	奈良~平安	長方形	3.23×2.24	7.24	5.91	26~41	N13°W	なし	-	不明	不明	不明	不明	-	-	-	-	南西部のみ検出	
IV 1 18	平安 10世紀	不明	不明	-	-	-	-	-	-	不明	不明	-	-	-	-	-	-	構築中または特殊用途の遺構か	
IV 1 19	平安 10世紀	不明	南辺0.80	-	-	32	-	不明	-	不明	不明	不明	不明	-	-	-	-	構築中または特殊用途の遺構か	
IV 1 20	平安 10世紀	不明	北辺0.93	-	-	北辺31	-	不明	-	不明	不明	不明	不明	-	-	-	-	構築中または特殊用途の遺構か	
IV 1 21	平安 10世紀	方形or長方形	南北4.55	12.74	12.71	1~18	-	なし	-	不明	不明	不明	不明	-	-	-	-	東辺沿いの床面は一段高、	
IV 1 22	平安 9世紀	長方形	南北3.59	-	-	75	-	不明	-	不明	不明	不明	不明	-	-	-	-	住居南西隅または土坑の一部	

※1 算面積=計測可能な住居中央部付近の上端〜上端で縦×横を計測し、その値の小数点第3位を四捨五入した計算値

※2 検出面積=住居床面で検出した範囲の面積を、プランメーター(PLANIX7)で3回計測し、その平均値の小数点第3位を切り捨てた値

ビット・土坑面積を含むが、カマド面積・壁面積を含まない

第9表 上京武田遺跡溝一覽表

番号	遺構	区	種別	検出位置X-Y	重複関係	旧→新	長さ・幅・深さ(m・cm・cm)	覆土	その他	遺物登録	所見	破片	時期・時代	備考
1	溝	欠番	I	033~059-932~946	63号土坑→2号溝	28.85・345・104	表土下にAs-B+ブラ	As-Bを含む褐色土	標高142.00m近い	104・105・106	-	9世紀前半か		
2	溝	II	I	167~182-992~008	16号住居と重複	長16.84、短9.95・35~80・23~43	ピニールを含む。	As-Bを含む褐色土	底面148.00m前後	-	耕作用か。	-	現代	長辺N72°W
3	溝	IV	I	195~205-065~070	5号溝→6号溝→4号溝の順に新しい。	11.76・34・73・25~30	As-Bを含む褐色土	なし	底面標高141.70~141.60m	なし	-	平安時代~中世	N35°E	
4	溝	IV	I	204~205-065~066	5号溝→6号溝→4号溝の順に新しい。	2・28~40・6~10	黒褐色土。軽石を含まない。	なし	-	なし	-	古墳時代か	短い。N23°E	
5	溝	IV	I	200~204-065~067	5号溝→6号溝→4号溝の順に新しい。	10.0+8.24+5.34・23~52・2~15	黒褐色土。As-C・H+FAを含む。	なし	底面標高141.90~141.70m	なし	5号溝の掘り直しか。	-	古墳時代~平安時代に埋没。	N61°W+N29°E
6	溝	IV	I	206~235-045~087	南西辺231.8・27~116・8~52	北東辺25.3・58~120・16~77及び53.1・80~120・31~46	黒褐色土。As-C・H+FAを少量含む。上位にAs-Bを含む。	なし	南 西 辺141.50~142.50m 北東辺142.90~143.80m	なし	北東端付近に未検出部あり、出入口か、館跡か。	-	古墳時代~平安時代に埋没。	N66°Wで曲りN24°E

第5章 分析

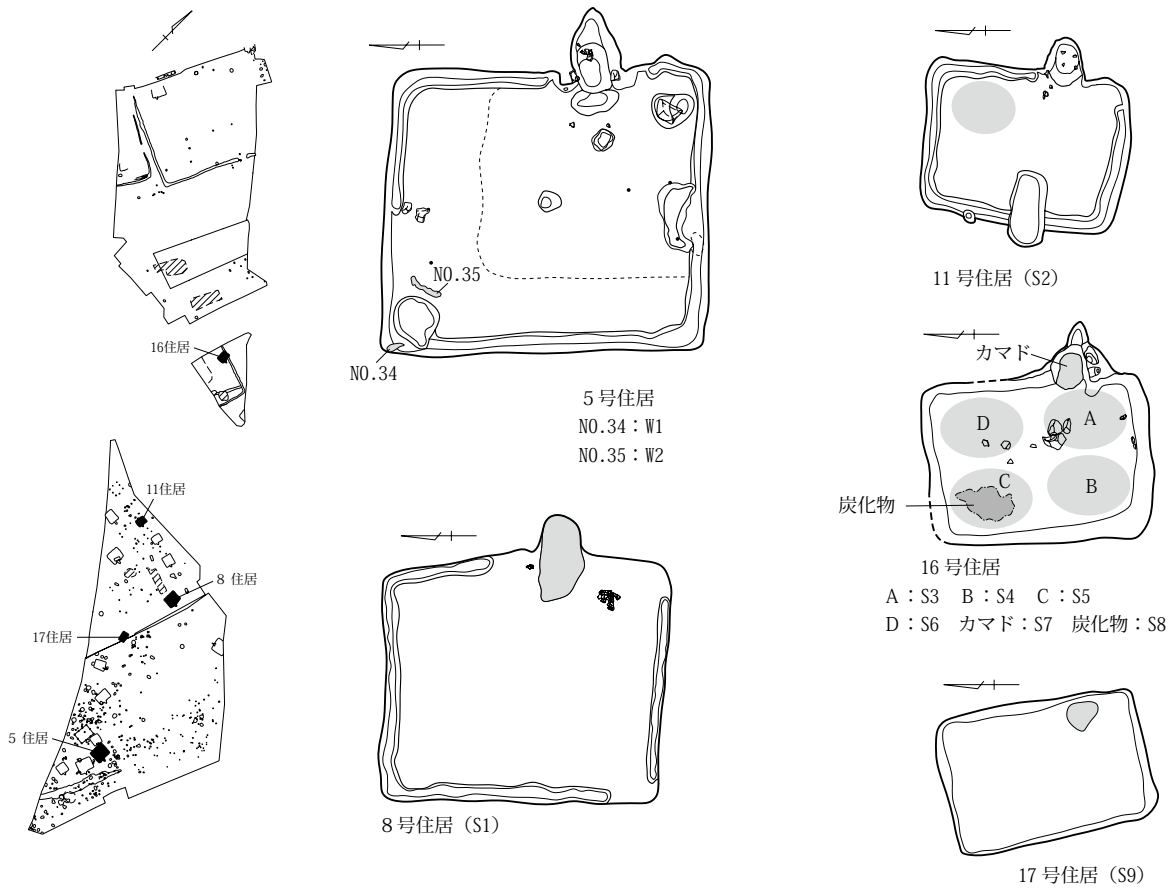
第1節 分析の目的

本遺跡で発見された住居内の炭化材及び炭化種実について、それぞれ同定を行い、住居構造や食料、作物及び植生環境に関する資料を得るため、材と種実の同定を行った。その分析・同定を株式会社パレオ・ラボに依頼し、その結果は次節の通りである。

分析・同定した炭化材・炭化種実(試料)の出土地点を、下(第65図)に、試料番号を右(第10表)に示す。

第10表 同定資料一覧

試料番号	種別	遺構名	細分	点数
W1	炭化材	5号住居	No.34	1
W2	炭化材	5号住居	No.35	1
S1	炭化種実	8号住居		21
S2	炭化種実	11号住居	北東四半	3
S3	炭化種実	16号住居	A	12
S4	炭化種実	16号住居	B	11
S5	炭化種実	16号住居	C	3
S6	炭化種実	16号住居	D	91
S7	炭化種実	16号住居	カマド	6
S8	炭化種実	16号住居	一括	6
S9	炭化種実	17号住居		1



第65図 分析試料採取地点

第2節 上泉武田遺跡住居出土 炭化材の樹種同定

1. はじめに

前橋市上泉町に位置する上泉武田遺跡の調査では、平安時代(8世紀末～9世紀)の住居址が検出された。このうち、5号住居(8世紀末～9世紀初)において建築材と考えられる炭化材が出土した。

ここでは、5号住居から出土した炭化材2点について樹種同定を行った。

2. 試料と方法

炭化材試料は、5号住居から出土した炭化材2試料(No. 34・35)である。材は方形を呈する住居の北東隅から出土し、一部分が樹種同定用として保管されていた。出土状況から建築材と考えられているが、部位は不明である。

試料は、カッターなどを用いて3断面(横断面・接線断面・放射断面)を割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し銀ペーストを塗布した後、金蒸着を行った。観察および同定には、走査型電子顕微鏡(日本電子(株)製 JSM-5900LV型)を使用した。

3. 結果および考察

炭化材の樹種同定を行った結果、2点とも落葉広葉樹のクリであった。材は、いずれも直径が22mm程度の芯持ちのみかん割り材であった。

群馬県内における住居址の建築材には、縄文時代にクリ、弥生・古墳時代にクヌギ節とコナラ節が卓越して用いられる傾向がある(山田, 1993)。古代でまとまった建築材の同定例は少ないが、松井田町(現安中市)愛宕山遺跡の9世紀初頭の第4号住居址からは、検出された7分類群中、クリが最も多く検出され、ヤマウルシとクヌギ節がそれに次いだ。このことから、クリは主要な建築材であったことが推定されている(植田, 2001)。本遺跡でも2点と少ないながらもクリが検出されており、古代にクリが建築材として多用される傾向を示している可能性がある。

以下に、同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の3方向の組織写真を提示した。

(1) クリ *Castanea crenata Sieb. et Zucc.* ブナ科
第66図: 1a - 1c (No.34)・2a - 2c (No.35)

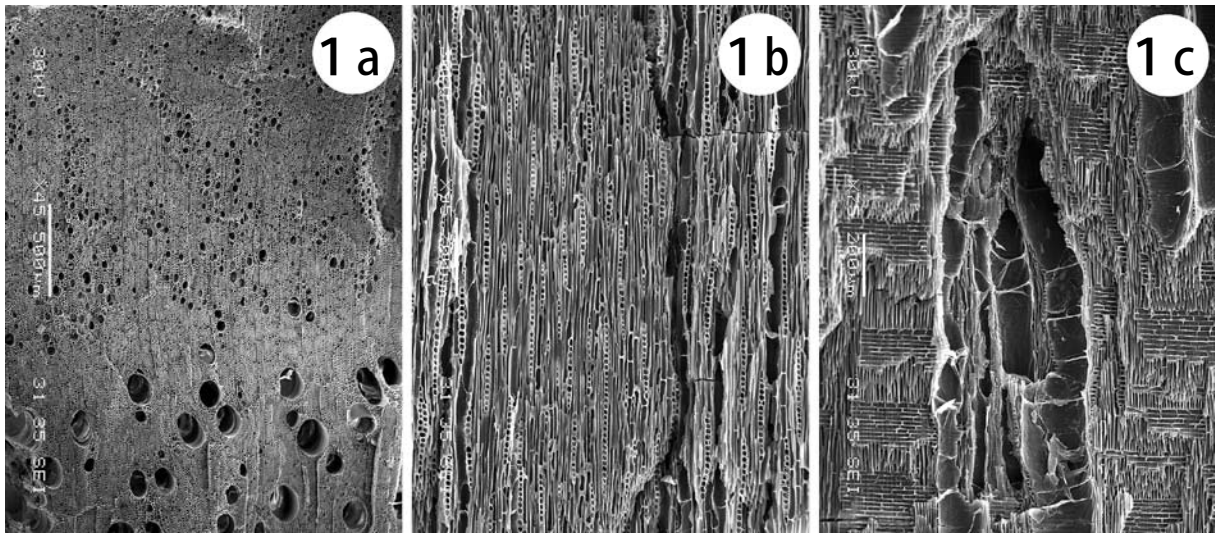
年輪のはじめに大型の道管が配列し、晩材部は小型の道管が火炎状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織は単列同性、4～32細胞高である。

クリは、北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通に生育する落葉高木である。材は粘りがあり耐朽性に優れ、水湿に強い。

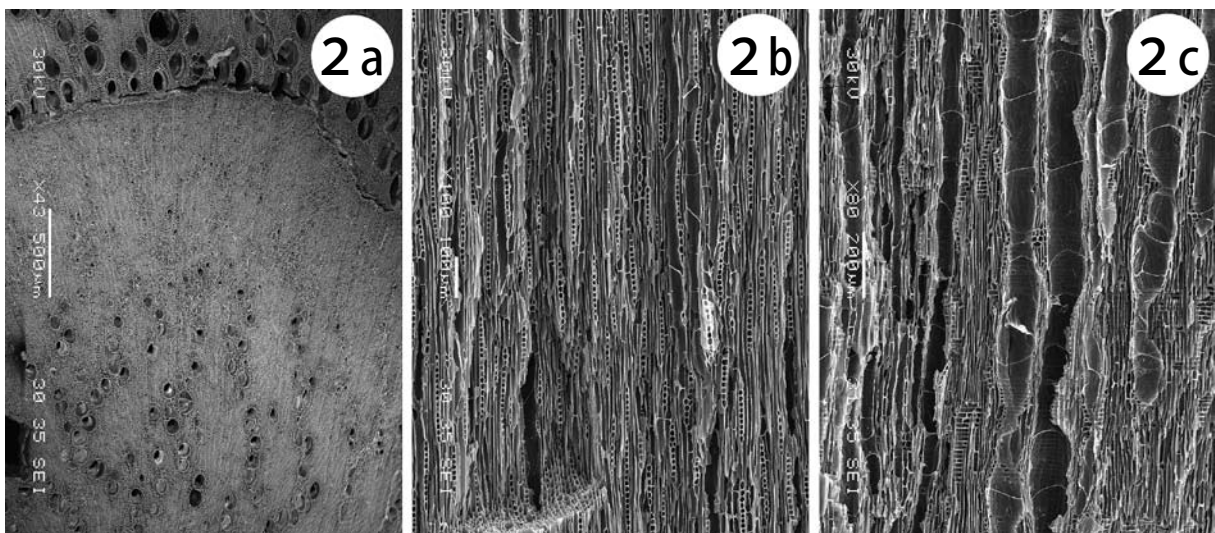
引用文献

植田弥生(2001)愛宕山遺跡の第4住居址出土炭化材の樹種同定。(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編「愛宕山遺跡」: 64-73, 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団。

山田昌久(1993)日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成-用材から見た人間・植物関係史-。植生史研究特別第1号, 242p



1 a - 1 c. クリ(No.34)



2 a - 2 c. クリ(No.35)

第66図 木材組織の走査型電子顕微鏡写真

第3節 上泉武田遺跡の住居から 出土した炭化種実

1. はじめに

上泉武田遺跡は、群馬県前橋市上泉町に所在し、薬師川西岸に立地する。ここでは、平安時代(8世紀末から9世紀)の栽培・利用植物を明らかにする一端として、竈穴住居から出土した炭化種実を検討した。

2. 試料と方法

炭化種実の検討は、2区8号・11号・17号住居、3区16号住居の4棟について行った。1試料には複数の炭化物が入っていた。8号住居は1試料(S1:21点)、11号住居は1試料(S2(北東四半):3点)、16号住居は6試料(S3(A):12点、S4(B):11点、S5(C):3点、S6(D):91点、S7(竈):6点、S8(炭化物):6点)、17号住居は1試料(S9:1点)である。詳細な採取位置は、第65図に示す。炭化物は、(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により、1.5mm目の篩を用いて水洗選別し、抽出された試料を対象とした。

炭化種実とは、同定可能なものと不明種実、不明木材、

虫えい、菌核に分け、同定されたものは分類群ごとに区分し、全てスクリュウ瓶に保存した。仕分け・同定・計数・計測は、実体顕微鏡下で行った。試料は、群馬県埋蔵文化財センターに保管されている。

3. 出土した炭化種実

同定結果を第11表に示す。同定された分類群数は、木本植物のクワ属近似種炭化核1分類群、草本植物のイヌタデ炭化果実と、イネ炭化種子、アワ炭化種子、コムギ炭化種子、オオムギ-コムギ炭化種子、の5分類群であった。このほかに破片であるか全体の形状が不明のため、不明炭化種実とした分類群がAからEまでと、虫えい、菌核が産出した。さらに、材以外ではあるが、炭化種実か虫えいかの区別ができない一群を同定不能とした。

住居別の炭化種実の同定結果を以下に示す(虫えい、菌核、同定不能、炭化材は除く)。

8号住居(S1):イヌタデ炭化果実2点、コムギ炭化種子2点、コムギ-オオムギ炭化種子破片1点、不明A炭化種実破片1点、不明B炭化種実破片1点、不明C炭化種実破片1点が得られた。

11号住居(S2):炭化種実は何も得られなかった。

16号住居(S3・4・6・7):クワ属近似種炭化核1点破

第11表 炭化種実およびその他の同定結果一覧(括弧は破片数を示す)

分類群	部位	8号住居		11号住居				16号住居				17号住居
		S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S8	S9		
クワ属近似種	炭化核						1 (1)					
イヌタデ	炭化果実	2										
イネ	炭化種子			1	3 (1)		28 (18)	1				
アワ	炭化種子						3					
コムギ	炭化種子	2										
コムギ-オオムギ	炭化種子											
不明A	炭化種実											
不明B	炭化種実											
不明C	炭化種実											
不明D	炭化種実				(3)							
不明E	炭化種実							(1)				
虫えい		8 (8)		9	5 (7)	(2)	11 (23)	1 (4)	4 (2)	1		
菌核							3					
同定不能		(3)		(2)			(2)					
不明	炭化材	(3)					(3)					

片1点、イネ炭化種子33点破片19点、アワ炭化種子3点、不明D炭化種実破片3点、不明E炭化種実破片1点が得られた。S5とS8からは炭化種実が得られなかった。なお、S6とS7出土のイネは大多数が玄米であった。S6のイネの一部には果実(穎)が付着していた。

17号住居(S9)：炭化種実は得られなかった。

4. 形態記載

(1)クワ属近似種 *cf. Morus* 炭化核 クワ科

炭化核が出土した。長さ1.5mm、幅1.4mm。不整三角形。クワ属であると、側面にくちばし状の着点があるが、確認できないことと、表面の遺存状態が悪いためクワ属近似種の同定に留めた。

(2)イヌタデ *Persicaria longisetata* (De Bruyn)

Kitagawa 炭化果実 タデ科

炭化果実が出土した。長さ2.0mm、幅1.3mm。上面観は三角形、側面観は広卵形。果皮は厚く硬い。表面は平滑で他のタデ属より光沢がある。また稜となる部分が比較的幅広である。大きさは他のタデ属より小さい。2点出土し、1点は完形で、もう1点は全体の2/3程度残存していた。2点とも基部は残存していない。

(3)イネ *Oryza sativa* Linn. 炭化種子 イネ科

炭化種子が出土した。側面観・上面観共に楕円形。上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が脱落した凹みがある精白米と、表面の一部に種皮が張り付き、胚が残存している玄米がみられた。両面に中央がやや盛り上がる縦方向の2本の浅い溝がある。計測可能な25点の長さ平均4.3mm、幅平均2.8mm。大きさは第12表に示したようにばらついた。また形状にたとえばS4にみられるように幅広のタイプ(長さ4.6mm、幅3.0mm)と、幅狭のタイプ(長さ4.7mm、幅2.4mm)がみられたが、これが品種の違いを示しているのか、同一種の変異を示しているのかは不明である。また16号住居出土のイネの一部には果実(穎)が残存していた。果実表面には顆粒状突起が密に分布する。

(4)アワ *Setaria italica* Beauv. 炭化種子 イネ科

炭化種子が出土した。長さ1.0mm、幅1.0mm。側面観は

第12表 16号住居出土イネ炭化種子の大きさ(N=25)

試料番号	大きさ(単位mm)	
	長さ	幅
S3	4.0	2.5
S4	4.6	3.0
	4.7	2.4
S6	5.0	3.0
	4.1	2.4
	4.6	3.5
	4.9	2.8
	4.6	3.0
	4.9	2.9
	4.8	3.5
	3.8	3.1
	4.8	3.0
	3.7	2.0
	4.5	3.5
	4.1	3.0
	4.0	3.0
4.6	3.2	
4.5	2.9	
4.6	3.4	
3.6	2.5	
4.1	2.6	
3.8	2.9	
3.7	2.0	
3.6	2.3	
S7	4.6	2.7
平均	4.3	2.8
最大値	5.0	3.5
最小値	3.6	2.0

円形に近く、先端が窪むことが多い。小さい割に厚みがあり、丸っこい傾向がある。胚の長さは胚乳の長さの2/3程度。腹面下端中央の窪んだ位置に細長い楕円形の小さな臍がある。3点中、2点は発泡していた。

(5)コムギ(パンコムギ) *Triticum aestivum* Linn. 炭化種子 イネ科

炭化種子が出土した。上面観・側面観共に楕円形。表面の残存状況は悪いが、腹面中央部には、上下に走る1本の溝が観察できる。背面の下端中央部には、扇形の胚がある。オオムギに比べて長さが短く、幅に対して厚みがあるため、全体的に丸っこい傾向がある。断面形状は腹面側が窪み、背面側が円形となる(Jacomet, 2006)。またコムギの場合、側面観で最も背の高い部分(幅の広い部分)が基部付近に来る。長さ3.6mm、幅2.6mm。コムギ属にはパンコムギやマカロニコムギなど複数種あるが、一般的に日本産コムギと呼称しているものはパンコムギである。ここでは一般的な呼称で記載した。

なお、コムギーオオムギとしたものは、腹面側のみが残存し、長さ3.7mm、幅2.7mm。形状はコムギとしたもの

に似るが、状態が悪く、両者を明確に識別し得なかった。

(6)不明A Unknown A 炭化種実

炭化種実と思われる。残存長2.5mm、幅2.5mm。幅から推定される大きさはイネ種子の破片に類似するが、表面の構造が観察できなかつたため、同定には至らなかつた。

(7)不明B Unknown B 炭化種実

炭化種実と思われる。残存長3.4mm、幅4.5mm。破片のため、全体の大きさは不明である。元々円形あるいは扁平な円形で、表面は平滑。一端に周囲が窪み、中央部にやや突出する臍がある。

(8)不明C Unknown C 炭化種実

炭化種実と思われる。長さ3.0mm、幅1.9mm。側面観は長楕円形であるが、発泡や変形により本来の形状を留めていない可能性がある。表面は平滑。下端中央に臍と考えられる窪みがある。

(9)不明D Unknown D 炭化種実

炭化種実と思われる。残存長2.0mm、残存幅1.7mm。上面観は扁平、本来の側面観は楕円形か。表面には長楕円形の鱗状の構造が密集し、光沢がある。イタヤカエデ種子の表面構造に似るが、微細破片のため同定しえなかつた。

(10)不明E Unknown E 炭化種実

炭化種実と思われる。残存長2.1mm、残存幅1.7mm。臍のようにみえる長楕円形の隆起が2つ並行している。表面は平滑。

(11)虫えい

大きくわけて2つのタイプがみられる。径1.5～3.0mm程度の台形または円形、楕円形で、上から見ると円形で中央部が少し窪むものと、破片のため全体の形状は不明であるが、表面に蜂の巣状に円形の粒が密集するものがある。

(12)菌核 Spore

径0.6mm程度。球形で、表面には光沢がある。

5. 考察

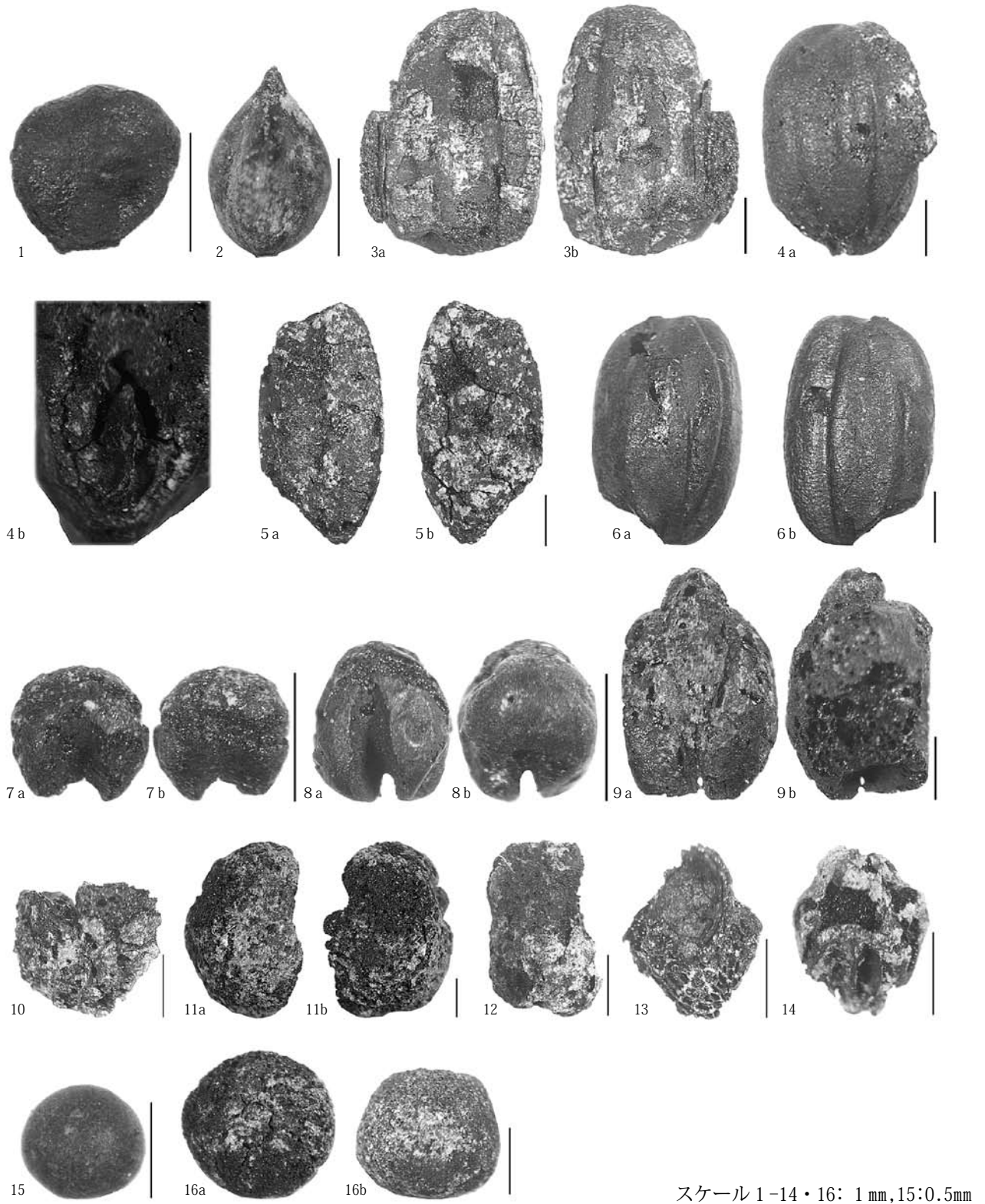
炭化種実は8号住居と16号住居から得られた。栽培植物として、イネと、アワ、コムギ、コムギーオオムギがあげられる。ただしコムギーオオムギとしたものは遺存状態が悪いものの、コムギに近い。利用の可能性がある植物としてはヤマグワなどの食用可能な種が含まれるクワ属近似種があげられる。イヌタデは道端や耕作地などに普通に見られる一年草で、果実自体は食用にならない。住居によって産出する分類群には差異があり、8号住居からはイヌタデ、コムギ、コムギーオオムギ、不明A、不明B、不明Cが、16号住居からはクワ属近似種、イネ、アワ、不明D、不明Eが見いだされた。このうち、もっともイネが多く、他は微量であった。イネが多く出土したS6中にはいわゆる籾殻であるイネの果実(穎)が一部付着していたものが散見された。そのほかの種子は玄米の状態であったため、脱穀した状態で、一部には殻が残存していたものが炭化したか、炭化すると籾殻は剥落しやすいため、本来は籾殻の状態であったものが炭化し、一部に穎が付着していた可能性が考えられる。後者であれば貯蔵状態のイネが炭化したことを示している。

試料はいずれも住居内から出土したことから、調理段階にあったものの一部が散乱した可能性や竈内から出土するものは調理後、焦げたものを廃棄した可能性などが考えられる。

虫えいは検討をおこなったすべての住居から出土した。虫えいは昆虫が葉・果実などの植物体に産卵寄生した結果、異常発育した部分である。種子や果実以外の部位を利用するために持ち込まれた植物体(燃料材の葉など)に付随して出土したことなどが想定される。

引用文献

Jacomet, S. and collaborators Archaeobotany Lab. (2006) Identification of cereal remains from archaeological sites. 2nd edition, IPAS, Basel Univ.



スケール 1-14・16: 1mm, 15:0.5mm

第67図 上泉武田遺跡から出土した炭化種実

1. クワ属近似種炭化核(S6)、2. イヌタデ炭化果実(S1)、3. イネ炭化種子(S6)、4a. イネ炭化種子(S6)、4b. イネ炭化種子胚部分の拡大(S6)、5. イネ炭化種子(S4)、6. イネ炭化種子(S4)、7. アワ炭化種子(S6)、8. アワ炭化種子(S6)、9. コムギ炭化種子(S1)、10. 不明A炭化種実(S1)、11. 不明B炭化種実(S1)、12. 不明C炭化種実(S1)、13. 不明D炭化種実(S3)、14. 不明E炭化種実(S6)、15. 菌核(S6)、16. 虫えい(S8)

第6章 成果のまとめ

第1節 科学分析の成果

第5章では住居内で発見された炭化材と炭化種実の同定・分析の結果を示した。ここでは、その報告文による成果について記しておきたい。

1 炭化材の同定

同定を委託した炭化材は試料2点で、いずれも5号住居から採取されたものである。同定の結果、2点とも落葉広葉樹のクリであることが判明した。材は「直径22mm程度の芯持ちのみかん割り材」である。県内の他遺跡出土材と同様に、クリは「主要な建築材」のひとつであると推定され、古代の建築材に多用される可能性が指摘された。

2 炭化種実の同定

8号住居でイヌタデ炭化果実・コムギ炭化種子・コムギ・オオムギ炭化種子破片・その他が同定され、16号住居でクワ属近似種炭化核・イネ炭化種子・アワ炭化種子・その他が同定された。16号住居の試料S6は北東部を中心とする出土地点Dの範囲、試料S7は16号住居カマド内で採取されたもので、「大多数が玄米」という。県内のコムギ・オオムギの出土は弥生時代に遡ることが判明している(洞口正史「群馬県種実類調査遺跡集成」『研究紀要』26,2008群埋文)。

第2節 遺物の特徴

本遺跡出土の遺物は、その大半が竪穴住居跡よりの出土であるが、その出土量は、極めて少ないと言える。検出された遺構は、上面の削平を受けてはいるものの、極端に依存状態が悪い訳でもなく、また、その出土状態も特異なものではない。

少ない遺物量ながら、その中にあって杯・椀類28点中8点に墨書が記されていることは、比率的には高いものと思われる。文字の判読に至るものは、I区3号住居出土の土師器杯2点のみで、2点とも底部外面に「日」と読める一字を記し、2点の筆跡は酷似する。その他の墨書についても、文字の判読には至らないものの、須恵器・土師器の杯・椀内外面の底部など、一般的な墨書土器の記載位置に一文字分程度の墨痕が見られる。

年代的には7世紀第2四半期頃から10世紀第2四半期ぐらいまでの間で、ほぼ普遍的に存在することから、遺跡地周辺で、この間に継続的に集落が営まれていたことを示唆している。

第3節 遺構の特徴

1 住居

本遺跡の住居は散在的で殆ど重複がない。I区の4号住居と5号住居とが重なり、4号住居→5号住居の順に新しい。また、3号住居－5号住居との間は1mほどしかなく、同時存在は困難と推定される。

住居規模に多少の大小差はあるが、確認された範囲で極端に大きいものや小さいものはなく、長方形または短辺の一方が短い台形のプランをもつ住居が多い。

カマドの位置は、大半が東壁に設置されているが、I区1号住居のみが西壁に設置されており、特異な存在となっている。

調査は、路線を横断する市道・大正用水を調査対象外

としたため、Ⅱ区～Ⅲ区間に大きな空白部が生じた。この間の遺構分布が明らかではないため、集落の展開を推察することは難しいが、調査区内の住居分布をみると、隣接するⅠ・Ⅱ区内では、検出の住居跡は15軒を数え、そのほとんどが南東半部に分布し、前記のカマド方向を異にする住居のみがやや間をおいて存在する。住居の年代は、概ね7世紀中～9世紀前半である。Ⅲ・Ⅳ区内では5軒の検出を数え、Ⅳ区東半部には住居の存在が認められない一帯があり、ここは地形的には緩斜面となっている。住居の年代は、Ⅲ区は7世紀代、Ⅳ区は9世紀後～10世紀前半であり、Ⅳ区北西部に位置する住居2軒は、隣接遺跡である五代砂留遺跡群で検出の集落に続くものと推察される。

このように、検出された集落は、概ね3ないし4群の時期が異なる単位が想定でき、それぞれの密集度は低く、重複することなくやや場所を変えて7世紀中から10世紀前半にかけて、この地に集落が営まれたものと推察される。

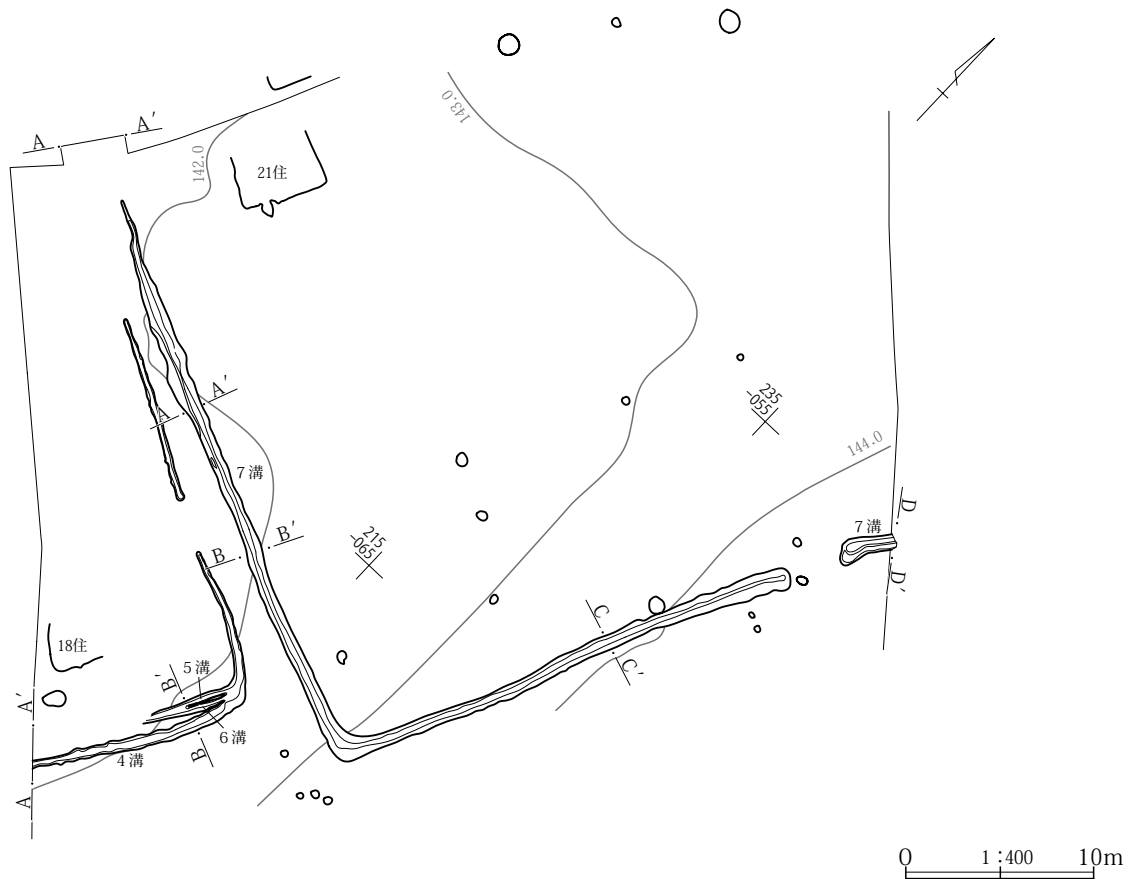
2 溝

第49図はⅣ区の遺構配置図、第68図はⅣ区の溝を抜き出した図である。Ⅳ区西半部は西へ向かって緩やかに低くなる地形で、もっとも高い位置で南北走行部をもつ溝が7号溝で、ほぼ直角に曲って西側へ延び、全体として調査区内ではL字の裏返し状を呈する。7号溝の南側に平行するような走行を示すのが6号溝である。

7号溝の北端部では、掘り込みが途切れる部分があり、その間隔は2.7m、周辺に2個の土坑と2個のピットを検出している。この掘り込みの無い部分を出入口と想定し、単純に北側へ折り返すと、南北約30～54mの方形区画が想定される。

区画内部には、いくつかの土坑・ピットが発見されているが、掘立柱建物になりそうな組合せは読み取れない。

7号溝の埋没土は黒褐色土で上位にAs-Bを含んでいることから、平安時代以降の溝と推察される。



第68図 Ⅳ区溝全体図

第6章 成果のまとめ

上記Ⅳ区6・7号溝とやや距離をおくが、Ⅲ区3号溝も二つの方形区画と軸をほぼ同じくすることから、一連の遺構、方形区画群と考えられる。

平野部における中世館跡は、山城に付随する館とは異なり、隣接して群を成す傾向にあり、本遺跡も同様の館跡群となるものと考えられる。

第69図は本遺跡を中心として、『群馬県の中世城館跡』に掲載された城館跡を1/2.5万地形図にプロットし、加筆して1/5万に縮小したものである。網点は本遺跡の東側を南流する薬師川の谷筋と、本遺跡の西側の無名の谷筋とで、現代の水田が営まれている区域、または谷地形を示している。無名の谷筋の谷頭は、上流4kmほどの畜産団地南側または嶺公園東側が推定できる。

地形図にプロットされた中世城館跡の分布をみると、これまでに確認された城館跡が本遺跡ののる尾根筋に見当たらず、ポツカリと空白区域となっている。この尾根筋上に城館跡が認められない原因がありそうである。

- a 集団の勢力範囲の境目に相当した。
- b この尾根筋を見通して、連絡可能だったので、拠点には不要だった。
- c 何らかの理由で、重要な区域ではなかった。
- d 踏査が行き届かず、未発見なため(4枚の地形図の合わせ目で踏査から除外された)。などの理由が考えられる。

仮に本遺跡検出の方形区画が中世館跡となるならば、この空白区域を埋める一つの拠点と考えることも可能であろう。



第69図 遺跡周辺の中世城館跡(1:50,000)

写真図版



I区全景 南上空から



I 区住居群



I区1号住居全景・カマド遺物 南東から



I区1号住居遺物全景 南東から



I区1号住居カマド前遺物状況 東から



I区1号住居カマド遺物全景 東から



I区1号住居掘り方全景 南東から



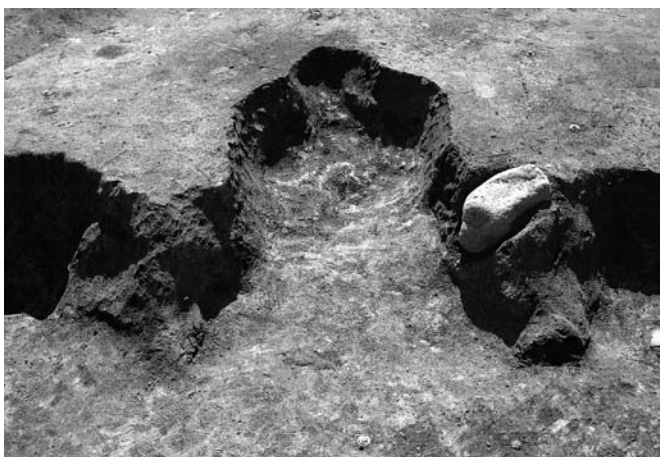
I区2号住居床面全景 西から



I区2号住居遺物全景 西から



I区2号住居貯蔵穴遺物 南から



I区2号住居カマド全景 西から



I区2号住居カマド掘り方 西から



I区3号住居床面全景 西から



I区3号住居遺物全景 西から



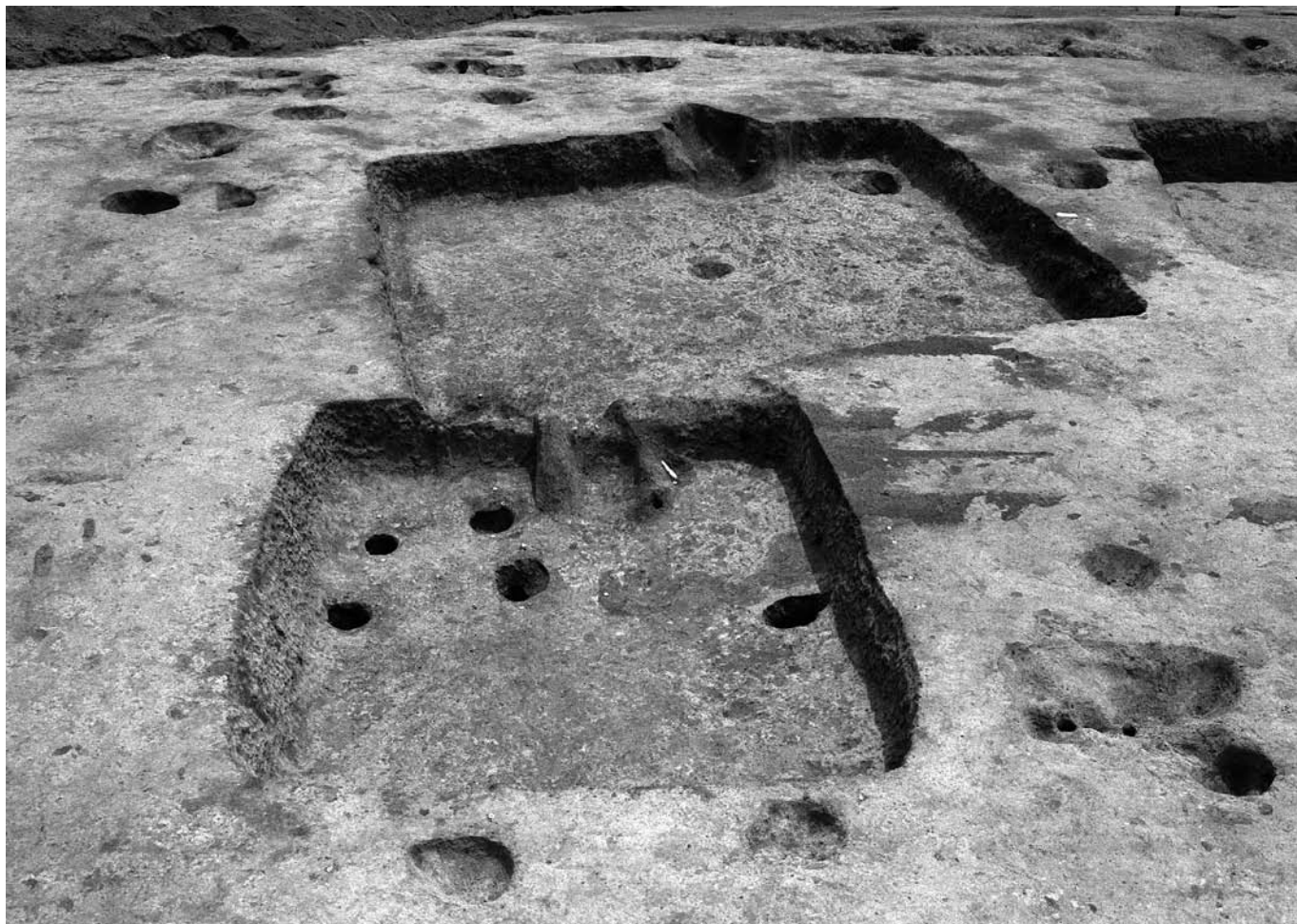
I区3号住居貯蔵穴遺物



I区3号住居カマド右壁上 北から



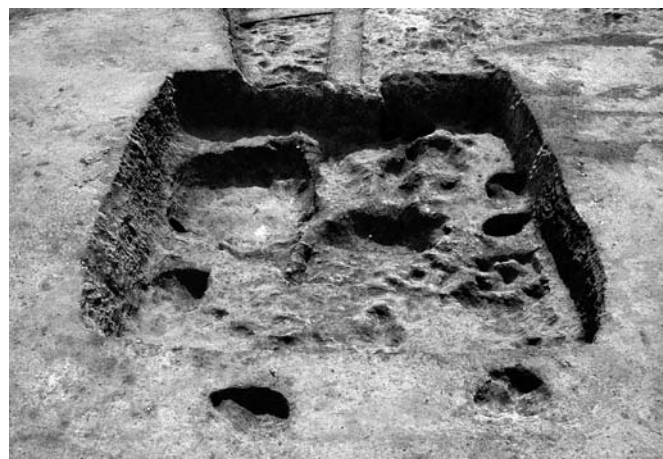
I区3号住居カマド全景 西から



I区4号・5号住居床面全景 西から



I区4号・5号住居遺物全景 西から



I区4号住居掘り方全景 西から



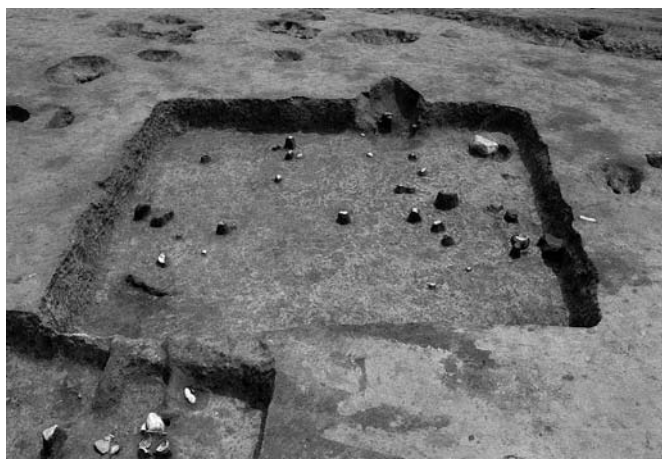
I区4号住居カマド前遺物 西から



I区4号住居カマド掘り方全景 西から



I区5号住居床面全景 西から



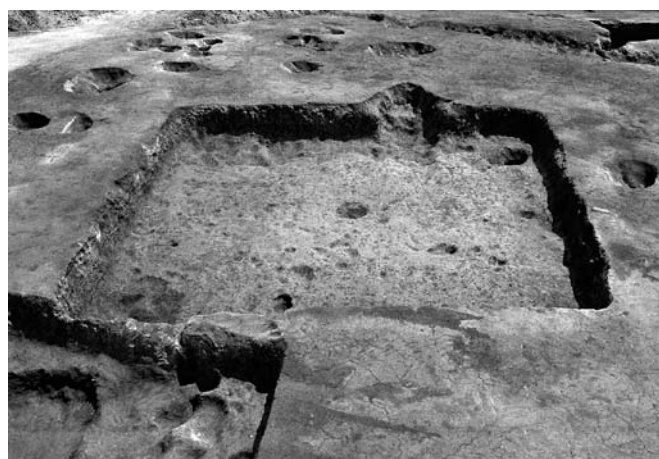
I区5号住居遺物全景 西から



I区5号住居南東隅遺物 北西から



I区5号住居カマド全景 西から



I区5号住居掘り方全景 西から



I区6号住居床面全景 西から



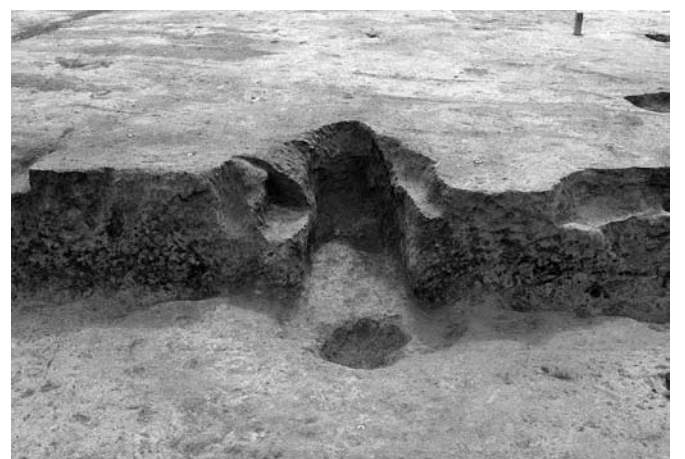
I区6号住居遺物全景 西から



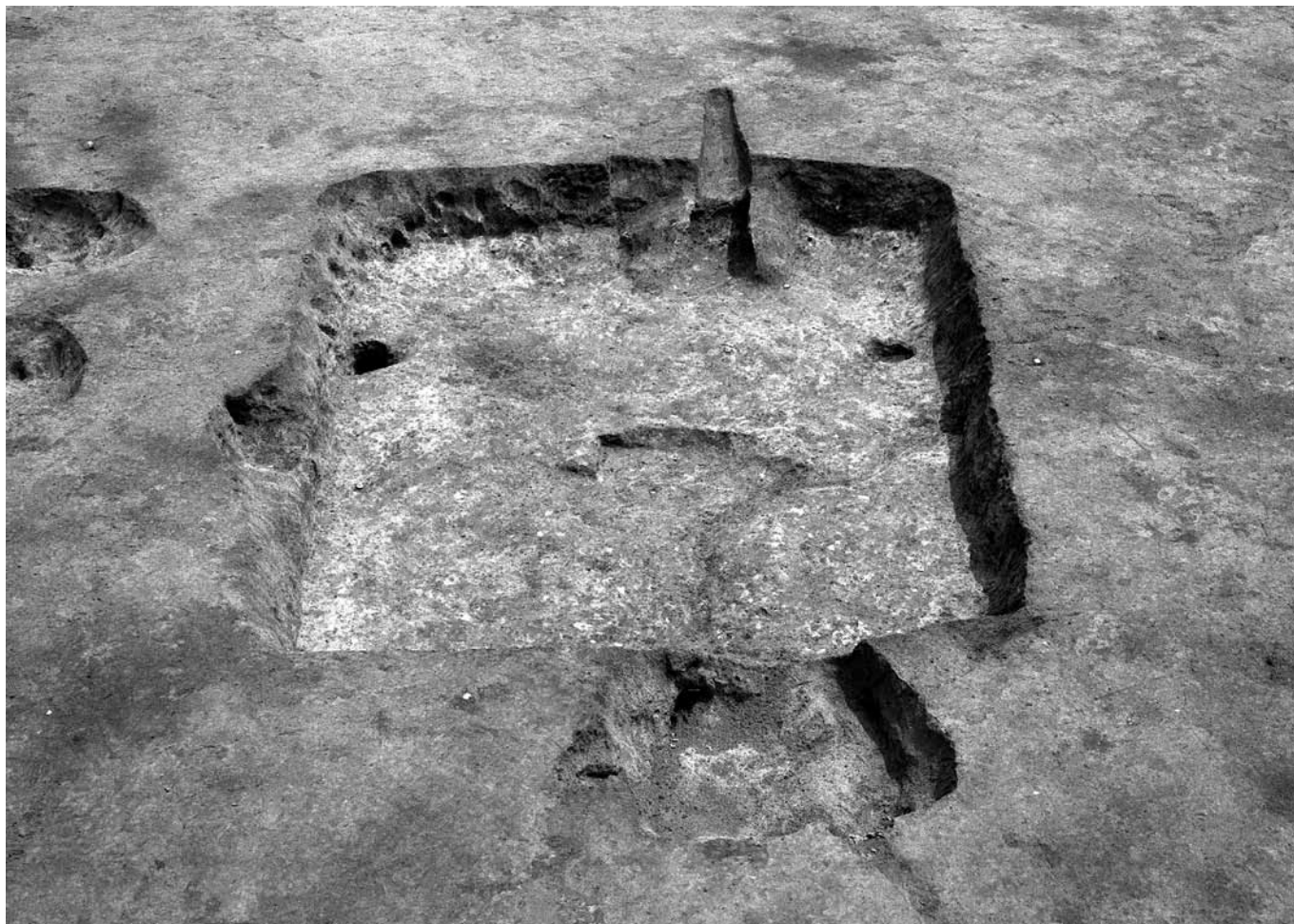
I区6号住居中央部遺物 南から



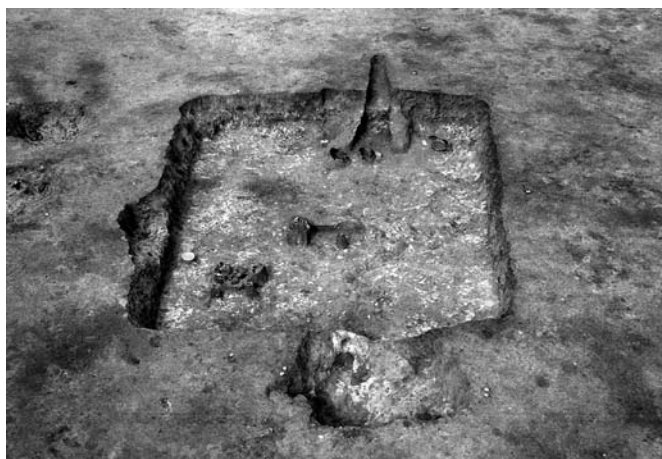
I区6号住居東西土層断面 南から



I区6号住居カマド全景 西から



I区7号住居床面全景 西から



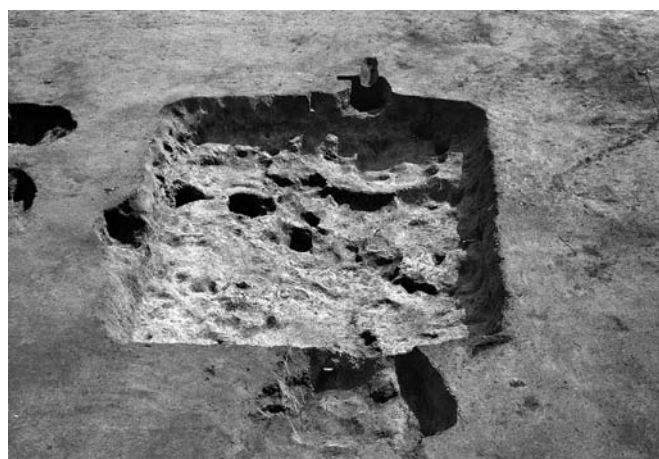
I区7号住居遺物全景 西から



I区7号住居北西部遺物 南から



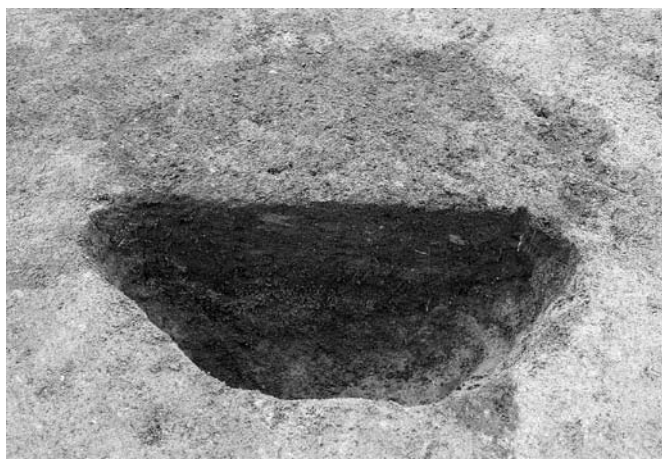
I区7号住居カマド遺物



I区7号住居掘り方全景 西から



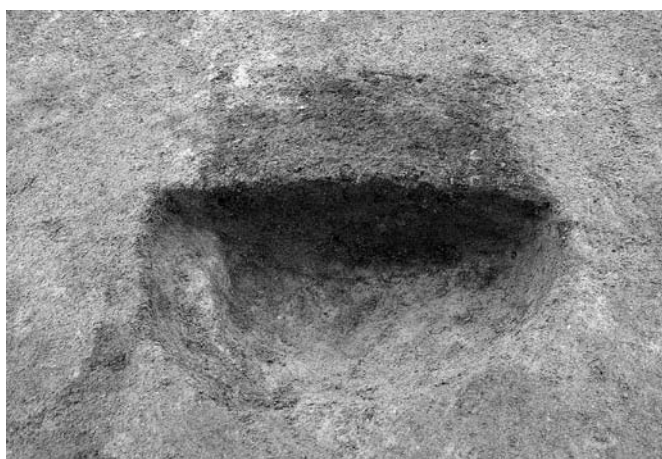
I区1号掘立柱建物全景 北から



I区1号掘立柱建物174号ピット



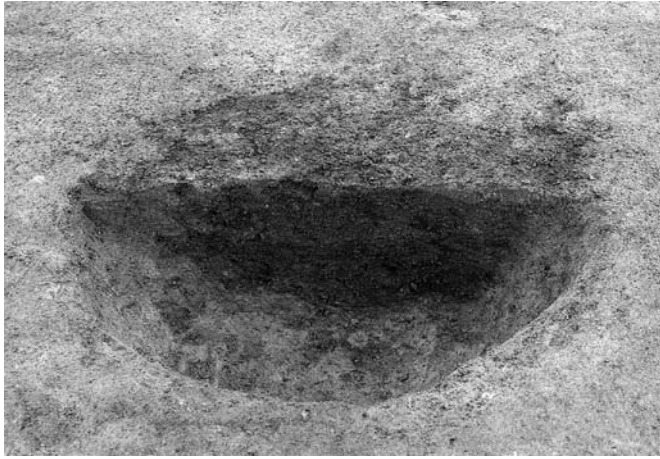
I区1号掘立柱建物177号ピット



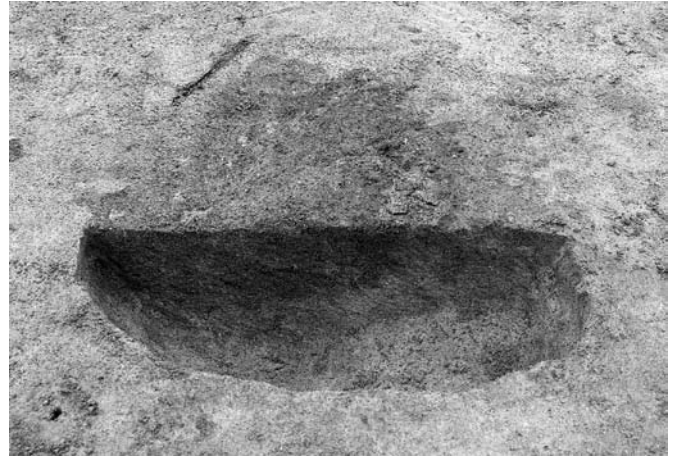
I区1号掘立柱建物178号ピット



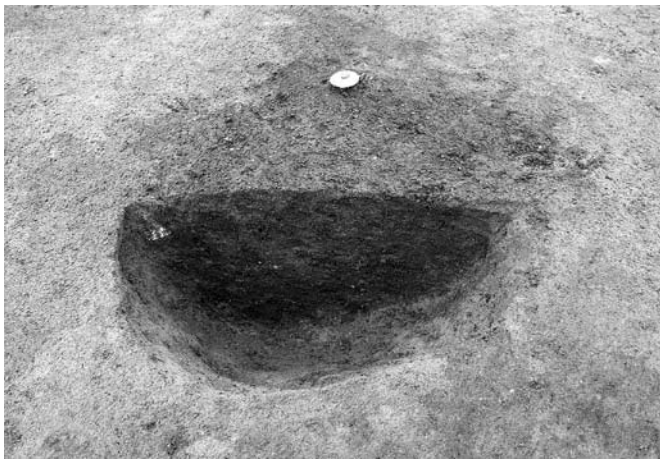
I区1号掘立柱建物179号ピット



I区1号掘立柱建物180号ピット



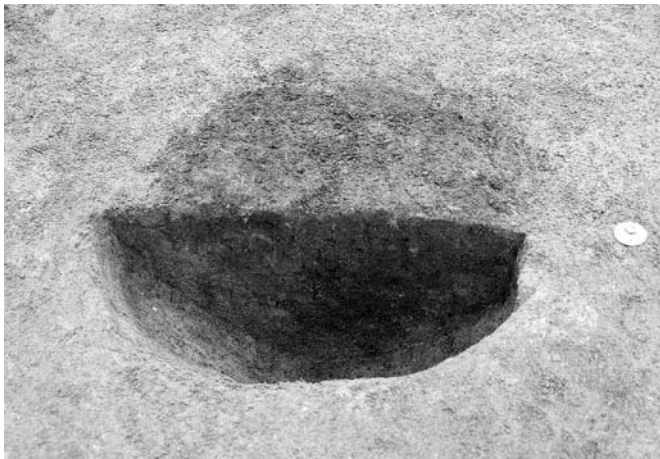
I区1号掘立柱建物182号ピット



I区1号掘立柱建物184号ピット



I区1号掘立柱建物185号ピット



I区1号掘立柱建物189号ピット



I区1号掘立柱建物202号ピット



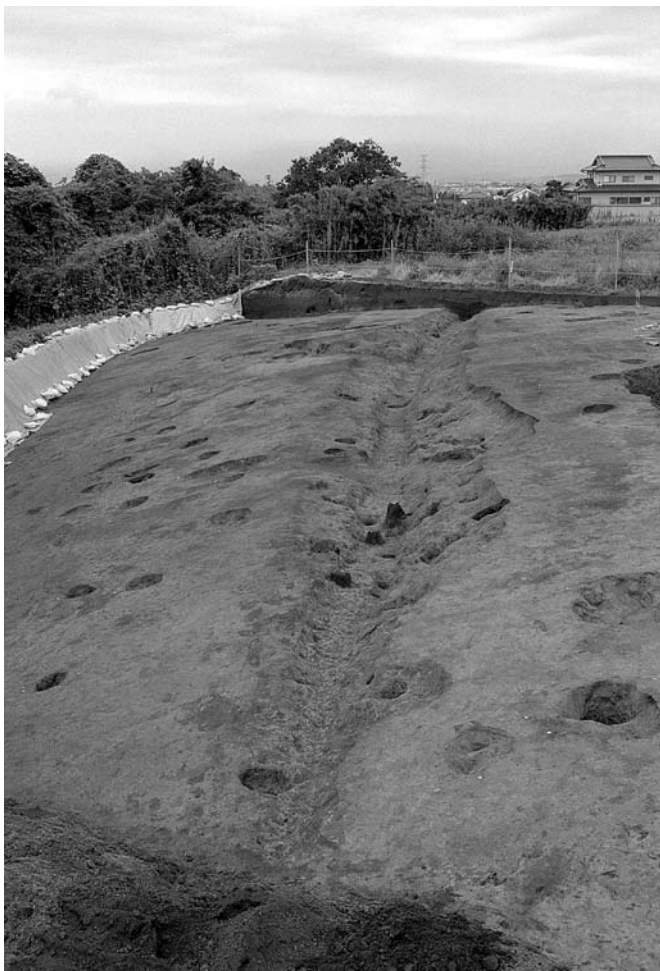
I区2号溝検出状態 北から



I区2号溝全景 北から



I区2号溝A-A'土層 北から



I区2号溝全景 北から



I区2号溝全景 南から



I区北東部ピット群 南から



I区8号土坑付近ピット群 東から



I区15号ピット付近 北から



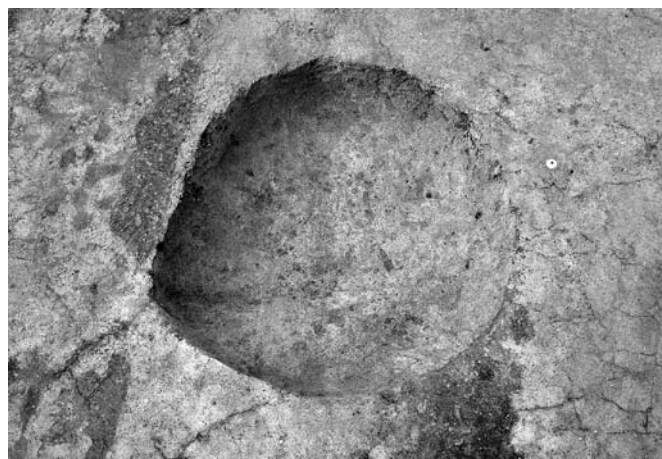
I区4号土坑 南から



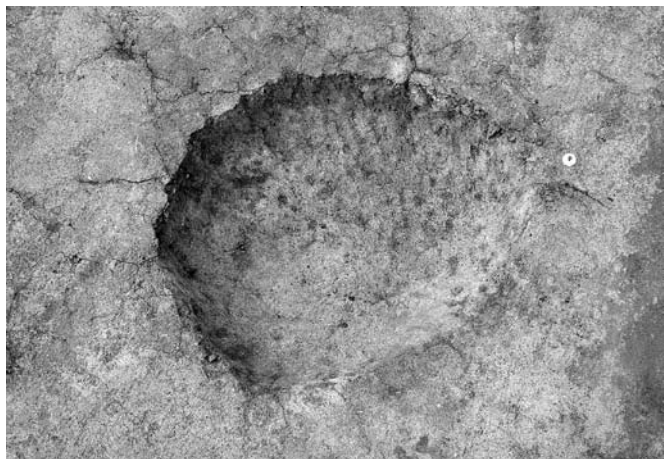
I区5号土坑 南から



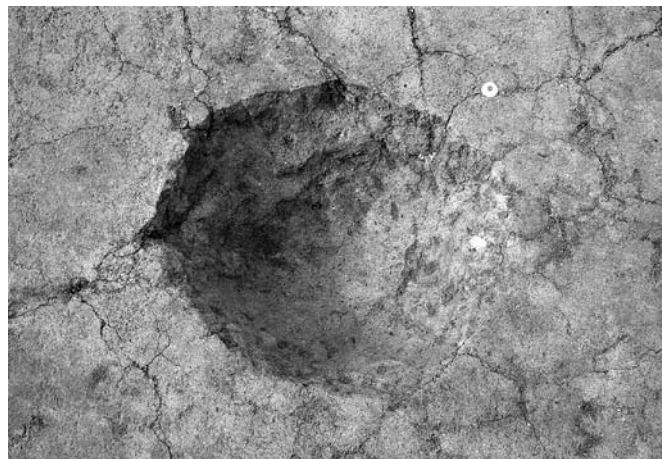
I区6号土坑 南から



I区7号土坑 南から



I区8号土坑 南から



I区9号土坑 南から



I区10号土坑



I区11号土坑 南から



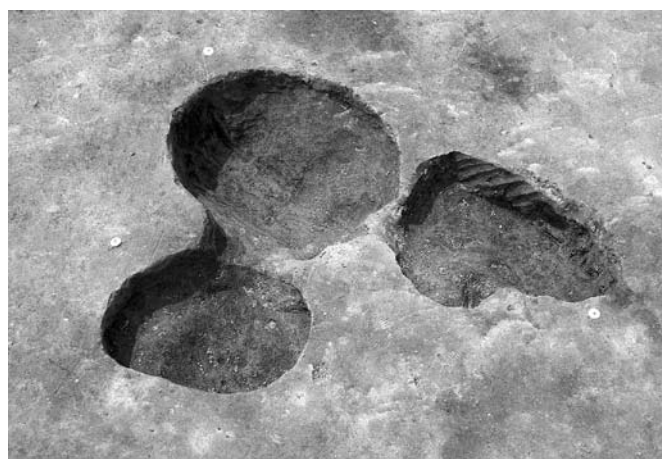
I区12号土坑 東から



I区13号土坑 南から



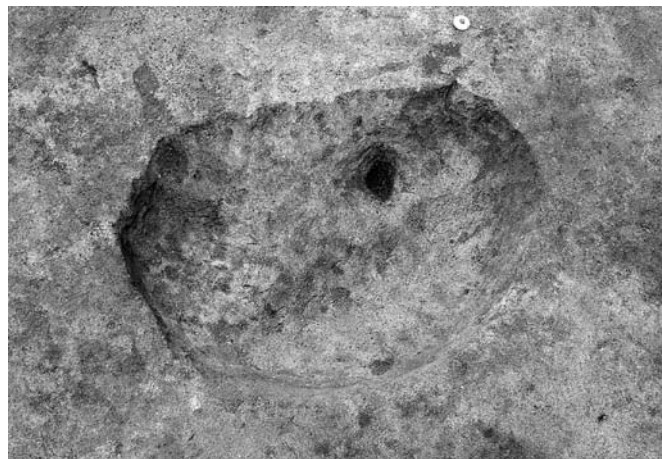
I区14号土坑・ピット群 西から



I区15号土坑・112号・113号ピット 東から



I区16号土坑・114号～117号ピット 南から



I区17号土坑 南から



I区18号土坑 南から



I区19号土坑 南から



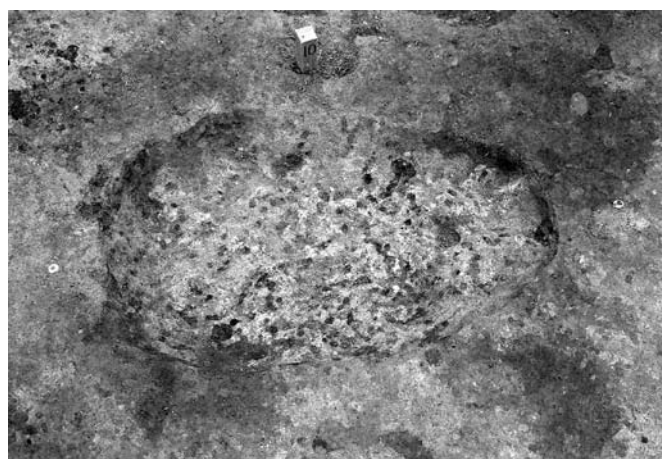
I区20号土坑



I区21号土坑



I区22号土坑



I区23号土坑



I 区24号土坑



I 区25号土坑



I 区26号土坑



I 区27号土坑



I 区28号土坑



I 区29号土坑



I 区30号土坑



I 区31号土坑



I 区32号土坑



I 区33号土坑



I 区34号土坑



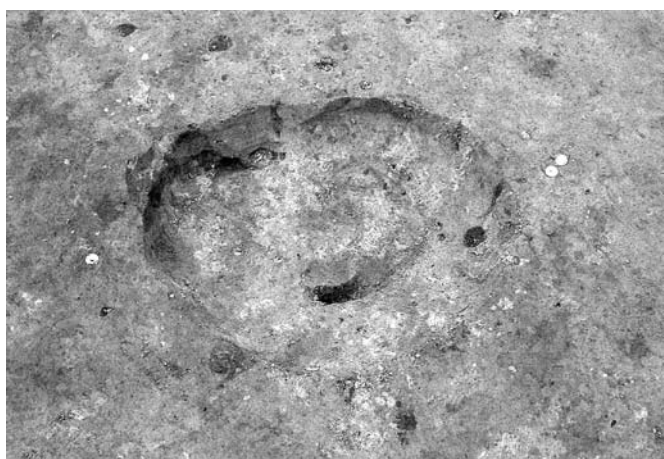
I 区35号土坑



I 区36号土坑 東から



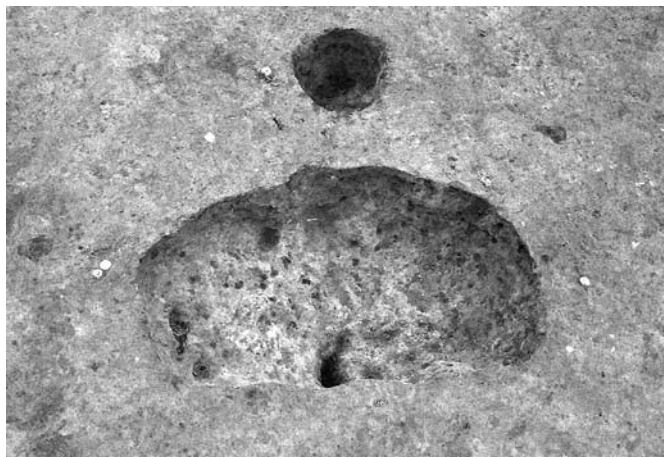
I 区37号土坑



I 区38号土坑



I 区39号土坑



I 区40号土坑



I 区41号土坑 南から



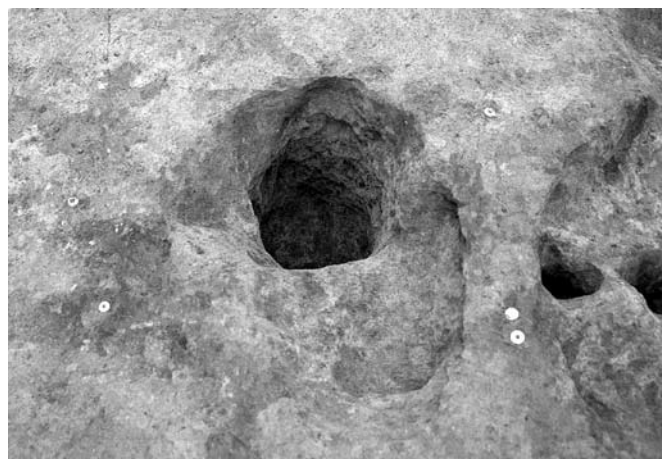
I 区42号土坑



I 区43号土坑・215号ピット



I 区44号土坑



I 区45号土坑



I 区46号土坑



I 区47号土坑



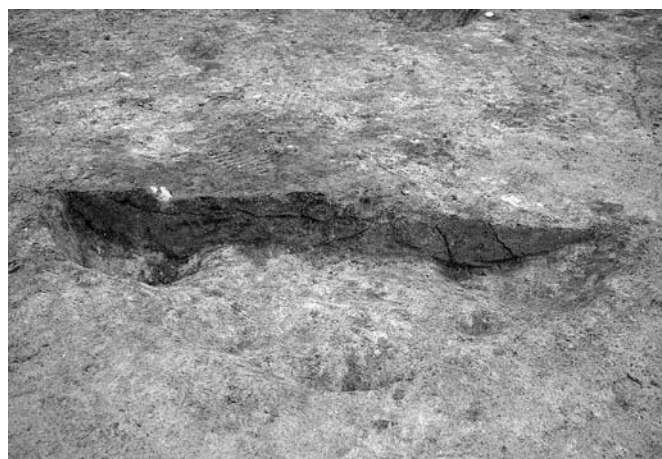
I 区48号土坑



I 区49号土坑



I 区50号土坑



I 区51号土坑



I 区52号土坑



I 区53号土坑



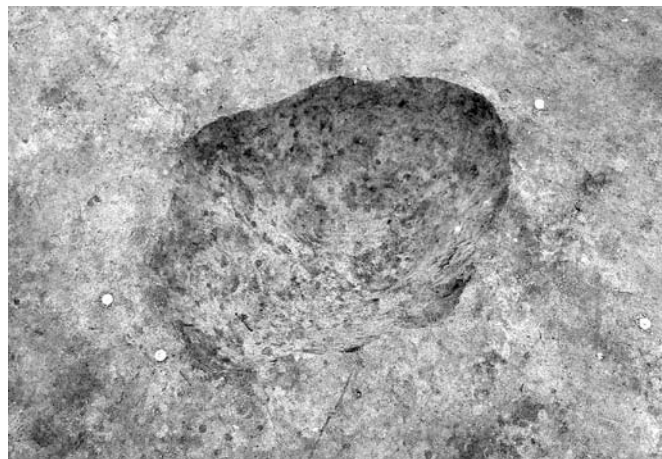
I 区54号土坑



I 区55号土坑



I 区56号土坑



I 区57号土坑



I 区58号土坑



I 区59号土坑



I 区60号土坑



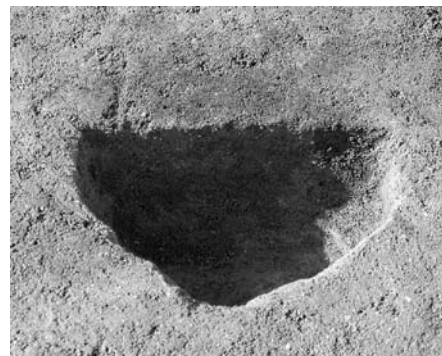
I 区61号土坑



I区1号ピット



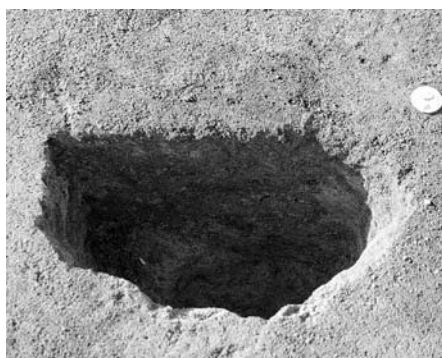
I区2号ピット



I区17号ピット



I区18号ピット



I区19号ピット



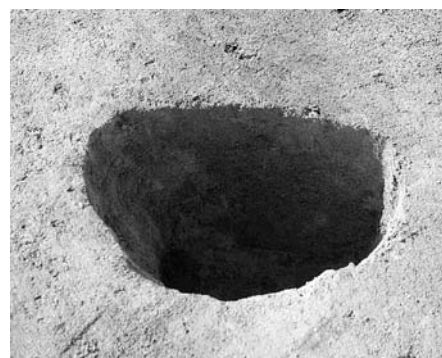
I区20号ピット



I区21号ピット



I区22号ピット



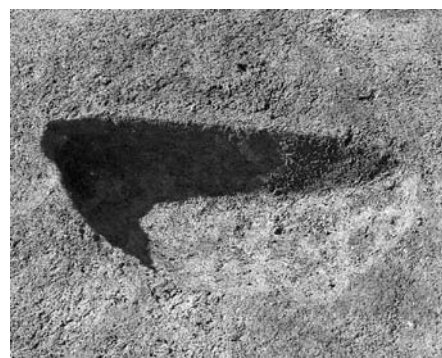
I区23号ピット



I区38号ピット



I区43号ピット



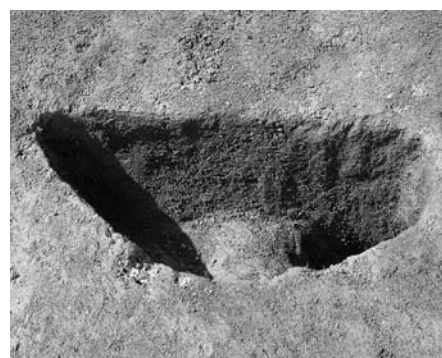
I区44号ピット



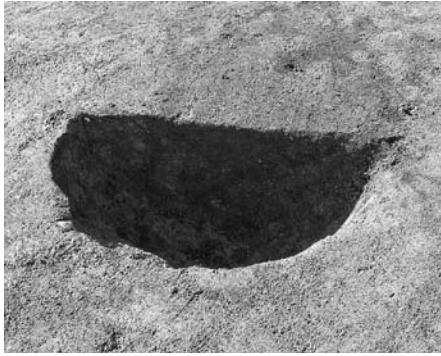
I区45号ピット



I区46号ピット



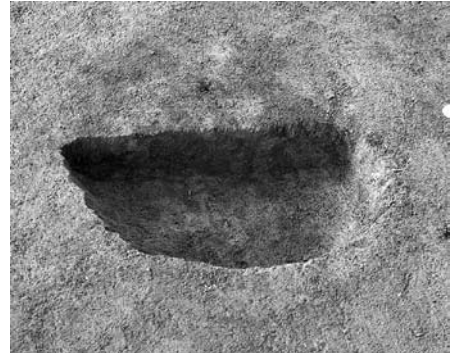
I区49号ピット



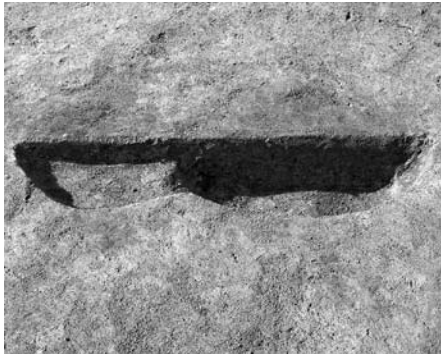
I 区50号ピット



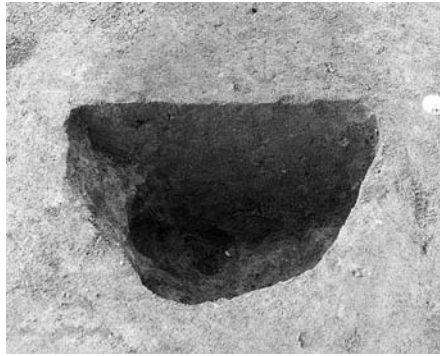
I 区51号・52号ピット



I 区53号ピット



I 区54号・55号ピット



I 区57号ピット



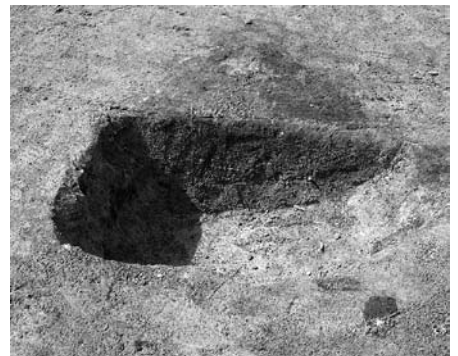
I 区58号ピット



I 区59号ピット



I 区60号ピット



I 区61号ピット



I 区62号ピット



I 区66号ピット



I 区67号ピット



I 区68号ピット



I 区69号ピット



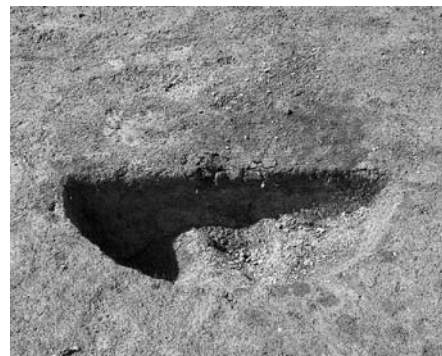
I 区70号ピット



I 区71号ピット



I 区72号ピット



I 区73号ピット



I 区74号ピット



I 区75号ピット



I 区76号ピット



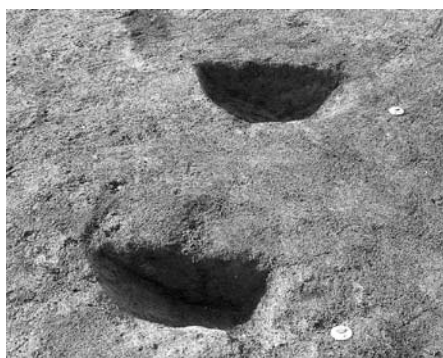
I 区77号ピット



I 区78号ピット



I 区79号ピット



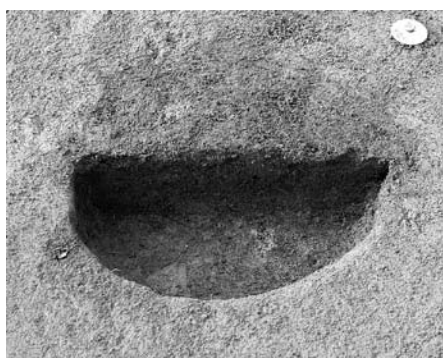
I 区80号・81号ピット



I 区82号ピット



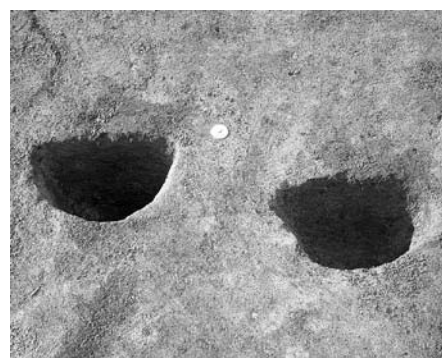
I 区83号ピット



I 区84号ピット



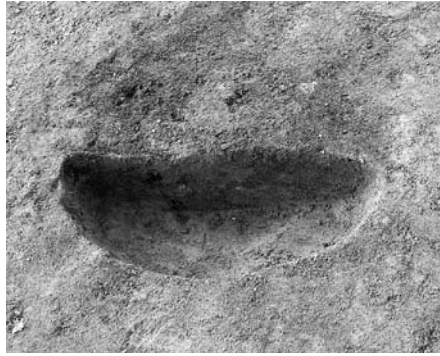
I 区85号ピット



I 区86号・87号ピット



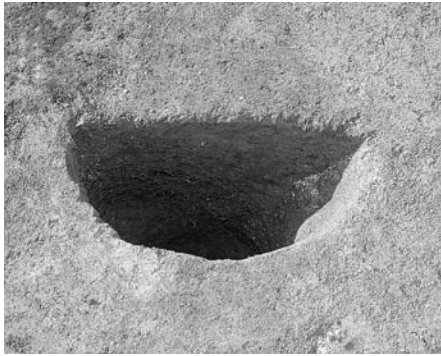
I 区88号ピット



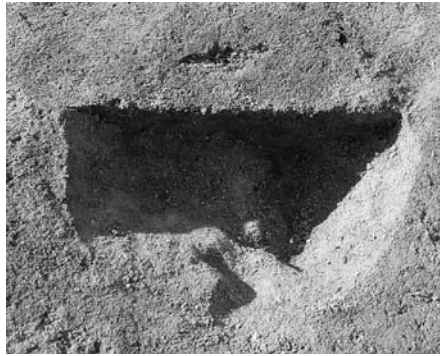
I 区89号ピット



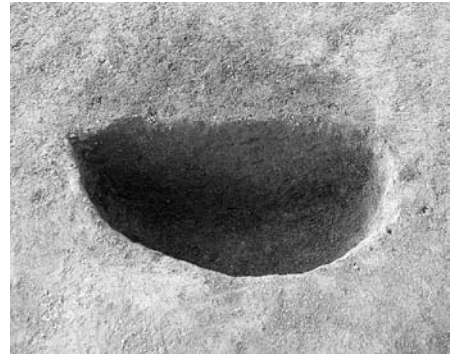
I 区90号ピット



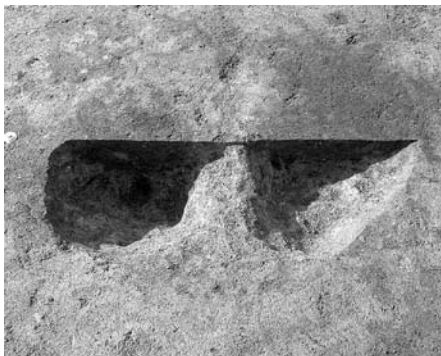
I 区91号ピット



I 区92号ピット



I 区93号ピット



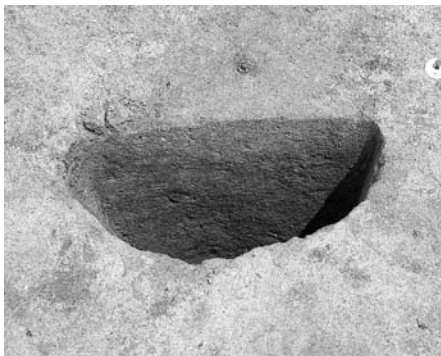
I 区94号・95号ピット



I 区96号ピット



I 区97号ピット



I 区98号ピット



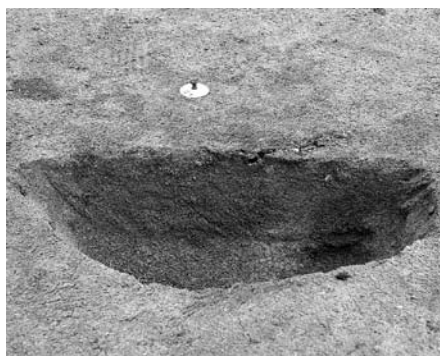
I 区101号ピット



I 区102号ピット



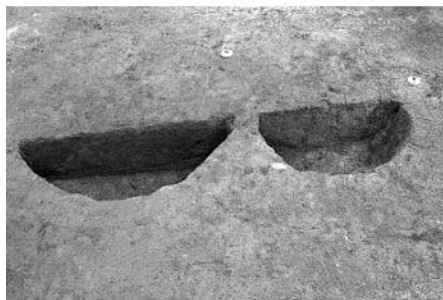
I 区103号ピット



I 区104号ピット



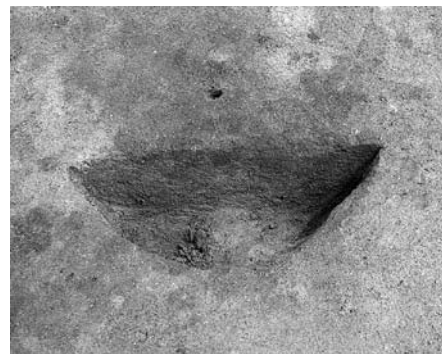
I 区105号～107号ピット



I区108号・109号ピット



I区110号ピット



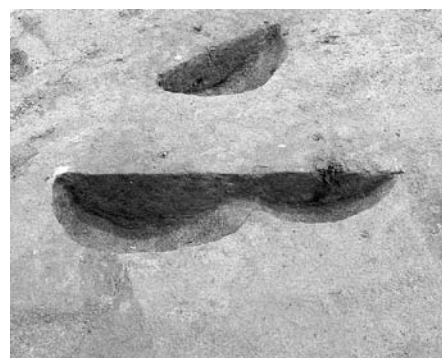
I区111号ピット



I区114号・115号ピット



I区116号ピット



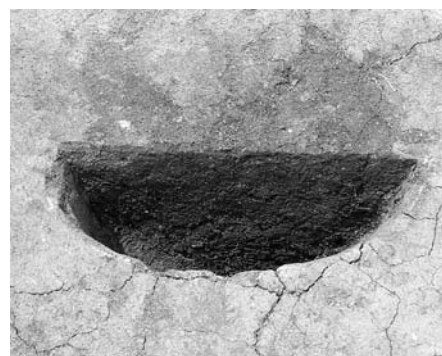
I区117号・118号ピット



I区119号ピット



I区120号ピット



I区121号ピット



I区122号ピット



I区123号ピット



I区124号ピット 北西から



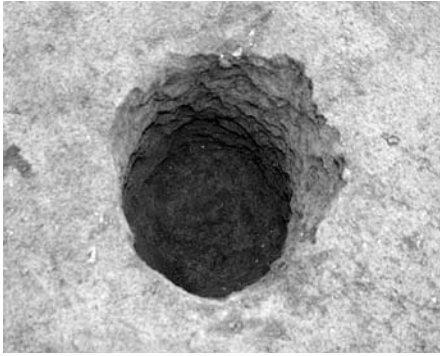
I区125号ピット



I区126号・127号ピット



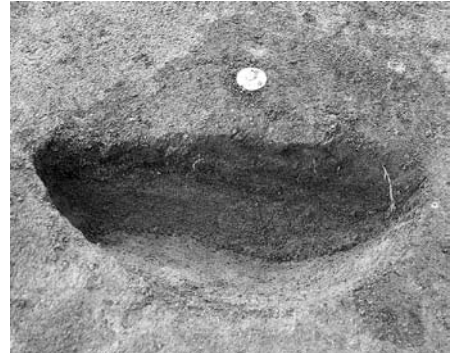
I区128号ピット



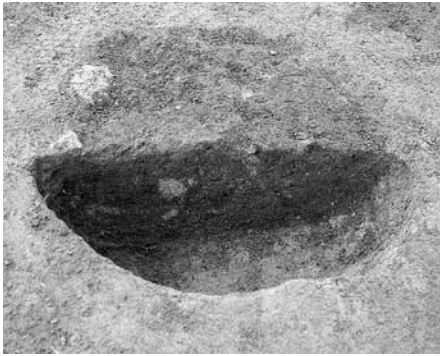
I 区129号ピット



I 区130号ピット



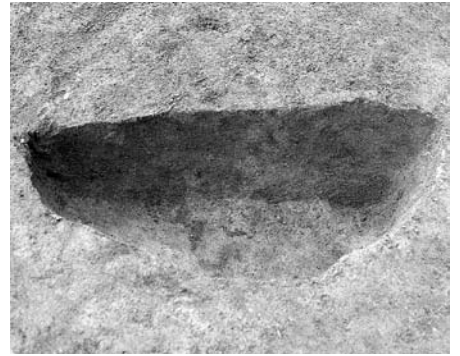
I 区131号ピット



I 区132号ピット



I 区133号ピット



I 区134号ピット



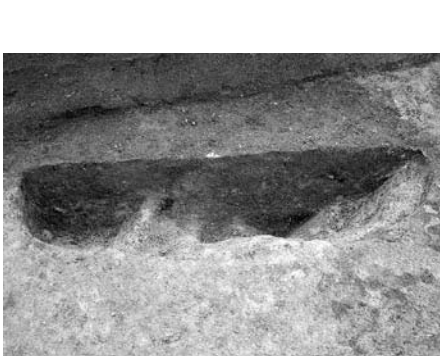
I 区135号ピット



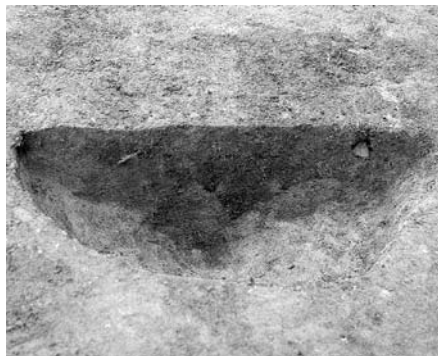
I 区136号ピット



I 区137号ピット



I 区138号ピット



I 区139号ピット



I 区140号ピット



I 区141号ピット



I 区142号ピット



I 区143号ピット



I 区144号ピット



I 区145号ピット



I 区146号ピット



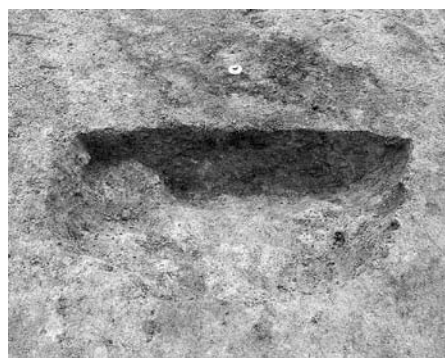
I 区147号ピット



I 区148号ピット



I 区149号ピット



I 区150号ピット



I 区151号ピット



I 区152号ピット



I 区153号ピット



I 区154号・155号ピット



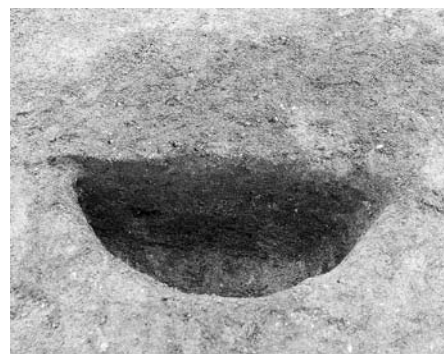
I 区157号ピット



I 区158号ピット



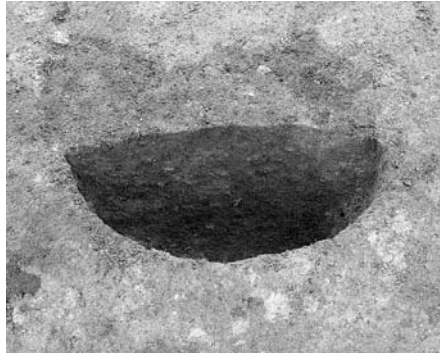
I 区159号・160号ピット



I 区161号ピット



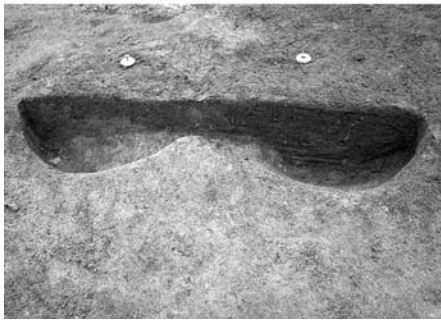
I 区162号ピット



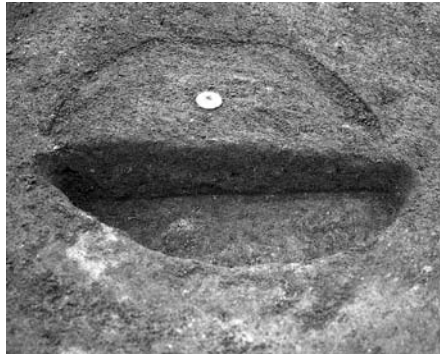
I 区163号ピット



I 区164号ピット



I 区165号・166号ピット



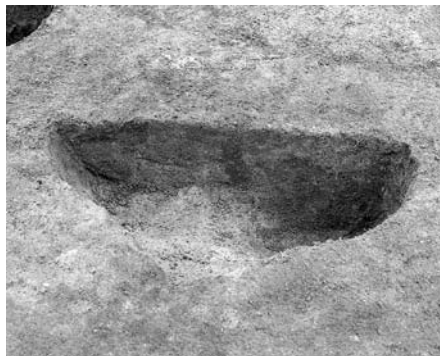
I 区167号ピット



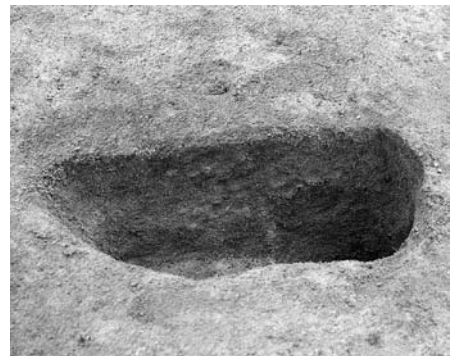
I 区168号ピット



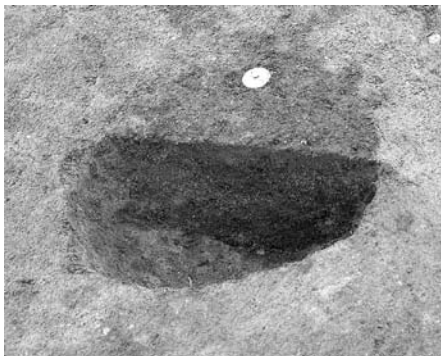
I 区169号ピット



I 区170号ピット



I 区171号ピット



I 区172号ピット



I 区173号ピット



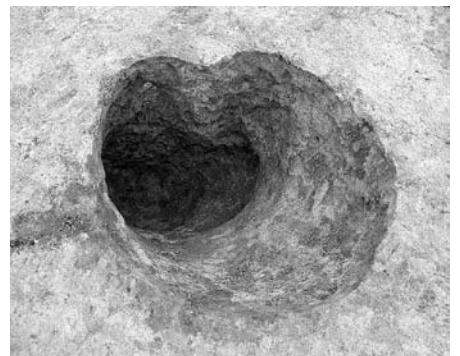
I 区175号ピット



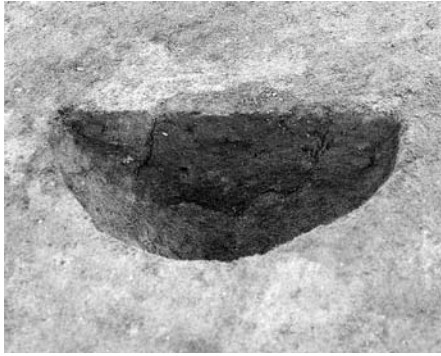
I 区176号ピット



I 区181号ピット



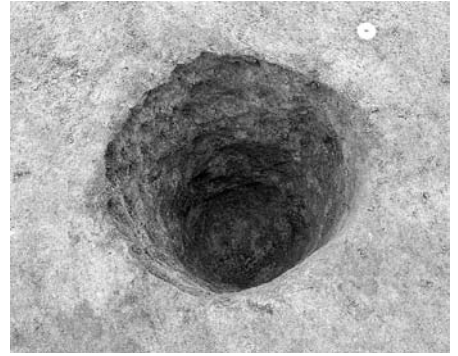
I 区183号ピット 南東から



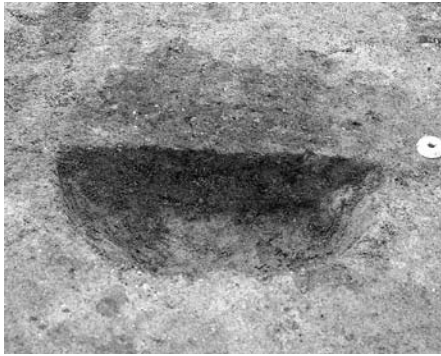
I 区186号ピット



I 区187号ピット



I 区188号ピット 南から



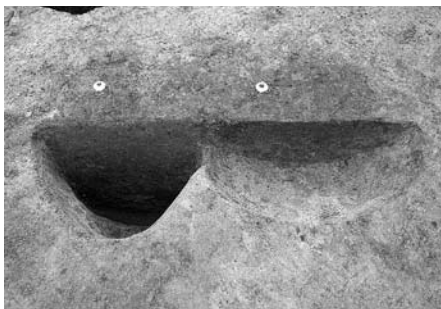
I 区190号ピット



I 区191号・192号ピット



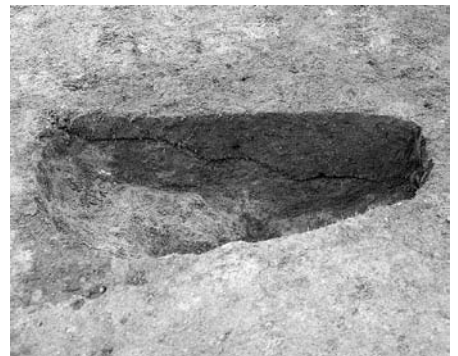
I 区193号ピット



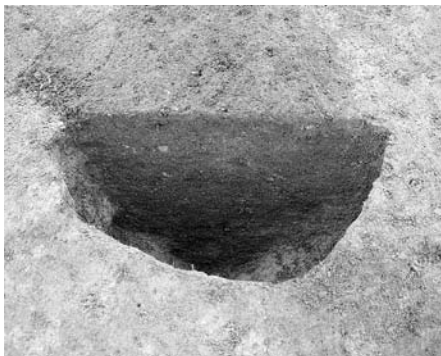
I 区194号・204号ピット



I 区195号ピット



I 区196号ピット



I 区197号ピット



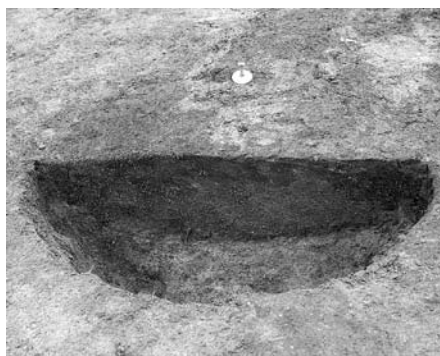
I 区199号ピット



I 区200号ピット



I 区201号ピット



I 区203号ピット



I 区207号ピット



I 区208号ピット



I 区209号ピット



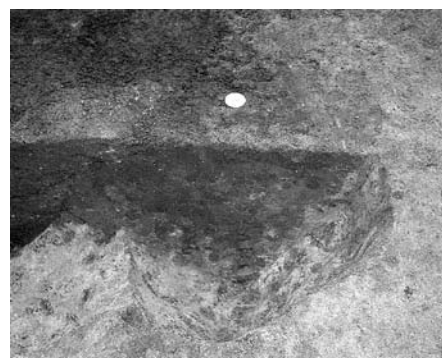
I 区210号ピット



I 区213号ピット



I 区214号ピット



I 区215号ピット



I 区216号ピット



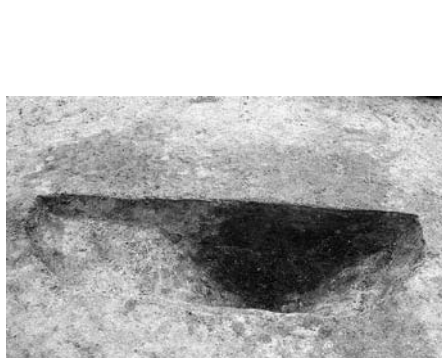
I 区218号ピット



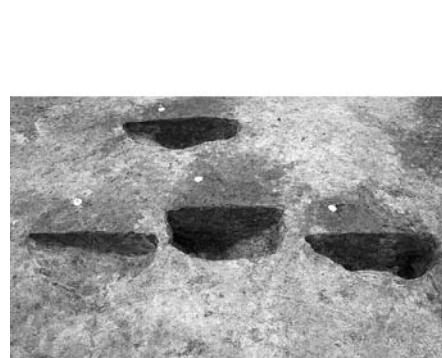
I 区219号ピット



I 区220号ピット



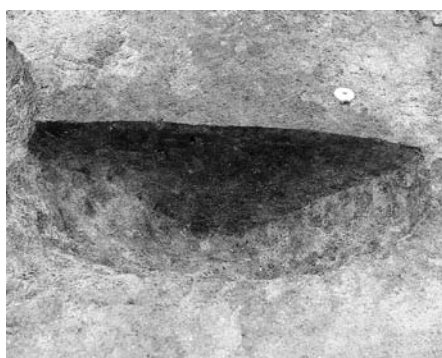
I 区221号ピット



I 区222号～224号ピット



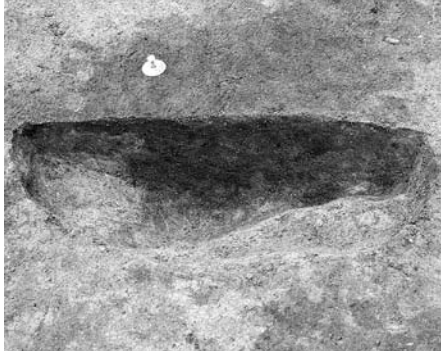
I 区223号ピット



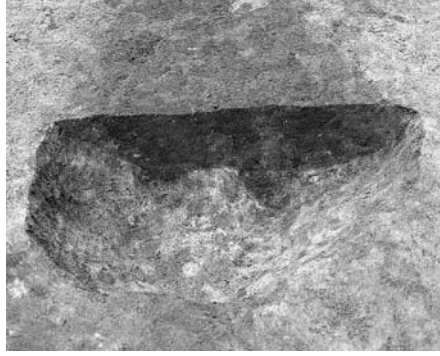
I 区225号ピット



I 区226号・227号ピット



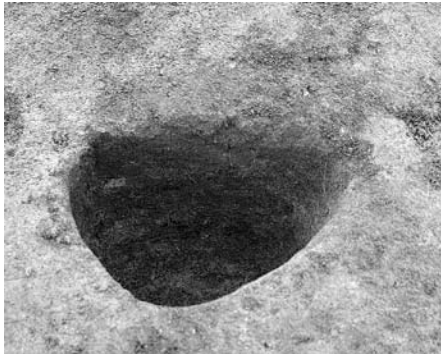
I 区228号ピット



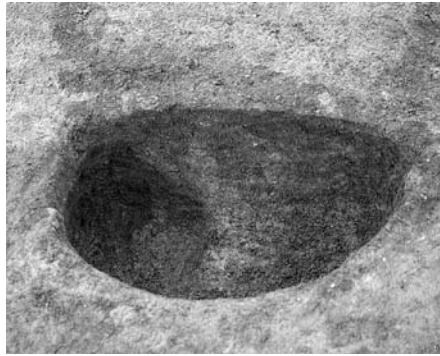
I 区229号ピット



I 区232号ピット



I 区234号ピット



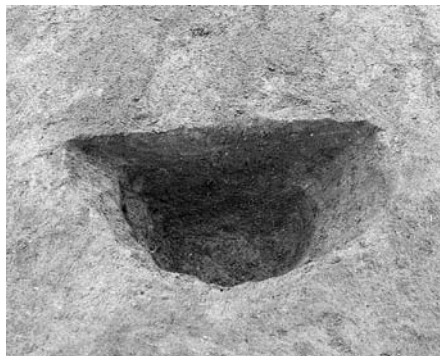
I 区235号ピット



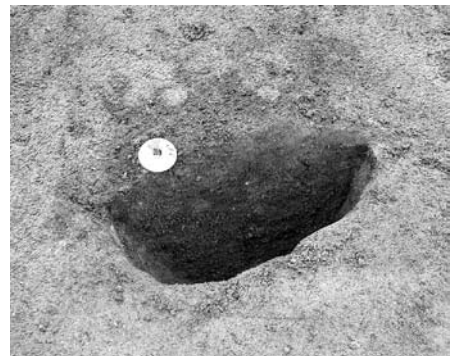
I 区236号ピット



I 区237号ピット



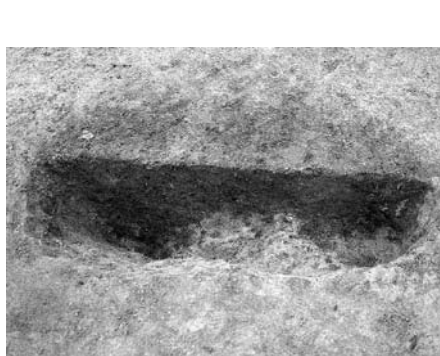
I 区238号ピット



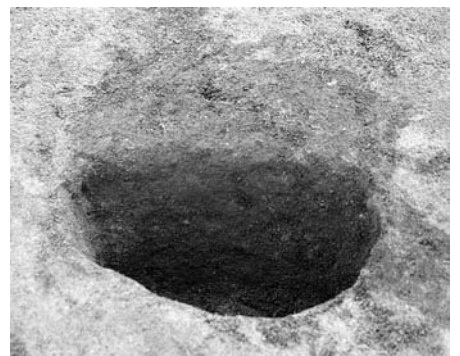
I 区239号ピット



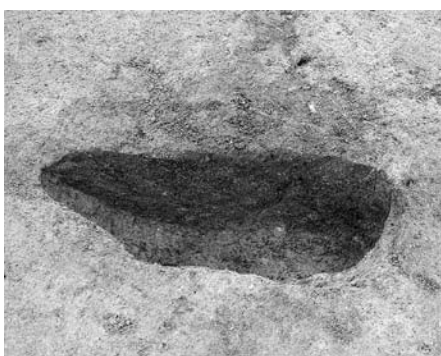
I 区240号ピット



I 区241号ピット



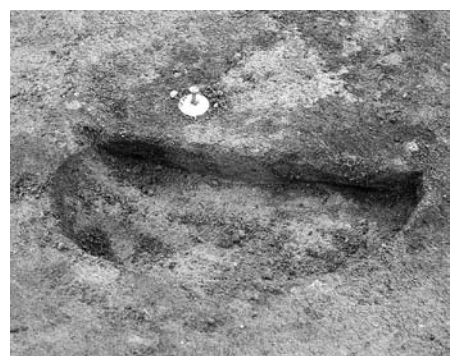
I 区242号ピット



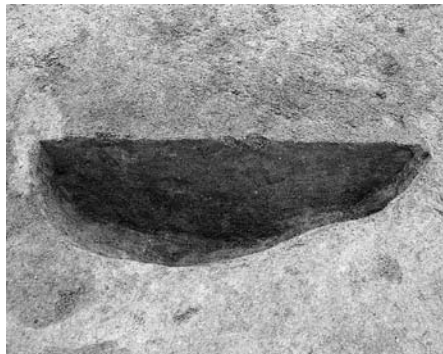
I 区244号ピット



I 区245号ピット



I 区246号ピット



I 区264号ピット



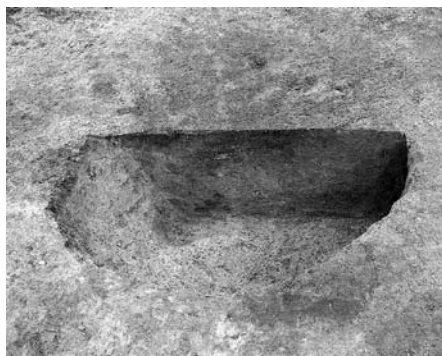
I 区267号ピット



I 区268号ピット



I 区269号ピット



I 区280号ピット



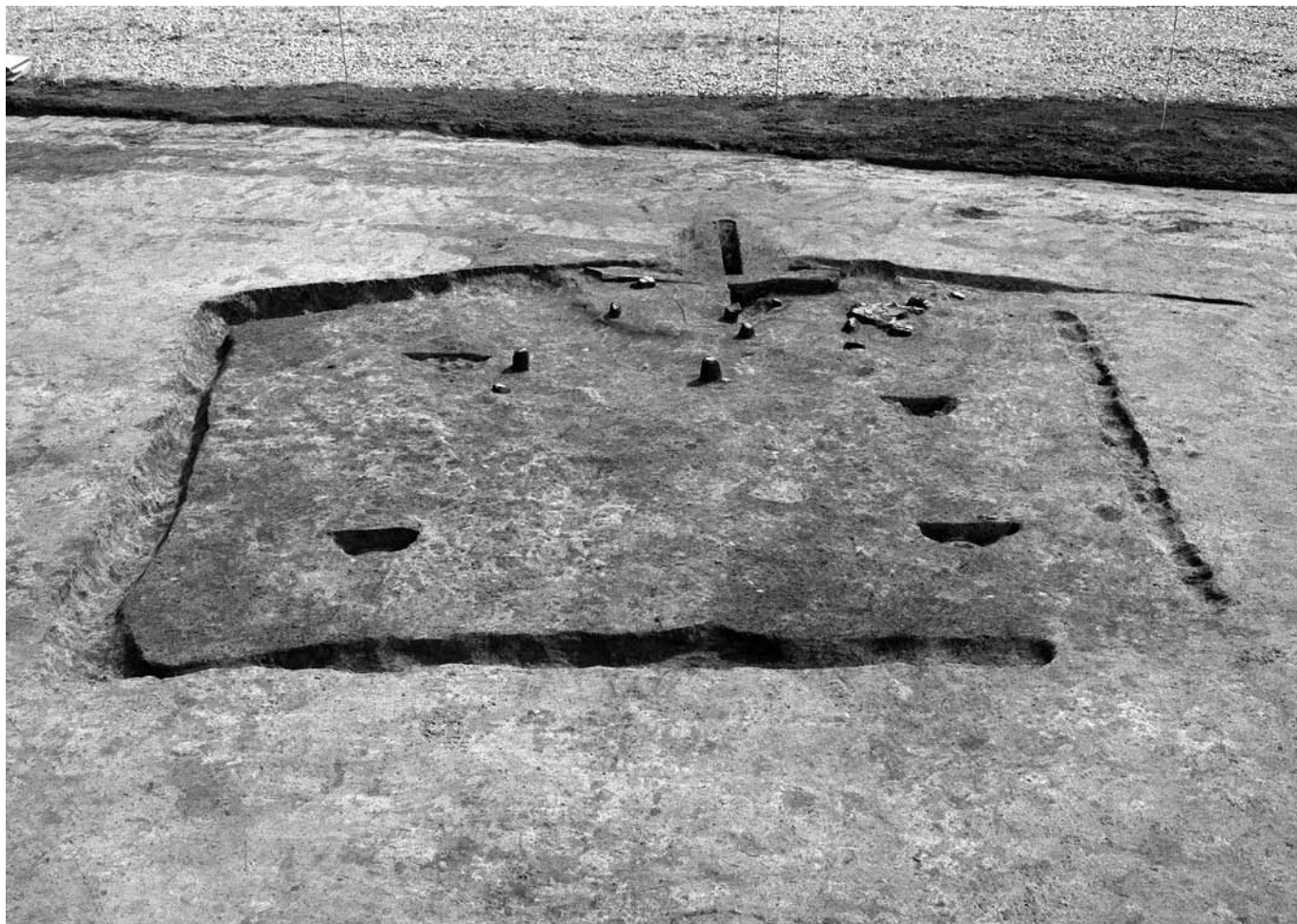
I 区351号・352号ピット



Ⅱ区全景 南東上空から



Ⅱ区全景 南上空から



Ⅱ区8号住居遺物全景 西から



Ⅱ区8号住居カマド土層断面 南西から



Ⅱ区8号住居掘り方全景 西から



Ⅱ区8号住居掘り方南半部 西から



Ⅱ区8号住居カマド掘り方 西から



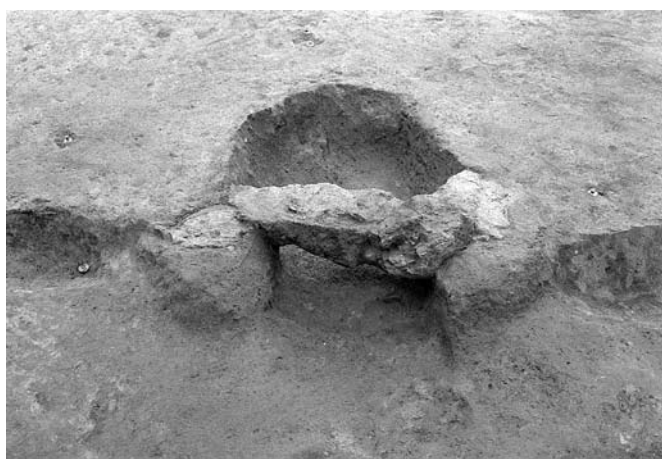
Ⅱ区9号住居遺物全景 西から



Ⅱ区9号住居南辺遺物 北から



Ⅱ区9号住居カマド袖石 西から



Ⅱ区9号住居カマド焼き口天井石 西から



Ⅱ区9号住居掘り方全景 西から



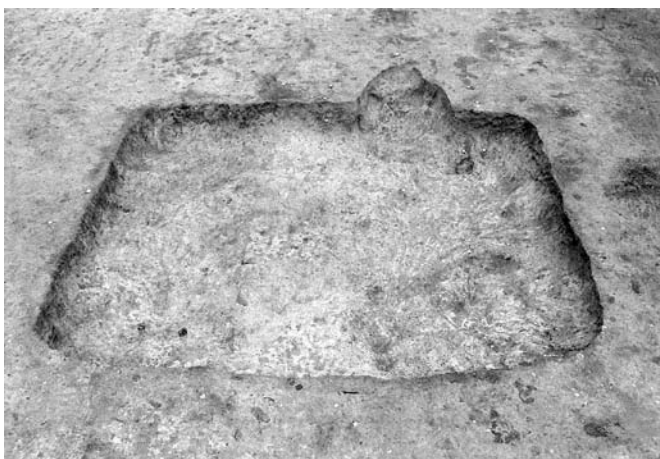
Ⅱ区10号住居遺物全景 西から



Ⅱ区10号住居カマド遺物



Ⅱ区10号住居カマド石 西から



Ⅱ区10号住居掘り方全景 西から



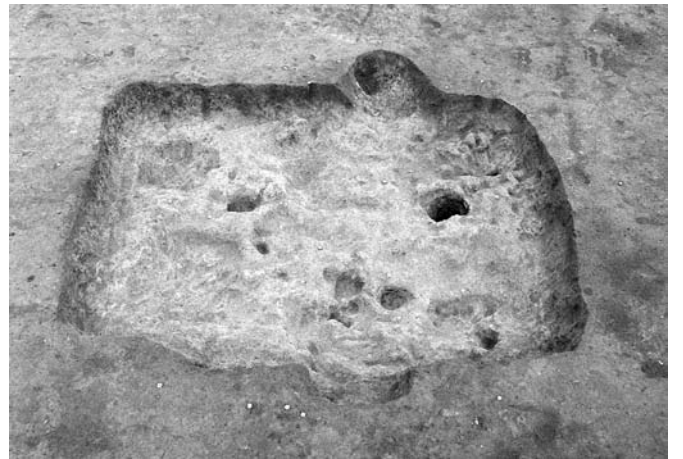
Ⅱ区10号住居カマド全景 西から



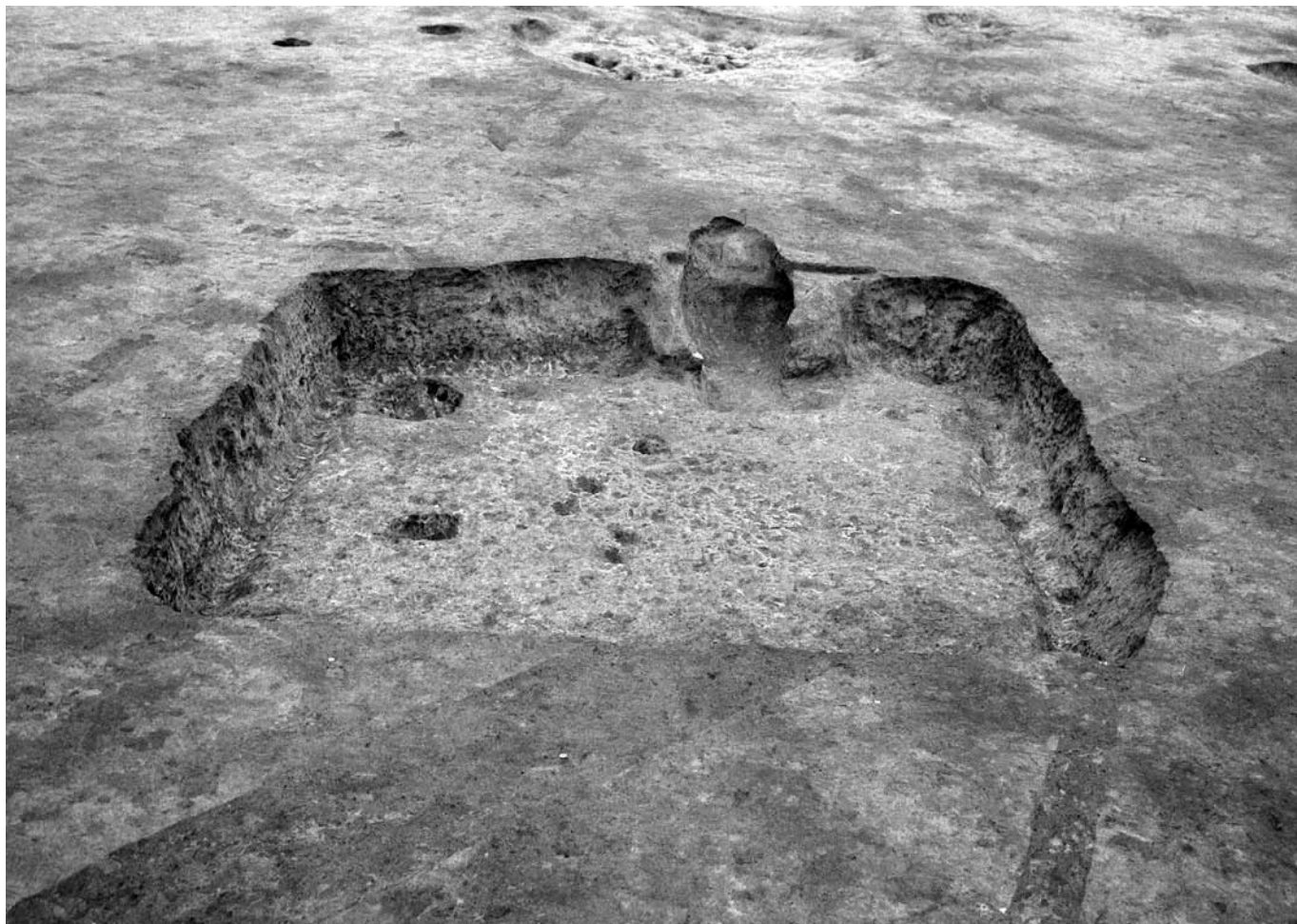
Ⅱ区11号住居遺物全景 西から



Ⅱ区11号住居カマド遺物 西から



Ⅱ区11号住居掘り方全景 西から



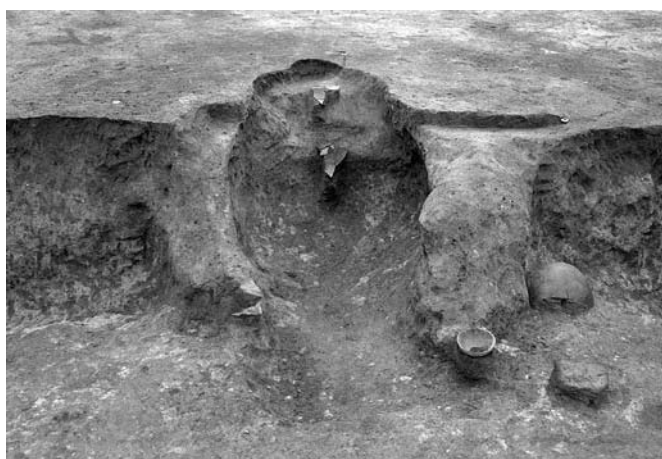
II区12号住居床面全景 西から



II区12号住居遺物全景 西から



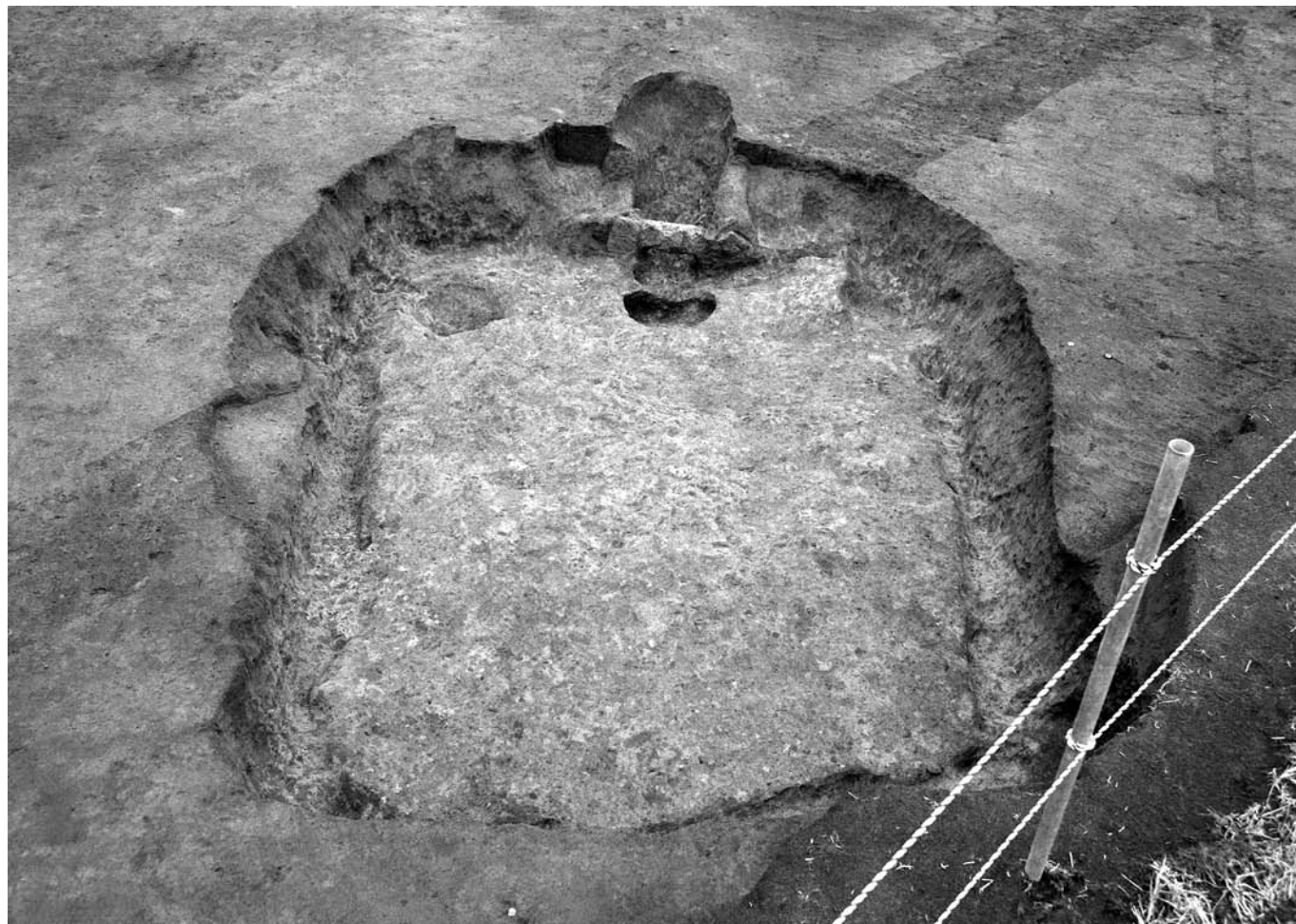
II区12号住居北西隅遺物



II区12号住居カマド遺物全景 西から



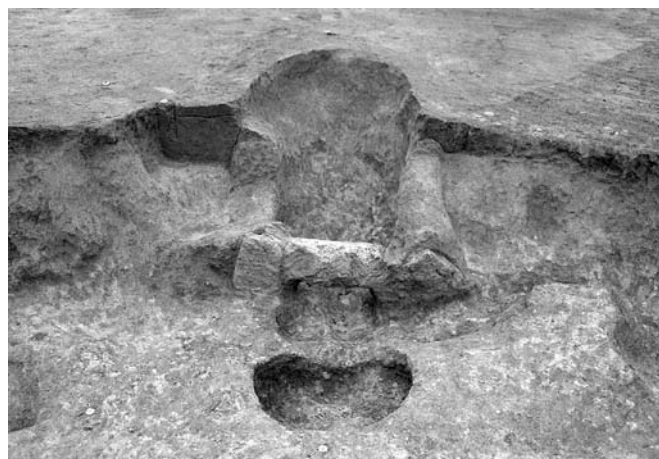
II区12号住居掘り方全景 西から



II区13号住居床面全景 西から



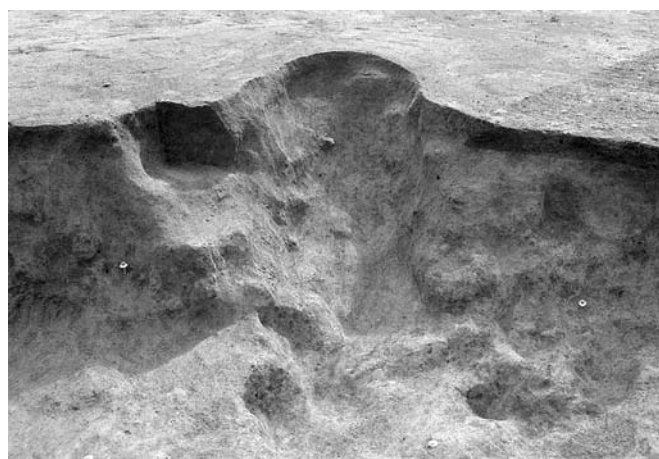
II区13号住居遺物全景 西から



II区13号住居カマド 西から



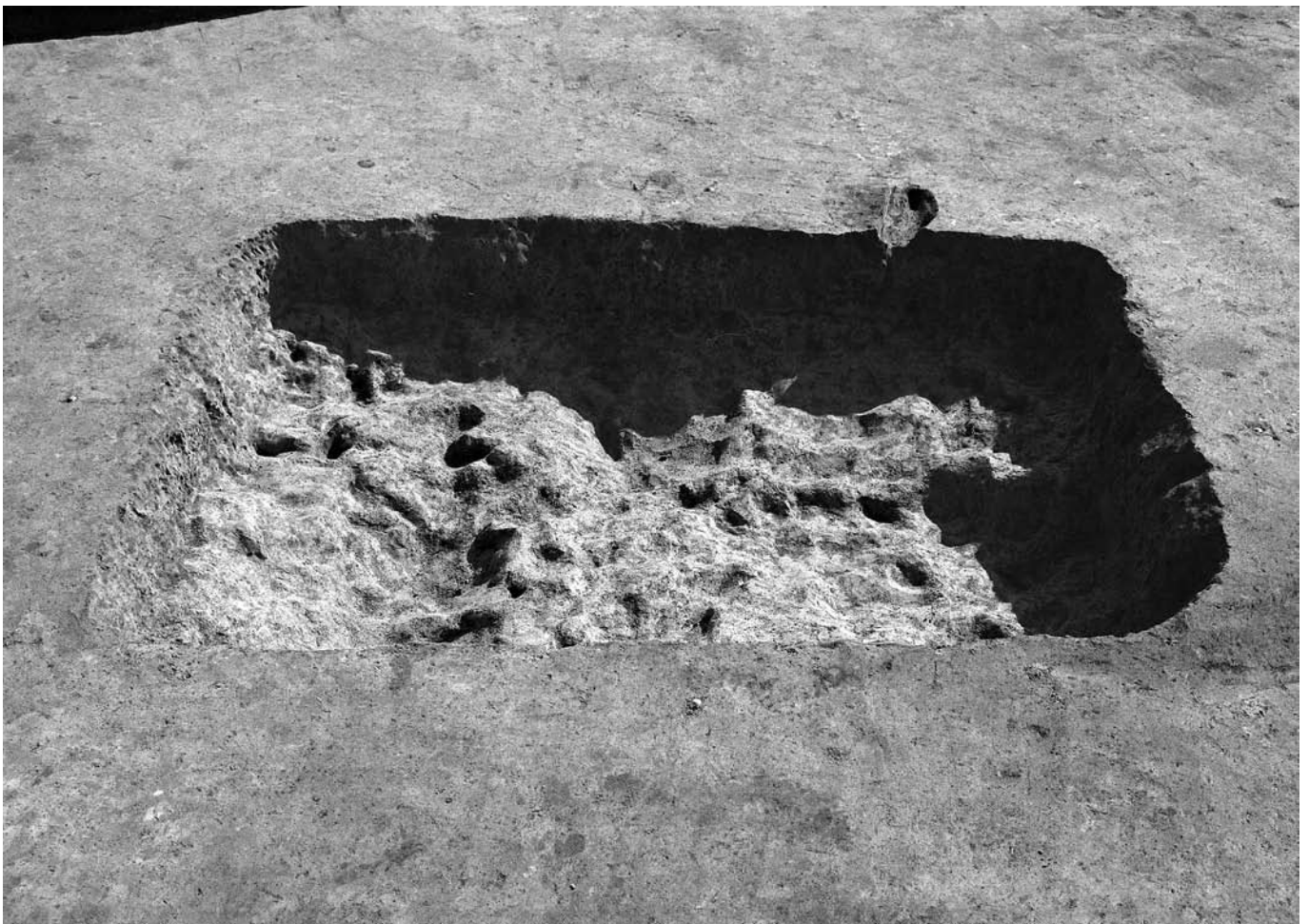
II区13号住居掘り方全景 西から



II区13号住居カマド掘り方全景 西から



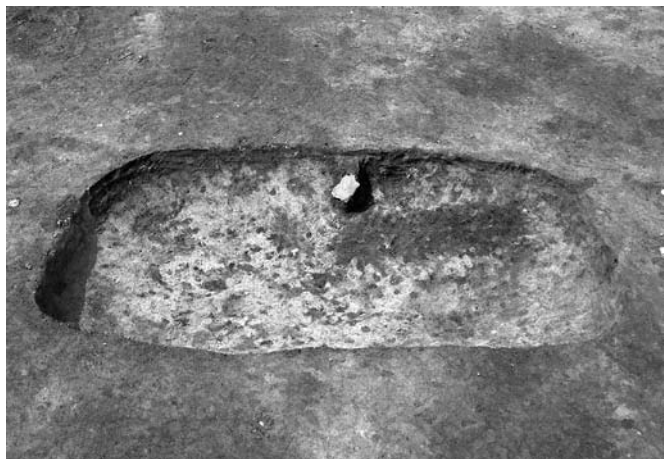
II区17号住居全景 南西から



II区17号住居掘り方全景 南西から



Ⅱ区14号住居全景 南から



II区64号土坑遺物



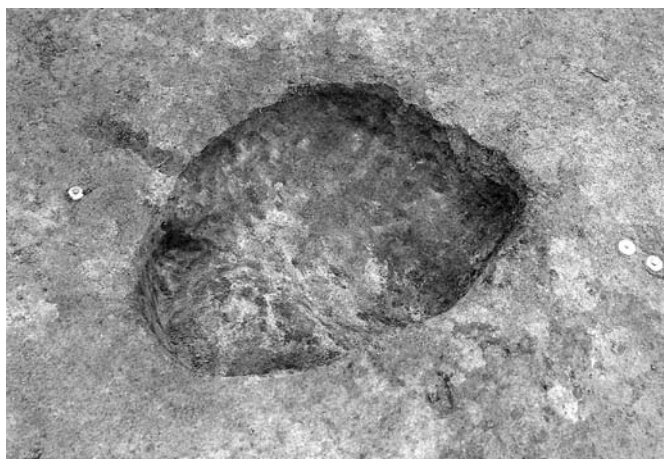
II区65号土坑



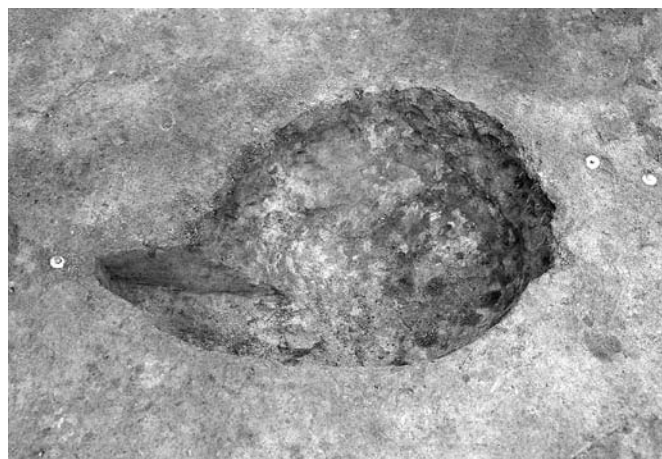
II区66号土坑



II区67号土坑



II区68号土坑



II区70号土坑



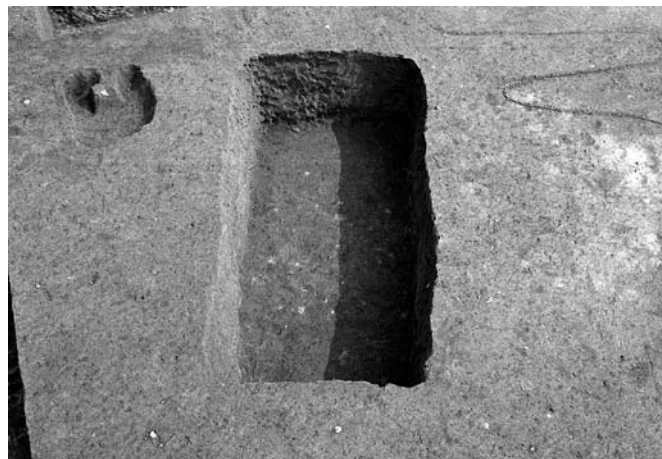
II区71号土坑



II区72号土坑



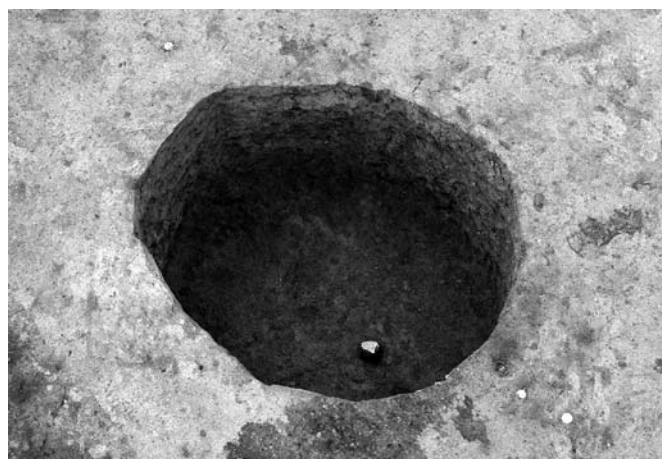
Ⅱ区73号土坑



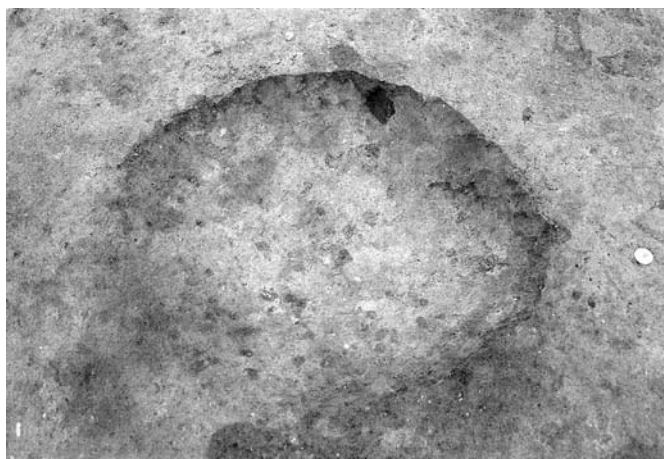
Ⅱ区74号土坑



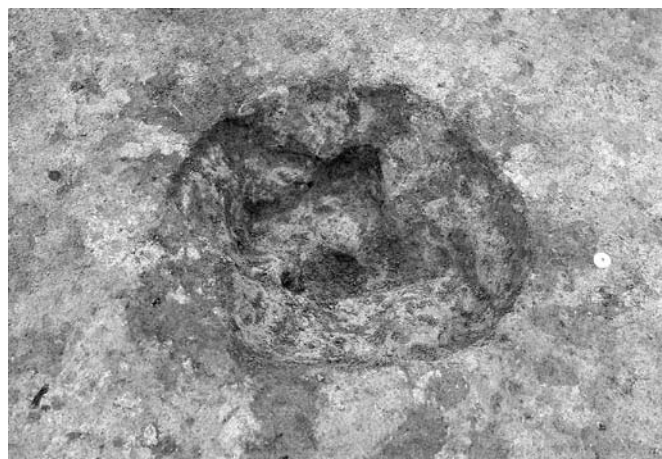
Ⅱ区75号土坑



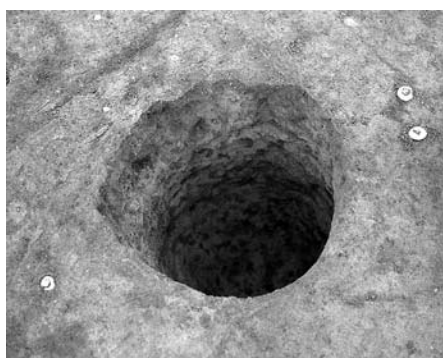
Ⅱ区76号土坑



Ⅱ区77号土坑



Ⅱ区78号土坑



Ⅱ区327号ピット



Ⅱ区336号ピット



Ⅱ区350号ピット



Ⅲ区全景



Ⅲ区15号住居遺物全景 西から



Ⅲ区15号住居遺物 1



Ⅲ区15号住居遺物 2



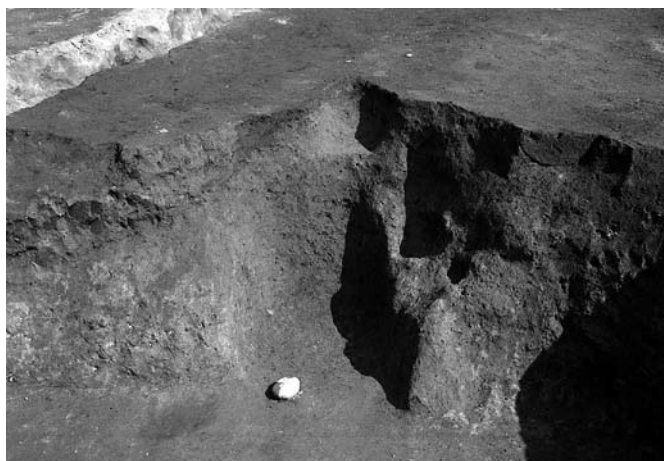
Ⅲ区15号住居A-A'土層 南西から



Ⅲ区15号住居掘り方全景 西から



Ⅲ区16号住居遺物全景 西から



Ⅲ区16号住居カマド全景 西から



Ⅲ区16号住居掘り方全景 西から



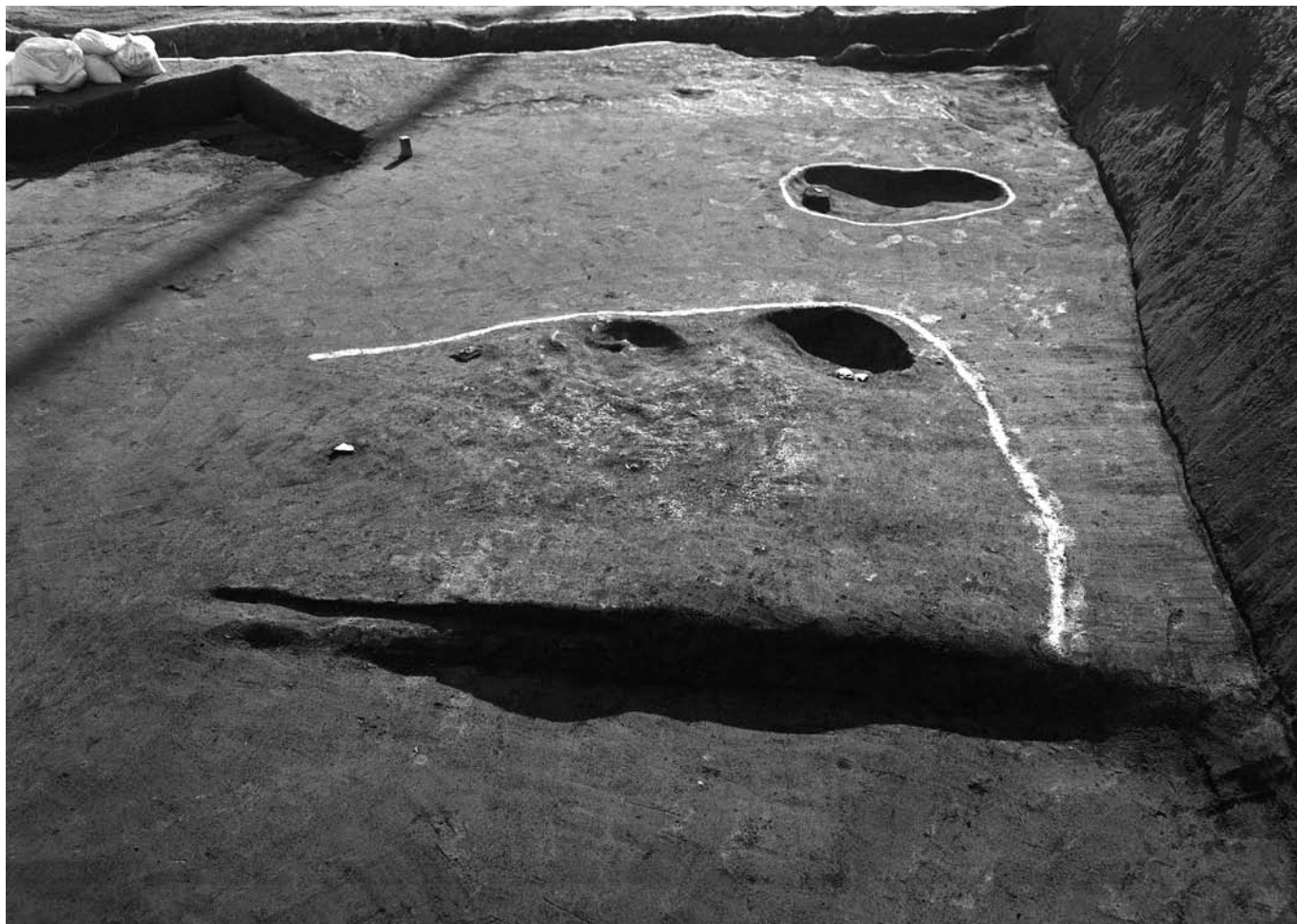
Ⅲ区16号住居カマド掘り方全景 西から



IV区全景 北西上空から



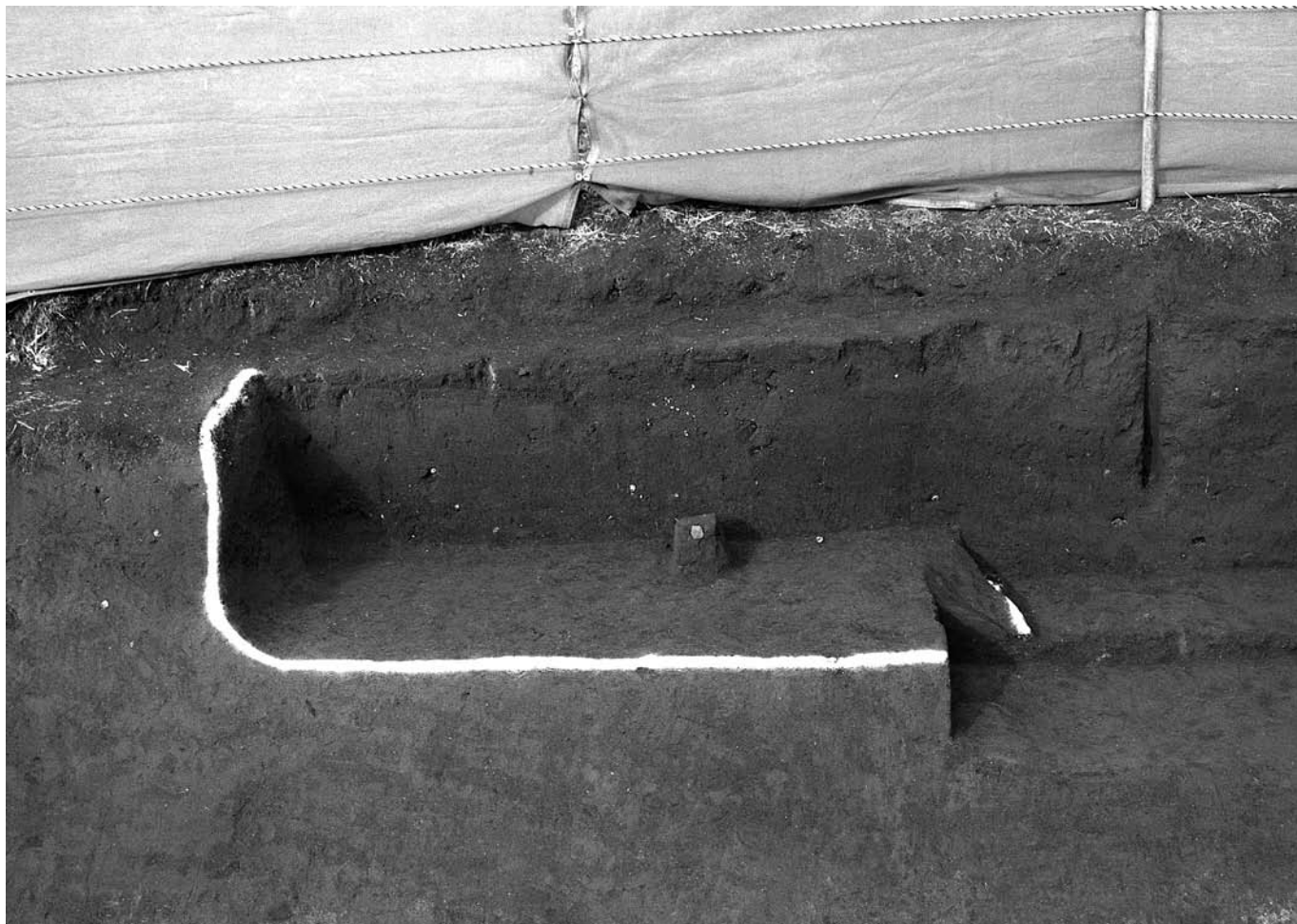
IV区全景 南上空から



IV区18号住居全景 西から



IV区19号・20号住居遺物全景 東から



IV区19号住居遺物全景 東から



IV区20号住居遺物全景 東から



IV区21号住居カマド遺物 西から



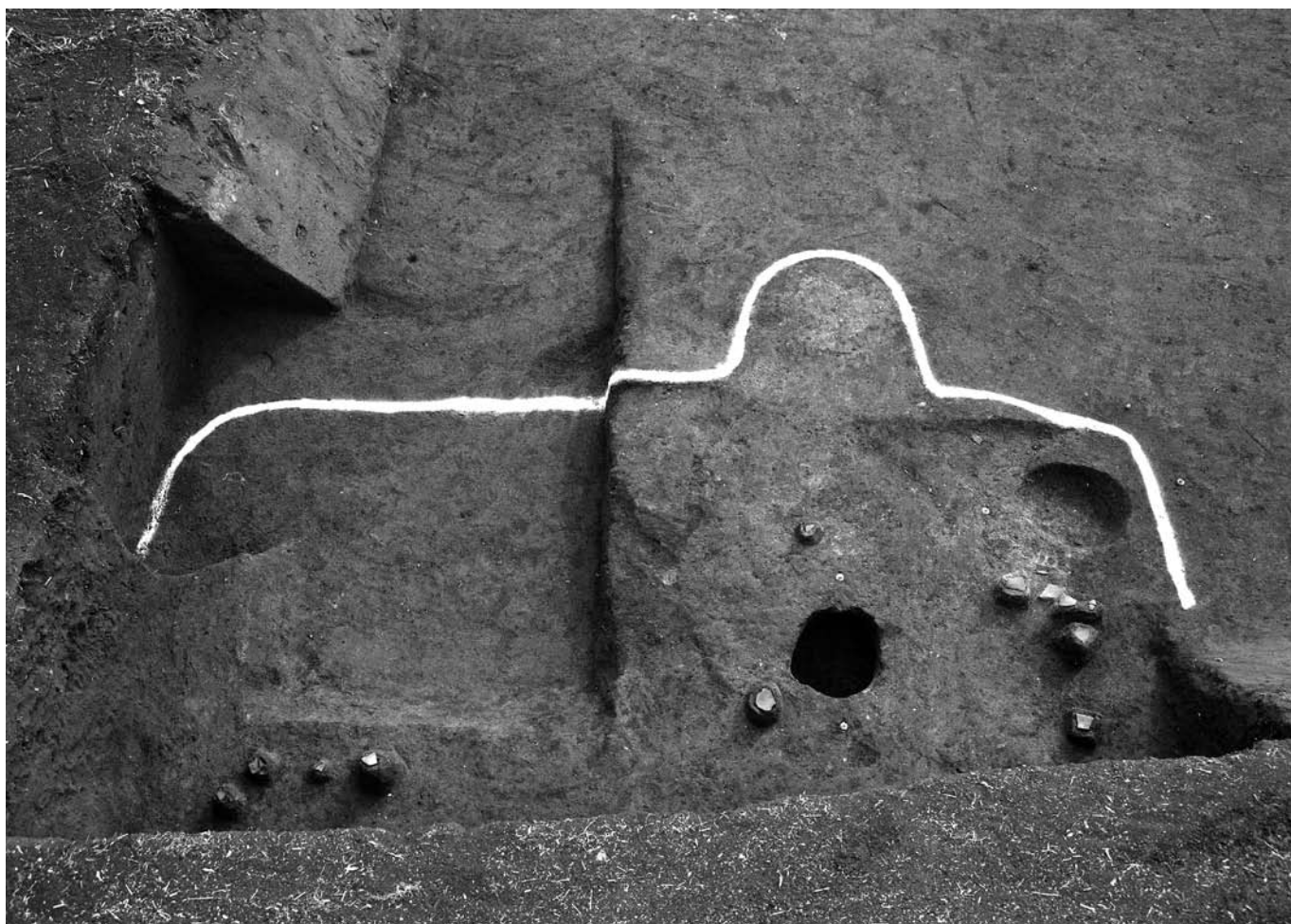
IV区21号住居遺物全景 西から



IV区21号住居カマド全景 西から



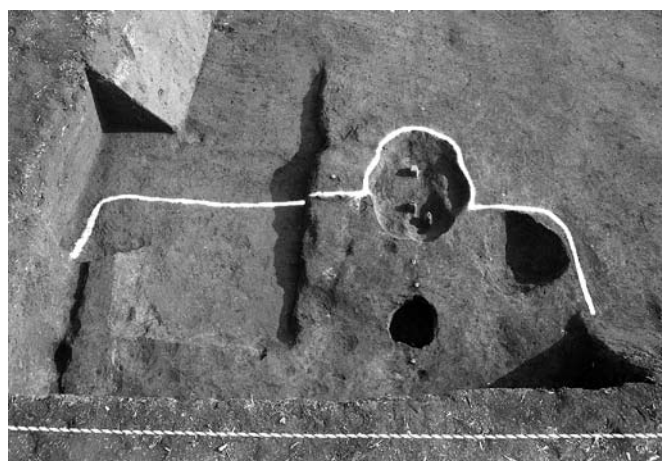
IV区21号住居掘り方全景 西から



IV区22号住居遺物全景 西から



IV区22号住居遺物 西から



IV区22号住居掘り方全景 西から



IV区4号・5号・6号溝 北東から



IV区7号溝・4号～6号溝 西から



IV区7号溝全景 南東から



IV区7号溝 西から

PL.58

1号住居出土遺物



1



2



5



4



6



7

2号住居出土遺物



8



10

3号住居出土遺物



11



12



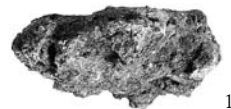
14



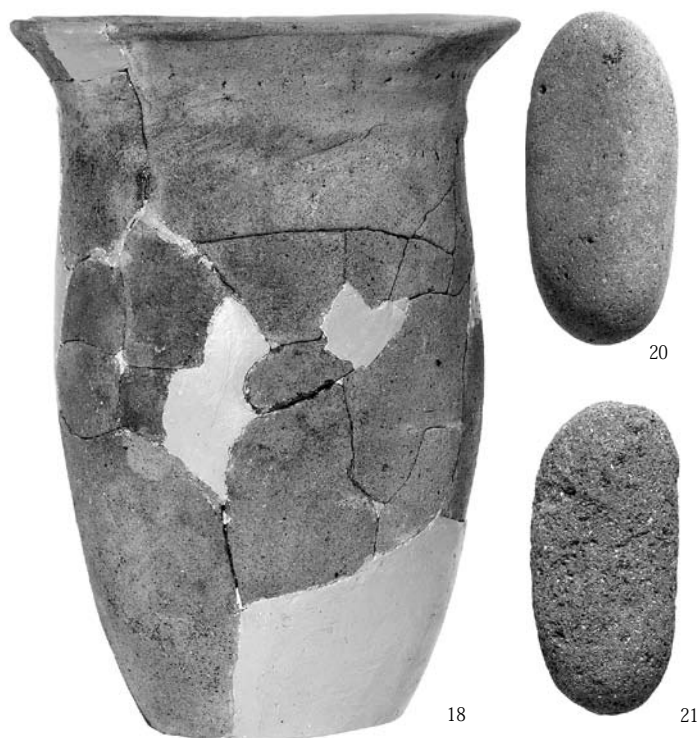
13



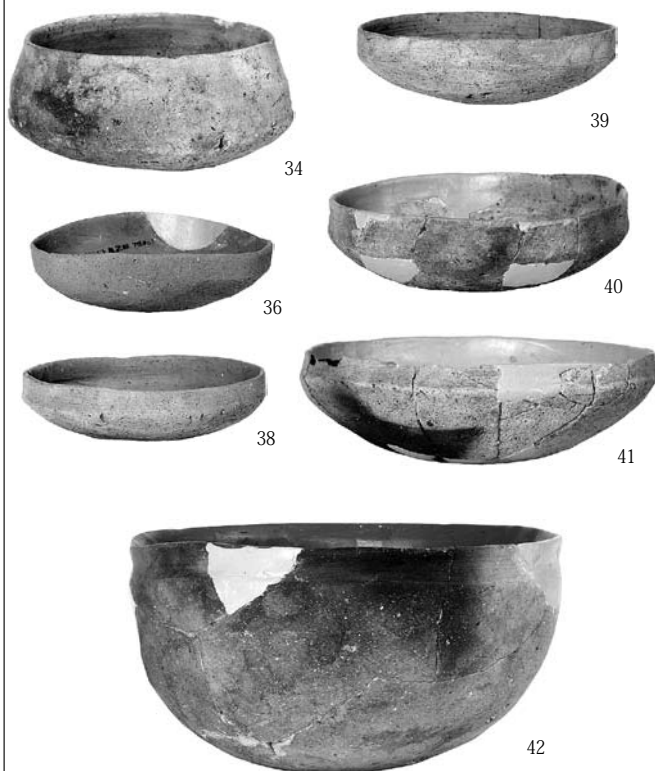
17



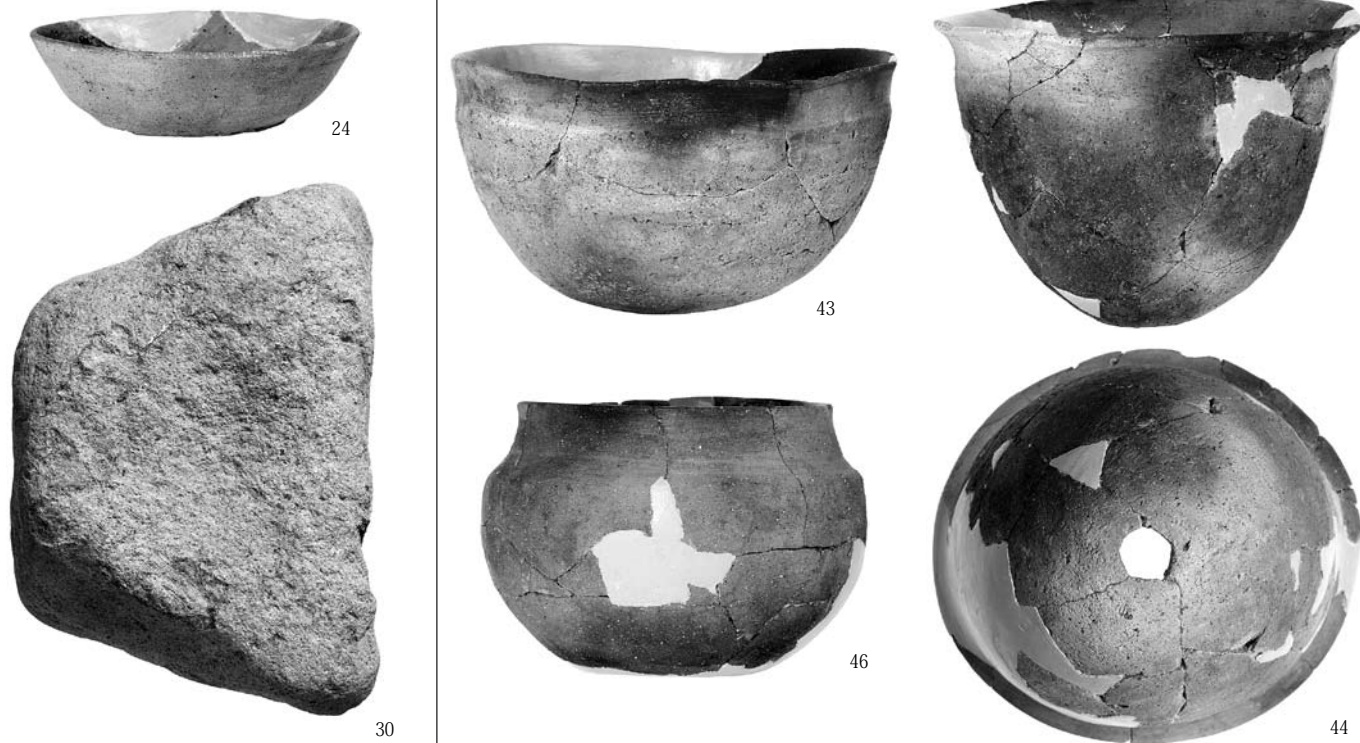
4号住居出土遺物



7号住居出土遺物



5号住居出土遺物



8号住居出土遺物



12号住居出土遺物



PL.60

13号住居出土遺物



67



68



69



71



70

15号住居出土遺物



77



16号住居出土遺物

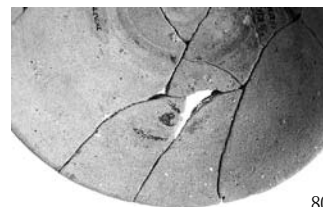


78



79

18号住居出土遺物



80



82

遺構外出土遺物

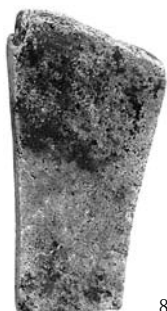


108

20号住居出土遺物



83



87

21号住居出土遺物



89



90



91



98

遺構外出土遺物



110



111



113



114



116



112



115



117



118



120



121



123



124



125



126



119



122



127



128



129



130



131



132



133

報 告 書 抄 録

書名ふりがな	かみいずみたけだいせき
書 名	上泉武田遺跡 ー縄文時代以降編ー
副 書 名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書
巻 次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	544
編著者名	関晴彦/新倉明彦/岩崎泰一/橋本淳/神谷佳明/笹澤泰史
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20121130
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住 所	群馬県渋川市北橋町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	かみいずみたけだいせき
遺 跡 名	上泉武田遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししかみいずみまち
遺跡所在地	群馬県前橋市上泉町
市町村コード	10201
遺跡番号	773
北緯(世界測地系)	362451
東経(世界測地系)	1390710
調査期間	20070601-20071231
調査面積	8,832.56
調査原因	道路建設工事(一般国道17号・上武道路)
種 別	集落/包蔵地
主な時代	旧石器/縄文/奈良/平安/中世/近世
遺跡概要	縄文時代-縄文土器16+縄文石器8/奈良時代-住居10-土坑1+土師器・須恵器+金属製品+石製品+製鉄関連遺物/平安時代-住居10-掘立柱建物2-溝1+土師器・須恵器+金属製品+石製品+製鉄関連遺物/奈良~平安-住居2/中近世-溝1/時期不明-土坑94-ピット385-溝5-道1
特記事項	奈良・平安時代の住居22軒分を検出。奈良時代10軒、平安時代10軒。IV区で直角に曲る6号溝・7号溝を発見し、両者は接近する。IV区7号溝の一部は溝の掘り込みのない部分が長さ2.7mある。中世城館跡の可能性あり。
要 約	赤城南麓の標高140~150mの緩い尾根上に営まれた奈良時代~平安時代の集落。8世紀から9世紀の住居が多い。IV区はL字状に曲がる溝で囲まれた中世城館跡の可能性がある。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第544集

上泉武田遺跡 - 縄文時代以降編 -

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

平成24(2012)年11月22日 印刷

平成24(2012)年11月30日 発行

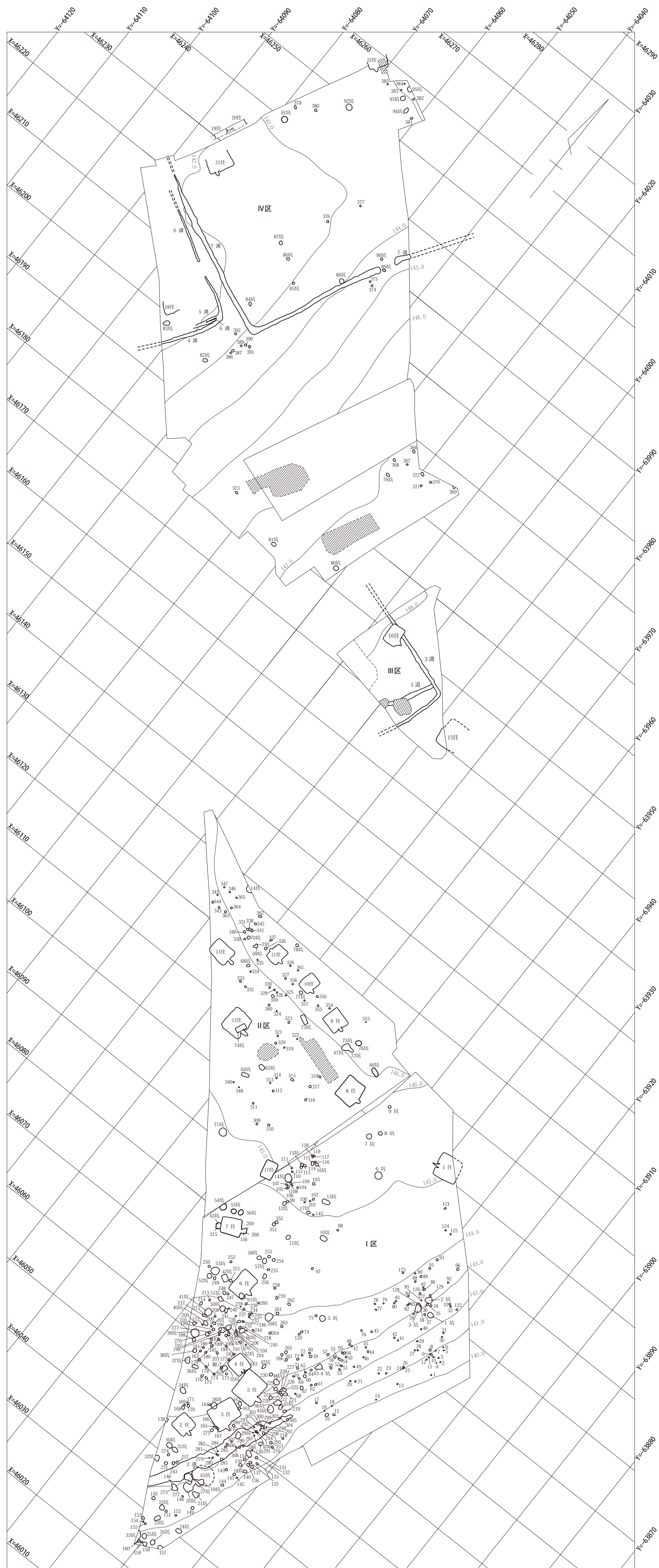
編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／朝日印刷工業株式会社



上泉武田遺跡全体図 (1:500)

